

平成16年度

# 河川水辺の国勢調査結果の概要

[ダム湖版]

(生物調査編)

平成18年2月

国土交通省河川局  
河川環境課

# 目次

## I 調査結果の概要

1 はじめに.....	I - 1
2 調査実施状況.....	I - 2
3 現地調査方法.....	I - 3
4 現地調査結果.....	I - 4
4. 1 確認種数.....	I - 4
4. 2 特定種.....	I - 5
4. 3 外来種.....	I - 6
5 外来種の選定に用いた文献一覧.....	I -21
6 河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会名簿.....	I -23

## II 調査項目別調査結果の概要

1 魚介類調査の概要.....	II - 1
1. 1 調査結果の概要.....	II - 1
1. 2 生態系の人為的な攪乱状況.....	II - 9
2 底生動物調査の概要.....	II -19
2. 1 調査結果の概要.....	II -19
2. 2 ダム湖周辺環境の特徴.....	II -24
2. 3 生態系の人為的な攪乱状況.....	II -26
3 動植物プランクトン調査の概要.....	II -30
3. 1 調査結果の概要.....	II -30
3. 2 ダム湖周辺環境の特徴.....	II -35
4 植物調査の概要.....	II -46
4. 1 調査結果の概要.....	II -46
4. 2 生態系の人為的な攪乱状況.....	II -52
5 鳥類調査の概要.....	II -69
5. 1 調査結果の概要.....	II -69
5. 2 ダム湖周辺環境の特徴.....	II -75
5. 3 生態系の人為的な攪乱状況.....	II -97
6 両生類・爬虫類・哺乳類調査の概要.....	II -100
6. 1 調査結果の概要.....	II -100
6. 2 ダム湖周辺環境の特徴.....	II -108
6. 3 生態系の人為的な攪乱状況.....	II -116
7 陸上昆虫類等調査の概要.....	II -124
7. 1 調査結果の概要.....	II -124
7. 2 ダム湖周辺環境の特徴.....	II -128
7. 3 生態系の人為的な攪乱状況.....	II -130

参考 平成16年度とりまとめ項目及び調査対象ダム諸元一覧

# I 調査結果の概要





## 2 調査実施状況

平成 16 年度に調査を実施したダム（遊水地・調節池を含む）の数は、表 2-1 に示すとおり魚介類調査は 10 ダム、底生動物調査は 16 ダム、動植物プランクトン調査は 25 ダム、植物調査は 29 ダム、鳥類調査は 23 ダム、両生類・爬虫類・哺乳類調査は 19 ダム、陸上昆虫類等調査は 30 ダムです。

また、平成 16 年度の現地調査実施状況は、[資料 I-1]（I-7～13 ページ）に、調査実施ダムの概略位置図は [資料 I-2]（I-14～20 ページ）に示すとおりです。

表 2-1 調査実施ダム数（平成 16 年度）

調査項目	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	項目別合計
魚介類	3	1	1	0	1	1	1	1	1	0	10
底生動物	3	3	3	0	1	2	2	1	1	0	16
動植物プランクトン	3	2	4	0	1	8	2	4	1	0	25
植物	1	5	5	2	1	6	1	7	1	0	29
鳥類	3	0	7	3	4	0	2	1	3	0	23
両生類・爬虫類・哺乳類	3	0	6	1	5	0	2	1	1	0	19
陸上昆虫類等	4	6	2	4	2	3	1	0	2	6	30
地方別合計	20	17	28	10	15	20	11	15	10	6	

注) 複数の調査項目について調査を実施したダムがあるため、各項目ごとのダム数の和は地方別合計と一致しません。

### 3 現地調査方法

調査は、「平成6年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル（案）[ダム湖版]（生物調査編）」及び「平成13年2月2日付 平成6年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル（案）[ダム湖版]（生物調査編）」に関する連絡事項に従い実施しました。

調査項目ごとの現地調査方法の概要は、以下に示すとおりです。

#### ① 魚介類調査

- ・現地調査は、主に夏から秋にかけて2～3回実施しました。
- ・調査方法は、貯水池内では刺し網による調査を行い、水深の浅い箇所や流入・下流河川では投網とタモ網による調査を行いました。また、随時その他の調査方法を併用しました。

#### ② 底生動物調査

- ・現地調査は、春から冬にかけて2～4回実施しました。
- ・調査は、底生動物の現存量を把握する定量調査と、多種多様な場所にすみ分けている底生動物を採集する定性調査を行いました。定量調査の方法は、貯水池内では採泥器を用いた定点採集、流入・下流河川ではコドラート法による定量採集です。また、定性調査ではハンドネットを用いて、さまざまな場所で採集しました。

#### ③ 動植物プランクトン調査

- ・現地調査は、春から冬にかけて2～4回実施しました。
- ・調査は、植物プランクトンについては採水器を用いた採水法、動物プランクトンについては採水法及び定量用開閉式プランクトンネットを用いたネット法による採集を行いました。多くのダムにおいて、流入河川・下流河川でも調査を実施しています。

#### ④ 植物調査

- ・現地調査は、主に春から秋にかけて植物の確認しやすい時期に実施しました。
- ・調査方法は、ダム湖の周辺300～500mの範囲で、群落の区分を行う植生分布調査、各群落の組成を調べる群落組成調査、及び植物相を把握するための植物相調査を実施しました。

#### ⑤ 鳥類調査

- ・現地調査は、春から冬にかけて2～4回実施しました。
- ・調査方法は、ダム湖の周辺300～500mの範囲で、ラインセンサス法と定位記録法を基本とし、その他、船上調査や夜間調査も実施しました。

#### ⑥ 両生類・爬虫類・哺乳類調査

- ・現地調査は、春から冬にかけて1～4回実施しました。
- ・調査方法は、ダム湖の周辺300～500mの範囲で、両生類・爬虫類については主に捕獲確認を行い、哺乳類については目撃、フィールドサインの確認及びトラップ法による捕獲を行いました。

#### ⑦ 陸上昆虫类等調査

- ・現地調査は、主に春から秋にかけて3回程度実施しました。
- ・調査方法は、ダム湖の周辺300～500mの範囲で、任意採集法、ライトトラップ法、ピットフォールトラップ法を実施しました。

## 4 現地調査結果

### 4. 1 確認種数

現地調査により確認された調査項目ごとの確認種数は、表4-1に示すとおりです。なお、参考として「日本産野生生物目録一本邦産野生動植物の種の現状－（環境庁，1993・1995）」等に掲載されている種数を示しました。（なお、一部、スクリーニング委員による標本確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。）

表4-1 現地確認種数（平成16年度）

調査項目		現地確認種数 <sup>注1</sup>			「日本産野生生物目録」等 掲載種数 <sup>注2</sup>		
魚介類調査	魚類	7目	14科	63種	15目	37科	200種
	エビ・カニ・貝類	5目	11科	14種	—		
底生動物調査		32目	145科	476種	—		
動植物 プランクトン 調査	植物プランクトン	20目	53科	345種	—		
	動物プランクトン	32目	77科	235種	—		
植物調査		184科 2,578種			229科 8,118種		
鳥類調査		16目	46科	195種	18目	74科	568種
両生類・爬虫類・哺乳類調査	両生類	2目	7科	22種	2目	9科	59種
	爬虫類	2目	7科	15種	2目	14科	87種
	哺乳類	7目	17科	58種	8目	26科	188種
陸上昆虫类等調査		24目	440科	8,575種	31目	726科	31,280種

#### 注1) 種数の計数方法について

- 各調査項目における種数は、以下のランクまでを計数しています。
  - 動植物プランクトン：種、亜種、変種
  - 植物：種、亜種、変種、品種
  - その他：種、亜種
- 種などまで同定されていなくても、同一の分類群に属する種などが確認されていなければ、1種として計数しています（陸上昆虫類を除く）。

#### 注2) 「日本産野生生物目録一本邦産野生動植物の種の現状－（環境庁編）」掲載種数について

- 植物、鳥類を除いて「日本産野生生物目録一本邦産野生動植物の種の現状－（環境庁，1993・1995）」に掲載されている動植物の種数を日本に生息・生育している動植物数としました。
  - 魚類：純淡水魚、通し回遊魚、汽水魚をあわせて200種としました。
  - エビ・カニ・貝類、底生動物：掲載されていない分類群があるため、比較しませんでした。
  - 動植物プランクトン：掲載されていない分類群があるため、比較しませんでした。
  - 植物：植物目録（環境庁，1987）に掲載の維管束植物8,118種としました。
  - 鳥類：日本鳥類目録改訂第6版（日本鳥学会，2000）に掲載の568（うち外来種26）種としました。
  - 両生類・爬虫類・哺乳類：両生類59種、爬虫類87種、哺乳類188種としました。
  - 陸上昆虫类等：クモ目1,134種、昆虫綱30,146種の計31,280種としました。

#### 4. 2 特定種

現地調査により確認された調査項目ごとの確認種のうち、特定種<sup>注)</sup>に該当する種類数は表4-2に示すとおりです。

表 4-2 特定種の確認種数 (平成 16 年度)

調査項目		特定種の確認種数		
魚介類調査	魚類	5 目	6 科	9 種
	エビ・カニ・貝類	2 目	2 科	2 種
底生動物調査		4 目	4 科	5 種
動植物 プランクトン調査	植物プランクトン	—		
	動物プランクトン	—		
植物調査			35 科	61 種
鳥類調査		8 目	12 科	23 種
両生類・爬虫類・ 哺乳類調査	両生類	1 目	1 科	1 種
	爬虫類	1 目	1 科	1 種
	哺乳類	3 目	3 科	8 種
陸上昆虫类等調査		10 目	32 科	48 種

注) 特定種について

次のものに該当するものを特定種としています。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物及び天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物及び緊急指定種
- ・環境庁編 (1999-2000) 「レッドリスト (レッドデータブックの基礎となる日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)」掲載種
- ・環境庁 (省) 編 (2000-2003) 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種

#### 4. 3 外来種

現地調査により確認された調査項目ごとの確認種のうち、国外外来種<sup>注)</sup>に該当する種の確認種類数は表 4-3 に示すとおりです。

近年、外来種は生物多様性を保全する上で最も大きな脅威の一つとして認識されています。侵入先の在来種を捕食、競争、病害などによって減少させたり、在来種と交雑したりすることにより、在来種の絶滅の可能性を高めるなどの問題を引き起こすことが、これまで多くの事例から明らかにされています。

このような事態を受け、平成 17 年 6 月には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、外来生物法) が施行されました。この中で、海外起源の外来生物で、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがあると考えられる種の一部は「特定外来生物」に指定され、飼養、栽培、保管及び運搬すること、輸入することが原則禁止、野外へ放つ、植える及びまくことが禁止されています。

現地調査により確認された特定外来生物は、オオクチバス、コクチバス、ブルーギル、カワヒバリガイ、オオキンケイギク、ガビチョウ、ソウシチョウ、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャ、アレチウリ、オオフサモ、ウシガエル、ヌートリア、アライグマ、ミンクの 15 種でした(平成 18 年 2 月に指定された二次指定種含む)。

表 4-3 国外外来種の確認種数(平成 16 年度)

調査項目		外来種			特定外来生物指定種		
魚介類調査	魚類	3 目	3 科	6 種	1 目	1 科	3 種
	エビ・カニ・貝類	2 目	2 科	2 種	0 目	0 科	0 種
底生動物調査		3 目	4 科	5 種	1 目	1 科	1 種
動植物 プランクトン調査	植物プランクトン	—			—		
	動物プランクトン	—			—		
植物調査		54 科 252 種			4 科 5 種		
鳥類調査		4 目	4 科	5 種	1 目	1 科	2 種
両生類・爬虫類 ・哺乳類調査	両生類	0 目	0 科	0 種	1 目	1 科	1 種
	爬虫類	2 目	2 科	2 種	0 目	0 科	0 種
	哺乳類	2 目	5 科	5 種	2 目	3 科	3 種
陸上昆虫类等調査		8 目	40 科	69 種	0 目	0 科	0 種

注) 外来種について

外来種とは、本来その生物が生息していない地域に貿易や人の移動などを介して意図的・非意図的に持ち込まれた動植物をいいます。海外から日本に持ち込まれたものだけではなく、国内の種であっても島など独自の生態系を持つ場所に、他の場所から持ち込まれたものは外来種(国内外来種)となります。

ただし、本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21~22 ページに掲載した文献および I-23~24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

魚介類調査 実施状況一覧（平成 16 年度）

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	調 査 回 数	調 査 方 法											調 査 地 点 数					
				最少 目合 mm	目合 種数	刺し網			地点 の 最大 網数	その他の漁法						流入 河川	※1 河川 流入点		貯水 池内	下流 河川
						設置 層	投網	タモ 網・ サデ 網		延 縄	セル ビン	潜水 観察	その他	河川 部	貯水 池内					
																	表層	中層		
北 海 道	大 雪 ダ ム	平成16年7月13～17日、10月13～20日	2	50	2	○		○	4	○	○				○	4	-	3	2	1
	美 利 河 ダ ム	平成16年6月16～18日、8月24～25日、10月25～28日	3	50	2	○			2	○	○				○	5	-	-	4	1
	二 風 谷 ダ ム	平成16年6月7日～10日、7月20日～24日、10月4日～8日	3	50	2	○			2	○	○				○	2	-	1	3	1
東 北	三 春 ダ ム	平成16年8月2日～5日、11月8日～12日	2	50	1			○	1	○	○		○		○	3	5	5	1	2
関 東	宮ヶ瀬ダム※2	平成15年8月25～29日、10月27～31日、平成16年5月18～26日	3	20	2	○	○		4	○	○	○	○	○	○	2	2	2	2	3
中 部	新豊根ダム※2	平成15年9月22～26日、平成16年5月27～31日	2	19	3	○		○	4	○	○	○	○	○	○	3	2	3	2	1
近 畿	猿 谷 ダ ム	平成16年5月24～26日、11月22～24日	2	18	3	○	○	○	3	○	○		○		○	1	3	2	6	1
中 国	島 地 川 ダ ム	平成16年7月12日～14日、10月12～14日	2	28	4	○	○		4	○	○	○	○		○	4	-	3	2	-
四 国	石 手 川 ダ ム	平成16年8月10～12日、11月4～6日	2	10	3	○	○	○	3	○	○	○	○	○	○	2	-	2	1	1
九 州	巖 木 ダ ム	平成16年6月15～16日、11月3～4日	2	18	3	○		○	4	○	○	○	○		○	1	1	1	1	-

※1) 河川流入点はダム湖に河川が流入する地点であり、河川部はそのうちの流水域を、貯水池内は止水域を指す。

※2) 宮ヶ瀬ダムの平成 15 年 8 月 25～29 日、10 月 27～31 日のデータ、新豊根ダムの平成 15 年 9 月 22～26 日のデータについては平成 16 年度も記者発表をしている。今年の結果は平成 16 年度に発表した結果に、宮ヶ瀬ダムは平成 16 年 5 月 18～26 日の、新豊根ダムは平成 16 年 5 月 27～31 日の調査結果を加えたものである。

底生動物調査 実施状況一覧 (平成 16 年度)

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	調査地点数					
			流入河川		貯水池内		下流河川	
			定 量 調 査	定 性 調 査	定 量 調 査	定 性 調 査	定 量 調 査	定 性 調 査
北海道	大 雪 ダ ム	平成16年7月13～17日、10月13～20日	4	4	4	1	1	1
	美 利 河 ダ ム	平成16年6月16～18日、8月23、24日、10月25、26、28日	4	4	4	1	1	1
	二 風 谷 ダ ム	平成16年7月20～24日、10月6日	2	-	2	-	1	-
東 北	浅瀬石川ダム	平成16年3月29～30日、5月19～21日、7月21～23日、12月1～3日	1	1	4	5	1	1
	三 春 ダ ム	平成16年5月6日～8日、8月2日～5日、平成17年2月1日～3日	3	3	6	6	2	2
	月 山 ダ ム	平成15年6月10日～13日、7月14日～17日、10月20日～23日	3	3	3	3	3	3
関 東	川 俣 ダ ム	平成16年8月4、5日、10月25、26日	3	3	1	3	1	1
	川 治 ダ ム	平成16年8月2日、10月26日、11月11日	1	1	1	6	1	1
	五 十 里 ダ ム	平成16年8月3、5日、10月26、27日	5	5	1	3	1	1
中 部	新 豊 根 ダ ム	平成15年7月28～31日、平成16年1月12～16日、5月25～27日	2	2	4	4	1	1
近 畿	一 庫 ダ ム	平成16年5月12～13、24、27日、8月6、11日、11月4、5日、平成17年2月1～4日	2	2	5	2	1	1
	猿 谷 ダ ム	平成16年5月24～26日、9月2、16日、11月22～24日	2	2	8	2	1	1
中 国	菅 沢 ダ ム	平成16年8月17～18日、12月2～3日、平成17年2月1～2日	2	2	3	12	1	1
	八 田 原 ダ ム	平成16年7月21～22日、11月4～5日、平成17年2月7～8日	2	2	4	4	2	2
四 国	石 手 川 ダ ム	平成16年7月21～22日、12月7～8日、平成17年2月14～15日	2	2	2	2	1	1
九 州	巖 木 ダ ム	平成16年5月26日、11月2日、平成17年3月1日	1	3	2	2	-	-

動植物プランクトン調査 実施状況一覧（平成16年度）

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	調査地点数		
			流入 河川	貯水 池内	下流 河川
北海道	大雪ダム	平成16年7月12、16日、8月30日、10月12、16日、11月18、19日	1	3	1
	美利河ダム	平成16年6月15日、8月23日、11月25日、平成17年2月2、3日	—	3	—
	二風谷ダム	平成16年6月15日、7月6日、8月3日、9月21日、10月12日	1	3	1
東北	浅瀬石川ダム	平成16年5月19～20日、7月21～23日、10月13～14日、12月1～3日	1	3	1
	月山ダム	平成15年6月3～5日、8月27～28日、10月27～30日	2	4	3
関東	川俣ダム	平成16年8月4日、10月25、26日	2	1	1
	川治ダム	平成16年、8月2日、10月26、11月11日	1	1	1
	五十里ダム	平成16年8月3、5日、10月26、27日	2	1	1
	宮ヶ瀬ダム	平成16年5月28～29日、8月23～24日	2	4	1
中部	丸山ダム	平成16年7月20日、8月9～11日、11月8～9日	3	4	1
近畿	日吉ダム	平成16年5月31日、8月3日、11月10日、平成17年2月15日	1	4	1
	布目ダム	平成16年5月26日、8月19日、11月19日、平成17年2月9日	1	3	1
	比奈知ダム	平成16年5月25日、8月17日、11月16日、平成17年2月7日	1	2	1
	高山ダム	平成16年5月26日、8月30日、11月19日、平成17年2月9日	—	3	1
	青蓮寺ダム	平成16年5月17日、8月18日、11月17日、平成17年2月8日	1	4	1
	室生ダム	平成16年5月25日、8月17日、11月16日、平成17年2月7日	3	3	1
	一庫ダム	平成16年5月12～13、24、27日、8月6、11日、11月4～5日、平成17年2月3～4日	2	5	1
	猿谷ダム	平成16年5月25日、9月2日、11月23日、平成17年2月4日	—	2	—
中国	菅沢ダム	平成16年3月8日、6月15日、9月21日、12月7日	1	1	1
	八田原ダム	平成16年4月7日、5月12日、6月2日、7月7日、8月4日、9月1日、10月7日、11月10日、12月1日、平成17年1月6日、2月2日、3月2日	4	5	1
四国	池田ダム	平成16年5月26日、9月22日、10月27日、平成17年1月19日	3	3	1
	早明浦ダム	平成16年5月19日、8月24日、10月26日、平成17年1月19日	3	3	1
	富郷ダム	平成16年5月19日、8月24日、10月27日、平成17年1月19日	2	3	1
	新宮ダム	平成16年5月19日、8月24日、10月27日、平成17年1月19日	2	3	1
九州	鶴田ダム	平成16年8月27日、11月12日、平成17年1月19日、3月16日	—	3	—



植物調査 実施状況一覧 (平成 16 年度)

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	調査対象 面積(ha)	植生分布調査			植物相調査			群落組成調査			調査 地点 数
				調査時期			調査時期			調査時期			
				春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	
北海道	桂 沢 ダ ム	平成16年5月20～21日、6月1～5日、7月20～24日、9月13～17日	2,835		○		○		○		○		44
東 北	鳴 子 ダ ム	平成16年4月28日、5月6～7、6月16、19～7月1日、7月25～29日、8月2、10～11、28～29日、9月4～5、20、23、25～27日、8月10日～10月18日	1,259			○	○	○	○		○	○	15
	釜 房 ダ ム	平成16年7月5～8日、10月4～8日、平成17年3月22～24日	1,184			○	○	○	○			○	55
	七ヶ宿ダ ム	平成16年4月20～23日、5月24～28日、7月20～30日、9月27～10月1日	1,742		○		○	○	○		○	○	78
	白 川 ダ ム	平成16年6月2～18日、8月30～10月8日、9月2日～28日	968			○		○				○	22
	寒 河 江 ダ ム	平成16年5月31日～6月1日、6月23～25日、7月20～22日、8月25～27日、9月13～14日、10月4～8日	1,721		○		○	○	○		○	○	72
関 東	藤 原 ダ ム	平成16年4月21～23日、8月2～6日、9月27～29日	914		○		○	○	○		○		25
	相 俣 ダ ム	平成16年4月26～28日、8月2～6日、9月27～29日	600		○		○	○	○		○		26
	菌 原 ダ ム	平成16年4月26～27日、5月12日、8月2～6日、9月27～29日	692		○		○	○	○		○		24
	品 木 ダ ム	平成16年6月16～18日、8月18～19日、9月28日～10月1日	132		○		○	○	○		○		26
	宮ヶ瀬ダ ム	平成15年8月19～22、29日、9月2～5、24日、29日～10月3日、10月14～16、21～24、27日、平成16年5月10～14、18～21日	1,617			○	○	○	○			○	52
北 陸	大 町 ダ ム	平成16年5月4～6日、7月21～23日、10月16～18日	192			○	○	○				○	5
	宇 奈 月 ダ ム	平成16年10月25～30日	687			○			○			○	32
中 部	小 渋 ダ ム	平成16年5月6～9日、6月14～17日、7月20～23日、9月13～16日、10月18～22日、11月15～16日	1,891			○	○	○	○		○	○	118
近 畿	日 吉 ダ ム	平成16年6月7～11日、8月6～13日、10月12～16日	3,032		○		○	○	○		○		31
	布 目 ダ ム	平成16年5月26～27日、8月4、12～13日、10月12～13日	257		○		○	○	○		○		31
	比 奈 知 ダ ム	平成16年5月21～23日、8月6～11日、10月11～12、15日	726		○		○	○	○		○	○	27
	高 山 ダ ム	平成16年5月26～27日、8月4、6、10～11日、10月12日	816		○		○	○	○		○		33
	青 蓮 寺 ダ ム	平成16年5月21～25日、8月6日～11日、10月13～14日	801		○		○	○	○		○	○	29
	室 生 ダ ム	平成16年5月23～24日、8月6日～11日、10月11日～13、15日	770		○		○	○	○		○	○	27
中 国	島 地 川 ダ ム	平成15年5月27～30日、8月4～7、9日、10月6～9日	380		○		○	○	○		○		23
四 国	池 田 ダ ム	平成16年5月19～20日、8月11～12日、10月6～7日	786		○		○	○	○		○		12
	早 明 浦 ダ ム	平成16年5月17～18日、8月9～10日、10月4～5日	2,516		○		○	○	○		○		10
	富 郷 ダ ム	平成16年5月12～13日、8月12～13日、10月12～13日	989		○		○	○	○		○		17
	柳 瀬 ダ ム	平成16年6月15～17、23、29日、9月1、13～14、28日、10月1、3～5日、11月8～9、17、30日	741			○	○		○			○	23
	新 宮 ダ ム	平成16年5月11～12日、8月10～11日、10月14～15日	589		○		○	○	○		○		19
	野 村 ダ ム	平成16年7月12～14日、10月4～8、17～21、27日	752			○		○	○			○	37
	中 筋 川 ダ ム	平成15年10月17～18、20～24日、11月4～5、11～12、16、21日、12月2日、平成16年5月22～23、26～27日	503			○	○		○			○	22
九 州	緑 川 ダ ム	平成16年8月2～6、9～10、17～18、23～25、27日、9月6日、10月13～15、18～19、21～22日	773		○			○	○		○		10

鳥類調査 実施状況一覧（平成16年度）

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	ラインセンサス法				定位記録法				その他の調査
			春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
			(のバルート数)				(のべ定点数)				
北海道	滝里ダム	平成16年4月29～30日、5月2～3、8～11日、6月12～17、27～28日、8月30～31日、9月6、27、30日、10月13～16、28～29日、11月29～30日、12月20日～24日	9		9	9	14	19	14	1	夜間調査
	漁川ダム	平成16年4月13～16日、6月14～20日、7月5～8日、10月25～30日、12月13～16日、18、27、28日	9	9	9	9	4	4	4	4	夜間調査
	十勝ダム	平成16年5月21～24日、6月18～26日、9月23～27日、12月8～10日	5	5	5	5	7	7	7	7	夜間調査
関東	矢木沢ダム	平成16年5月25～28日、7月12～16日、9月29日～10月2日、11月10～11日	3	4	4	4	6	5	6	6	船上調査、夜間調査
	奈良俣ダム	平成16年5月24～25日、7月5～7日、9月27～29日、11月8～10日	7	7	7	7	2	2	2	2	船上調査、夜間調査
	品木ダム	平成16年6月16～17日、8月4～5日、10月13～14日、11月30日～12月1日	7	7	7	7	2	2	2	2	夜間調査
	下久保ダム	平成16年5月27～28日、6月22～23日、10月25～26日、平成17年1月11～13日	6	6	6	6	4	4	4	4	夜間調査
	草木ダム	平成16年5月28～30日、6月7～8日、10月25～26、28日、平成17年1月13～14日	5	5	5	5	6	6	6	6	船上調査、夜間調査
	渡良瀬遊水地	平成16年5月13～14日、6月16日～18日、10月18～19日、21～22日、29日平成17年1月18～20日	5	5	5	5	6	6	6	6	夜間調査
	浦山ダム	平成16年5月26～29日、6月28日～7月1日、9月27～30日、平成17年1月17～20日	8	8	8	8	10	10	10	10	夜間調査
北陸	大石ダム	平成16年4月15～16日、5月6～7、26～27日、6月23～24日、7月8日、9月13～16日、10月6～7、23～28日、11月22～23日、12月9～10日	6	6	6	6	2	2	2	2	夜間調査
	宇奈月ダム	平成16年10月25～28日、12月8～10日			3	3			3	3	船上調査、夜間調査
	手取川ダム	平成15年6月2～4日、7月7～9日、10月28～30日、12月2～4日	11	11	11	11	4	4	4	4	船上調査
中部	新豊根ダム	平成15年4月28日～5月3日、6月2～5日、平成16年7月27～28日	10	10			10	10			夜間調査
	味噌川ダム	平成16年5月18～19日、7月5～6日、10月19、22～23日、平成17年1月10、17～19日	9	9	9	9	3	3	3	3	夜間調査
	阿木川ダム	平成16年5月26～27日、7月2～3日、10月7～8日、平成17年1月14～15日	7	7	7	7	2	2	2	2	
	岩屋ダム	平成16年5月27～28日、7月6～8日、10月7～8日、平成17年1月13～14日	7	7	7	7	4	4	4	4	夜間調査
中国	土師ダム	平成16年5月30、31日、6月2日、7月20～22日、10月4～6日、平成17年1月12～14日	5	5	5	5	12	12	12	12	夜間調査
	八田原ダム	平成14年7月12～13日、9月30日、10月1日、平成15年1月21～22日、5月15、22日	7	7	7	7	3	3	3	3	夜間調査
四国	中筋川ダム	平成16年5月19、21日、6月15～16日、10月27～28日、平成17年1月5～7、11日	6	6	6	6	3	3	3	3	船上調査
九州	耶馬溪ダム	平成16年4月29～30日、8月17、20日、10月25、27日、平成17年1月11～12日	2	2	2	2	2	2	2	2	夜間調査
	寺内ダム	平成16年5月22～24日、7月20～22日、10月1～2、18日、平成17年1月20～21、26日	7	7	7	7	4	4	4	4	夜間調査
	竜門ダム	平成16年7月13～15日、10月12～14日、平成17年2月9～10日		8	8	8		7	7	7	夜間調査

両生類・爬虫類・哺乳類調査 実施状況一覧（平成16年度）

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	両生類				爬虫類				哺乳類					
			調査時期				調査時期				調査時期				トラップ 地点数	餌
			春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬		
北海道	岩尾内ダム	平成16年5月17～20日、6月14～18日、8月2～5日、9月5～10日、平成17年1月11～15日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	6	サラミ、ピーナツ
	金山ダム	平成16年5月25～26日、6月24～25日、7月13～28日、8月26日、9月15～16日、10月11～17日、11月12日、平成17年3月14～15日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	5	生ピーナツ
	二風谷ダム	平成16年5月28～31日、7月20～22日、7月26～8月2日、8月30日、9月23～24日、11月25～26日、平成17年1月14～15日	○	○	○						○	○	○	○	4	生ピーナツ
関東	矢木沢ダム	平成16年5月25～28日、7月13～15日、10月4～7日、11月22～24日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	8	オートミール、ソーセージ、ピーナツ
	奈良俣ダム	平成16年5月31日～6月2日、7月26～28日、10月6～8日、12月8～9日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	7	生ピーナツ+オートミール
	下久保ダム	平成16年5月26～28日、6月8～11日、7月5～6日、9月28日～10月1日、平成17年1月11～13日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	7	イモ、ピーナツ、サラミ
	草木ダム	平成16年5月28～30日、7月5～6日、10月25～28日、平成17年1月13～14日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	8	ドッグフード、ピーナツ、ヒマワリの種子
	浦山ダム	平成16年5月31日～6月5日、7月7～10日、9月28日～10月2日、平成17年1月17～20日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13	ドッグフード、煮干し、生ピーナツ
	宮ヶ瀬ダム	平成16年5月18～20日、23～24日、8月17～20、22～26日、10月26～29日、平成17年1月10日～14日、3月1、2、4、5日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	11	ちくわ、カニかま、アジ、ニジマス、生ピーナツ
北陸	手取川ダム	平成16年6月27～30日、8月3～6、23～26日、10月18、20～21日、11月15～17日、12月21～24日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	11	ちくわ、カニかま、サンマ(DHA入り)、ミズ、生ピーナツ・オートミール・クルミ
中部	新豊根ダム	平成15年7月28～31日、10月6～9日、平成16年1月12～16日、5月25～28日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	10	スルメ、ソーセージ、ピーナツ、魚のあら、油揚げ
	矢作ダム	平成16年5月26～30日、8月9～13日、11月1～5日、平成17年1月31日～2月4日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	8	アジ、アユ、サンマ、ピーナツクリーン、油揚げ・スルメ・ピーナツ
	阿木川ダム	平成16年5月29～31日、8月5～6日、10月13～15日、平成17年1月6～7日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	7	するめ、ドッグフード、ピーナツ、油あげ
	岩屋ダム	平成16年5月26～28日、6月15～18日、8月2～4日、10月13～15日、11月24～25日、平成17年1月14、16～17日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	8	あぶりスルメ、ピーナツ、油揚げ
	蓮ダム	平成16年5月26～29日、7月27～30日、10月5～8日、平成17年1月13～15日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	6	ヒマワリ、サツマイモ、ピーナツ、ドッグフード、サラミ
中国	土師ダム	平成16年5月30、31日、7月12、20～22日、8月13、27日、10月4～6、13日、平成17年1月12～14日、2月21日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	16	サラミ、ピーナツ、落花生
	八田原ダム	平成15年5月14日～16日	○				○							3	キャットフード、ヒマワリ・サラミ、魚のアラ	
四国	大渡ダム	平成16年5月24～27日、7月27～30日、9月27～28日、10月4～6日、平成17年1月11～14日	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	6	ピーナツ
九州	寺内ダム	平成16年5月22～24日、6月1～3日、7月20～22日、10月21～23日、平成17年1月25～26日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8	テンプラ、ピーナツ、サツマイモ

陸上昆虫類等調査 実施状況一覧（平成16年度）

地 方	ダ ム 名	現地調査実施日	任意採集法			ライトトラップ			ビットフォールトラップ			餌
			春	夏	秋	春	夏	秋	春	夏	秋	
北海道	鹿ノ子ダム	平成16年5月11日(※1)、6月15～17日、7月22～26日、9月15日～17日	○	○	○	5	5	5	5	5	5	黒砂糖・酢酸・焼酎・エチレングリコール混合液
	豊平峡ダム	平成16年6月21～25日、8月2～4日、9月6～7、11日	○	○	○	3	3	3	5	5	5	氷酢酸、エチレングリコール
	定山溪ダム	平成16年6月21～26日、8月2～7日、9月6～11日	○	○	○	3	3	3	5	5	5	氷酢酸、エチレングリコール
	札内川ダム	平成16年6月14～25日、7月5～12日、9月6～16日	○	○	○	6	6	6	6	6	6	黒糖水酢酸液
東北	四十四田ダム	平成16年5月17～21日、7月20～23日、9月17～20日	○	○	○	11	11	11	11	11	11	糖蜜液・サナギ粉
	御所ダム	平成16年5月17～21日、7月26～29日、9月17～21日	○	○	○	11	11	11	11	11	11	糖蜜液・サナギ粉
	田瀬ダム	平成16年5月18～20日、7月19日～21日、9月20～22日	○	○	○	10	10	10	10	10	10	乳酸飲料+ビール、サナギ粉
	湯田ダム	平成16年5月18～20日、7月19日～22日、9月20～23日	○	○	○	11	11	11	11	11	11	糖蜜+ビール、乳酸飲料+ビール、サナギ粉
	石淵ダム	平成16年5月21～22日、7月23～24日、9月23～24日	○	○	○	10	10	10	10	10	10	糖蜜+ビール、乳酸飲料+ビール、サナギ粉
	玉川ダム	平成16年6月15～17日、7月27～29日、9月14～16日、10月15日	○	○	○	3	5	5	3	5	5	焼酎、リンゴ酢、黒砂糖
関東	二瀬ダム	平成16年5月17～19日、7月15～17日、9月27～29日	○	○	○	3	3	3	3	3	3	糖蜜、サナギ粉
	荒川調節池	平成16年5月17～19日、6月30日～7月2日、9月21～23日	○	○	○	3	3	3	3	3	3	サナギ粉等
北陸	大石ダム	平成16年4月16日～6月30日、7月2日～8月27日、8月4、11～12日、9月13日～12月30日	○	○	○	2	2	2	5	5	5	カルピス、紹興酒、肉、氷酢酸+サナギ粉
	大川ダム	平成16年4月26～30日、5月24～26日、7月1、2、21～25日、10月13～16、19日	○	○	○	5	6	5	6	6	6	糖蜜・腐肉・ドックフード
	三国川ダム	平成16年7月30日～8月4日、10月6～8、18～19日		○	○		12	12		10	10	糖蜜・腐肉
	手取川ダム	平成15年6月2～4日、7月26～28日、9月30日～10月3日	○	○	○	10	10	10	8	8	8	カルピス、日本酒、糖蜜、サナギ粉
中部	美和ダム	平成16年5月24～6月25日、6月22～24日、7月19～23日、9月13～17日	○	○	○	3	3	3	15	15	15	鶏もも肉、鶏腐肉、乳酸飲料+食用酢(4:1)、乳酸飲料+食酢、乳酸飲料+食酢(4:1)
	蓮ダム	平成16年5月26～29日、6月15日(※2)、7月27～30日、10月5～8、13日	○	○	○	3	3	3	7	7	7	糖蜜・サナギ粉、腐肉
近畿	九頭竜ダム	平成16年5月6、12、18～27日、6月6、9、16日、7月3～4、6、14、16、22～23、26日、8月6、9～10、24～26日、9月2、12、15～16、19、26、28日、10月1～2、6、12～13日	○	○	○	3	3	3	4	4	4	焼酎+黒糖
	真名川ダム	平成16年5月6～7、12、15、24～28日、6月2～3日、7月2、8、13、27、30日、8月2～4、8～12、24～25日、9月1、6、9、13～17、21日、10月1～2、7日	○	○	○	3	3	3	3	3	3	焼酎+黒糖
	天ヶ瀬ダム※3	平成16年4月26～30日、7月12～16日、10月4～8、29日	○	○	○	4	4	4	5	5	5	EG+EA+酢酸
中国	菅沢ダム	平成15年5月5～10、13日、7月28～29日、8月1日、9月15日～17日	○	○	○	3	3	3	4	4	4	発酵バナナ、腐肉
九州	松原ダム	平成16年6月2～3日、9～10日、7月21～23日、10月5～6日	○	○	○	4	4	4	4	4	4	黒砂糖・アルコール・酢酸等の混合液
	下釜ダム	平成16年6月2～3日、9～10日、7月21～23日、10月5～6日	○	○	○	4	4	4	4	4	4	黒砂糖・アルコール・酢酸等の混合液
沖縄	辺野喜ダム	平成16年6月25～26日、7月30～31日、10月24～25日	○	○	○	3	3	3	3	3	3	糖蜜
	安波ダム	平成16年6月24～26、27日、7月29日～8月2日、10月23～27日	○	○	○	3	3	3	2	2	2	糖蜜
	普久川ダム	平成16年6月25～27日、7月30日～8月1日、10月24～26日	○	○	○	3	3	3	3	3	3	糖蜜
	新川ダム	平成16年6月24～25、28日、7月29～30日、8月3日、10月23～24、28日	○	○	○	3	3	3	2	2	2	糖蜜
	福地ダム	平成16年6月23～25、28日、7月28～30日、8月4日、10月22～24、28～29日	○	○	○	4	4	4	4	4	4	糖蜜
	漢那ダム	平成16年6月22～23日、7月27～28日、10月21～22日	○	○	○	5	5	5	4	4	4	糖蜜

※1 鹿ノ子ダムの5月は早春期調査 ※2 蓮ダム6月15日はホテル調査  
 ※3 天ヶ瀬ダムは他に補足調査として、平成16年4月12日（ギフチョウ）、5月24日（ハルゼミ・ツマグロキチョウ等）、3月3、10、23日（ゲンジボタル）、6月15日（ムカシヤンマ・オオサカサナエ等）、12月16日（オオムラサキ幼虫）に実施している。

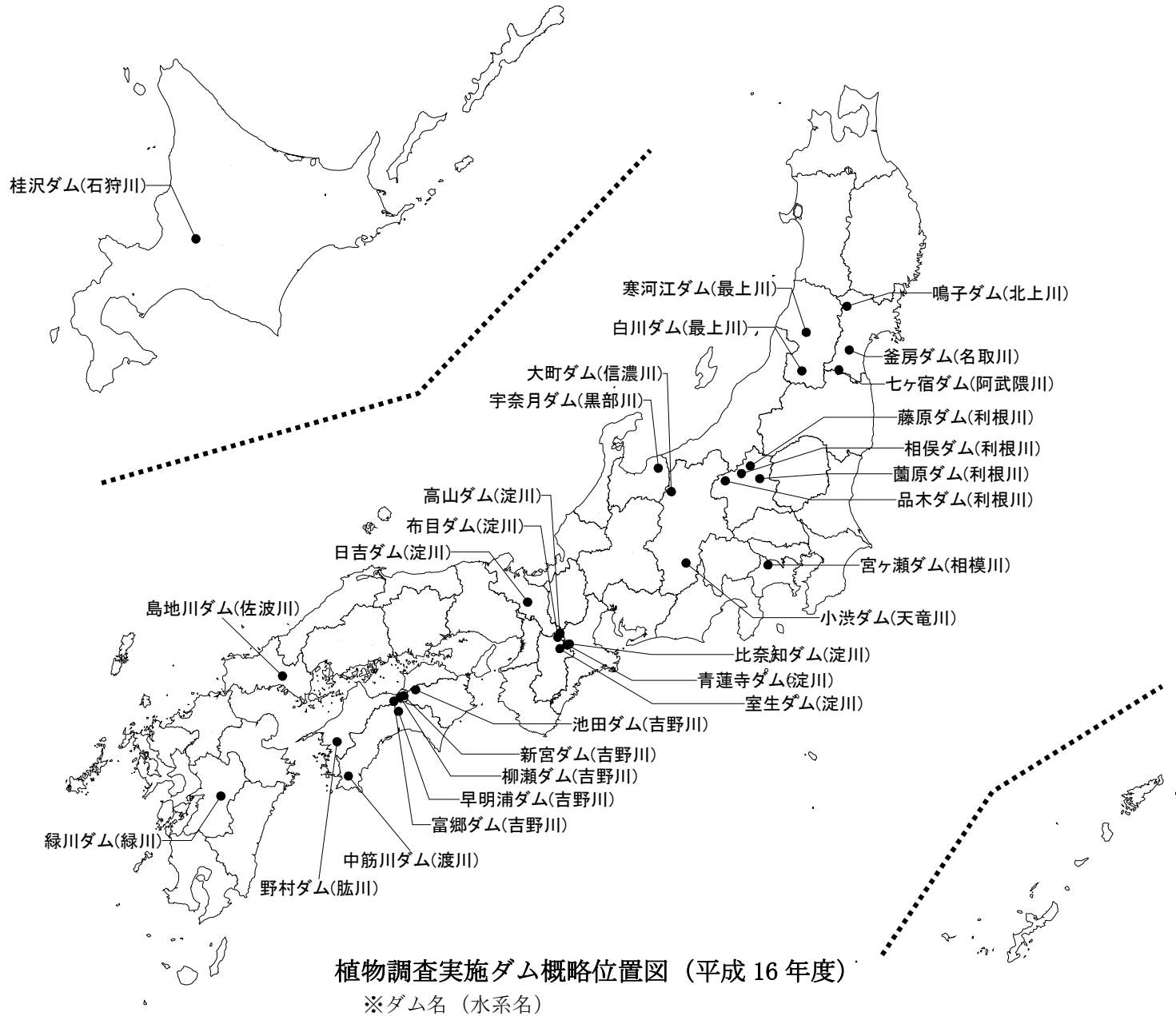






動植物プランクトン調査実施ダム概略位置図 (平成 16 年度)

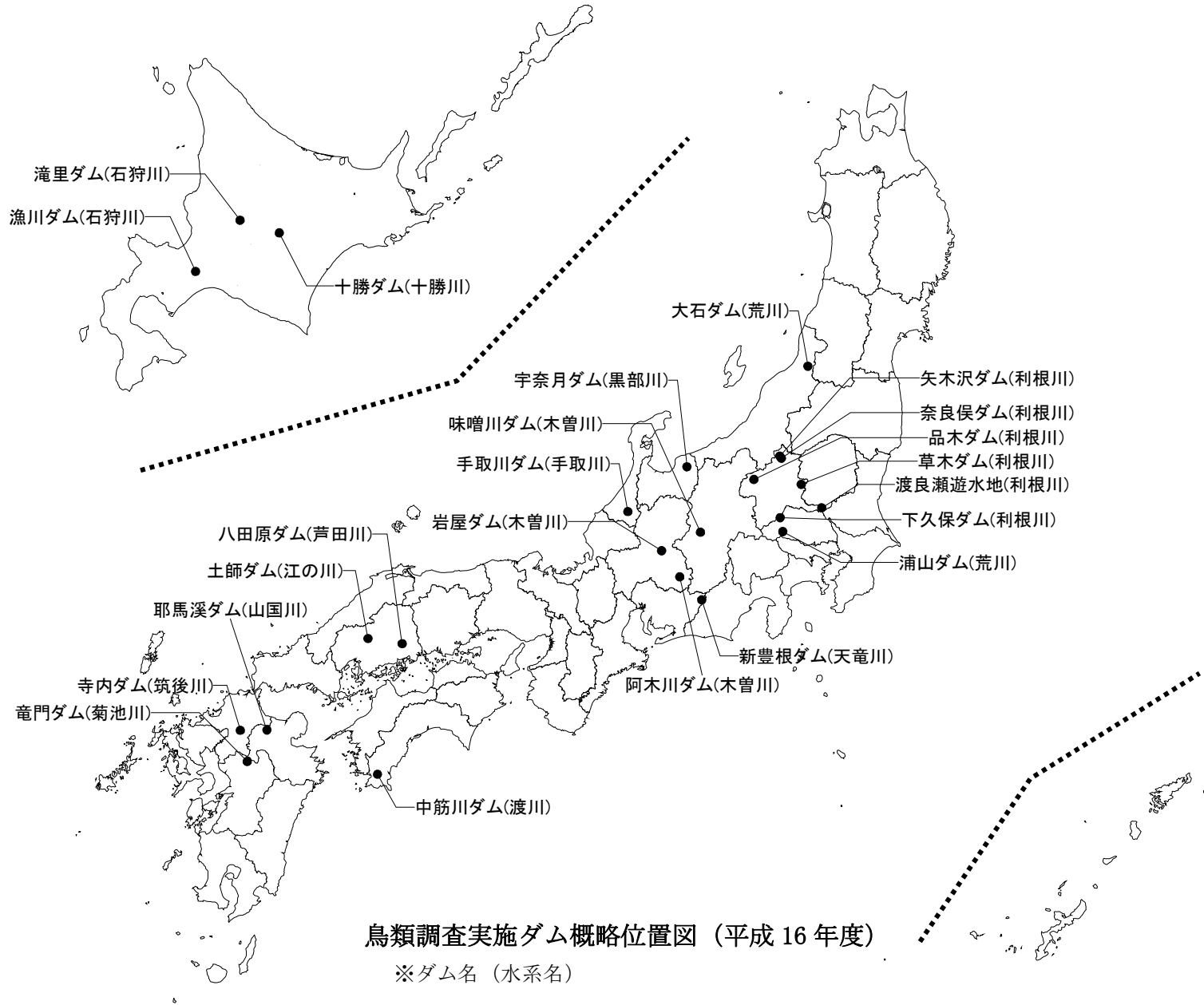
※ダム名 (水系名)



植物調査実施ダム概略位置図 (平成 16 年度)

※ダム名 (水系名)







両生類・爬虫類・哺乳類調査実施ダム概略位置図（平成16年度）

※ダム名（水系名）



陸上昆虫類等調査実施ダム概略位置図 (平成 16 年度)

※ダム名 (水系名)

## 5 外来種の選定に用いた文献一覧

### 魚介類調査)

- 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 編・監修 (2001) 日本の淡水魚・第3版. 山と溪谷社.  
全国内水面漁業協同組合連合会 (1992) ブラックバスとブルーギルのすべて  
～外来魚対策検討委託事業報告書～.  
中坊徹次編 (2000) 日本産 魚類検索 全種の同定 第二版. 東海大学出版会.  
Nakabo, T. (2002) Fishes of Japan with pictorial keys to the species, English edition.  
Tokai University Press.  
中村一恵 (1988) 日本の帰化動物. 神奈川県文化財協会.  
日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.

### 底生動物調査)

- 川合禎次・川那部浩哉・水野信彦編 (1980) 日本の淡水生物. 東海大学出版会.  
紀平肇・松田征也・内山りゅう (2003) 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の貝類.  
ピーシーズ.  
全国内水面漁業協同組合連合会 (1992) ブラックバスとブルーギルのすべて  
～外来魚対策検討委託事業報告書～.  
武田正倫・堀越伸行 (1993) 東京湾に定着したチチュウカイミドリガニ. 海洋と生物.  
85 (vol. 15 no.2) .  
中井克樹 (1995) 日本に侵入したカワヒバリガイ. 発見の経緯とその素性.  
関西自然保護機構会報 17 (1): 49-56.  
中井克樹・松田征也 (2000) 日本における淡水貝類の外来種. 月刊海洋/号外 No. 20: 57-65.  
中村一恵 (1988) 日本の帰化動物. 神奈川県文化財協会.  
中村一恵 (1994) 帰化動物のはなし. 技報堂出版.  
波部忠重 (1990) 日本非海産水棲貝類目録 (その2). ひたちおび. 55: 3-9.  
日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館.  
沼田眞・風呂田利夫 (1997) 東京湾の生物誌. 築地書館.  
風呂田利夫・古瀬浩史 (1988) 移入種イッカククモガニ *Pyromaia tuberculata* の  
日本沿岸における分布. 日本ベントス研究会誌. 33/34: 75-78.  
増田修・河野圭典・片山久 (1998) 西日本におけるタイワンシジミ種群とシジミ属の  
不明種 2種の産出状況. 兵庫陸水生物. 49: 22-35.  
三宅貞祥 (1982) 原色日本大型甲殻類図鑑 (I). 保育社.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.  
山口寿之 (1986) 付着生物研究法. 恒星社厚生閣.

### 植物調査)

- 浅井康宏 (1993) 緑の侵入者たち. 朝日新聞社.  
神奈川県植物誌調査会編 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館.  
桑原義晴・広田伸七・村尾宵二・天野斗史子 (1996) 雑草化する帰化植物(III)  
—離弁花—. 植調. 30: 329-337.  
清水建美 (2003) 日本の帰化植物. 平凡社.  
清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会 .  
竹松哲夫・一前宣正 (1987) 世界の雑草 I 合弁花類. 全国農村教育協会.  
竹松哲夫・一前宣正 (1993) 世界の雑草 II 離弁花類. 全国農村教育協会.  
竹松哲夫・一前宣正 (1997) 世界の雑草 III 単子葉類. 全国農村教育協会.  
長田武正 (1976) 原色日本帰化植物図鑑. 保育社.

長田武正 (1989) 増補日本イネ科植物図譜. 平凡社.  
林弥栄 (1989) 野に咲く花. 山と溪谷社.  
広田伸七・村尾宵二・天野斗史子 (1994) 雑草化する帰化植物－離弁花類－.  
植調. 28: 252-258.  
広田伸七・村尾宵二・天野斗史子・尼川大録 (1995) 雑草化する帰化植物(II)  
－離弁花・合弁花－. 植調. 29: 26-32.  
牧野富太郎 (1984) 牧野新日本植物図鑑. 北隆館.  
山口裕文 (1997) 雑草の自然史～たくましさの生態学～. 北海道大学図書刊行会.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.

#### 鳥類調査)

宇田川竜男 (1971) 標準原色図鑑全集 18 飼鳥・家畜. 保育社.  
中村一恵 (1988) 日本の帰化動物. 神奈川県文化財協会.  
中村一恵 (1990) スズメもモンシロチョウも外国からやって来た. PHP 研究所.  
中村一恵 (1994) 帰化動物のはなし. 技報堂出版.  
日本鳥学会 (2000) 日本産鳥類目録 改訂第6版. 日本鳥学会.  
日本鳥類保護連盟 (1988) 鳥 630 図鑑. 日本鳥類保護連盟.  
宮下和喜 (1977) 帰化動物の生態学 侵略と適応の歴史. 講談社.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.

#### 両生類・爬虫類・哺乳類調査)

阿部永他 (1994) 日本の哺乳類. 東海大学出版会.  
中村一恵 (1988) 日本の帰化動物. 神奈川県文化財協会.  
中村一恵 (1994) 帰化動物のはなし. 技報堂出版.  
日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館.  
宮下和喜 (1977) 帰化動物の生態学 侵略と適応の歴史. 講談社.  
山田文雄 (1998) わが国における移入哺乳類の現状と課題. 哺乳類科学. 38 (1): 97-105.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.

#### 陸上昆虫類等調査)

中村一恵 (1988) 日本の帰化動物. 神奈川県文化財協会.  
鷺谷いづみ・森本信生 (1993) 日本の帰化生物. 保育社.  
大野正男 (1997) ブタクサハムシ (新称)日本に侵入. 昆虫と自然. 32 (11), 35.  
日本生態学会編 (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館.

#### 全項目共通)

外来種影響・対策研究会 (2001) 河川における外来種対策に向けて[案].  
リバーフロント整備センター.

## 6 河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会名簿

### ◆魚介類スクリーニング・グループ

後藤 晃	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	助教授 (座長)
鈴木 寿之	兵庫県立尼崎北高等学校	教諭
瀬能 宏	神奈川県立生命の星・地球博物館	主任研究員
林 公義	横須賀市自然・人文博物館	館長
細谷 和海	近畿大学農学部	教授
森 誠一	岐阜経済大学経済学部	教授
渡辺 勝敏	京都大学大学院理学研究科	助教授

### ◆底生動物スクリーニング・グループ

谷田 一三	大阪府立大学大学院理学系研究科	教授 (座長)
石綿 進一	神奈川県環境科学センター水質環境部	専門研究員
内田 臣一	愛知工業大学工学部	助教授
大高 明史	弘前大学教育学部	教授
木村 正明	有限会社G A・SHOW	代表取締役
佐藤 正孝	名古屋女子大学	名誉教授
諸喜田 茂充	琉球大学	名誉教授
武田 正倫	独立行政法人国立科学博物館動物研究部	部長 東京大学大学院理学研究科 教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館	主任学芸員
山本 優	環境科学株式会社技術部同定分析室	室長

### ◆動植物プランクトンスクリーニング・グループ

渡辺 仁治	奈良女子大学	元教授 (座長)
菅谷 芳雄	独立行政法人国立環境研究所化学物質環境リスク研究センター	主任研究員
鈴木 實	日本大学	元教授
田中 晋	富山大学	名誉教授
田中 正明	四日市大学環境情報学部	教授
千原 光雄	筑波大学	名誉教授
伯耆 晶子	奈良女子大学理学部	非常勤講師

### ◆植物スクリーニング・グループ

奥田 重俊	横浜国立大学	名誉教授 (座長)
石川 慎吾	高知大学理学部	教授
梅原 徹	環境設計株式会社調査研究室	取締役部長
勝山 輝男	神奈川県立生命の星・地球博物館	専門学芸員
神田 房行	北海道教育大学釧路校	副学長
佐々木 寧	埼玉大学工学部	教授
横田 昌嗣	琉球大学理学部	教授

### ◆鳥類スクリーニング・グループ

中村 浩志	信州大学教育学部	教授 (座長)
江崎 保男	兵庫県立大学自然・環境科学研究所	教授
金井 裕	財団法人日本野鳥の会自然保護室	主任研究員
杉森 文夫	我孫子市鳥の博物館	館長
永田 尚志	独立行政法人国立環境研究所生物多様性研究グループ	主任研究員
原田 俊司	国土環境株式会社生態解析本部自然環境保全グループ	グループ長

◆両生類・爬虫類・哺乳類スクリーニング・グループ

三島 次郎 桜美林大学 名誉教授 (座長)  
荒井 秋晴 九州歯科大学中央研究室 講師

◆陸上昆虫類等スクリーニング・グループ

佐藤 正孝 名古屋女子大学 名誉教授 (座長)  
大和田 守 独立行政法人国立科学博物館動物研究部昆虫第一研究室 室長  
友国 雅章 独立行政法人国立科学博物館動物研究部昆虫第二研究室 室長  
野崎 隆夫 神奈川県環境科学センター情報交流部 専門研究員  
林 正美 埼玉大学教育学部 教授  
山崎 柄根 東京都立大学 名誉教授  
山本 優 環境科学株式会社技術部同定分析室 室長

(以上 順不同・敬称略)





## Ⅱ 調査項目別調査結果の概要

## 1 魚介類調査の概要

### 1. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数 [資料Ⅱ-1-1]

- ・平成 16 年度（一部、平成 15 年度を含む）に実施された 10 ダムの現地調査によって捕獲・目視確認した魚類は 7 目 14 科 63 種です。「日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—（環境庁, 1993）」に掲載されている純淡水魚・通し回遊魚・汽水魚は 200 種であるため、このうち約 32%に相当する種を今回の調査で確認したことになります。
- ・各ダムでの魚類確認種数は、宮ヶ瀬ダムの 28 種、猿谷ダムの 25 種、新豊根ダムの 24 種などです。
- ・今回発表対象の 10 ダムのうち、多く確認した魚類は、ギンブナ（9 ダムで確認）、ニジマス（7 ダムで確認）、オイカワ、カワムツ、ウグイ（6 ダムで確認）などです。
- ・今回発表対象の 10 ダムの現地調査によって捕獲したエビ・カニ・貝類は 5 目 11 科 14 種です。
- ・今回発表対象の 10 ダムのうち、多く確認したエビ・カニ・貝類は、カワニナ、スジエビ（6 ダムで確認）、サワガニ（5 ダムで確認）などです。

#### (2) 特定種（魚類、エビ・カニ・貝類） [資料Ⅱ-1-2]

- ・特定種として、今回の調査では汽水・淡水魚類の改訂・レッドデータブック（環境省, 2003）に記載されている 9 種、淡水産貝類・昆虫類・甲殻類等レッドリスト（環境庁, 2000）に記載されている 2 種を確認しています。
- ・改訂・レッドデータブックの絶滅危惧 I B 類であるイシドジョウを中国の島地川ダムで、ホトケドジョウを東北の三春ダムで、イトウを関東の宮ヶ瀬ダムで確認しています。ただし、宮ヶ瀬ダムのイトウについては釣り堀からの逸出によるものです。

（注）特定種について

魚類においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境省編（2003）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 4 汽水・淡水魚類」掲載種
- ・環境庁編（2000）「淡水産貝類・昆虫類・甲殻類等レッドリスト（レッドデータブックの基礎となる日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」掲載種

#### (3) 外来種（魚類、エビ・カニ・貝類） [資料Ⅱ-1-3]

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の魚類、エビ・カニ・貝類を掲げています。今回の調査では、外来生物法で特定外来生物に指定されたブルーギル、オオクチバス、コクチバス、要注意外来生物リストに挙げられたタイリクバラタナゴ、ニジマス、ブラウントラウトの魚類 6 種、同じく要注意外来生物リストに挙げられたアメリカザリガニを含むエビ・カニ・貝類 2 種を確認しています。

（注）・外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21～22 ページに掲載した文献および I-23～24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

・要注意外来生物リストについて

外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。

魚類確認種一覧(平成16年度) < 1 >

No	目名	科名	種名	学名	北海道			東北	関東	中部	
					大雪ダム	美利河ダム	二風谷ダム	三春ダム	宮ヶ瀬ダム	新豊根ダム	
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>		▲	▼			●	
2			シベリアヤツメ	<i>Lethenteron kessleri</i>			●				
			カワヤツメ属の一種	<i>Lethenteron sp.</i>		△	△	○	▽		
3	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>							
4	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>			●		●	▼	
5			コイ(ニシキゴイ)	<i>Cyprinus carpio</i>					●	▼	
6			ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>				●			
7			キンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>		●	●	▼	▲	●	
8			キンブナ	<i>Carassius auratus subsp.2</i>				▲	●	▼	
			フナ属の数種	<i>Carassius spp.</i>				○		▽	
9			タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>				●			
10			ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>						●	
11			オイカワ	<i>Zacco platypus</i>				▲	●	▼	
12			カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>				▲	●	▼	
			オイカワ属の数種	<i>Zacco spp.</i>				▽			
13			アブラハヤ	<i>Phoxinus lagoskii steindachneri</i>				▲	▲	●	
14			ダカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus iouvi</i>					▲	●	
15			エソウグイ	<i>Tribolodon ezoe</i>	▲	●	▲	●	▼	▲	
16			ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>		▲	●	▼	▲	●	
			ウグイ属の数種	<i>Tribolodon spp.</i>	○	▲	○	▽	▲	○	
17			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>				▲	●	▼	
18			ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>						●	
19			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>				●	▼		
20			ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>						●	
21			ゼゼラ	<i>Bivia zezera</i>						●	
22			カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>						▼	
23			ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>				▲	●	▼	
24			イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>						▲	
25			スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>						●	
26			コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis subsp.</i>							
27		ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>			●	▲	●	▼	
28			カラドジョウ	<i>Misgurnus mizolepis</i>				●			
29			イシドジョウ	<i>Cobitis takatsuensis</i>							
30			シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>					●	▼	
31			スジシマドジョウ中型種	<i>Cobitis sp.3</i>							
32			フクドジョウ	<i>Noemacheilus barbatulus toni</i>	▲	●	▼	▲	●	▼	
33			ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>				▲			
34	ナマズ目	ギギ科	ギギ	<i>Pseudobagrus nudiceps</i>							
35			ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>				▲			
36		ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>						●	
37		アカザ科	アカザ	<i>Lobagrus reinii</i>							
38	サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>					●	▼	
39		アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>					▲	●	
40		イトウ科	イトウ	<i>Hucho perryi</i>						●	
41			ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>		▲	●		▼	▲	
42			サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>				●	▼		
43			サクラマス	<i>Oncorhynchus masou masou</i>		●				●	
44			ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>		△	▽	●	●	△	
44			サツキマス	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>						○	
44			アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>						▲	
45			ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>					▲	▼	
46			アヘマス	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>	▲	●	▼	▲	●	▼	
			エソイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>					▲	●	
47			ヤマトイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis japonicus</i>						▲	
48			オシロコマ	<i>Salvelinus malma krascheninnikovi</i>	▲	●	▼				
49	カサゴ目	カジカ科	カジカ	<i>Cottus pollux</i>					▲	▼	
50			ハナカジカ	<i>Cottus nozawae</i>	▲	▼	▲				
51			エソハナカジカ	<i>Cottus amblystomopsis</i>				▼			
52	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>							
53		サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>				▲	●	▼	
54			オオクチバス(ブラックバス)	<i>Micropterus salmoides</i>				▲	●	▼	
55			コクチバス	<i>Micropterus dolomieu</i>						●	
56			ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>						●	
57		ハゼ科	ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>				▼		▼	
58			ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>				▼			
59			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.CB</i>						▼	
60			オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.LD</i>						▼	
61			トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.OR</i>						▼	
62			カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>				▲	●	▼	
			ヨシノボリ属の数種	<i>Rhinogobius spp.</i>				▲	▼	▽	
63			ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>				▲	▼	▲	
確認種数					流入河川:▲△	5	8	5	12	10	11
					ダム湖内:●○	4	8	8	16	18	22
					下流河川:▼▽	4	6	11	14	23	10
合計						5	10	13	22	28	24

注1) ▽○△は当該ダムにおいて合計確認種数としてカウントしていない(I-4頁種数の計数方法参照)。  
 注2) ××属の一種という表記は、種まで同定されていないものである。これらは各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行している。  
 注3) 中国の島地川ダムの下流河川、九州の厳木ダムの下流河川は調査を実施していない。

## 魚類確認種一覧(平成16年度) &lt; 2 &gt;

No	目和名	科和名	種和名	学名	近畿	中国	四国	九州	確認ダム数			合
					猿谷ダム	島地川ダム	石手川ダム	巖木ダム	流入河川	ダム湖内	下流河川	
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>					1	1	1	2
2			シベリアヤツメ	<i>Lethenteron kessleri</i>					1	1	1	1
			カワヤツメ属の一種	<i>Lethenteron sp.</i>					2	1	1	2
3	ウナギ目	ウナギ科	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>		●	●			2	2	2
4	コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	●	●		●		5	1	5
5			コイ(ニシキゴイ)	<i>Cyprinus carpio</i>						1	1	1
6			ダシゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>				●		2	2	2
7			ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorffi</i>	●	●	●	●	1	9	3	9
8			ギンブナ	<i>Carassius auratus subsp.2</i>					1	1	1	1
			フナ属の数種	<i>Carassius spp.</i>	○	○				3	1	4
9			タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>						1	1	1
10			ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>	●					2	2	2
11			オイカワ	<i>Zacco platypus</i>	▲	●	▲	●	▲	6	6	5
12			カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>	▲	●	▲	●	▲	5	5	4
			オイカワ属の数種	<i>Zacco spp.</i>							2	2
13			アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>			▼			3	2	3
14			タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus jouvi</i>	●	▲	▲	●	▲	4	4	2
15			エゾウグイ	<i>Tribolodon ezoe</i>						3	3	2
16			ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	▲	●	▼			6	6	6
			ウグイ属の数種	<i>Tribolodon spp.</i>						2	3	2
17			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>				●		1	3	2
18			ムギツク	<i>Pungtungia herzi</i>		▲	●			1	1	1
19			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>						1	2	2
20			ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleuscaeruleus</i>	●					2	2	2
21			ゼゼラ	<i>Biwia zezera</i>	●					2	2	2
22			カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	●			▲	●	1	3	3
23			ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	●					2	3	4
24			イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	●	▲				1	1	2
25			スゴモロコ	<i>Squalidus chankaensis biwae</i>	●					2	2	2
26			コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis subsp.</i>	●					1	1	1
27		ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>		▲		●		2	3	2
28			カブドジョウ	<i>Misgurnus mizolepis</i>						1	1	1
29			イシドジョウ	<i>Cobitis takatsuensis</i>		▲				1	1	1
30			シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>						1	1	1
31			スジシマドジョウ中型種	<i>Cobitis sp.3</i>	●					1	1	1
32			フドジョウ	<i>Noemacheilus barbatus toni</i>						3	3	3
33			ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>						1	1	1
34	ナマズ目	ギギ科	ギギ	<i>Pseudobagrus nudiceps</i>	●	▲	●			1	2	2
35			ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>						1	1	1
36		ナマズ科	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>						1	1	1
37		アカザ科	アカザ	<i>Liobagrus reinii</i>	●					1	1	1
38	サケ目	キュウリウオ科	ワカサギ	<i>Hypomesus nipponensis</i>	●	▼				3	2	3
39		アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	▲	●	▲	●	▲	5	4	5
40		サケ科	イトウ	<i>Hucho perrvi</i>						1	1	1
41			ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i>	●	▲	●	●		3	6	2
42			サケ	<i>Oncorhynchus keta</i>						1	1	1
43			サクラマス	<i>Oncorhynchus masou masou</i>				▲		1	2	3
			ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>				△	○	3	4	2
44			サツキマス	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>		●				1	1	1
			アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	▲	●	▼	△		5	3	4
45			ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i>		▲	●			1	1	1
46			アメマス	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>						2	2	2
			エソイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>						1	1	1
47			ヤマトイワナ	<i>Salvelinus leucomaenis japonicus</i>						1	1	1
48			オシロコマ	<i>Salvelinus malma krascheninnikovi</i>						1	1	1
49	カサゴ目	カジカ科	カジカ	<i>Cottus pollux</i>						1	1	1
50			ハナカジカ	<i>Cottus nozawae</i>						2	1	2
51			エソハナカジカ	<i>Cottus amblystomopsis</i>						1	1	1
52	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ	<i>Coreoperca kawamebari</i>		●				1	1	1
53		サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>			●			1	4	1
54			オオクチバス(ブラックバス)	<i>Micropterus salmoides</i>	●		●			4	1	4
55			コクチバス	<i>Micropterus dolomieu</i>						1	1	1
56		ハゼ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>			▲	●	▲	2	2	2
57			ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>						1	3	4
58			ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius castaneus</i>							1	1
59			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.CB</i>							1	1
60			オオヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.LD</i>		▲	▲	▼	▲	3	1	2
61			トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp.OR</i>		▲	▲	▼	▲	4	3	3
62			カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	▲	●	▼	▲	●	4	3	4
			ヨシノボリ属の数種	<i>Rhinogobius spp.</i>					△	2	1	2
63			スマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>		▼	▲	●	▲	3	3	3
確認種数					流入河川: ▲△	6	16	10	6	41		
					ダム湖内: ●○	23	13	12	11	61		
					下流河川: ▼▽	8	-	8	-	43		
合計						25	20	15	11	63		

注1) ▽○△は当該ダムにおいて合計確認種数としてカウントしていない(1-4頁種数の計数方法参照)。

注2) ××属の一種という表記は、種まで同定されていないものである。これらは各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行にしている。

注3) 中国の島地川ダムの下流河川、九州の巖木ダムの下流河川は調査を実施していない。

エビ・カニ・貝類確認種一覧（平成16年度）

No	目名	科名	種名	学名	北海道					中部	
					大雪ダム	美利河ダム	二風谷ダム	三春ダム	宮ヶ瀬ダム		新豊根ダム
1	エビ目	タニシ科	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>				●			
2	(中腹足目)		ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>				●			
3		カワニナ科	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>				▲●▼	▼▲	▼	
4	モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>				▲●●	▲	▼	
5		サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>				▲●●▼			
6	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)	<i>Anodonta woodiana</i>				●			
7	ハマグリ目(マルスダレガイ目)	シジミ科	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>				▲	▼		
			シジミ属の一種	<i>Corbicula sp.</i>					▼		
8	エビ目	テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>				●▼	●	●	
9	(十脚目)		スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>		▲●▼	▲●▼	▲●	●▼	▲●	
10		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>							
11			ヌカエビ	<i>Paratva compressa improvisa</i>						▼	
12		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>				▲●			
13		イワガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>			▼				
14		サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>				●		▲●▼	
確認種数					流入河川:▲△	0	1	1	6	1	3
					ダム湖内:●○	0	1	1	10	2	3
					下流河川:▼▽	0	1	2	4	6	2
合計						0	1	2	11	6	4

No	目名	科名	種名	学名	近畿	中国	四国	九州	確認ダム数			
					猿谷ダム	島地川ダム	石手川ダム	厳木ダム	流入河川	ダム湖内	下流河川	合計
1	エビ目	タニシ科	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>						1		1
2	(中腹足目)		ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>						1		1
3		カワニナ科	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>		▲	▲●	▲●	3	3	5	6
4	モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>					1	1	2	2
5		サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>					1	1	1	1
6	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)	<i>Anodonta woodiana</i>					1	1	1	1
7	ハマグリ目(マルスダレガイ目)	シジミ科	マシジミ	<i>Corbicula leana</i>					1	1	1	1
			シジミ属の一種	<i>Corbicula sp.</i>					1	1	1	1
8	エビ目	テナガエビ科	テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>					2	3	3	3
9	(十脚目)		スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>			▲●▼		4	6	5	6
10		ヌマエビ科	ミナミヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>		▲		●	1	1	1	2
11			ヌカエビ	<i>Paratva compressa improvisa</i>					1			1
12		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>				●	2	1	2	2
13		イワガニ科	モクスガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>			▼		2	4	4	2
14		サワガニ科	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>		▲	▲●▼	▲●	2	4	4	5
確認種数					流入河川:▲△	0	3	3	2	10		
					ダム湖内:●○	0	0	3	4	11		
					下流河川:▼▽	0	-	3	-	8		
合計						0	3	4	4	14		

- 注1) ▼○△は当該ダムにおいて合計確認種数としてカウントしていない（I-4頁種数の計数方法参照）。
- 注2) ××属の一種という表記は、種まで同定されていないものである。これらは各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行にしている。
- 注3) 中国の島地川ダムの下流河川、九州の厳木ダムの下流河川は調査を実施していない。

魚類特定種一覧（平成 16 年度）

No.	目 和 名	科 和 名	種 和 名	選定基準			北海道		東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	確認 ダム 数
				①	②	③	大 雪 ダ ム	美 利 河 ダ ム	二 風 谷 ダ ム	三 春 ダ ム	宮 ヶ 瀬 ダ ム	新 豊 根 ダ ム	猿 谷 ダ ム	島 地 川 ダ ム	石 手 川 ダ ム	
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ			VU		●			●					2
2			シベリアヤツメ			NT			●							
3	コイ目	ドジョウ科	インドジョウ			EN							●			1
4			ホトケドジョウ			EN			●							
5	ナマズ目	ギギ科	ギバチ			VU			●							1
6		アカザ科	アカザ			VU					●					1
7	サケ目	サケ科	イトウ			EN			●							1
8			オショロコマ			NT	●									
9	スズキ目	スズキ科	オヤニラミ			NT							●			1
確認種数							1	1	1	2	1	1	1	2	0	0

注)宮ヶ瀬ダムのイトウは釣り堀からの逸出によるものである。

選定基準

①「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種

③環境省編(2003)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 4 汽水・淡水魚類」

CR：絶滅危惧 I A類 - ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN：絶滅危惧 I B類 - I A類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が極めて高い … 3種確認

VU：絶滅危惧 II 類 - 絶滅の危険が増大している種 … 3種確認

NT：準絶滅危惧 - 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 … 3種確認

DD：情報不足 - 評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群-地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

エビ・カニ・貝類特定種一覧（平成 16 年度）

No.	目 and 名	科 and 名	種 and 名	選定基準			北海道		東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	確認 ダム 数
				①	②	③	大 雪 ダ ム	美 利 河 ダ ム	二 風 谷 ダ ム	三 春 ダ ム	宮 ヶ 瀬 ダ ム	新 豊 根 ダ ム	猿 谷 ダ ム	島 地 川 ダ ム	石 手 川 ダ ム	
1	ニナ目(中腹足目)	タニシ科	マルタニシ			NT			●							1
2	モノアラガイ目(基眼目)	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT			●	●						2
確認種数							0	0	0	2	1	0	0	0	0	

選定基準

①「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種

③環境庁編(2000)「淡水産貝類・昆虫類・甲殻類等レッドリスト」

CR：絶滅危惧ⅠA類 - ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN：絶滅危惧ⅠB類 - ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が極めて高い

VU：絶滅危惧Ⅱ類 - 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧 - 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 … 2種確認

DD：情報不足 - 評価するだけの情報が不足している種

Lp：絶滅のおそれのある地域個体群-地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

魚類国外外来種一覧（平成16年度）

No.	目和名	科和名	種和名	外来種	北海道			東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	確認ダム数
					大雪ダム	美利河ダム	二風谷ダム	三春ダム	宮ヶ瀬ダム	新豊根ダム	猿谷ダム	島地川ダム	石手川ダム	巖木ダム	
1	コイ目	コイ科	タイリクバラタナゴ	要注意(検討)			●								1
2	サケ目	サケ科	ニジマス	要注意(検討)		●	●	●	●	●	●	●			7
3			ブラウントラウト	要注意(検討)				●			●				
4	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	特定			●	●	●				●		4
5			オオクチバス(ブラックバス)	特定			●	●		●			●		4
6			コクチバス	特定					●						
確認種数					0	1	0	4	5	2	2	2	3	0	

凡例) 特定:外来生物法で指定された特定外来生物  
 要注意(検討):要注意外来生物リスト掲載種のうち、被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物



エビ・カニ・貝類国外外来種一覧（平成16年度）

No.	目和名	科和名	種和名	外来種	北海道		東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	確認ダム数
					大雪ダム	美利河ダム	二風谷ダム	三春ダム	宮ヶ瀬ダム	新豊根ダム	猿谷ダム	島地川ダム	石手川ダム	
1	モノアラガイ目(基眼目)	サカマキガイ科	サカマキガイ				●							1
2	エビ目(十脚目)	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	要注意(検討)			●						●	2
確認種数					0	0	0	2	0	0	0	0	1	

凡例) 要注意(検討): 要注意外来生物リスト掲載種のうち、被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物

1. 2 生態系の人為的な攪乱状況

(1) 国外外来種の確認状況

- ・ ブルーギル、オオクチバス（ブラックバス）を4ダムで確認、コクチバスを1ダムで確認  
[資料Ⅱ-1-4]

ブルーギルは在来魚の卵や仔稚魚を捕食し、オオクチバス（ブラックバス）およびコクチバスは魚類や甲殻類を捕食します。いずれもその強い捕食圧で在来の生態系に大きな影響を与えるだけでなく、各地で漁業被害が報告されていることから、特定外来生物に指定されています。

ブルーギルは、1960年にアメリカから持ち込まれ、各地で放流が行われました。オオクチバスは、1925年にアメリカから芦ノ湖に移殖され、その後全国に分布域を広げており、オオクチバスの侵入後に在来種が激減する現象が多数報告されています。

コクチバスは低水温に対する耐性が強く、流水域にも適応できるため、オオクチバスが今まで定着できなかった場所にも侵入する可能性があります。

平成16年度に調査を実施した10ダムのうち、これらの種の確認状況をみると、ブルーギル、オオクチバスを4ダムで、コクチバスを1ダムで確認しています。

10ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した9ダムについて確認状況をみると、ブルーギルは中部の新豊根ダムで新たに確認されました。オオクチバスは2巡目調査で確認されたダム全てで確認されており、ダム湖に定着していることがわかります。コクチバスはまだダム湖ではほとんど確認されておらず、宮ヶ瀬ダムが矢木沢ダムについて河川水辺の国勢調査（ダム湖版）で確認された二例目となります。

これらの種はスポーツフィッシングの対象として人気があり、各地で意図的な放流が行われてきた可能性が指摘されています。外来生物法では新たな放流、水域の移動を禁じており、今後もモニタリングを継続していく必要があります。

ブルーギル・オオクチバス（ブラックバス）の確認状況

ブルーギル

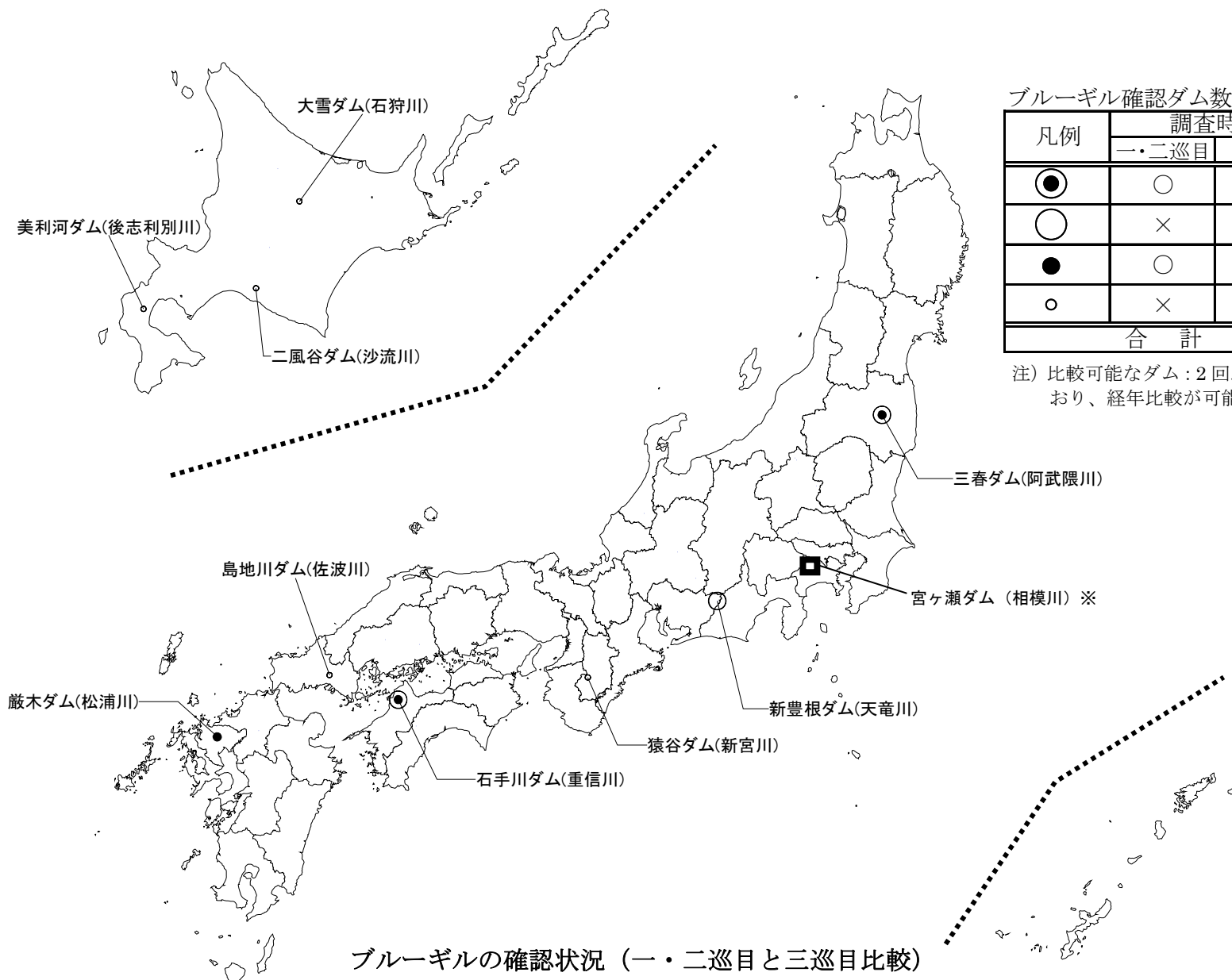
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	×	×
東北	三春ダム	／	○	○
関東	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
中部	新豊根ダム	×	×	○
近畿	猿谷ダム	×	×	×
中国	島地川ダム	×	×	×
四国	石手川ダム	×	○	○
九州	巖木ダム	×	○	×
確認ダム数		0	3	4
うち比較可能なダム		0	3	3

オオクチバス(ブラックバス)

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	×	×
東北	三春ダム	／	○	○
関東	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
中部	新豊根ダム	×	×	×
近畿	猿谷ダム	×	○	○
中国	島地川ダム	×	×	×
四国	石手川ダム	×	○	○
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		0	3	4
うち比較可能なダム		0	3	3

凡例) ○：確認、×：未確認、－：調査を実施していない、／：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ブルーギル確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	2
○	×	○	1
●	○	×	1
○	×	×	5
合計			9

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

※宮ヶ瀬ダムは三巡目から調査を開始したダムであるが、外来種が多く確認されており、ブルーギルも確認されているため、図に示した。



・ニジマスの確認ダム数が増加 [資料Ⅱ-1-4]

ニジマス、ブラウントラウトは要注意外来生物リストのうち、「被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物」に挙げられています。

ニジマスは 1877 年以降数回にわたり水産資源としてアメリカから導入され、九州以北の全国各地の冷水域で養殖され、1980 年代前半まで盛んに放流されました。また、ブラウントラウトは明治以降ニジマスやカワマスの卵に混じって導入されたとされ、1980 年に新冠ダムで確認されました。両種とも水圏食物連鎖の頂点に位置するため、在来のサケ科魚類やヨシノボリ類など、在来魚類への影響が心配されています。海外では他のサケ科魚類を駆逐するなどの事例が報告されています。ニジマスは現時点では北海道など限られた地域にしか定着が確認されていませんが、ブラウントラウトは中善寺湖や黒部川で確認されています。

平成 16 年度に調査を実施した 10 ダムのうち、ニジマスとブラウントラウトの確認状況をみると、ニジマスを 7 ダムで、ブラウントラウトを 2 ダムで確認しています。

10 ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した 9 ダムについて確認状況をみると、ニジマスを 6 ダムで確認しており、このうち、東北の三春ダム、近畿の猿谷ダムで新たにニジマスを確認しています。ブラウントラウトは中国の島地川ダムで新たに確認しています。

ニジマス・ブラウントラウトは養殖や管理釣り場で利用され、遊漁を目的として各地の水域に導入されています。なお、ニジマスは二風谷ダム、三春ダム、宮ヶ瀬ダム、新豊根ダム、猿谷ダム、石手川ダムで放流されていることが確認されています。現在、本州では目立った被害は報告されていませんが、逸出の危険があることから、ダム湖では今後も引き続きモニタリングを継続していく必要があります。

### ニジマス・ブラウントラウトの確認状況

ニジマス

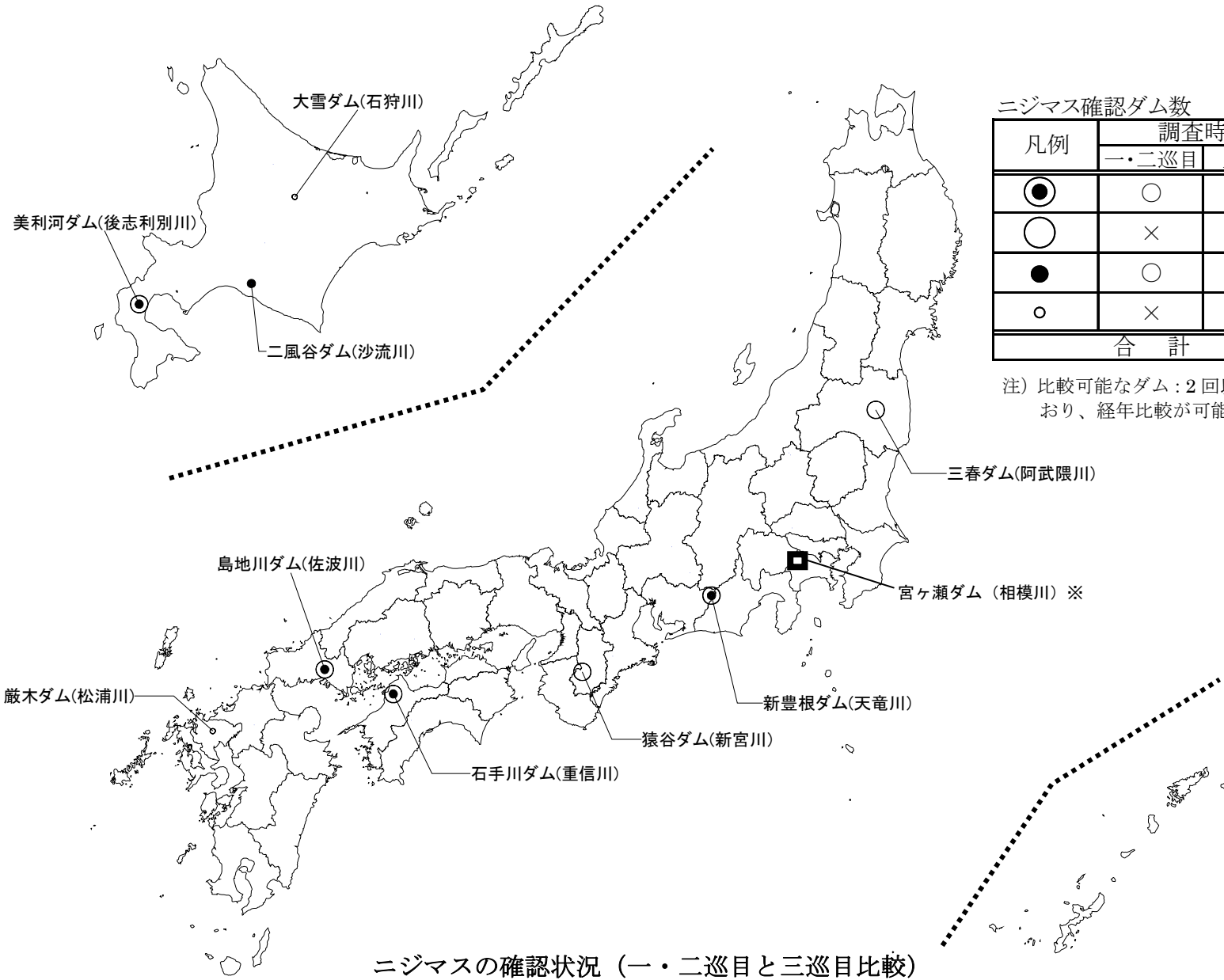
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	○	○	○
	二風谷ダム	／	○	×
東北	三春ダム	／	×	○
関東	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
中部	新豊根ダム	○	×	○
近畿	猿谷ダム	×	×	○
中国	島地川ダム	○	○	○
四国	石手川ダム	×	○	○
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		3	4	7
うち比較可能なダム		3	4	6

ブラウントラウト

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	×	×
東北	三春ダム	／	×	×
関東	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
中部	新豊根ダム	×	×	×
近畿	猿谷ダム	×	×	×
中国	島地川ダム	×	×	○
四国	石手川ダム	×	×	×
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		0	0	2
うち比較可能なダム		0	0	1

凡例) ○：確認、×：未確認、－：調査を実施していない、／：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2 回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ニジマス確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	4
○	×	○	2
●	○	×	1
○	×	×	2
合計			9

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

ニジマスの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

※宮ヶ瀬ダムは三巡目から調査を開始したダムであるが、外来種が多く確認されており、ニジマスも確認されているため、図に示した。

(2) 近縁種の確認状況

・アマゴが本来の生息地から外れて、関東の相模川水系で確認 [資料Ⅱ-1-5]

本来の分布境界がはっきりしている近縁種の分布を、漁業対象種として各地で積極的に放流されているヤマメ・アマゴについて比較しました。

ヤマメとアマゴは漁業対象種として広く放流されている種ですが、本来ヤマメは北海道全域、本州の神奈川県酒匂川以北の太平洋岸および日本海側全域、九州の日本海側・東シナ海側全域と大分県番匠川以南の太平洋側に、アマゴは神奈川県酒匂川右岸側支流以西の本州太平洋岸、四国全域、大分県大野川以北の九州瀬戸内海側各河川に分布しています。

平成16年度に調査を実施した10ダムのうち、関東の宮ヶ瀬ダム(相模川水系)で、アマゴが本来の分布を外れて確認されており、地理的分布の攪乱が生じていることが示されました。

ただし、各調査会社が関連漁協にヒアリングしたところ、近年では分布域外での放流実績は確認できませんでした。

魚介類放流実績(漁協ヒアリングによる)

地方	ダム名	放流実績
北海道	大雪ダム	情報なし
	美利河ダム	情報なし
	二風谷ダム	サケ、ヤマメ、ニジマス
東北	三春ダム	ウグイ、ウナギ、ゲンゴロウブナ、コイ、ニジマス、ヤマメ
関東	宮ヶ瀬ダム	イワナ属の一種、アユ、ウナギ、ゲンゴロウブナ、ニジマス、ヤマメ、テナガエビ
中部	新豊根ダム	アユ、アマゴ、ニジマス、ウナギ
近畿	猿谷ダム	アユ、アマゴ、ウナギ、コイ
中国	島地川ダム	アユ、アマゴ、ウナギ、モクズガニ
四国	石手川ダム	アユ、アマゴ、ウナギ、コイ、ニジマス、フナ属の数種、モクズガニ
九州	巖木ダム	ヤマメ、アユ、コイ、ウナギ、モクズガニ





(3) 琵琶湖・淀川水系の魚類と北海道地方在来の魚類の確認状況

・琵琶湖・淀川水系に固有な魚類が分布域外に生息 [資料Ⅱ-1-6]

琵琶湖産アユの放流事業とともに、琵琶湖・淀川水系の魚類が日本各地に分布を拡大していることが報告されています。このように人の経済活動に伴う魚類の地理的分布の攪乱状況を確認するため、琵琶湖・淀川水系に固有な種の中からワタカ、ハス、ビワヒガイ、ホンモロコ、スゴモロコの確認状況を整理したところ、ホンモロコ、スゴモロコが本来の分布域である琵琶湖・淀川水系の外で確認されました。

平成16年度に調査を実施した琵琶湖・淀川水系以外の10ダムのうち、中国の新豊根ダム、近畿の猿谷ダムの2ダムでこれら2種を確認しており、魚類の地理的分布の攪乱が確認されました。新豊根ダムでは平成15年に琵琶湖産の、猿谷ダムでは奈良県で養殖されたアユが放流された実績が確認されています。

この結果は、琵琶湖・淀川水系の固有種に加え、全国に広く分布する他の魚類についても、放流等により地理的分布の攪乱が生じ、本来それらの種が保有していた地理的な遺伝的多様性が失われている可能性を示唆しています。

琵琶湖・淀川水系の魚類の確認状況

ホンモロコ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	\	×	×
東北	三春ダム	\	×	×
関東	宮ヶ瀬ダム	\	\	×
中部	新豊根ダム	×	×	○
近畿	猿谷ダム	×	○	○
中国	島地川ダム	×	×	×
四国	石手川ダム	×	×	×
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		0	1	2
うち比較可能なダム		0	1	2

スゴモロコ

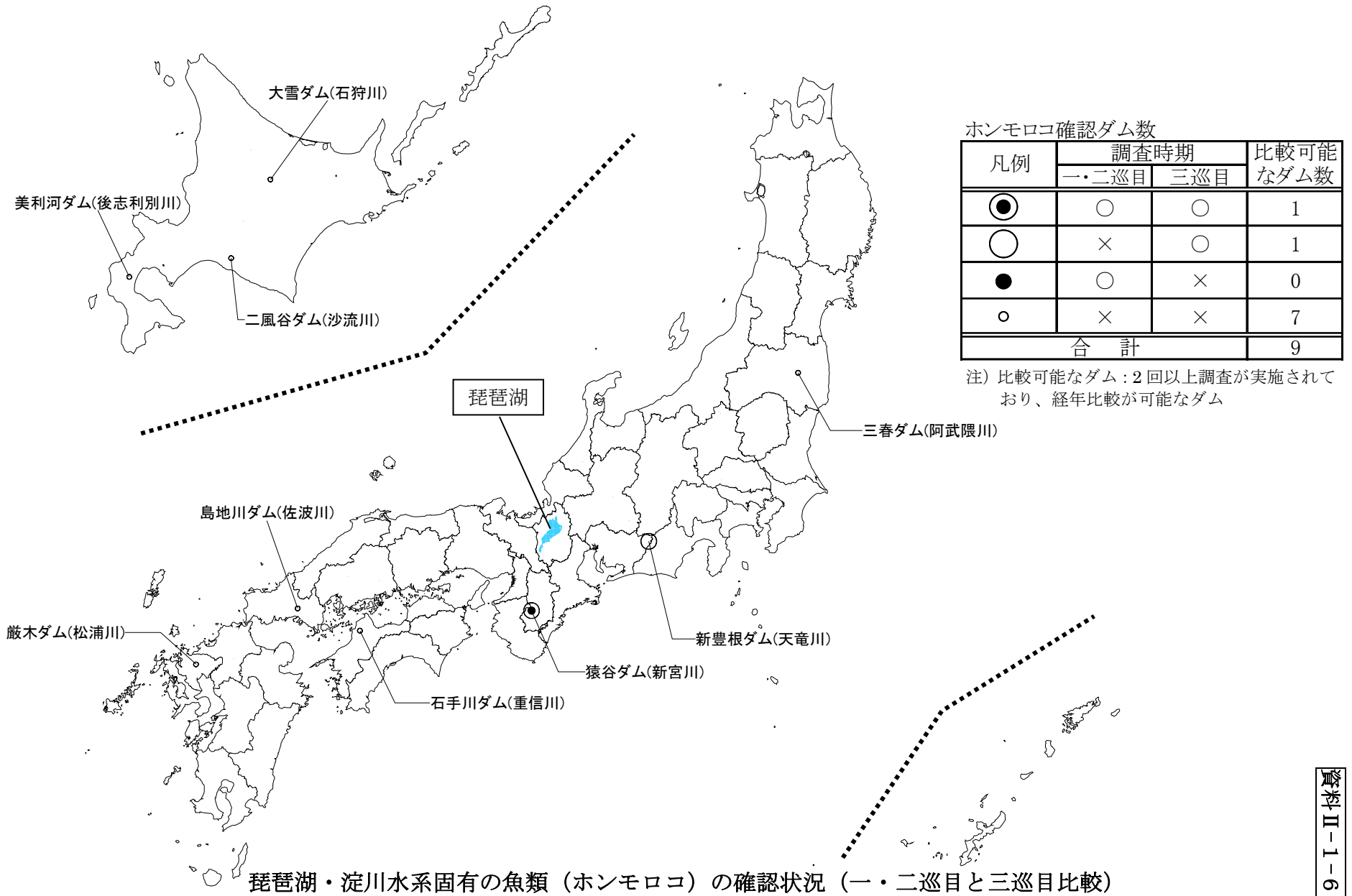
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	\	×	×
東北	三春ダム	\	×	×
関東	宮ヶ瀬ダム	\	\	×
中部	新豊根ダム	○	○	○
近畿	猿谷ダム	×	○	○
中国	島地川ダム	×	×	×
四国	石手川ダム	×	×	×
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		1	2	2
うち比較可能なダム		1	2	2

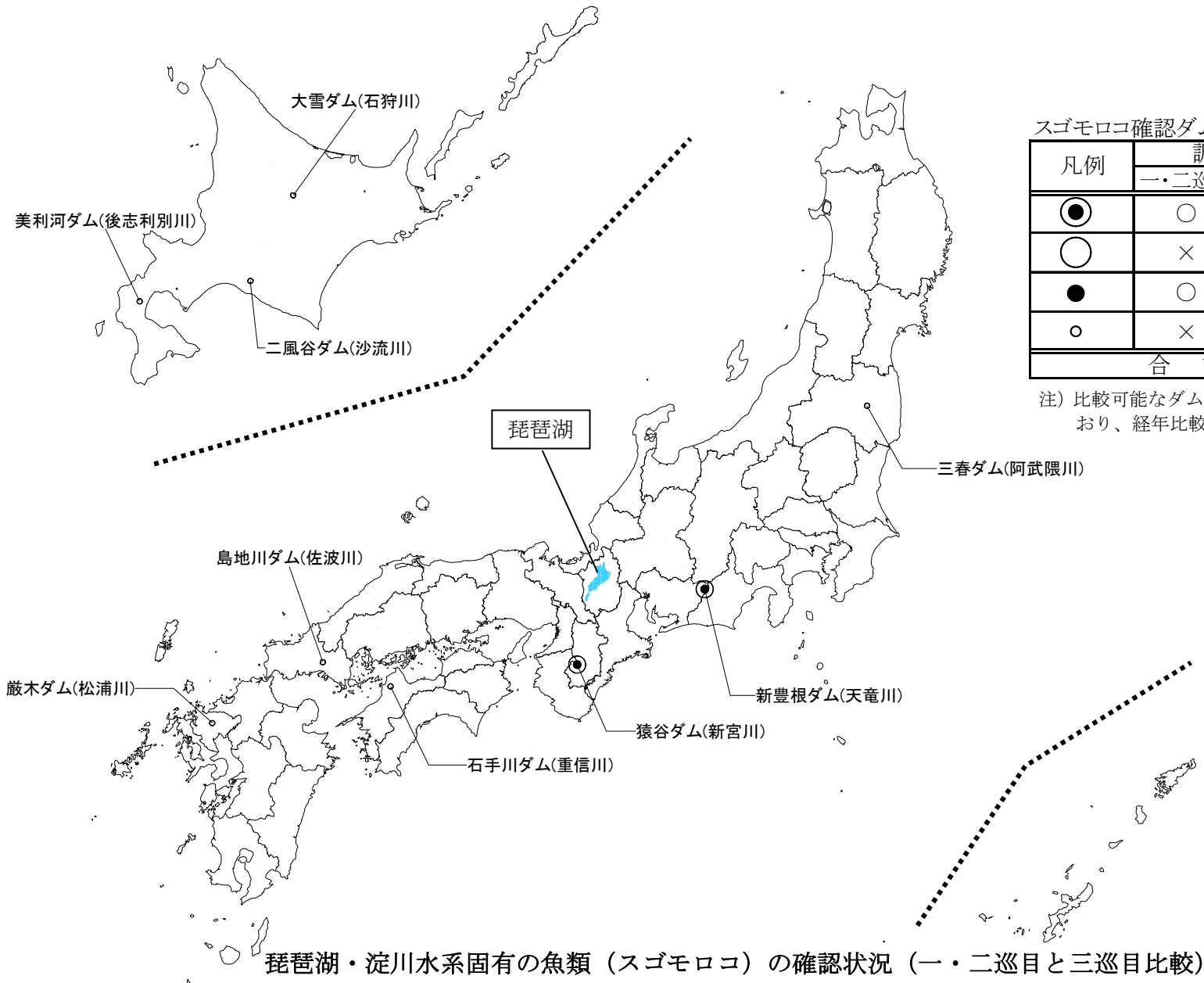
凡例) ○：確認、×：未確認、－：調査を実施していない、\：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

琵琶湖産アユの放流実績

地方	ダム名	琵琶湖産アユの放流実績
北海道	大雪ダム	情報なし
	美利河ダム	情報なし
	二風谷ダム	なし
東北	三春ダム	アユではないが、琵琶湖産のコイ、ニジマス、ゲンゴロウブナなどを放流
関東	宮ヶ瀬ダム	海産・人口種苗のアユを放流しているが、琵琶湖産を含むか不明
中部	新豊根ダム	木曾川産、琵琶湖産のアユを放流。
近畿	猿谷ダム	奈良県の漁連から購入したアユを放流
中国	島地川ダム	アユを放流しているが詳細不明
四国	石手川ダム	アユを放流しているが詳細不明
九州	巖木ダム	アユを放流しているが詳細不明





スゴモロコ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	2
○	×	○	0
●	○	×	0
○	×	×	7
合計			9

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

琵琶湖・淀川水系固有の魚類（スゴモロコ）の確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

## 2 底生動物調査の概要

### 2. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数 [資料Ⅱ-2-1]

- ・平成 16 年度に実施された 16 ダムの現地調査によって、32 目 145 科 476 種の底生動物を確認しました。各ダムでの確認種数は、八田原ダムの 193 種、浅瀬石川ダムの 178 種、三春ダムの 160 種などです。
- ・調査区域の区分については、流水域の区分である流入河川および下流河川、止水域の区分であるダム湖内の 3 区分で整理しました。調査区域別の確認種数を見ると、ダム湖内の確認種数が流入河川や下流河川に比べて少ない傾向があります。
- ・また、流入河川と下流河川の確認種数と比べると、多くのダムで流入河川の方が下流河川より確認種数が多くなっています。

#### (2) 特定種（底生動物） [資料Ⅱ-2-2]

- ・特定種として、今回の調査では 5 種を確認しています。このうちダム湖内の区分で確認されたのは 3 種でした。
- ・今回発表対象の 16 ダムのうち、最も多く確認されたのは、レッドリストの準絶滅危惧種であるモノアラガイで、北海道の美利河ダム、東北の浅瀬石川ダム、三春ダム、関東の川俣ダム、中国の八田原ダムの 5 ダムで確認しています。

(注) 特定種について

底生動物においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境庁編（2000）「淡水産貝類・昆虫類・甲殻類等レッドリスト（レッドデータブックの基礎となる日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」掲載種

#### (3) 外来種（底生動物） [資料Ⅱ-2-3]

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の底生動物を掲げています。今回の調査では外来生物法で特定外来生物に指定されたカワヒバリガイを含む、5 種を確認しています。
- ・今回発表対象の 16 ダムのうち、最も多くのダムで確認された外来種は、サカマキガイ（8 ダムで確認）です。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21~22 ページに掲載した文献および I-23~24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。



底生動物確認種数一覧（平成16年度）＜2＞

門和名	綱・目	中部				近畿				中国				四国				九州				確認ダム数										
		新豊根ダム		猿谷ダム		一庫ダム		菅沢ダム		八田原ダム		石手川ダム		巖木ダム		流入河川	ダム湖内	下流河川	合計	流入河川	ダム湖内	下流河川	合計	流入河川	ダム湖内	下流河川	合計					
		流入河川	ダム湖内	下流河川	合計	流入河川	ダム湖内	下流河川	合計	流入河川	ダム湖内	下流河川	合計	流入河川	ダム湖内													下流河川	合計			
海綿動物門	普通海綿綱																									1	1					
へん(扁)形動物門	ウズムシ綱(渦虫綱)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2			
ひも(紐)形動物門	ハリヒモムシ綱(有針綱)											1		1	1											1	1	1				
	-											1		1	1	1	1	1								1	1	1				
線形動物門	-												1		1												1	1				
類線形動物門	ハリガネムシ綱																		1							1	1	1				
	-															1	1	1								1	1	1				
軟体動物門	マキガイ綱(腹足綱)	1		1	1			1		2	1	3	4	1	1	2	2	4	5	8	11	1	2	2	4	2	1	3	10	13	10	15
	ニマイガイ綱(二枚貝綱)		1		1				1		1	1	1	1	2	2	1	1	2			1	1	1	2	2	3	4	2	5		
環形動物門	ミズ綱(貧毛綱)	2	2	1	3	1	4	3	6	2	3	1	3	3	2	2	3	6	7	8	11	5	5	1	6	2	1	2	12	14	11	16
	ヒル綱	1	1		1	1		1	1	3		1	3	2		1	2	3	1	3	3	1		1	1	1	2	5	5	5	7	
節足動物門	クモ綱(蛛形綱)															1		1	1	1		1	1				1	1	1	1		
	甲殻綱	2	4	1	5	3	3	3	4	5	5	5	7	4	5	6	6	4	4	4	6	5	4	7	2	5	5	9	15	10	16	
	昆虫綱																	1		1	1							1	1	1	1	
	トビムシ目(粘管目)																															
	カゲロウ目(蜉蝣目)	29	3	26	34	32	16	23	35	20	3	5	21	28	8	23	31	35	13	31	38	36	1	23	39	25	6	26	64	40	53	68
	トンボ目(蜻蛉目)	8		11	12	3	4	2	6	7	1	2	9	8	4	7	10	6	4	4	9	8	4	3	8	10		10	23	19	18	33
	カワゲラ目(セキ翅目)	16	3	13	17	13	3	7	13	4		1	4	8	4	6	9	6	1	5	7	16	1	4	16	7	2	7	32	23	19	32
	カメムシ目(半翅目)	2		1	2	1		2	3		1		1	3	1		3	1	2		3	4	1		4	6	1	6	12	13	10	18
	アミメカゲロウ目(脈翅目)	1		3	3	1		1	1												1		1	1	3		3	5	3	4	5	
	トビケラ目(毛翅目)	24	2	18	29	18	5	18	25	10		5	11	26	3	14	30	21	4	18	25	20	4	12	26	20	1	20	67	45	49	82
	チョウ目(鱗翅目)													1		1	1			1	1	1						1	1	1	1	
	ハエ目(双翅目)	11	2	7	12	15	19	15	28	16	6	19	24	26	14	25	37	45	41	40	63	27	13	12	30	27	14	30	83	87	67	117
	コウチュウ目(鞘翅目)	13	2	8	15	12	4	6	14	3			3	10		6	12	7	1	9	11	5	3	2	10	7	3	8	36	22	30	52
	ハチ目(膜翅目)	1			1																							1				1
	<b>確認種数</b>	<b>112</b>	<b>21</b>	<b>91</b>	<b>137</b>	<b>101</b>	<b>60</b>	<b>82</b>	<b>138</b>	<b>74</b>	<b>20</b>	<b>44</b>	<b>92</b>	<b>124</b>	<b>44</b>	<b>96</b>	<b>152</b>	<b>144</b>	<b>87</b>	<b>137</b>	<b>193</b>	<b>134</b>	<b>39</b>	<b>67</b>	<b>157</b>	<b>113</b>	<b>37</b>	<b>125</b>	<b>368</b>	<b>310</b>	<b>295</b>	<b>476</b>

注1) スクリーニング委員会による指摘により「底生動物」に該当しない分類群については、カウントしていない。また、一部、スクリーニング委員による標本確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。  
 注2) 綱和名の「-」は、当該分類階級まで同定できなかったものを示す。  
 注3) 種数の合計に関しては、I-4頁種数の計数方法参照。







## 2. 2 ダム湖周辺環境の特徴

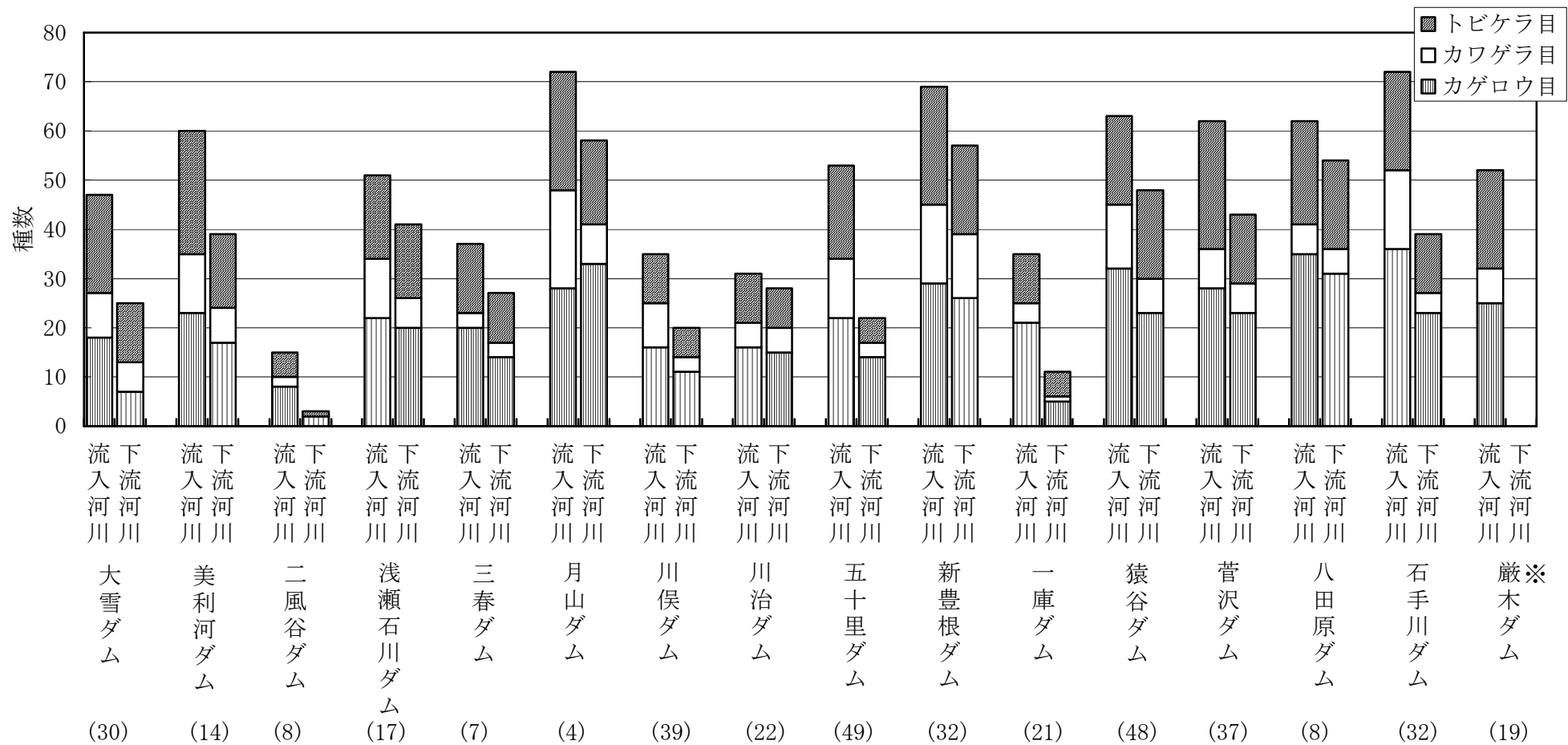
### (1) カゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目の確認状況

・多くのダム湖の流入河川において、水生昆虫類（カゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目）が豊富であることを確認 [資料Ⅱ-2-4]

カゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目は共に、河川を代表する水生昆虫類です。最近よく使われるEPT指数（E：カゲロウ、P：カワゲラ、T：トビケラの種類数）は、調査地の水質の健全度や瀬・淵などの河川環境の多様性を表す指標として用いられており、値が大きいほど、河川環境が良好であることを示しています。

平成16年度に調査を実施したダムのうち流入河川と下流河川の比較が可能な15ダムの全てで、下流河川と比べて流入河川のほうがカゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目が多く確認されていました。ただし、川治ダム、新豊根ダム、八田原ダムのように種数があまりかわらないダムもあります。

今後も引き続き、ダム上下流の河川環境の指標として、これらの水生昆虫類をモニタリングする必要があります。



流入河川・下流河川におけるカゲロウ目・カワゲラ目・トビケラ目の種数比較（平成 16 年度）

(注1) 各ダム名下の（数字）は、ダム竣工後の年数を表す。  
 (注2) ※のついたダムは今回、下流河川調査を行っていない。

2. 3 生態系の人為的な攪乱状況

(1) 国外外来種の確認状況

・ハブタエモノアラガイ、サカマキガイを2ダムで新たに確認 [資料Ⅱ-2-5]

ハブタエモノアラガイは、滋賀県（大津市のため池）で1980年に確認されたのが最初で、その後各地で見つかっています。モノアラガイによく似ていますが、少し細長い薄い殻を持ち、原産地の北アメリカから観賞用の水草に付着して侵入したと考えられています。

サカマキガイは、1935年～1940年頃の鑑賞淡水魚の流行時に、淡水魚や水生植物とともにヨーロッパなどから持ち込まれたと考えられています。その後は、たび重なる非意図的な導入（淡水魚や水生植物の輸入時に混入）も加わり、全国的に分布していったと考えられています。

今のところ、在来種の存続を脅かしたり、人間に対して健康上あるいは経済的な影響を与えたりした事例はありませんが、今後、外国から新たな吸虫・線虫類が入り込んだ場合、その宿主となる危険性があるため、十分注意が必要です。

平成16年度に確認した国外外来種のうち、ハブタエモノアラガイとサカマキガイについて確認状況をみると、ハブタエモノアラガイを2ダムで、サカマキガイを8ダムで確認しました。

また、16ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した15ダムについて確認状況をみると、ハブタエモノアラガイが東北の三春ダム、中国の八田原ダムで、サカマキガイが関東の川俣ダム、五十里ダムで、新たに確認されました。

ハブタエモノアラガイ・サカマキガイの確認状況

ハブタエモノアラガイ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	×	×
東北	浅瀬石川ダム	×	×	×
	三春ダム	／	×	○
	月山ダム	／	／	×
関東	川俣ダム	×	×	×
	川治ダム	×	×	×
	五十里ダム	×	×	×
中部	新豊根ダム	×	×	×
近畿	一庫ダム	×	×	×
	猿谷ダム	×	×	×
中国	菅沢ダム	×	×	×
	八田原ダム	／	×	○
四国	石手川ダム	×	×	×
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		0	0	2
うち比較可能なダム		0	0	2

サカマキガイ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	大雪ダム	×	×	×
	美利河ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	×	×
東北	浅瀬石川ダム	○	○	○
	三春ダム	／	○	○
	月山ダム	／	／	○
関東	川俣ダム	×	×	○
	川治ダム	×	○	○
	五十里ダム	×	×	○
中部	新豊根ダム	×	×	×
近畿	一庫ダム	×	○	×
	猿谷ダム	×	×	×
中国	菅沢ダム	×	×	×
	八田原ダム	／	○	○
四国	石手川ダム	×	○	○
九州	巖木ダム	×	×	×
確認ダム数		1	6	8
うち比較可能なダム		1	6	7

凡例) ○：確認、×：未確認、－：調査を実施していない、／：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ハブタエモノアラガイ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	0
○	×	○	2
●	○	×	0
○	×	×	13
合計			15

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

ハブタエモノアラガイの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)



サカマキガイ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	5
○	×	○	2
●	○	×	1
○	×	×	7
合計			15

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

サカマキガイの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

・特定外来生物であるカワヒバリガイを既知分布域外の新豊根ダム（天竜川水系）のダム湖内で新たに確認

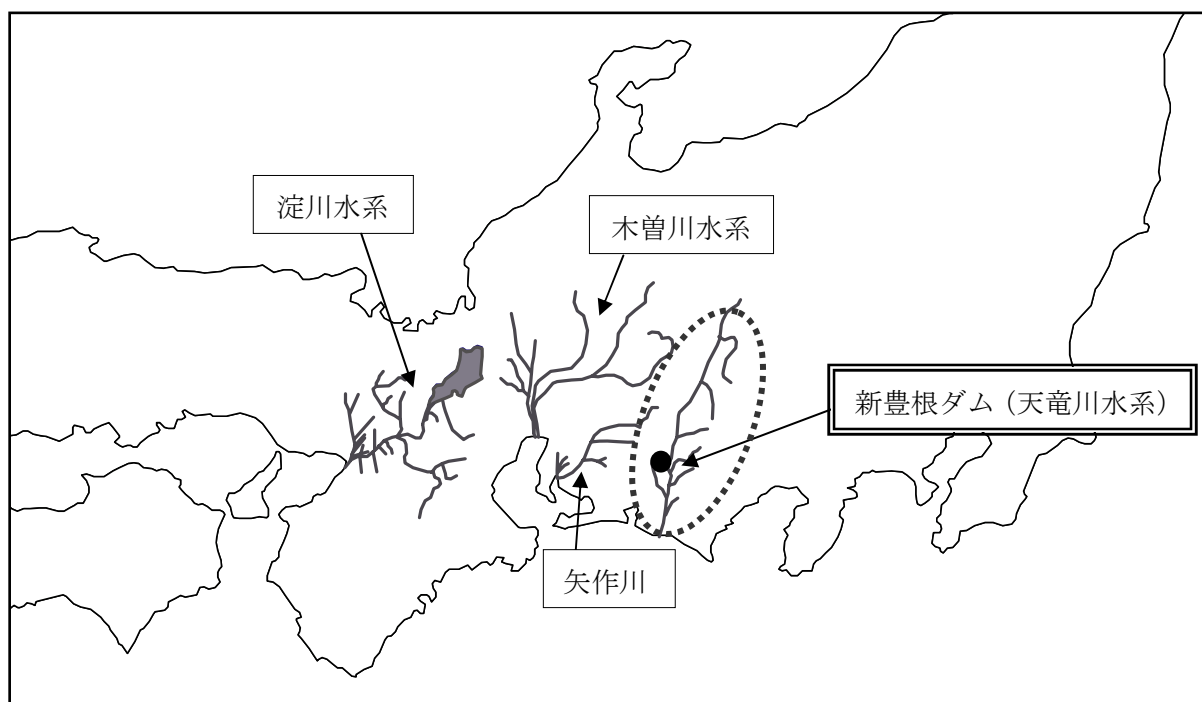
カワヒバリガイは中国中南部原産の二枚貝で、特定外来生物として指定されています。中国から輸入されたシジミ類に混入して侵入したと考えられており、1990年に揖斐川で生息が報告されたのが最初です。

カワヒバリガイは浮遊幼生期を持ち、稚貝に変態後は足糸を出して岩石など硬い場所に固着、密生する習性があるため、取水管の内部に大量に侵入・付着して閉塞させる等、水道施設や発電施設などに悪影響をもたらします。しかし、水中に生息し、水深10m付近まで生息できることから、定着後の生息抑制はきわめて困難で、可能なかぎり早期根絶への取り組みが重要です。

日本国内の分布域は木曾川水系と琵琶湖・淀川水系に限られていましたが、近年矢作川でも新たに生息が確認され、分布の拡大が懸念されています。天竜川水系での生息情報は、今回確認された新豊根ダムのダム湖内が初めてです。また、400mを超える標高の高い水域での確認も初めてです。

ダム下流河川にも分布が拡大している恐れがあり、今後のモニタリングが重要です。

カワヒバリガイの既知分布と新豊根ダム（天竜川水系）の位置



### 3 動植物プランクトン調査の概要

#### 3. 1 調査結果の概要

##### (1) 植物プランクトン確認種数 [資料Ⅱ-3-1]

- ・平成 16 年度（一部、平成 15 年度も含む）に実施された 25 ダムの現地調査によって、6 門 8 綱 20 目 53 科 345 種の植物プランクトンを確認しました。各ダムでは 43～134 種でした。
- ・確認種数の多かったダムは、鶴田ダムの 134 種、浅瀬石川ダムの 125 種などです。
- ・また、分類群別の出現種数を比較すると、各ダムとも珪藻綱、緑藻綱の出現種数が多いことがわかります。

##### (2) 動物プランクトン確認種数 [資料Ⅱ-3-1]

- ・平成 16 年度（一部、平成 15 年度も含む）に実施された 25 ダムの現地調査によって、8 門 15 綱 32 目 77 科 235 種の動物プランクトンを確認しました。各ダムでは 22～115 種でした。
- ・確認種数の多かったダムは、八田原ダムの 115 種、二風谷ダムの 87 種などです。

## 植物プランクトン確認種数一覧 (平成16年度) &lt;1&gt;

地方	ダム名	調査時期	藍色植物門	クリプト植物門	渦鞭毛植物門	不等毛植物門		ミドリムシ植物門	緑色植物門		合計		
			藍藻綱	クリプト藻綱	渦鞭毛藻綱	黄金色藻綱	珪藻綱	ミドリムシ藻綱	プラシノ藻綱	緑藻綱			
北海道	大雪ダム	春季		1	2	5	25				4	37	
		夏季		1	2	3	27	1			3	37	
		秋季		1	2	2	26	1			2	34	
		冬季	3	1	2	4	29	2			4	45	
		合計	3	1	2	6	35	2			7	56	
	美利河ダム	春季		1	2	5	21					7	36
		夏季		1	2	3	24	1			9	40	
		秋季	1	1	2	5	31				6	46	
		冬季	2	1	2	1	23	2			1	32	
		合計	2	1	2	6	34	2			13	60	
	二風谷ダム	春季	1	1	1	5	30	1			7	46	
		夏季	1	1	1	7	39	2			16	67	
秋季		2	1	1	4	39	2			7	56		
合計		2	1	1	9	44	2			17	76		
東北	浅瀬石川ダム	春季	2	2	2	4	56	1			16	83	
		夏季	4	2	2	5	48	1			20	82	
		秋季	1	1	2	2	39				8	53	
		冬季	3	1	1	1	48	1			6	61	
		合計	5	2	2	7	78	2			29	125	
	月山ダム	春季			2	4	29	1	1		2	39	
		夏季		1	4	3	21				6	35	
		秋季		1	3	4	37	1			14	60	
		合計		1	5	6	50	2	1		16	81	
	関東	川俣ダム	夏季	2	1		2	23				8	36
秋季			1	1	2	2	17				3	26	
合計			2	1	2	3	26				9	43	
川治ダム		夏季	1	1	2	2	17	1			9	33	
		秋季	2	1	2	1	16				10	32	
		合計	2	1	2	2	25	1			12	45	
五十里ダム		夏季	2		2	3	27	1			9	44	
		秋季	2	1	1		16				5	25	
		合計	2	1	2	3	28	1			12	49	
宮ヶ瀬ダム		春季	3	2	5	4	44				8	66	
	夏季	3	2	5	4	39	2			14	69		
	合計	3	2	5	4	50	2			18	84		
中部	丸山ダム	夏季	8	2	2	6	44	2		43	107		
		秋季	9	2	1	4	45	1		14	76		
		合計	12	2	2	6	55	2		44	123		
近畿	日吉ダム	春季		1	2	1	16				2	22	
		夏季	3	2	3		19				3	30	
		秋季		1	3	1	13				2	20	
		冬季		1		1	17				3	22	
		合計	3	2	4	2	26				10	47	
	布目ダム	春季	1	2	1		13				7	24	
		夏季	5	2	1		14	1			13	36	
		秋季		2			19	2			9	32	
		冬季	1	1	1	3	15				6	27	
		合計	6	2	3	3	28	2			21	65	
	比奈知ダム	春季		2		3	20	1			5	31	
		夏季		2	2		15	1			7	27	
		秋季		2		1	16				4	23	
		冬季		1		2	12				5	20	
		合計		2	2	4	30	1			12	51	
	高山ダム	春季	2	2	3	2	17	1			9	36	
		夏季	4	1	2	1	14				10	32	
		秋季	1	2	1	1	19	1			6	31	
		冬季	1	1	1	2	15				5	25	
		合計	7	2	3	3	29	1			18	63	
青蓮寺ダム	春季	1	2	3	4	24				6	40		
	夏季	1	2	2	1	18				6	30		
	秋季		2			15				7	24		
	冬季		1		3	14				7	25		
	合計	2	2	3	6	28				16	57		



## 植物プランクトン確認種数一覧(平成16年度) &lt;2&gt;

地方	ダム名	調査 時期	藍色 植物門	クリプト 植物門	渦鞭毛 植物門	不等毛植物門		ミドリムシ 植物門	緑色植物門		合計
			藍藻綱	クリプト 藻綱	渦鞭毛 藻綱	黄金色 藻綱	珪藻綱	ミドリムシ 藻綱	ブラシノ 藻綱	緑藻綱	
近畿	室生ダム	春季	2	2	1	2	21			9	37
		夏季	5	1	2		13	1		9	31
		秋季		2	1	2	19	1		6	31
		冬季		1	1	4	15			10	31
		合計	6	2	3	4	31	1		21	68
	一庫ダム	春季	2	2	1	1	24			9	39
		夏季	4	1	2		19			9	35
		秋季		2	1	1	20			8	32
		冬季	1	1	1	4	20			14	41
		合計	6	2	3	4	32			25	72
	猿谷ダム	春季			2		28	1		2	33
		夏季			1		17			5	23
		秋季					22			3	25
		冬季					21			2	23
		合計			2		35	1		7	45
中国	菅沢ダム	春季		2	1	2	32	1		3	41
		夏季	2	2	2		30	1		8	45
		秋季	2	2	4	1	27	2		8	46
		冬季	1	2	1		30			5	39
		合計	3	2	4	3	46	2		14	74
	八田原ダム	春季	2	1	4	2	32	3		20	64
		夏季	7	1	3	4	35	3		29	82
		秋季	6	1	3	2	36	3		31	82
		冬季	3	1	2	2	34	1		22	65
		合計	7	1	4	4	38	3		35	92
四国	池田ダム	春季		1	1	3	45	1		10	61
		夏季	3	1	2	1	43			10	60
		秋季	2	1	2		37			6	48
		冬季	3	1	1	4	40			3	52
		合計	4	1	2	5	50	1		15	78
	早明浦ダム	春季	2	1	1	4	44	2		5	59
		夏季	1	1	1	1	33			6	43
		秋季		1	2	2	32			9	46
		冬季	1	1	1		41			2	46
		合計	3	1	2	4	57	2		12	81
	富郷ダム	春季	5	1	2	3	30	2		6	49
		夏季	1	1	2	2	12	1		7	26
		秋季	2	1	1	2	18			5	29
		冬季		1	2	2	24			7	36
		合計	6	1	4	4	35	2		13	65
	新宮ダム	春季	3	1	1	4	41	1		17	68
		夏季	2	1	1		18	1		4	27
		秋季	1	1	1		16			4	23
冬季		1	1	2	1	24			8	37	
合計		4	1	2	4	45	1		23	80	
九州	鶴田ダム	春季	1	2	2	5	42	2		28	82
		夏季	7	2	3	1	46	3		41	103
		秋季	7	2	3	2	43	1	1	21	80
		冬季	2	2	3	2	43	1		15	68
		合計	9	2	3	5	65	3	1	46	134
合計	春季	7	3	9	13	131	6	1	61	231	
	夏季	23	3	12	14	129	4		89	274	
	秋季	17	3	10	13	122	3	1	72	241	
	冬季	8	2	5	10	104	2		47	178	
	合計	25	3	12	17	168	7	2	111	345	

注1) 表中の種数は、プランクトン調査により確認された種を全て計数しており、本来浮遊生活者でない種も一部含まれている。

注2) 一部、スクリーニング委員による確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。

## 動物プランクトン確認種数一覧(平成16年度) &lt;1&gt;

地方	ダム名	調査時期	肉質鞭毛虫門			繊毛虫門				輪形動物門		腹毛動物	線形動物門		環形動物	緩歩動物門		節足動物門		合計			
			葉状根足虫綱	糸状根足虫綱	真正太陽虫綱	キネトブラグミノフォーラ綱	少膜綱	多膜綱	-	単生殖果綱	ヒルガタワムシ綱	-	腹毛綱	双器綱	-	ミズ綱(貧毛綱)	真クマムシ綱	-	クモ綱(蛛形綱)		甲殻綱	昆虫綱	
北海道	大雪ダム	春季	4	3	1	3	2	4	1	8	1			1	1					4	33		
		夏季	4	3	1	1	2	2	1	13	1			1	1					6	35		
		秋季	4	3	1	2	3	3	1	16	1	1		1	1					5	40		
		冬季	2	2	1	1	2	3	1	13	1			1	1	1				5	33		
	合計	4	3	1	4	3	5	1	21	1	1		1	1	1				7	52			
	美利河ダム	春季	5	3	1	3	2	4	1	22	1	1		1	1					8	51		
		夏季	5	2	1		1	4	1	12	1	1		1	1					6	34		
		秋季	3	3	1	2	2	4	1	12	1	1		1	1					7	36		
		冬季	2	1	1		2	4	1	9		1		1	1					6	26		
	合計	6	3	1	4	3	5	1	25	1	1		1	1					9	59			
	二風谷ダム	春季	2	1			2	1		16	1									12	35		
		夏季	3	1		4	2	3		37	1									19	70		
秋季		4	2		2	2		1	33	1									16	60			
合計		5	2		5	3	3	1	44	1									24	87			
東北	浅瀬石川ダム	春季	5	3	1	5	2	3	1	15	1	1	1	1	1			1	5	2	46		
		夏季	4	3	1	7	3	3	1	20	1			1	1			1	5	4	55		
		秋季	3	2		5	3	3	1	15	1	1		1	1					4	37		
		冬季	4	3	1	5	1	3	1	17	1			1	1			1	2	2	42		
	合計	6	3	1	7	3	3	1	26	1	1	1	1	1	1		1	1	7	4	66		
	月山ダム	春季								6										2	8		
		夏季				1	1			8										5	15		
		秋季				1				8										7	16		
		合計				1	1			12										8	22		
	関東	川俣ダム	夏季	2	1	1	1	1		1	3					1				1	5	2	18
			秋季	1	3	1	1			1	6	1				1		1		1	6	1	24
			合計	2	3	1	1	1	1	1	8	1				1		1		1	8	2	31
川治ダム		夏季	1	2	1			1	1	7					1					3	2	18	
		秋季	1	2	1	1			1	7					1					4		17	
		合計	1	2	1	1			1	8					1					5	2	22	
五十里ダム		夏季	2	2	1	1	1	1	1	7					1	1			1	7	2	24	
		秋季	2	2	1	1	1	1	1	8	1		1		1	1				5	1	25	
		合計	3	2	1	1	2	1	1	11	1		1		1	1			1	7	2	35	
宮ヶ瀬ダム		春季	3		1	1		3	1	18					1	1				1	9	4	42
		夏季	3		1	1	1	3	1	19					1	1				12	2	42	
		合計	3		1	1	1	3	1	23					1	1				1	12	4	51
中部	丸山ダム	夏季	6	3	1	2	2	4	1	27	1		1		1	1			1	6	1	57	
		秋季	4	3	1	3	2	3	1	12	1		1		1	1			1	4	2	38	
		合計	6	3	1	3	2	4	1	27	1		1		1	1			1	7	2	60	
	日吉ダム	春季	3		1	2	1	2		16	1										6	32	
		夏季	3		1	2	2	2		18	1										8	37	
		秋季	4			2	2	3		7										3		21	
		冬季	1			1	1	2		10	1										3	19	
		合計	6		1	4	4	3		29	1									1	10	58	
	布目ダム	春季	4			1	2	3		17	1										5	33	
		夏季	3			1	3	4	3	17	1										7	39	
		秋季	3	1	1	2				22	2										8	39	
		冬季	1			1	1	2		9											4	18	
合計		5	1	1	4	4	3		33	2										9	62		
比奈知ダム	春季	3			2	2	3		19	1										7	37		
	夏季	1			3	1	4		12	1										5	27		
	秋季	1				2	2		10	2										6	23		
	冬季					2	2		7	1										7	17		
	合計	3			3	3	5		27	3										12	56		
高山ダム	春季	2			2	3	3		15	1										5	31		
	夏季	1		1	1	3	2		16											9	33		
	秋季	1				2	3		16	2										7	31		
	冬季								7											7	14		
	合計	3		1	3	3	3		27	2										13	55		
青蓮寺ダム	春季	3			4	1	4		15	1										8	36		
	夏季	2	1	1	2	4	3		14	1										6	34		
	秋季	1					2		13											6	22		
	冬季					1	2		7											6	16		
	合計	3	1	1	4	5	4		25	2										13	58		
室生ダム	春季	3		1	2	2	3		20	1										6	38		
	夏季	3			2	3	4		18											6	36		
	秋季	3			1	1	2		18	2										9	36		
	冬季					1	2		14											7	24		
	合計	4		1	4	3	5		38	2										11	68		
一庫ダム	春季	3	1	1	3	2	2		21	1										7	41		
	夏季	3			2	2	3		24	2										8	44		
	秋季	2					2		22	2										11	39		
	冬季	1					2		10											11	24		
	合計	4	1	1	3	3	3		35	2										16	68		
猿谷ダム	春季	3			1	1	3	1	7	1										4	20		
	夏季	1			1		2		7	1										5	17		
	秋季	2			1	1	1		2	1										2	10		
	冬季	3			1	1	4	1	3	1										6	19		
	合計	3			3	1	4	1	11	1										9	32		

注1) 表中の種数は、プランクトン調査により確認された種を全て計数しており、本来浮遊生活者でない種も一部含まれている。  
注2) 一部、スクリーニング委員による確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。  
注3) 表中の「-」は網まで同定できなかったものを示す。

## 動物プランクトン確認種数一覧(平成16年度) &lt;2&gt;

地方	ダム名	調査時期	肉質鞭毛虫門			繊毛虫門			輪形動物門			腹毛動物	線形動物門		環形動物	緩歩動物門		節足動物門		合計
			葉状根足虫綱	糸状根足虫綱	真正太陽虫綱	キネトブラグミノフォーラ綱	少膜綱	多膜綱	-	単生殖巣綱	ヒルガタワムシ綱	-	腹毛綱	双器綱	-	ミズ綱(貧毛綱)	真クマムシ綱	-	クモ綱(蛛形綱)	
中国	菅沢ダム	春季		1			1	1	1	8		1			1				3	15
		夏季	2	1			1	1	1	16				1					4	26
		秋季	2	1			1	1	1	16				1					5	27
		冬季	2				1	1	1	14					1				4	23
		合計	2	1			2	1	1	22		1		1					6	35
	八田原ダム	春季	8	4	1	10	5	8		26	1		1		1	1		1	5	77
		夏季	6	5	1	8	6	7		33	1	1	1						8	81
		秋季	5	3	1	9	6	7		28	1		1		1			1	8	74
		冬季	5	3	1	8	6	7		20	2		1		1				8	65
		合計	9	5	1	12	9	12		40	3	1	1		2	1		1	11	115
四国	池田ダム	春季	2	3		2			3					1	1				3	26
		夏季	3	2		1	1	3	1	13	1				1				3	28
		秋季	3	2		1		3	1	11					1	1			4	28
		冬季	2	1		1	1	3	1	9					1	1			4	24
		合計	3	3		3	1	4	1	19	1				1	1		1	6	44
	早明浦ダム	春季	2	2		1	1	3		10					1	1			4	26
		夏季	3	2			1	3	1	10	1				1	1			4	27
		秋季	2	1		1	1	3	1	18					1				4	31
		冬季	4	2	1	2	1	3	1	16	1				1	1	1		9	44
		合計	4	2	1	3	1	4	1	19	1				1	1	1		12	52
富郷ダム	春季	2	1	2	5	2	5	1	13					1	1			4	38	
	夏季	4		1	3	1	5	1	10	1				1	1			5	33	
	秋季	4		1	3	1	1		5					1	1			8	22	
	冬季			1	2	1	4	1	6	1				1	1			7	25	
	合計	5	1	2	7	2	8	1	20	1				1	1			11	61	
新宮ダム	春季	3		1	5	3	4	1	17	1				1	1			12	49	
	夏季	1			4	2	2	1	8					1				7	26	
	秋季	3				1	2	1	9	1				1				6	24	
	冬季	1			3	2	3	1	10	1				1	1			5	28	
	合計	3		1	6	3	5	1	19	1				1	1			17	58	
九州	鶴田ダム	春季		3	1	5	1	3	1	21	1			1	1				8	45
		夏季	3	2	1	3	4	2	1	18	1				1				7	42
		秋季	3	3	1	3	4	3	1	19	1				1	1			11	51
		冬季	5	3	1	4	2	3	1	20	1				1				10	50
		合計	7	3	1	5	4	3	1	32	1				1	1			14	74
合計	春季	12	6	3	18	6	13	1	64	3	1	1	1	1	1	1	1	1	30	168
	夏季	12	7	2	14	10	13	1	71	2	1	1	1	1	1		1	1	38	182
	秋季	13	6	2	17	10	10	1	74	3	1	1	1	1	1	1	1	36	180	
	冬季	10	5	2	16	7	11	1	49	2	1		1	1	1	1	1	26	136	
	合計	16	8	3	22	13	18	1	89	3	1	1	1	1	2	1	1	1	48	235

注1) 表中の種数は、プランクトン調査により確認された種を全て計数しており、本来浮遊生活者でない種も一部含まれている。

注2) 一部、スクリーニング委員による確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。

注3) 表中の「-」は網まで同定できなかったものを示す。

### 3. 2 ダム湖周辺環境の特徴

#### (1) ダム湖内における優占種 [資料Ⅱ-3-2]

動植物プランクトンの出現状況は、水質との関連性が強いことから、ダム湖内（表層：0～1m）における動植物プランクトンの優占種を季節別に整理し、プランクトン型を検討しました。

植物プランクトン群集型でみると、富栄養型を示すことが多かったのは二風谷ダム、高山ダム、青蓮寺ダム、一庫ダム、猿谷ダム、富郷ダム、新宮ダム、鶴田ダムでした。また、動物プランクトン群集型でみると、浅瀬石川ダム、日吉ダム、布目ダム、猿谷ダム、八田原ダムが中栄養～富栄養型を示しています。

### プランクトン型による区分

型	植物プランクトン群集型	型	動物プランクトン群集型
第Ⅰ型 貧栄養型藍藻類群集	<i>Chroococcus</i> 属、 <i>Oscillatoria</i> 属の中でたゞは <i>O. formosa</i> , <i>O. agardhii</i> , <i>O. amphibia</i> 等、或いは <i>Lyngbya martensiana</i> 等を主体とした群集。 <i>Aphanocapsa</i> 属にもこの群集にあたる種がある。 高山湖沼に比較的多い。	第Ⅰ型 貧栄養型鞭毛虫類群集 ( <i>Dinobryon</i> 型)	<i>Dinobryon divergens</i> , <i>D. bavaricum</i> , <i>D. sertularia</i> , <i>Bodo</i> 属等に代表される群集。水野、田中(1983)が植物プランクトン群集の第Ⅱ型、貧栄養性鞭毛藻類群集とした <i>Peridinium</i> 属の一部もこれに含まれる。田中(1980)によれば、我が国の高山湖は大部分がこの群集に属する。
第Ⅱ型 貧栄養型ツヅミ藻類群集	<i>Desmidiium</i> 属、 <i>Xanthidium</i> 属、 <i>Euastrum</i> 属、 <i>Pleurotaenium</i> 属、 <i>Staurodesmus</i> 属、 <i>Micrasterias</i> 属、 <i>Staurastrum</i> 属、 <i>Gymnozygma</i> 属、 <i>Hyalotheca</i> 属等の接合藻類(ツヅミ藻類)から成る群集。 この群集は、高層湿原、腐植性の池沼、特に北海道の褐色水を湛えた湖沼にみられる。	第Ⅱ型 貧栄養型輪虫類群集	<i>Monostyla crenata</i> , <i>M. quadridentata</i> , <i>M. pygmae</i> , <i>Lepadella benjamini</i> , <i>Brachionus forficula</i> , <i>Kellicottia longispina</i> 等が優占する群集。
第Ⅲ型 貧栄養型緑藻類群集	<i>Meringosphaera</i> 属、 <i>Chlorallanthus</i> 属、 <i>Nannochloris</i> 属、 <i>Sphaerocystis schroeteri</i> , <i>Sphaerozoma excavatum</i> , <i>Pediastrum maraeosum</i> , <i>P. boryanum</i> , <i>Hormidium subtile</i> var. <i>plancticum</i> , <i>Microsphaera</i> 属、 <i>Microthamnion strictissimum</i> , <i>Mougeotia calcarea</i> , <i>Oedogonium</i> 属、 <i>Rhizoclonium</i> 属等が優占する群集。 腐植性水域、或いは強酸性の湖沼の中にもこのようなプランクトン群集が知られる。量的には著しく少ない場合もある。また、付着性種が一時的に浮遊したものも含まれている。	第Ⅲ型 貧栄養型鯉脚類群集 ( <i>Daphnia</i> 型)	<i>Holopedium gibberum</i> , <i>Daphnia longispina</i> , <i>D. rosea</i> , <i>Scapholeberis mucronata</i> , <i>Graptoleberis testudinaria</i> , <i>Bosmina coregoni</i> , <i>Chydorus sphaericus</i> 等が優占する群集。
第Ⅳ型 貧栄養型腐植性珪藻類群集	<i>Tabellaria fenestrata</i> , <i>T. fenestrata</i> var. <i>intermedia</i> , <i>T. flocculosa</i> , <i>Diatoma elongatum</i> , <i>Eunotia</i> 属、 <i>Frustulia rhomboides</i> , <i>F. vulgaris</i> , <i>Stauroneis</i> 属等が優占する。 <i>Tabellaria</i> 属及び <i>Diatoma</i> 属については、富栄養型の腐植性水域にも多産する場合があるが、群集を構成する他の緑藻類や <i>Microcystis</i> を始めとする藍藻類の出現種によって、富栄養型であるのかは区別できる。	第Ⅳ型 貧栄養型甲殻類混合型群集	第Ⅲ型と第Ⅴ型の混合型で、 <i>Daphnia longispina</i> と <i>Acanthodiaptomus pacificus</i> とが共存する例は、高山湖や亜高山湖を始めとして全国各地にみられ、 <i>Dinobryon</i> を伴う場合も少なくない(門田、1971、田中、1978、1979)。
第Ⅴ型 貧栄養型珪藻類群集	本群集を代表する種としては、 <i>Attheya Zachariasi</i> , <i>Rhizosolenia longiseta</i> , <i>Cyclotella comta</i> , <i>C. Kuetszingiana</i> , <i>C. ocellata</i> , <i>Melosira distans</i> , <i>M. islandica</i> , <i>Achnanthes</i> 属等がある。	第Ⅴ型 貧栄養型輪虫類群集	<i>Acanthodiaptomus pacificus</i> が代表的な種で、他に <i>Harpacticoida</i> が優勢な群集もある。面積的には小さな浅い水域である場合が多い。
第Ⅵ型 中栄養型珪藻類群集	<i>Melosira ambigua</i> , <i>M. italica</i> , <i>Asterionella formosa</i> , <i>A. gracillima</i> , <i>Fragilaria crotonensis</i> , <i>Synedrumpens</i> , <i>S. acus</i> , <i>S. ulna</i> , <i>Rhizosolenia eriensis</i> 等が優占する群集。 何れの種もその出現する湖沼型の範囲は広く、しかも大量に発生する場合も少なくないものである。	第Ⅵ型 中栄養型鞭毛虫類群集 ( <i>Ceratium</i> 型)	<i>Ceratium hirundinellum</i> , <i>Peridinium bipes</i> , <i>P. cinctum</i> 或いは <i>Tintinnopsis crenata</i> 等によって代表される群集。水野、田中(1983)の類型では、植物プランクトンの第Ⅴ型、中栄養性鞭毛藻類群集とされた群集。
第Ⅶ型 中・富栄養型珪藻類混合型群集	第Ⅵ型、中栄養型珪藻類群集及び第Ⅷ型、富栄養型珪藻類群集との混合型で、季節的に第Ⅵ型となったり、第Ⅷ型となったりするものも少なくない。	第Ⅶ型 中栄養型鯉脚類群集 ( <i>Bosmina</i> , <i>Bosminopsis</i> 型)	<i>Bosmina longirostris</i> , <i>Bosminopsis deitersi</i> , <i>Daphnia pulex</i> , <i>Sida crystallina</i> , <i>Simocephalus vetulus</i> , <i>Polyphemus pediculus</i> , <i>Diaphanosoma brachyurum</i> 等が優占する群集。
第Ⅷ型 富栄養型珪藻類群集	<i>Melosira granulata</i> , <i>M. japonica</i> , <i>Stephanodiscus Hantzschii</i> 等が優占種となるような群集。	第Ⅷ型 中栄養型甲殻類混合型群集	第Ⅶ型及び第Ⅷ型の混合型。
第Ⅸ型 富栄養型珪藻類、緑藻類混合型群集	第Ⅷ型と第Ⅹ型との混合型。	第Ⅸ型 中栄養型輪虫類群集	出現範囲がかなり広い種もあるが、 <i>Mesocyclops leuckarti</i> , <i>Thermocyclops taihokuensis</i> , <i>Eucyclops serrulatus</i> , <i>Sinodiaptomus sarsi</i> , <i>Eudiaptomus formosus</i> , <i>E. japonicus</i> 等が優占する群集。
第Ⅹ型 富栄養型緑藻類群集	<i>Pediastrum biwae</i> , <i>P. duplex</i> , <i>P. simplex</i> , <i>Scenedesmus acuminatus</i> , <i>S. quadricauda</i> , <i>Oocystis parva</i> , <i>Crucigenia quadrata</i> , <i>Ankistrodesmus falcatus</i> , <i>Actinastrum hantzschii</i> , <i>Staurastrum dorsidentiferum</i> var. <i>ornatum</i> , <i>Tetraedron minimum</i> , <i>T. stauroneideforme</i> , <i>Dictyosphaerium pulchellum</i> , <i>Micractinium pusillum</i> , <i>Mougeotia</i> 属、 <i>Spirogyra</i> 属等が優占する群集。 ある特定の卓越した種がなく、数種は混在して多産するような例も少なくない。また、腐植性の富栄養型のツヅミ藻類群集もこの群集の中に含まれるものである。	第Ⅹ型 中栄養型鯉脚類群集	<i>Brachionus diversicornis</i> , <i>Pompholyx complanata</i> , <i>Ploesoma truncatum</i> , <i>P. hudsoni</i> , <i>Platylas patulus</i> , <i>Trichocerca elongata</i> , <i>T. longiseta</i> , <i>T. capucina</i> , <i>Conochilus unicornis</i> , <i>Testudinella patina</i> , <i>Lepadella oblonga</i> , <i>Lecane ludwigii</i> , <i>L. luna</i> , 或いは広範囲種である <i>Keratella</i> 属、 <i>Asplanchna</i> 属、 <i>Polyarthra</i> 属等が代表する群集。
第ⅩⅠ型 富栄養型藍藻類群集	<i>Microcystis aeruginosa</i> , <i>Anabaena flos-aquae</i> , <i>Coelosphaerium kuetszingianum</i> , <i>Aphanizomenon flos-aquae</i> , <i>Phormidium mucicola</i> , <i>Merismopedia elegans</i> , <i>M. tenuissima</i> 等が優占する群集。 『水の華』或いは『植物混濁』を呈する代表的な藍藻類を含む。	第ⅩⅠ型 中栄養型輪虫類群集	<i>Euglena</i> 属、 <i>Monas</i> 類 ( <i>Chlamydomonas</i> 属、 <i>Haematococcus</i> 属等)、 <i>Lepocinclis</i> 属、 <i>Phacus</i> 属、 <i>Trachelomonas</i> 属、 <i>Pandorina morum</i> , <i>Eudorina elegans</i> , <i>Volvox aureus</i> 等が優占する群集。最近琵琶湖の淡水赤潮(水の華)を形成している <i>Urologeopsis americana</i> もこの群集に属す。 また、根足虫類の <i>Difflugia corona</i> , <i>D. acuminata</i> , <i>Arcella vulgaris</i> 等もこの群集と同程度に位置付けられる。
第ⅩⅡ型 富栄養型汚濁性藍藻類群集	大部分の植物プランクトンにとって、生育するのに適当ではない環境の水域であり、 <i>Oscillatoria tenuis</i> を始めとする <i>Oscillatoria</i> 属、 <i>Phormidium</i> 属、 <i>Lyngbya linnetica</i> を始めとする <i>Lyngbya</i> 属、 <i>Dactylococcopsis acicularis</i> 等が代表する、付着性の珪藻類の <i>Nitzschia</i> 属や広範囲な環境に出現する <i>Melosira varians</i> 等が混じって認められる例も多い。	第ⅩⅡ型 富栄養型鯉脚類群集 ( <i>Moina</i> 型)	<i>Daphnia similis</i> , <i>D. pulex</i> , <i>Bosmina fatalis</i> , <i>Moina macrocopa</i> , <i>M. dubia</i> , <i>Diaphanosoma brachyurum</i> var. <i>frontosa</i> 等が優占する群集。 浅い池沼に多い。
第ⅩⅢ型 バクテリア群集	植物プランクトンは、ほとんど認められず <i>Lamprocystis</i> を始め、バクテリアを主体とした汚濁域の群集。 これらの群集構造の判断は、優占種及び亜優占種を用いて行うが、優占種のみが例外的で、他の出現種の大部分が同じ傾向を示すのであれば考慮すべきでだろう。また、これらの中に示されていない種であっても、採集環境についての多くの経験的な情報が知られており、何れかの群集に区分することは可能であろうと思われる。	第ⅩⅢ型 富栄養型鯉脚類群集 ( <i>Moina</i> 型)	第ⅩⅢ型と第ⅩⅤ型との混合型
		第ⅩⅣ型 富栄養型甲殻類、輪虫類混合型群集	第ⅩⅣ型と第ⅩⅤ型との混合型
		第ⅩⅤ型 富栄養型輪虫類群集 ( <i>Brachionus</i> 型)	<i>Brachionus calyciflorus</i> , <i>B. quadridentatus</i> , <i>B. angularis</i> , <i>B. angularis</i> var. <i>bidens</i> , <i>B. budapestinensis</i> , <i>B. leydigii</i> , <i>B. falcatus</i> , <i>Filinia longiseta</i> , <i>Trichocerca cylindrica</i> 等の優占する群集。
		第ⅩⅥ型 富栄養型 (汚濁型) 輪虫類群集 ( <i>Philodina</i> 型)	<i>Philodina</i> 属、 <i>Habrotrocha</i> 属、 <i>Rotaria</i> 属、 <i>Epiphanes</i> 属、 <i>Proales</i> 属、 <i>Cephalodella</i> 属等の付着性、或いは匍匐性の輪虫類を主体とした群集。 人為的な汚濁の影響を受けない自然状態下の湖沼では、このような群集は極めて稀である。
		第ⅩⅦ型 富栄養型 (汚濁型) 鞭毛虫類群集	<i>Vorticella</i> 属、 <i>Epistylis</i> 属、 <i>Paramecium</i> 属、 <i>Colpoda</i> 属、 <i>Chilodonella</i> 属、 <i>Loxophyllum</i> 属、 <i>Stentor</i> 属、 <i>Glaucocoma</i> 属、 <i>Colpidium</i> 属等を主体とした群集。 汚濁性が高い群集であるが、人工湖が出来て湛水された直後にこの様な群集を形成することが知られている(田中、1976)。
		第ⅩⅧ型 バクテリア群集	植物プランクトンの第ⅩⅢ型、バクテリア群集に相当するもので、鞭毛虫類や鞭毛虫類も極めて少ない状態で、汚濁が著しい水域の群集。 これらの群集の区分については、優占種及び亜優占種によって判断するが、優占種といえる程卓越した種がない場合などには、出現上位数種を基にして判断するほうがより適確であると考えられる。

出典：田中正明、日本湖沼誌(1992)

## ダム湖内の植物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;1&gt;

(単位:細胞数/L)

地方	ダム名	季節	優占種			総細胞数	プランクトン型	
			第一優占種	第二優占種	第三優占種			
北海道	大雪ダム	春季	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 2.5 × 10 <sup>6</sup> (47.0%)	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 8.3 × 10 <sup>5</sup> (15.3%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 7.2 × 10 <sup>5</sup> (13.3%)	5.4 × 10 <sup>6</sup>	型不明	
		夏季	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 3.4 × 10 <sup>6</sup> (45.5%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 3.1 × 10 <sup>6</sup> (41.9%)	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 8.1 × 10 <sup>5</sup> (10.8%)	7.4 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)	
		秋季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 8.5 × 10 <sup>5</sup> (46.4%)	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 5.5 × 10 <sup>5</sup> (30.0%)	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.8 × 10 <sup>5</sup> (15.1%)	1.8 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)	
		冬季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 2 × 10 <sup>5</sup> (46.1%)	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 7.5 × 10 <sup>4</sup> (17.7%)	クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae (緑藻綱) 2.6 × 10 <sup>4</sup> (6.2%)	4.3 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
	美利河ダム	春季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 1.3 × 10 <sup>6</sup> (29.5%)	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 8.5 × 10 <sup>5</sup> (19.6%)	イタケイソウ属の一種 <i>Diatoma tenue</i> (珪藻綱) 7.9 × 10 <sup>5</sup> (18.2%)	4.4 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)	
		夏季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.3 × 10 <sup>5</sup> (30.6%)	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 4.4 × 10 <sup>5</sup> (25.6%)	ナガイトマキケイソウ <i>Acanthoceros zachariasii</i> (珪藻綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (17.0%)	1.7 × 10 <sup>6</sup>	第V型 (植)	
		秋季	クリプト藻綱 Cryptophyceae (クリプト藻綱) 1.4 × 10 <sup>6</sup> (72.0%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 2.6 × 10 <sup>5</sup> (13.2%)	ギムノディニウム属の数種 <i>Gymnodinium</i> spp. (渦鞭毛藻綱) 5.6 × 10 <sup>4</sup> (2.9%)	2.0 × 10 <sup>6</sup>	型不明	
		冬季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 9.0 × 10 <sup>4</sup> (54.1%)	クノジケイソウ属の一種 <i>Hannaea arcus</i> (珪藻綱) 3.9 × 10 <sup>4</sup> (23.7%)	ツメケイソウ属の数種 <i>Achnanthes</i> spp. (珪藻綱) 8.0 × 10 <sup>3</sup> (4.8%)	1.7 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)	
	二風谷ダム	春季	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (30.9%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium penardii</i> (渦鞭毛藻綱) 2 × 10 <sup>5</sup> (25.4%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.9 × 10 <sup>4</sup> (7.4%)	7.9 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
		夏季	ミドリムシ属の一種 <i>Euglena polymorpha</i> (ミドリムシ藻綱) 9.2 × 10 <sup>6</sup> (81.0%)	オクロモナス属の数種 <i>Ochromonas</i> spp. (黄金色藻綱) 9.2 × 10 <sup>5</sup> (8.1%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (2.8%)	1.1 × 10 <sup>7</sup>	型不明	
		秋季	ディズモルフコカス属の一種 <i>Dysmorphococcus</i> sp. (緑藻綱) 6.7 × 10 <sup>4</sup> (16.6%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.4 × 10 <sup>4</sup> (13.3%)	マロモナス属の数種 <i>Mallomonas</i> spp. (黄金色藻綱) 4.1 × 10 <sup>4</sup> (10.2%)	4.0 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
		冬季	未調査			—	—	
	東北	浅瀬石川ダム	春季	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.6 × 10 <sup>6</sup> (58.7%)	イタケイソウ属の一種 <i>Diatoma elongatum</i> (珪藻綱) 7.4 × 10 <sup>5</sup> (16.8%)	カサケイソウ属の一種 <i>Stephanodiscus hantzschii</i> (珪藻綱) 5.2 × 10 <sup>5</sup> (11.8%)	4.4 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)
			夏季	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 8.3 × 10 <sup>6</sup> (93.1%)	ユレモ属の数種 <i>Oscillatoria</i> spp. (藍藻綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (2.3%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.5 × 10 <sup>4</sup> (0.6%)	8.9 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)
			秋季	スケレトネマ属の一種 <i>Skeletonema potamos</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (35.2%)	ホンガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 5.0 × 10 <sup>4</sup> (16.0%)	カサケイソウ属の一種 <i>Stephanodiscus hantzschii</i> (珪藻綱) 4.3 × 10 <sup>4</sup> (14.0%)	3.1 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (植)
			冬季	ユレモ属の数種 <i>Oscillatoria</i> spp. (藍藻綱) 1.7 × 10 <sup>5</sup> (19.8%)	フォルミディウム属の数種 <i>Phormidium</i> spp. (藍藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (16.5%)	ササノハケイソウ属の一種 <i>Nitzschia palea</i> (珪藻綱) 9.1 × 10 <sup>4</sup> (10.4%)	8.7 × 10 <sup>5</sup>	第XII型 (植)
月山ダム		春季	イタケイソウ属の一種 <i>Diatoma tenue</i> (珪藻綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (50.6%)	ホソヒダサヤツナギ <i>Dinobryon bavarium</i> (黄金色藻綱) 7.1 × 10 <sup>4</sup> (14.8%)	ツツサヤツナギ <i>Dinobryon cylindricum</i> (黄金色藻綱) 6.3 × 10 <sup>4</sup> (13.2%)	4.8 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
		夏季	ワオロスズンシ属の一種 <i>Woloszynskia</i> sp. (渦鞭毛藻綱) 2.5 × 10 <sup>6</sup> (66.2%)	アキストロデスマス属の一種 <i>Ankistrodesmus falcatus</i> var. <i>spiriliformis</i> (緑藻綱) 7.2 × 10 <sup>5</sup> (18.8%)	マロモナス属の数種 <i>Mallomonas</i> spp. (黄金色藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (4.9%)	3.8 × 10 <sup>6</sup>	第X型 (植)	
		秋季	プラントコカス属の一種 <i>Planktocooccus sphaerocystiformis</i> (緑藻綱) 3.8 × 10 <sup>5</sup> (51.9%)	ヒダサヤツナギ <i>Dinobryon divergens</i> (黄金色藻綱) 8.2 × 10 <sup>4</sup> (11.1%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella stelligera</i> (珪藻綱) 6.6 × 10 <sup>4</sup> (8.9%)	7.4 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
		冬季	未調査			—	—	

## ダム湖内の植物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;2&gt;

(単位:細胞数/L)

地方	ダム名	季節	優占種			総細胞数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
関東	川俣ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	クロレラ属の数種 <i>Chlorella</i> spp. (緑藻綱) 1.3 × 10 <sup>5</sup> (80.6%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 1.6 × 10 <sup>4</sup> (9.4%)	オオキスティス属の数種 <i>Oocystis</i> spp. (緑藻綱) 1.2 × 10 <sup>4</sup> (7.2%)	1.7 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (植)
		秋季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 3.2 × 10 <sup>4</sup> (31.4%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella stelligera</i> (珪藻綱) 2.6 × 10 <sup>4</sup> (25.6%)	モノラフィディウム属の一種 <i>Monoraphidium minutum</i> (緑藻綱) 1.9 × 10 <sup>4</sup> (18.6%)	1.0 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		冬季	未調査			—	—
	川治ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 7.4 × 10 <sup>4</sup> (34.1%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 7.1 × 10 <sup>4</sup> (32.4%)	テトラエドロン属の一種 <i>Tetraedron minimum</i> (緑藻綱) 2.4 × 10 <sup>4</sup> (11.0%)	2.2 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)
		秋季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (38.6%)	ウロコケイソウ <i>Rhizosolenia eriensis</i> (珪藻綱) 5.3 × 10 <sup>4</sup> (17.0%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 4.2 × 10 <sup>4</sup> (13.5%)	3.1 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (植)
		冬季	未調査			—	—
	五十里ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 6.1 × 10 <sup>4</sup> (26.4%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 4.9 × 10 <sup>4</sup> (21.2%)	カタマリヒゲマワリ <i>Pandorina morum</i> (緑藻綱) 4.4 × 10 <sup>4</sup> (19.2%)	2.3 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)
		秋季	ユレモ属の数種 <i>Oscillatoria</i> spp. (藍藻綱) 1.4 × 10 <sup>4</sup> (44.4%)	フォルミディウム属の数種 <i>Phormidium</i> spp. (藍藻綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (33.3%)	ツメケイソウ属の一種 <i>Achnanthes lanceolata</i> (珪藻綱) 2.4 × 10 <sup>3</sup> (7.4%)	3.2 × 10 <sup>4</sup>	第XII型 (植)
		冬季	未調査			—	—
	宮ヶ瀬ダム	春季	ウログレナ属の一種 <i>Uroglena americana</i> (黄金色藻綱) 8.8 × 10 <sup>6</sup> (65.4%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (14.4%)	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 1.2 × 10 <sup>6</sup> (8.9%)	1.3 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		夏季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (16.3%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella stelligera</i> (珪藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (16.3%)	プラントスファエリア属の一種 <i>Planktosphaeria gelatinosa</i> (緑藻綱) 1.3 × 10 <sup>5</sup> (11.4%)	1.2 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		秋季	未調査			—	—
		冬季	未調査			—	—
中部	丸山ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	ウログレナ属の一種 <i>Uroglena</i> sp. (黄金色藻綱) 6.4 × 10 <sup>5</sup> (10.8%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.9 × 10 <sup>5</sup> (10.0%)	ディクティオスファエリウム属の数種 <i>Dictyosphaerium</i> spp. (緑藻綱) 4.5 × 10 <sup>5</sup> (7.6%)	5.9 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		秋季	ユレモ属の数種 <i>Oscillatoria</i> spp. (藍藻綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (62.9%)	スキトネマ科 Scytonemataceae (藍藻綱) 5.4 × 10 <sup>5</sup> (17.5%)	フォルミディウム属の数種 <i>Phormidium</i> spp. (藍藻綱) 2.6 × 10 <sup>5</sup> (8.5%)	3.1 × 10 <sup>6</sup>	第XII型 (植)
		冬季	未調査			—	—
近畿	日吉ダム	春季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 2.2 × 10 <sup>7</sup> (94.7%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 8.8 × 10 <sup>5</sup> (3.8%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> f. <i>occutatum</i> (渦鞭毛藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (0.8%)	2.3 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (植)
		夏季	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (40.2%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 7.4 × 10 <sup>4</sup> (25.2%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 2.1 × 10 <sup>4</sup> (7.2%)	2.9 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		秋季	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 2.6 × 10 <sup>5</sup> (63.4%)	ギムノディニウム属の一種 <i>Gymnodinium helveticum</i> (渦鞭毛藻綱) 1.0 × 10 <sup>5</sup> (25.3%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> f. <i>occutatum</i> (渦鞭毛藻綱) 2.1 × 10 <sup>4</sup> (5.2%)	4.1 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		冬季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>6</sup> (53.5%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> (珪藻綱) 5.1 × 10 <sup>5</sup> (19.8%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (10.3%)	2.6 × 10 <sup>6</sup>	第V型 (植)
	布目ダム	春季	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.0 × 10 <sup>7</sup> (83.4%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (15.3%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 3.2 × 10 <sup>4</sup> (0.3%)	1.2 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		夏季	アオコ属の一種 <i>Microcystis aeruginosa</i> (藍藻綱) 7.6 × 10 <sup>6</sup> (69.5%)	アファノカプサ属の数種 <i>Aphanocapsa</i> spp. (藍藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (9.6%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 8.0 × 10 <sup>5</sup> (7.3%)	1.1 × 10 <sup>7</sup>	第XI型 (植)
		秋季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (42.8%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 8.3 × 10 <sup>4</sup> (29.7%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 2.7 × 10 <sup>4</sup> (9.6%)	2.8 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)
		冬季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 2.4 × 10 <sup>6</sup> (70.4%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.8 × 10 <sup>5</sup> (8.1%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (4.2%)	3.4 × 10 <sup>6</sup>	第V型 (植)

## ダム湖内の植物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;3&gt;

(単位:細胞数/L)

地方	ダム名	季節	優占種			総細胞数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
近畿	比奈知ダム	春季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 1.0 × 10 <sup>7</sup> (89.4%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 7.3 × 10 <sup>5</sup> (6.3%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i> (珪藻綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (1.0%)	1.2 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (植)
		夏季	スタウラストルム属の一種 <i>Staurastrum lunatum</i> (緑藻綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (41.3%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.5 × 10 <sup>5</sup> (21.2%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (15.8%)	7.0 × 10 <sup>5</sup>	第II型 (植)
		秋季	スケレトネマ属の一種 <i>Skeletonema subsalsum</i> (珪藻綱) 1.0 × 10 <sup>7</sup> (94.0%)	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 5.9 × 10 <sup>5</sup> (5.4%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 2.7 × 10 <sup>4</sup> (0.2%)	1.1 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		冬季	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 9.2 × 10 <sup>6</sup> (71.9%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.6 × 10 <sup>6</sup> (12.9%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> (珪藻綱) 1.2 × 10 <sup>6</sup> (9.3%)	1.3 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (植)
	高山ダム	春季	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (45.2%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 4.5 × 10 <sup>5</sup> (18.1%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (11.9%)	2.5 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		夏季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 9.9 × 10 <sup>5</sup> (30.4%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i> (珪藻綱) 6.1 × 10 <sup>5</sup> (18.8%)	スファエロシスチス属の一種 <i>Sphaerocystis Schroeteri</i> (緑藻綱) 4.3 × 10 <sup>5</sup> (13.3%)	3.3 × 10 <sup>6</sup>	第VIII型 (植)
		秋季	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 5.9 × 10 <sup>5</sup> (27.6%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i> (珪藻綱) 4.7 × 10 <sup>5</sup> (21.8%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 3.0 × 10 <sup>5</sup> (13.9%)	2.1 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		冬季	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 1.6 × 10 <sup>7</sup> (81.7%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i> (珪藻綱) 3.0 × 10 <sup>6</sup> (15.5%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 2.8 × 10 <sup>5</sup> (1.4%)	2.0 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (植)
	青蓮寺ダム	春季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 2.3 × 10 <sup>6</sup> (57.4%)	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 8.2 × 10 <sup>5</sup> (20.8%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (7.4%)	4.0 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)
		夏季	アナバエナ属の一種 <i>Anabaena flos-aquae</i> (藍藻綱) 1.3 × 10 <sup>8</sup> (88.5%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.6 × 10 <sup>7</sup> (10.8%)	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 5.6 × 10 <sup>5</sup> (0.4%)	1.5 × 10 <sup>8</sup>	第XI型 (植)
		秋季	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 1.3 × 10 <sup>6</sup> (62.0%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 3.5 × 10 <sup>5</sup> (16.5%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 1.6 × 10 <sup>5</sup> (7.6%)	2.1 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		冬季	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.1 × 10 <sup>7</sup> (81.6%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (7.4%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (4.5%)	2.5 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (植)
	室生ダム	春季	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (24.6%)	アオコ属の一種 <i>Microcystis aeruginosa</i> (藍藻綱) 1.7 × 10 <sup>5</sup> (24.2%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 7.7 × 10 <sup>4</sup> (10.7%)	7.2 × 10 <sup>5</sup>	第XI型 (植)
		夏季	アオコ属の一種 <i>Microcystis aeruginosa</i> (藍藻綱) 3.0 × 10 <sup>7</sup> (89.4%)	アオコ属の一種 <i>Microcystis wesenbergii</i> (藍藻綱) 1.3 × 10 <sup>5</sup> (3.9%)	オオヒゲマワリ <i>Volvox aureus</i> (緑藻綱) 1.0 × 10 <sup>5</sup> (3.1%)	3.4 × 10 <sup>7</sup>	第XI型 (植)
		秋季	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 9.1 × 10 <sup>4</sup> (32.7%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 8.3 × 10 <sup>4</sup> (29.8%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 3.4 × 10 <sup>4</sup> (12.3%)	2.8 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)
		冬季	シヌラ属の一種 <i>Synura uvella</i> (黄金色藻綱) 1.8 × 10 <sup>6</sup> (63.0%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 7.2 × 10 <sup>5</sup> (24.6%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (6.5%)	2.9 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (植)
一庫ダム	春季	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella meneghiniana</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (53.3%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (15.2%)	アフアノカブサ属の一種 <i>Aphanocapsa elachista</i> (藍藻綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (11.6%)	2.1 × 10 <sup>6</sup>	型不明	
	夏季	アオコ属の一種 <i>Microcystis aeruginosa</i> (藍藻綱) 4.2 × 10 <sup>7</sup> (95.1%)	プセウドアナバエナ属の一種 <i>Pseudanabaena mucicola</i> (藍藻綱) 5.5 × 10 <sup>5</sup> (1.3%)	アフアノシズメノ属の一種 <i>Aphanizomenon flos-aquae</i> (藍藻綱) 4.4 × 10 <sup>5</sup> (1.0%)	4.4 × 10 <sup>7</sup>	第XI型 (植)	
	秋季	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 2.6 × 10 <sup>5</sup> (44.4%)	ロドモナス属の一種 <i>Rhodomonas</i> sp. (クリプト藻綱) 1.6 × 10 <sup>5</sup> (26.7%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 7.0 × 10 <sup>4</sup> (11.7%)	5.9 × 10 <sup>5</sup>	型不明	
	冬季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.8 × 10 <sup>7</sup> (82.1%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> (珪藻綱) 1.5 × 10 <sup>6</sup> (6.8%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (5.1%)	2.2 × 10 <sup>7</sup>	第V型 (植)	

## ダム湖内の植物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;4&gt;

(単位:細胞数/L)

地方	ダム名	季節	優占種			総細胞数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
近畿	猿谷ダム	春季	グレンディニウム属の数種 <i>Glenodinium</i> spp. (渦鞭毛藻綱) 1.2 × 10 <sup>4</sup> (32.3%)	アキストロデスマス属の一種 <i>Ankistrodesmus falcatus</i> (緑藻綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (28.8%)	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 7.2 × 10 <sup>3</sup> (18.7%)	3.9 × 10 <sup>4</sup>	第Ⅴ型 (植)
		夏季	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 3.6 × 10 <sup>5</sup> (60.4%)	ササノハケイソウ属の数種 <i>Nitzschia</i> spp. (珪藻綱) 9.3 × 10 <sup>4</sup> (15.6%)	カタマリヒゲマワリ <i>Pandorina morum</i> (緑藻綱) 4.5 × 10 <sup>4</sup> (7.6%)	5.9 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		秋季	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 1.8 × 10 <sup>4</sup> (17.0%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> var. <i>angustissima</i> f. <i>spiralis</i> (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (13.2%)	ササノハケイソウ属の数種 <i>Nitzschia</i> spp. (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (13.2%)	1.1 × 10 <sup>4</sup>	型不明
		冬季	ササノハケイソウ属の数種 <i>Nitzschia</i> spp. (珪藻綱) 3.3 × 10 <sup>5</sup> (21.5%)	フナガタケイソウ属の数種 <i>Navicula</i> spp. (珪藻綱) 2.5 × 10 <sup>5</sup> (16.3%)	クチビルケイソウ属の一種 <i>Cymbella minuta</i> (珪藻綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (13.7%)	1.5 × 10 <sup>4</sup>	型不明
中国	菅沢ダム	春季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> f. <i>occutatum</i> (渦鞭毛藻綱) 7.6 × 10 <sup>4</sup> (46.3%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 1.8 × 10 <sup>4</sup> (11.0%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 1.7 × 10 <sup>4</sup> (10.4%)	1.6 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		夏季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 3.4 × 10 <sup>6</sup> (87.3%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (5.4%)	クロオモナス属の数種 <i>Chroomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (2.8%)	3.9 × 10 <sup>6</sup>	第Ⅵ型 (植)
		秋季	クロオモナス属の数種 <i>Chroomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (36.3%)	マロモナス属の数種 <i>Mallomonas</i> spp. (黄金色藻綱) 7.0 × 10 <sup>4</sup> (13.4%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 4.7 × 10 <sup>4</sup> (9.0%)	5.2 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		冬季	クロオモナス属の数種 <i>Chroomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (32.5%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella stelligera</i> (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (25.3%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 5.8 × 10 <sup>4</sup> (10.5%)	5.5 × 10 <sup>5</sup>	第Ⅵ型 (植)
	八田原ダム	春季	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 2.7 × 10 <sup>7</sup> (78.8%)	ツメケイソウ属の数種 <i>Achnanthes</i> spp. (珪藻綱) 3.1 × 10 <sup>6</sup> (9.0%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (5.6%)	3.4 × 10 <sup>7</sup>	第Ⅵ型 (植)
		夏季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 4.8 × 10 <sup>6</sup> (55.5%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (12.3%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 7.6 × 10 <sup>5</sup> (8.8%)	8.6 × 10 <sup>6</sup>	第Ⅵ型 (植)
		秋季	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 2.4 × 10 <sup>6</sup> (45.1%)	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.3 × 10 <sup>6</sup> (24.1%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 8.4 × 10 <sup>5</sup> (15.8%)	5.3 × 10 <sup>6</sup>	第Ⅵ型 (植)
		冬季	クリプトモナス属の一種 <i>Cryptomonas ovata</i> (クリプト藻綱) 1.2 × 10 <sup>6</sup> (48.7%)	オビケイソウ <i>Fragilaria crotonensis</i> (珪藻綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (12.7%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira granulata</i> (珪藻綱) 2.5 × 10 <sup>5</sup> (10.1%)	2.5 × 10 <sup>6</sup>	第Ⅵ型 (植)
四国	池田ダム	春季	ハリケイソウ属の一種 <i>Synedra ulna</i> var. <i>oxyrynchus</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (22.2%)	ツメケイソウ属の一種 <i>Achnanthes japonica</i> (珪藻綱) 9.2 × 10 <sup>4</sup> (19.0%)	クチビルケイソウ属の一種 <i>Cymbella minuta</i> (珪藻綱) 6.0 × 10 <sup>4</sup> (12.4%)	4.9 × 10 <sup>5</sup>	第Ⅵ型 (植)
		夏季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 2.5 × 10 <sup>4</sup> (24.8%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (10.4%)	ササノハケイソウ属の一種 <i>Nitzschia palea</i> (珪藻綱) 6.4 × 10 <sup>3</sup> (6.3%)	1.0 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		秋季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 6.0 × 10 <sup>3</sup> (30.5%)	スファエロシスチス属の一種 <i>Sphaerocystis schroeteri</i> (緑藻綱) 2.4 × 10 <sup>3</sup> (12.3%)	フナガタケイソウ属の一種 <i>Navicula gregaria</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>3</sup> (5.6%)	2.0 × 10 <sup>4</sup>	型不明
		冬季	クチビルケイソウ属の一種 <i>Cymbella minuta</i> (珪藻綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (15.2%)	ハリケイソウ属の一種 <i>Synedra ulna</i> var. <i>oxyrynchus</i> (珪藻綱) 1.8 × 10 <sup>4</sup> (13.2%)	ツメケイソウ属の一種 <i>Achnanthes minutissima</i> (珪藻綱) 1.6 × 10 <sup>4</sup> (12.1%)	1.3 × 10 <sup>5</sup>	第Ⅵ型 (植)
	早明浦ダム	春季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (90.5%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 9.1 × 10 <sup>3</sup> (4.7%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 1.7 × 10 <sup>3</sup> (0.9%)	1.9 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		夏季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 3.8 × 10 <sup>5</sup> (67.6%)	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 8.3 × 10 <sup>4</sup> (14.8%)	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 7.6 × 10 <sup>4</sup> (13.5%)	5.6 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		秋季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (68.9%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.2 × 10 <sup>4</sup> (17.4%)	スファエロシスチス属の一種 <i>Sphaerocystis schroeteri</i> (緑藻綱) 1.6 × 10 <sup>4</sup> (5.2%)	3.0 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		冬季	ウズオビムシ属の一種 <i>Peridinium bipes</i> (渦鞭毛藻綱) 7.1 × 10 <sup>5</sup> (91.7%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 5.8 × 10 <sup>4</sup> (7.5%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 7.6 × 10 <sup>2</sup> (0.1%)	7.8 × 10 <sup>5</sup>	型不明



## ダム湖内の植物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;5&gt;

(単位:細胞数/L)

地方	ダム名	季節	優占種			総細胞数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
四国	富郷ダム	春季	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 8.6 × 10 <sup>5</sup> (51.3%)	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella stelligera</i> (珪藻綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (16.1%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 2.0 × 10 <sup>5</sup> (12.1%)	1.7 × 10 <sup>6</sup>	第V型 (植)
		夏季	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 1.2 × 10 <sup>7</sup> (73.2%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 3.5 × 10 <sup>6</sup> (21.6%)	ササノハケイソウ属の数種 <i>Nitzschia</i> spp. (珪藻綱) 5.3 × 10 <sup>5</sup> (3.3%)	1.6 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		秋季	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 8.2 × 10 <sup>5</sup> (33.4%)	ヒダサヤツナギ <i>Dinobryon divergens</i> (黄金色藻綱) 6.3 × 10 <sup>5</sup> (25.4%)	ナガイトマキケイソウ <i>Acanthoceros zachariasii</i> (珪藻綱) 4.2 × 10 <sup>5</sup> (17.1%)	2.5 × 10 <sup>4</sup>	型不明
		冬季	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (33.9%)	クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae (緑藻綱) 8.0 × 10 <sup>3</sup> (23.8%)	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 2.4 × 10 <sup>3</sup> (7.1%)	3.4 × 10 <sup>4</sup>	第VI型 (植)
	新宮ダム	春季	タイコケイソウ属の一種 <i>Cyclotella radiosa</i> (珪藻綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (59.6%)	クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae (緑藻綱) 8.6 × 10 <sup>4</sup> (24.6%)	ツメケイソウ属の一種 <i>Achnanthes minutissima</i> (珪藻綱) 7.2 × 10 <sup>3</sup> (2.1%)	3.5 × 10 <sup>5</sup>	第V型 (植)
		夏季	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 6.7 × 10 <sup>6</sup> (62.5%)	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 4.0 × 10 <sup>6</sup> (37.2%)	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 1.0 × 10 <sup>4</sup> (0.1%)	1.1 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		秋季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (47.8%)	タマヒゲマワリ <i>Eudorina elegans</i> (緑藻綱) 1.5 × 10 <sup>4</sup> (39.2%)	クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae (緑藻綱) 3.6 × 10 <sup>3</sup> (9.4%)	3.8 × 10 <sup>4</sup>	型不明
		冬季	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 9.3 × 10 <sup>3</sup> (23.7%)	クラミドモナス科 Chlamydomonadaceae (緑藻綱) 5.9 × 10 <sup>3</sup> (15.0%)	ホシガタケイソウ <i>Asterionella formosa</i> (珪藻綱) 4.2 × 10 <sup>3</sup> (10.7%)	3.9 × 10 <sup>4</sup>	第VI型 (植)
九州	鶴田ダム	春季	クラミドモナス属の数種 <i>Chlamydomonas</i> spp. (緑藻綱) 3.0 × 10 <sup>6</sup> (39.8%)	カタマリヒゲマワリ <i>Pandorina morum</i> (藍藻綱) 1.8 × 10 <sup>6</sup> (23.2%)	スケルトネマ属の一種 <i>Skeletonema potamos</i> (珪藻綱) 1.0 × 10 <sup>6</sup> (13.4%)	7.6 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		夏季	ルボコッカス属の一種 <i>Lobococcus</i> sp. (緑藻綱) 1.7 × 10 <sup>8</sup> (67.9%)	ユレモ属の一種 <i>Limnothrix planctonica</i> (藍藻綱) 2.0 × 10 <sup>7</sup> (8.3%)	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 1.3 × 10 <sup>7</sup> (5.3%)	2.4 × 10 <sup>8</sup>	第XII型 (植)
		秋季	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 5.4 × 10 <sup>7</sup> (95.1%)	クリプトモナス属の数種 <i>Cryptomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 9.3 × 10 <sup>5</sup> (1.6%)	クロオモナス属の数種 <i>Chroomonas</i> spp. (クリプト藻綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (0.6%)	5.7 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		冬季	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira distans</i> (珪藻綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (27.4%)	タイコケイソウ属の数種 <i>Cyclotella</i> spp. (珪藻綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (23.4%)	ニセタルケイソウ属の一種 <i>Aulacoseira italica</i> (珪藻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (12.1%)	1.2 × 10 <sup>6</sup>	第V型 (植)

注1) 表中の植物プランクトンの属和名、種和名は、以下の文献とスクリーニング委員意見によった。

水野寿彦(1984)日本淡水プランクトン図鑑, 保育社

千原光雄 他(1995)環境微生物図鑑, 講談社

田中正明(2002)日本淡水動物植物プランクトン図鑑, 名古屋大学出版会

## ダム湖内の動物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;1&gt;

(単位: 個体数/m<sup>3</sup>)

地方	ダム名	季節	優占種			総個体数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
北海道	大雪ダム	春季	異毛目 Heterotrichida (多膜綱) 5.7 × 10 <sup>6</sup> (53.9%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 2.2 × 10 <sup>6</sup> (20.5%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.3 × 10 <sup>6</sup> (11.8%)	1.1 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		夏季	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (31.2%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 6.9 × 10 <sup>5</sup> (18.9%)	エタノール分解菌の数種 Carchesium spp. (少膜綱) 4.8 × 10 <sup>5</sup> (13.1%)	3.7 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		秋季	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 7.6 × 10 <sup>5</sup> (25.1%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 6.0 × 10 <sup>5</sup> (19.9%)	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 5.3 × 10 <sup>5</sup> (17.5%)	3.0 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		冬季	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.7 × 10 <sup>6</sup> (92.6%)	カザリツボカラムシ Codonella cratea (多膜綱) 4.0 × 10 <sup>4</sup> (2.2%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 4.0 × 10 <sup>4</sup> (2.2%)	1.8 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
	美利河ダム	春季	カザリツボカラムシ Codonella cratea (多膜綱) 7.8 × 10 <sup>6</sup> (32.9%)	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 6.6 × 10 <sup>6</sup> (27.8%)	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 6.2 × 10 <sup>6</sup> (26.3%)	2.4 × 10 <sup>7</sup>	第VI型 (動)
		夏季	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 3.8 × 10 <sup>6</sup> (43.5%)	ツボコムシ属の数種 Tintinnidium spp. (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (13.2%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>6</sup> (12.5%)	8.6 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		秋季	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 6.9 × 10 <sup>5</sup> (42.2%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 4.0 × 10 <sup>5</sup> (24.4%)	ツボコムシ属の数種 Tintinnidium spp. (多膜綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (14.7%)	1.6 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		冬季	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 3.9 × 10 <sup>5</sup> (33.0%)	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 3.3 × 10 <sup>5</sup> (27.9%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.9 × 10 <sup>5</sup> (16.1%)	1.2 × 10 <sup>6</sup>	型不明
	二風谷ダム	春季	シーボルトフクロワムシ Asplanchna sieboldi (単生殖巣綱) 1.2 × 10 <sup>3</sup> (20.8%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 1.1 × 10 <sup>3</sup> (19.1%)	ワウバク属の一種 Rotaria sp. (ヒルガタワムシ綱) 8.0 × 10 <sup>2</sup> (14.4%)	5.5 × 10 <sup>3</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 2.2 × 10 <sup>7</sup> (93.4%)	スペラエオネクタ属の一種 Spelaeonecta sp. (多膜綱) 4.8 × 10 <sup>5</sup> (2.1%)	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 2.2 × 10 <sup>5</sup> (0.9%)	2.3 × 10 <sup>7</sup>	第X I型 (動)
		秋季	ケナガヒゲワムシ Synchaeta stylata (単生殖巣綱) 4.5 × 10 <sup>4</sup> (47.4%)	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 3.7 × 10 <sup>4</sup> (38.9%)	ディレプツス属の一種 Dileptus sp. (キネトフラグミノフォラ綱) 5.0 × 10 <sup>3</sup> (5.2%)	9.6 × 10 <sup>4</sup>	第X I型 (動)
		冬季	未調査	未調査	未調査	—	—
東北	浅瀬石川ダム	春季	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 2.2 × 10 <sup>7</sup> (60.0%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.3 × 10 <sup>7</sup> (36.5%)	ツボコムシ属の数種 Tintinnidium spp. (多膜綱) 4.9 × 10 <sup>5</sup> (1.3%)	3.7 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		夏季	繊毛虫門 CILIOPHORA 3.0 × 10 <sup>7</sup> (63.9%)	真正太陽虫綱 Heliozoa (真正太陽虫綱) 6.9 × 10 <sup>6</sup> (14.8%)	ハネウデワムシ属の数種 Polyarthra spp. (単生殖巣綱) 4.2 × 10 <sup>6</sup> (9.1%)	4.7 × 10 <sup>7</sup>	第X I型 (動)
		秋季	ツボコムシ属の数種 Tintinnidium spp. (多膜綱) 2.4 × 10 <sup>6</sup> (34.3%)	ハネウデワムシ属の数種 Polyarthra spp. (単生殖巣綱) 2.2 × 10 <sup>6</sup> (31.5%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 5.8 × 10 <sup>5</sup> (8.4%)	6.9 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		冬季	ストロビリウム属の数種 Strombidium spp. (多膜綱) 1.0 × 10 <sup>6</sup> (30.8%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.0 × 10 <sup>6</sup> (30.4%)	ツリガネムシ属の数種 Vorticella spp. (少膜綱) 2.0 × 10 <sup>5</sup> (5.9%)	3.3 × 10 <sup>6</sup>	第X VII型 (動)
	月山ダム	春季	ニセテマリワムシ属の一種 Conochiloides sp. (単生殖巣綱) 3.0 × 10 <sup>5</sup> (88.0%)	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 4.0 × 10 <sup>4</sup> (11.7%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 9.0 × 10 <sup>2</sup> (0.3%)	3.4 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 2.2 × 10 <sup>7</sup> (92.8%)	Hexarthra mira (単生殖巣綱) 6.0 × 10 <sup>5</sup> (2.5%)	Plaosoma truncatum (単生殖巣綱) 3.8 × 10 <sup>5</sup> (1.6%)	2.4 × 10 <sup>7</sup>	第X I型 (動)
		秋季	フツウハネウデワムシ Polyarthra trigla vulgaris (単生殖巣綱) 4.7 × 10 <sup>6</sup> (97.1%)	フクロワムシ属の数種 Asplanchna spp. (単生殖巣綱) 8.3 × 10 <sup>4</sup> (1.7%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 2.8 × 10 <sup>4</sup> (0.6%)	4.8 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		冬季	未調査	未調査	未調査	—	—

ダム湖内の動物プランクトン優占種 (平成 16 年度) <2>

(単位: 個体数/m<sup>3</sup>)

地方	ダム名	季節	優占種			総個体数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
関東	川俣ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	優占種無し			—	—
		秋季	優占種無し			—	—
		冬季	未調査			—	—
	川治ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	優占種無し			—	—
		秋季	優占種無し			—	—
		冬季	未調査			—	—
	五十里ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	優占種無し			—	—
		秋季	優占種無し			—	—
		冬季	未調査			—	—
宮ヶ瀬ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 6.0 × 10 <sup>5</sup> (46.1%)	ヒゲワムシ属の数種 <i>Synchaeta</i> spp. (単生殖巣綱) 3.5 × 10 <sup>5</sup> (26.7%)	ストロビディウム属の数種 <i>Strobilidium</i> spp. (多膜綱) 1.5 × 10 <sup>5</sup> (11.3%)	1.3 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)	
	夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.4 × 10 <sup>6</sup> (75.6%)	カイアシ亜綱 (桡脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 1.6 × 10 <sup>5</sup> (5.1%)	ケリコットツノナガワムシ <i>Kellicottia longispina</i> (単生殖巣綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (4.2%)	3.2 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)	
	秋季	未調査			—	—	
	冬季	未調査			—	—	
中部	丸山ダム	春季	未調査			—	—
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.5 × 10 <sup>7</sup> (46.9%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 8.2 × 10 <sup>6</sup> (25.3%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 3.7 × 10 <sup>6</sup> (11.4%)	3.3 × 10 <sup>7</sup>	第X I型 (動)
		秋季	繊毛虫門 CILIOPHORA 1.2 × 10 <sup>6</sup> (57.7%)	トリネマ属の数種 <i>Trinema</i> spp. (糸状根足虫綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (15.1%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (9.0%)	2.1 × 10 <sup>6</sup>	型不明
		冬季	未調査			—	—
近畿	日吉ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 5.2 × 10 <sup>5</sup> (49.2%)	パラディレプтус属の一種 <i>Paradileptus robustus</i> (キネトフラグミノフォーラ綱) 1.6 × 10 <sup>5</sup> (15.3%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 1.5 × 10 <sup>5</sup> (14.5%)	1.0 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (33.5%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (19.8%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 7.2 × 10 <sup>4</sup> (10.0%)	7.2 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		秋季	ツボカムリ属の一種 <i>Diffugia globulosa</i> (葉状根足虫綱) 2.5 × 10 <sup>4</sup> (35.6%)	トゲツボカマリ <i>Diffugia corona</i> (葉状根足虫綱) 1.5 × 10 <sup>4</sup> (21.3%)	ホシメイズケムシ <i>Glaucoma scintillans</i> (少膜綱) ツキガタエナガワムシ <i>Monostyla lunaris</i> (単生殖巣綱) 1.0 × 10 <sup>4</sup> (14.2%)	7.0 × 10 <sup>4</sup>	第X II型 (動)
		冬季	フデツツカラムシ <i>Tintinnidium fluviatile</i> (多膜綱) 6.8 × 10 <sup>5</sup> (98.8%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 5.0 × 10 <sup>4</sup> (0.7%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (0.3%)	6.9 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
	布目ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.9 × 10 <sup>6</sup> (70.9%)	ストロビディウム属の一種 <i>Strobilidium viride</i> (多膜綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (9.7%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (6.6%)	2.7 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 3.4 × 10 <sup>5</sup> (60.0%)	ミジンコワムシ <i>Hexarthra mira</i> (単生殖巣綱) 9.6 × 10 <sup>4</sup> (16.8%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 3.6 × 10 <sup>4</sup> (6.3%)	5.7 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		秋季	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 2.0 × 10 <sup>5</sup> (39.9%)	フタオワムシ属の一種 <i>Diurella porcellus</i> (単生殖巣綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (27.9%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.0 × 10 <sup>5</sup> (19.9%)	5.0 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		冬季	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 7.5 × 10 <sup>4</sup> (75.0%)	ツボワムシ <i>Brachionus calyciflorus</i> (単生殖巣綱) 1.5 × 10 <sup>4</sup> (15.0%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) フクロワムシ <i>Asplanchna priodonta</i> (単生殖巣綱) 5.0 × 10 <sup>3</sup> (5.0%)	1.0 × 10 <sup>5</sup>	第X V型 (動)

## ダム湖内の動物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;3&gt;

(単位: 個体数/m<sup>3</sup>)

地方	ダム名	季節	優占種			総個体数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
近畿	比奈知ダム	春季	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 9.5 × 10 <sup>5</sup> (53.8%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 2.6 × 10 <sup>5</sup> (14.7%)	ツリガネムシ属の一種 <i>Vorticella campanula</i> (少膜綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (10.2%)	1.8 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.5 × 10 <sup>6</sup> (66.9%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 6.5 × 10 <sup>5</sup> (17.0%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 4.3 × 10 <sup>5</sup> (11.4%)	3.8 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		秋季	フデツツカラムシ <i>Tintinnidium fluviatile</i> (多膜綱) 1.6 × 10 <sup>4</sup> (61.2%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 3.6 × 10 <sup>4</sup> (13.4%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 3.2 × 10 <sup>4</sup> (11.9%)	2.7 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (動)
		冬季	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 4.0 × 10 <sup>4</sup> (72.7%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.0 × 10 <sup>4</sup> (18.2%)	フタオワムシ属の一種 <i>Diurella stylata</i> (単生殖巣綱) 5.0 × 10 <sup>3</sup> (9.1%)	5.5 × 10 <sup>4</sup>	第X I型 (動)
高山	ダム	春季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.6 × 10 <sup>6</sup> (42.5%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 1.0 × 10 <sup>6</sup> (26.5%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 7.8 × 10 <sup>5</sup> (20.2%)	3.9 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.7 × 10 <sup>5</sup> (40.0%)	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 5.4 × 10 <sup>4</sup> (12.9%)	アカントキスチス属の一種 <i>Acanthocystis pectinata</i> (真正太陽虫綱) 3.6 × 10 <sup>4</sup> (8.6%)	4.2 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		秋季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.3 × 10 <sup>6</sup> (65.6%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (10.7%)	ハバヒロハネウデワムシ <i>Polyarthra euryptera</i> (単生殖巣綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (8.9%)	2.0 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		冬季	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 1.3 × 10 <sup>5</sup> (86.7%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.0 × 10 <sup>4</sup> (6.7%)	キクロブス目 Cyclopoida (甲殻綱) 1.0 × 10 <sup>4</sup> (6.7%)	1.5 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
青蓮寺	ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.8 × 10 <sup>5</sup> (43.8%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖巣綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (17.2%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 5.0 × 10 <sup>4</sup> (7.8%)	6.4 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (32.1%)	コマガタソウリムシ <i>Didinium nasutum</i> (キネトフラグミノフォーラ綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (21.2%)	ツリガネムシ属の一種 <i>Vorticella campanula</i> (少膜綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (11.9%)	9.0 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		秋季	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 8.5 × 10 <sup>4</sup> (29.8%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 6.0 × 10 <sup>4</sup> (21.1%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 5.5 × 10 <sup>4</sup> (19.3%)	2.9 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		冬季	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 2.5 × 10 <sup>4</sup> (26.3%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (21.1%)	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (21.1%)	9.5 × 10 <sup>4</sup>	第X I型 (動)
室生	ダム	春季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>5</sup> (45.4%)	エダウリワリガムシ属の一種 <i>Carchesium polypinum</i> (少膜綱) 4.9 × 10 <sup>5</sup> (19.5%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 3.1 × 10 <sup>5</sup> (12.5%)	2.5 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		夏季	エダウリワリガムシ属の一種 <i>Carchesium polypinum</i> (少膜綱) 3.2 × 10 <sup>5</sup> (32.5%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 2.5 × 10 <sup>5</sup> (25.8%)	ミジンコワムシ <i>Hexarthra mira</i> (単生殖巣綱) 9.2 × 10 <sup>4</sup> (9.4%)	9.8 × 10 <sup>5</sup>	型不明
		秋季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖巣綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (56.9%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 5.2 × 10 <sup>4</sup> (25.5%)	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 2.4 × 10 <sup>4</sup> (11.8%)	2.0 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		冬季	エダウリワリガムシ属の数種 <i>Carchesium</i> spp. (少膜綱) 3.8 × 10 <sup>5</sup> (49.1%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 2.1 × 10 <sup>5</sup> (26.9%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖巣綱) 1.5 × 10 <sup>5</sup> (19.3%)	7.7 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (動)

## ダム湖内の動物プランクトン優占種 (平成16年度) &lt;4&gt;

(単位: 個体数/m<sup>3</sup>)

地方	ダム名	季節	優占種			総個体数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
近畿	一庫ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 4.2 × 10 <sup>5</sup> (58.1%)	アワワムシ <i>Pompholyx complanata</i> (単生殖果綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (4.1%)	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖果綱) 2.2 × 10 <sup>5</sup> (3.1%)	7.2 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	ミジンコワムシ <i>Hexarthra mira</i> (単生殖果綱) 4.4 × 10 <sup>5</sup> (25.7%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 3.3 × 10 <sup>5</sup> (19.2%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (16.0%)	1.7 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		秋季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 4.6 × 10 <sup>5</sup> (46.5%)	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (12.1%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 8.0 × 10 <sup>4</sup> (8.1%)	9.9 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		冬季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 5.4 × 10 <sup>5</sup> (55.8%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖果綱) 1.8 × 10 <sup>5</sup> (18.8%)	フデツツカラムシ <i>Tintinnidium fluviatile</i> (多膜綱) 1.7 × 10 <sup>5</sup> (17.5%)	9.6 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (動)
	猿谷ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 5.9 × 10 <sup>4</sup> (38.8%)	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 3.0 × 10 <sup>4</sup> (19.4%)	ストロビディウム属の一種 <i>Strombidium viride</i> (多膜綱) 1.5 × 10 <sup>4</sup> (9.5%)	1.5 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 1.2 × 10 <sup>6</sup> (54.5%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 5.8 × 10 <sup>5</sup> (26.3%)	コソボソヨコジワムシ <i>Ploesoma truncatum</i> (単生殖果綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (13.2%)	2.2 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		秋季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (35.5%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 2.0 × 10 <sup>3</sup> (3.6%)	ワウヒガキワムシ属の一種 <i>Rotaria</i> sp. (ヘルガタワムシ綱) 1.5 × 10 <sup>3</sup> (2.7%)	5.5 × 10 <sup>4</sup>	第VI型 (動)
		冬季	繊毛虫門 CILIOPHORA 8.7 × 10 <sup>4</sup> (57.2%)	フデツツカラムシ <i>Tintinnidium fluviatile</i> (多膜綱) 6.2 × 10 <sup>4</sup> (40.8%)	トリガネムシ属の数種 <i>Vorticella</i> spp. (少膜綱) 3.0 × 10 <sup>3</sup> (2.0%)	1.5 × 10 <sup>5</sup>	第XVII型 (動)
中国	菅沢ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (43.0%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖果綱) 8.0 × 10 <sup>4</sup> (24.2%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 4.8 × 10 <sup>4</sup> (14.5%)	3.3 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 7.1 × 10 <sup>5</sup> (46.8%)	エビスティリス属の数種 <i>Epistylis</i> spp. (少膜綱) 5.7 × 10 <sup>5</sup> (37.7%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 6.6 × 10 <sup>4</sup> (4.4%)	1.5 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		秋季	繊毛虫門 CILIOPHORA 3.2 × 10 <sup>5</sup> (29.4%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 3.0 × 10 <sup>5</sup> (27.5%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖果綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (10.8%)	1.1 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		冬季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 6.1 × 10 <sup>5</sup> (79.7%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 5.8 × 10 <sup>4</sup> (7.5%)	ケナガヒゲワムシ <i>Synchaeta stylata</i> (単生殖果綱) 3.6 × 10 <sup>4</sup> (4.7%)	7.7 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
	八田原ダム	春季	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 2.7 × 10 <sup>7</sup> (34.1%)	トリガネムシ属の数種 <i>Vorticella</i> spp. (少膜綱) 1.4 × 10 <sup>7</sup> (17.2%)	カザリツボカラムシ属の数種 <i>Codonella</i> spp. (多膜綱) 8.1 × 10 <sup>6</sup> (10.1%)	8.0 × 10 <sup>7</sup>	第XVII型 (動)
		夏季	ケナガコムシ属の数種 <i>Halteria</i> spp. (多膜綱) 2.0 × 10 <sup>7</sup> (18.2%)	ストロビディウム属の一種 <i>Strombidinopsis gyrans</i> (多膜綱) 2.0 × 10 <sup>7</sup> (17.8%)	ハネウデワムシ属の数種 <i>Polyarthra</i> spp. (単生殖果綱) 1.0 × 10 <sup>7</sup> (9.4%)	1.1 × 10 <sup>8</sup>	第X I型 (動)
		秋季	ケナガコムシ属の数種 <i>Halteria</i> spp. (多膜綱) 4.2 × 10 <sup>7</sup> (46.8%)	ハネウデワムシ属の数種 <i>Polyarthra</i> spp. (単生殖果綱) 1.1 × 10 <sup>7</sup> (12.0%)	カザリツボカラムシ属の数種 <i>Codonella</i> spp. (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>7</sup> (11.9%)	9.1 × 10 <sup>7</sup>	第X I型 (動)
		冬季	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 1.2 × 10 <sup>7</sup> (43.5%)	ケナガコムシ属の数種 <i>Halteria</i> spp. (多膜綱) 3.8 × 10 <sup>6</sup> (14.4%)	フタオワムシ属の一種 <i>Diurella tenuior</i> (単生殖果綱) 2.3 × 10 <sup>6</sup> (8.6%)	2.7 × 10 <sup>7</sup>	型不明
四国	池田ダム	春季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 7.0 × 10 <sup>4</sup> (42.0%)	ミドリワムシ <i>Chromogaster ovalis</i> (単生殖果綱) 2.9 × 10 <sup>4</sup> (17.3%)	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 1.6 × 10 <sup>4</sup> (9.4%)	1.7 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (動)
		夏季	ストロビディウム属の一種 <i>Strombidium</i> spp. (多膜綱) 7.8 × 10 <sup>4</sup> (35.3%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 3.8 × 10 <sup>4</sup> (17.1%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 3.6 × 10 <sup>4</sup> (16.4%)	2.2 × 10 <sup>5</sup>	第VI型 (動)
		秋季	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 2.9 × 10 <sup>4</sup> (38.6%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (14.6%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 5.0 × 10 <sup>3</sup> (6.6%)	7.5 × 10 <sup>4</sup>	第VI型 (動)
		冬季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.1 × 10 <sup>4</sup> (33.8%)	繊毛虫門 CILIOPHORA 9.5 × 10 <sup>3</sup> (30.5%)	トリガネムシ属の数種 <i>Vorticella</i> spp. (少膜綱) 4.0 × 10 <sup>3</sup> (12.8%)	3.1 × 10 <sup>4</sup>	第VI型 (動)

ダム湖内の動物プランクトン優占種 (平成16年度) <5>

(単位: 個体数/m<sup>3</sup>)

地方	ダム名	季節	優占種			総個体数	プランクトン型
			第一優占種	第二優占種	第三優占種		
四国	早明浦ダム	春季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 4.7 × 10 <sup>5</sup> (41.7%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (12.8%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 1.4 × 10 <sup>5</sup> (12.2%)	1.1 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 8.3 × 10 <sup>5</sup> (41.3%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 5.8 × 10 <sup>5</sup> (28.9%)	カハコウカ(基本型) <i>Keratella cochlearis</i> f. <i>cochlearis</i> (単生殖果綱) 1.9 × 10 <sup>5</sup> (9.3%)	2.0 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		秋季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 1.7 × 10 <sup>6</sup> (31.9%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 1.6 × 10 <sup>6</sup> (30.3%)	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 1.4 × 10 <sup>6</sup> (26.2%)	5.3 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		冬季	ゾウミジンコ <i>Bosmina longirostris</i> (甲殻綱) 5.2 × 10 <sup>5</sup> (33.3%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 4.7 × 10 <sup>5</sup> (30.6%)	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 2.4 × 10 <sup>5</sup> (15.2%)	1.6 × 10 <sup>6</sup>	第VII型 (動)
	富郷ダム	春季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 3.1 × 10 <sup>6</sup> (58.3%)	カハコウカ(基本型)属の数種 <i>Lacrymaria</i> spp. (キネトフラグミノフォーラ綱) 7.1 × 10 <sup>5</sup> (13.2%)	ブルサリア属の数種 <i>Bursaria</i> spp. (多膜綱) 4.7 × 10 <sup>5</sup> (8.7%)	5.4 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 3.0 × 10 <sup>6</sup> (70.0%)	ヒルガタワムシ綱 Bdelloidea (ヒルガタワムシ綱) 7.1 × 10 <sup>5</sup> (16.4%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 3.4 × 10 <sup>5</sup> (7.7%)	4.3 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		秋季	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 7.7 × 10 <sup>5</sup> (50.1%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 6.5 × 10 <sup>5</sup> (42.3%)	ゾウミジンコモドキ <i>Bosminopsis deitersi</i> (甲殻綱) 1.0 × 10 <sup>5</sup> (6.6%)	1.5 × 10 <sup>6</sup>	第VI型 (動)
		冬季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 4.1 × 10 <sup>5</sup> (30.6%)	ブルサリア属の数種 <i>Bursaria</i> spp. (多膜綱) 2.9 × 10 <sup>5</sup> (21.4%)	アスケナシア属の数種 <i>Askenasia</i> spp. (キネトフラグミノフォーラ綱) 2.0 × 10 <sup>5</sup> (14.9%)	1.3 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
	新宮ダム	春季	ツノテマリワムシ <i>Conochilus unicornis</i> (単生殖果綱) 3.0 × 10 <sup>5</sup> (19.4%)	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 2.7 × 10 <sup>5</sup> (17.8%)	カイアシ亜綱 (橈脚亜綱) Copepoda (甲殻綱) 2.0 × 10 <sup>5</sup> (13.4%)	1.5 × 10 <sup>6</sup>	第X I型 (動)
		夏季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 4.6 × 10 <sup>5</sup> (72.4%)	コソボソヨコジマワムシ <i>Ploesoma truncatum</i> (単生殖果綱) 1.2 × 10 <sup>5</sup> (18.1%)	パラディレプツス属の一種 <i>Paradileptus robustus</i> (キネトフラグミノフォーラ綱) ゾウリムシ属の数種 <i>Paramecium</i> spp. (少膜綱) 2.0 × 10 <sup>4</sup> (3.1%)	6.4 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		秋季	フツウハネウデワムシ <i>Polyarthra trigla vulgaris</i> (単生殖果綱) 6.5 × 10 <sup>4</sup> (57.6%)	カザリツボカラムシ <i>Codonella cratea</i> (多膜綱) 3.2 × 10 <sup>4</sup> (28.6%)	フクロワムシ <i>Asplanchna priodonta</i> (単生殖果綱) 7.0 × 10 <sup>3</sup> (6.3%)	1.1 × 10 <sup>5</sup>	第X I型 (動)
		冬季	繊毛虫門 CILIOPHORA 2.3 × 10 <sup>6</sup> (67.5%)	アスケナシア属の数種 <i>Askenasia</i> spp. (キネトフラグミノフォーラ綱) 3.1 × 10 <sup>5</sup> (9.1%)	ブルサリア属の数種 <i>Bursaria</i> spp. (多膜綱) 3.0 × 10 <sup>5</sup> (8.8%)	3.4 × 10 <sup>6</sup>	型不明
九州	鶴田ダム	春季	繊毛虫門 CILIOPHORA 7.9 × 10 <sup>7</sup> (53.8%)	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 4.7 × 10 <sup>7</sup> (31.8%)	カハコウカ(基本型)属の数種 <i>Didinium</i> spp. (キネトフラグミノフォーラ綱) 4.7 × 10 <sup>6</sup> (3.2%)	1.5 × 10 <sup>8</sup>	型不明
		夏季	繊毛虫門 CILIOPHORA 5.6 × 10 <sup>7</sup> (42.0%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 3.2 × 10 <sup>7</sup> (24.5%)	ネズミワムシ属の数種 <i>Trichocerca</i> spp. (単生殖果綱) 1.3 × 10 <sup>7</sup> (9.7%)	1.3 × 10 <sup>8</sup>	型不明
		秋季	繊毛虫門 CILIOPHORA 4.9 × 10 <sup>7</sup> (65.0%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 1.6 × 10 <sup>7</sup> (21.0%)	カハコウカ(基本型)属の数種 <i>Didinium</i> spp. (キネトフラグミノフォーラ綱) 3.8 × 10 <sup>6</sup> (5.0%)	7.6 × 10 <sup>7</sup>	型不明
		冬季	繊毛虫門 CILIOPHORA 5.4 × 10 <sup>6</sup> (42.3%)	ツボコムシ属の数種 <i>Tintinnidium</i> spp. (多膜綱) 4.2 × 10 <sup>6</sup> (33.5%)	小毛目 Oligotrichida (多膜綱) 1.4 × 10 <sup>6</sup> (10.7%)	1.3 × 10 <sup>7</sup>	型不明

注1) 表中の動物プランクトンの属和名、種和名は、以下の文献とスクリーニング委員意見によった。  
 水野寿彦(1984)日本淡水プランクトン図鑑, 保育社  
 千原光雄 他(1995)環境微生物図鑑, 講談社  
 水野寿彦 他(1991)日本淡水動物プランクトン検索図説, 東海大学出版会  
 田中正明(2002)日本淡水動物植物プランクトン図鑑, 名古屋大学出版

## 4 植物調査の概要

### 4. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数 [資料Ⅱ-4-1]

- ・平成 16 年度に実施された 29 ダムの現地調査によって、184 科 2,578 種の植物を確認しました。これは、日本の植物として「植物目録（環境庁, 1987）」に記載されている 8,118 種のうち、約 32%に相当します。確認種の内訳は、シダ植物 23 科 270 種、裸子植物 8 科 35 種、双子葉植物 129 科 1,682 種、単子葉植物 24 科 591 種です。
- ・また、各ダムでの確認種数は、七ヶ宿ダムの 137 科 962 種、小渋ダムの 126 科 906 種などです。

#### (2) 特定種（植物） [資料Ⅱ-4-2]

- ・特定種として、ここでは維管束植物の改訂・レッドデータブック（2000, 環境庁）に記載されている種を掲げています。今回の調査では、61 種を確認しています。
- ・改訂・レッドデータブックの絶滅危惧 I B 類 12 種、絶滅危惧 II 類 37 種を確認しています。
- ・また、今回発表対象の 29 ダムのうち、最も多くのダム周辺で確認された特定種はエビネで、9 ダムとなっています。

(注) 特定種について

植物においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種、変種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境庁編（2000）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— 植物 I（維管束植物）」掲載種

#### (3) 外来種（植物） [資料Ⅱ-4-3]

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の植物を掲げています。今回の調査では 252 種を確認しています。このうち、外来生物法で特定外来生物に指定されたオオフサモ、アレチウリ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、オオカワヂシャの 5 種と、要注意外来生物リストに挙げられた 43 種が確認されました。

(注) ・外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21~22 ページに掲載した文献および I-23~24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

- ・要注意外来生物リストについて

外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。

植物確認種数一覧（平成 16 年度）

地方	ダム名	科数						種数					
		シダ植物門	種子植物門			合計	シダ植物門	種子植物門			合計		
			裸子植物亜門	被子植物亜門				裸子植物亜門	被子植物亜門				
				双子葉植物綱					双子葉植物綱				
			離弁花亜綱	合弁花亜綱	単子葉植物綱				離弁花亜綱	合弁花亜綱	単子葉植物綱		
北海道	桂沢ダム	12	2	57	20	9	100	44	5	224	129	110	512
東北	鳴子ダム	15	4	67	28	16	130	69	6	364	227	191	857
	釜房ダム	12	5	64	25	17	123	50	9	328	187	179	753
	七ヶ宿ダム	14	5	73	28	17	137	61	16	415	249	221	962
	白川ダム	12	4	66	27	16	125	43	6	287	186	178	700
	寒河江ダム	15	3	64	27	14	123	50	5	285	173	170	683
	関東	藤原ダム	17	6	63	27	17	130	59	10	328	173	148
相俣ダム		12	5	65	27	16	125	53	7	348	186	168	762
藪原ダム		12	5	64	26	12	119	48	11	343	182	144	728
品木ダム		11	4	58	24	11	108	42	9	264	153	127	595
宮ヶ瀬ダム		19	6	66	30	13	134	89	10	404	218	172	893
北陸	大町ダム	14	4	57	22	8	105	42	9	209	102	66	428
	宇奈月ダム	16	4	61	25	9	115	59	5	221	116	64	465
中部	小渋ダム	16	6	64	28	12	126	75	12	406	230	183	906
近畿	目吉ダム	19	5	63	29	16	132	93	6	314	193	161	767
	布目ダム	19	7	57	27	13	123	66	9	236	128	113	552
	比奈知ダム	21	6	67	30	20	144	103	8	354	212	224	901
	高山ダム	20	5	55	27	13	120	69	6	254	124	114	567
	青蓮寺ダム	21	6	68	28	18	141	121	9	349	199	196	874
	室生ダム	21	4	66	29	17	137	100	6	342	196	201	845
中国	島地川ダム	21	4	60	26	13	124	111	5	282	144	128	670
四国	池田ダム	19	6	57	25	15	122	90	7	268	134	135	634
	早明浦ダム	21	5	60	27	16	129	105	9	296	131	141	682
	富郷ダム	20	5	69	27	13	134	96	9	315	142	133	695
	柳瀬ダム	21	4	59	25	12	121	89	7	307	133	129	665
	新宮ダム	21	6	63	28	13	131	91	10	286	145	136	668
	野村ダム	21	5	61	27	18	132	100	6	282	175	175	738
	中筋川ダム	19	4	63	28	14	128	111	4	259	150	142	666
九州	緑川ダム	20	7	65	26	21	139	94	10	320	152	163	739
	合計	23	8	93	36	24	184	270	35	1057	625	591	2578

注) 一部、スクリーニング委員による標本確認作業が終了していないため、種数は 2006 年 1 月現在のものである。



## 植物特定種一覧 (平成16年度)

No.	科和名	種和名	学名	選定基準			確認 ダム数
				①	②	③	
1	ミズニラ科	ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
2	ミズウラボシ科	ヒメウラジロ	<i>Cheilanthes argentea</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
3	サンショウウモ科	サンショウウモ	<i>Salvinia natans</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
4	イラクサ科	トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
5		ミヤコミズ	<i>Pilea kiotensis</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
6	タデ科	ヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
7		ノダイオウ	<i>Rumex longifolius</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
8	ナデシコ科	タチハコベ	<i>Moehringia trinervia</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
9		オオピランジ	<i>Silene keiskei</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
10	クスノキ科	ニッケイ	<i>Cinnamomum sieboldii</i>			準絶滅危惧(NT)	1
11	キンボウゲ科	フクジュソウ	<i>Adonis ramosa</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
12	ウマノスズクサ科	コシノカンアオイ	<i>Heterotropa megacalyx</i>			準絶滅危惧(NT)	2
13		ナンカイアオイ	<i>Heterotropa nankaiensis</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
14	ボタン科	ヤマシヤクヤク	<i>Paeonia japonica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	6
15	ケシ科	ナガミノツルキケマン	<i>Corydalis raddeana</i>			準絶滅危惧(NT)	3
16	アブラナ科	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>			準絶滅危惧(NT)	1
17	ベンケイソウ科	ツメレンゲ	<i>Orostachys japonicus</i>			準絶滅危惧(NT)	1
18	ユキノシタ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
19		ヤシヤビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
20	バラ科	ゴシヨイチゴ	<i>Rubus chingii</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
21	マメ科	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
22	ヒメハギ科	ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
23	カエデ科	クロビイタヤ	<i>Acer miyabei</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
24	ミソハギ科	ミズマツバ	<i>Rotala pusilla</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	6
25	ツチトリモチ科	ミヤマツトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
26	サクラソウ科	シナノコザクラ	<i>Primula tosaensis</i> var. <i>brachycarpa</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
27	リンドウ科	ホソバツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	3
28	ガガイモ科	クサナギオゴケ	<i>Cynanchum katoii</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
29		スズサイコ	<i>Cynanchum paniculatum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
30	シソ科	タチキランソウ	<i>Ajuga makinoi</i>			準絶滅危惧(NT)	1
31		ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>			準絶滅危惧(NT)	2
32	ゴマノハグサ科	オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	5
33		カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>			準絶滅危惧(NT)	3
34	キキョウ科	キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
35	キク科	イズハハコ	<i>Conyza japonica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
36		アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
37		カワラニガナ	<i>Ixeris tamagawaensis</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
38		オオニガナ	<i>Prenanthes tanakae</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
39	オモダカ科	アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>			準絶滅危惧(NT)	1
40	ヒルムシロ科	イトモ	<i>Potamogeton pusilla</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
41	イバラモ科	サガミトリゲモ	<i>Najas indica</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
42	ユリ科	ヒメサユリ	<i>Lilium rubellum</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
43	アヤメ科	ヒメシヤガ	<i>Iris gracilipes</i>			準絶滅危惧(NT)	4
44		カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
45	サトイモ科	ユキモチソウ	<i>Arisaema sikokianum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	5
46	ミクリ科	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i> ssp. <i>stoloniferum</i>			準絶滅危惧(NT)	3
47	ラン科	シラン	<i>Bletilla striata</i>			準絶滅危惧(NT)	5
48		マメツタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
49		ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2
50		エビネ	<i>Calanthe discolor</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	9
51		ナツエビネ	<i>Calanthe reflexa</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3
52		キエビネ	<i>Calanthe sieboldii</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
53		サルメンエビネ	<i>Calanthe tricarinata</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	2
54		キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	4
55		クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
56		ハルザキヤツシロラン	<i>Gastrodia nipponica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
57		サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
58		ウチョウラン	<i>Orchis graminifolia</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
59		イヌマムカゴ	<i>Platanthera inunmae</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1
60		トキソウ	<i>Pogonia japonica</i>			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1
61		オオハクウンラン	<i>Vexillabium fissum</i>			絶滅危惧ⅠB類(EN)	1

①「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種

③環境庁編(2000)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック-植物Ⅰ(維管束植物)」

CR: 絶滅危惧ⅠA類 - ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN: 絶滅危惧ⅠB類 - ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種 … 12種

VU: 絶滅危惧Ⅱ類 - 絶滅の危険が増大している種 … 37種

NT: 準絶滅危惧 - 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 … 12種

DD: 情報不足 - 評価するだけの情報が不足している種

Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群-地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

※絶滅危惧Ⅱ類(VU)のイワヨモギが東北、関東、近畿それぞれで確認されているが、イワヨモギが自生するのは北海道のみであるため、特定種から除外した







## 4. 2 生態系の人為的な攪乱状況

### (1) 国外外来種の確認状況

・日本各地で、外来植物の分布が拡大 [資料Ⅱ-4-4]
-----------------------------

外来植物の侵入は、在来植物群集の攪乱を引き起こし、時には花粉症などの健康被害の要因となることが知られています。また、種子が水の流れによって運ばれることもあるため、ダム下流の河川に広く影響を及ぼす可能性があります。そこで、代表的な外来植物として下記 12 種を選定し、その分布状況を整理しました。なお、下記 12 種のうちアレチウリは特定外来生物に指定され、そのほかの 11 種は、要注意外来生物リストに挙げられています。

マメ科のイタチハギとハリエンジュ（ニセアカシア）は、北米原産の落葉広葉樹で、明治初期から大正初期に渡来しました。両種とも根粒菌と共生することによりやせた土でも育つことから、法面緑化用の樹木などとして広く利用されてきました。特にハリエンジュ（ニセアカシア）については、戦後の国土復興の際に盛んに緑化に使用されました。現在では山腹や溪流、河原など様々な立地に分布していますが、これは過去に緑化が行われた場所から逸出したものと考えられています。これらの植物は、他の植物の生長を阻害する化学物質を生産する性質を持っているなど、在来植物の生育を阻害することが知られています。

ウリ科のアレチウリは、北米原産の一年生のつる植物で、1952 年に確認されて以来全国に広く帰化しています。他の植物に覆い被さって繁茂するため、在来植物の生長を阻害するなどの影響が知られています。

キク科のブタクサ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、オオオナモミは、いずれも北米原産で、ブタクサとセイタカアワダチソウは明治時代に、オオブタクサとオオオナモミは昭和初期から戦後まもなく国内で確認され、今では各地に広く帰化しています。これらの種は、河原などに大群落をつくり他の植物の生育の妨げになるほか、ブタクサとオオブタクサは大量の花粉を飛散するため、花粉症の原因となる場合があります。また、セイタカアワダチソウは根から他の植物の生長を阻害する物質を分泌することで知られています。

イネ科のカモガヤ、ホソムギ、ネズミムギ、オニウシノケグサ、シナダレスズメガヤは、道路などの法面の保護、砂防、緑化の材料や牧草として広く利用されています。ヨーロッパやユーラシア原産のカモガヤ、ホソムギ、ネズミムギは江戸時代末期から明治時代に、ユーラシア原産のオニウシノケグサと南アフリカ原産のシナダレスズメガヤは昭和に入って国内に導入されました。また、イネ科の植物のうちカモガヤ、ホソムギ、ネズミムギ、オニウシノケグサは、大量の花粉を飛散することにより花粉症を引き起こすことがあります。シナダレスズメガヤは、砂礫地に侵入し他の植物を覆って日光を遮ったり、河原の冠水時に砂を堆積して基盤環境を変化させ、河原に固有な在来植物の衰退を招いていることが示唆されています。土地造成や人工的な地形改変が多く行われた地域ほど、これらの植物が多く見られます。

平成 16 年度に調査を実施した 29 ダムで、これらの外来種の確認状況をみると、多くのダムでイタチハギ、ハリエンジュ、セイタカアワダチソウ、オオオナモミ、カモガヤ、オニウシノケグサ、シナダレスズメガヤなどを確認しています。

29 ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した 23 ダムについて確認状況をみると、イタチハギ、ブタクサ、セイタカアワダチソウ、シナダレスズメガヤについては、三巡目に確認されたダム数が 3～6 ダム増加しています。

## 外来種の確認状況（平成16年度）＜1＞

イタチハギ(クロバナエンジュ)

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	○	○	○	
東	鳴子ダム	○	○	○	
北	釜房ダム	×	○	○	
道	七ヶ宿ダム	×	○	○	
東	白川ダム	×	×	○	
	寒河江ダム	○	○	○	
関	藤原ダム	×	×	○	
東	相俣ダム	×	×	○	
	藪原ダム	○	×	○	
	品木ダム	×	○	○	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	○	—	○	
陸	宇奈月ダム	△	△	○	
中	小渋ダム	○	○	○	
部	日吉ダム	△	△	○	
近	布目ダム	○	○	○	
畿	比奈知ダム	△	△	○	
	高山ダム	○	○	○	
	青蓮寺ダム	○	○	○	
	室生ダム	○	○	○	
中	島地川ダム	○	○	○	
国	池田ダム	×	×	○	
四	早明浦ダム	○	○	×	
	富郷ダム	△	△	○	
	柳瀬ダム	×	○	○	
	新宮ダム	×	×	×	
	野村ダム	○	○	○	
	中筋川ダム	△	△	○	
九	州	緑川ダム	×	×	○
	確認ダム数	13	15	27	
	うち比較可能なダム	13	15	21	

ハリエンジュ(ニセアカシア)

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	×	×	○	
東	鳴子ダム	○	○	○	
北	釜房ダム	○	○	○	
道	七ヶ宿ダム	○	○	○	
東	白川ダム	○	○	○	
	寒河江ダム	○	○	○	
関	藤原ダム	○	○	○	
東	相俣ダム	○	○	○	
	藪原ダム	○	○	○	
	品木ダム	○	○	○	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	○	—	○	
陸	宇奈月ダム	△	△	○	
中	小渋ダム	○	○	○	
部	日吉ダム	△	△	○	
近	布目ダム	○	○	○	
畿	比奈知ダム	△	△	○	
	高山ダム	○	○	○	
	青蓮寺ダム	×	×	○	
	室生ダム	○	×	×	
中	島地川ダム	○	○	○	
国	池田ダム	○	○	○	
四	早明浦ダム	○	○	×	
	富郷ダム	△	△	○	
	柳瀬ダム	×	×	×	
	新宮ダム	×	×	○	
	野村ダム	×	×	×	
	中筋川ダム	△	△	×	
九	州	緑川ダム	○	×	×
	確認ダム数	18	15	23	
	うち比較可能なダム	18	15	18	

アレチウリ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	×	×	×	
東	鳴子ダム	×	×	×	
北	釜房ダム	○	○	○	
道	七ヶ宿ダム	×	×	○	
東	白川ダム	×	×	×	
	寒河江ダム	×	×	×	
関	藤原ダム	×	×	×	
東	相俣ダム	○	○	○	
	藪原ダム	○	○	○	
	品木ダム	×	×	×	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	×	—	×	
陸	宇奈月ダム	△	△	×	
中	小渋ダム	×	×	○	
部	日吉ダム	△	△	×	
近	布目ダム	×	○	○	
畿	比奈知ダム	△	△	○	
	高山ダム	○	○	○	
	青蓮寺ダム	○	○	○	
	室生ダム	○	○	○	
中	島地川ダム	×	○	×	
国	池田ダム	×	○	×	
四	早明浦ダム	×	○	×	
	富郷ダム	△	△	×	
	柳瀬ダム	×	×	×	
	新宮ダム	×	○	○	
	野村ダム	×	×	×	
	中筋川ダム	△	△	×	
九	州	緑川ダム	×	○	○
	確認ダム数	6	12	13	
	うち比較可能なダム	6	12	11	

ブタクサ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	×	×	○	
東	鳴子ダム	×	×	○	
北	釜房ダム	×	○	○	
道	七ヶ宿ダム	×	×	○	
東	白川ダム	×	○	○	
	寒河江ダム	×	×	×	
関	藤原ダム	○	○	○	
東	相俣ダム	×	○	×	
	藪原ダム	×	×	×	
	品木ダム	×	×	×	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	○	—	○	
陸	宇奈月ダム	△	△	×	
中	小渋ダム	×	×	○	
部	日吉ダム	△	△	○	
近	布目ダム	×	×	×	
畿	比奈知ダム	△	△	○	
	高山ダム	○	○	×	
	青蓮寺ダム	○	○	×	
	室生ダム	○	○	○	
中	島地川ダム	×	×	×	
国	池田ダム	×	○	×	
四	早明浦ダム	×	○	×	
	富郷ダム	△	△	×	
	柳瀬ダム	×	×	×	
	新宮ダム	×	×	×	
	野村ダム	×	○	○	
	中筋川ダム	△	△	×	
九	州	緑川ダム	×	○	×
	確認ダム数	5	11	13	
	うち比較可能なダム	5	11	10	

オオブタクサ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	×	×	×	
東	鳴子ダム	×	×	×	
北	釜房ダム	○	○	○	
道	七ヶ宿ダム	×	×	×	
東	白川ダム	×	×	×	
	寒河江ダム	×	×	×	
関	藤原ダム	×	○	○	
東	相俣ダム	○	○	○	
	藪原ダム	×	×	×	
	品木ダム	×	×	○	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	○	—	×	
陸	宇奈月ダム	△	△	×	
中	小渋ダム	×	×	○	
部	日吉ダム	△	△	×	
近	布目ダム	○	○	○	
畿	比奈知ダム	△	△	×	
	高山ダム	○	○	○	
	青蓮寺ダム	○	○	○	
	室生ダム	○	○	○	
中	島地川ダム	×	×	×	
国	池田ダム	×	×	×	
四	早明浦ダム	×	○	×	
	富郷ダム	△	△	×	
	柳瀬ダム	×	×	×	
	新宮ダム	×	×	×	
	野村ダム	×	○	×	
	中筋川ダム	△	△	×	
九	州	緑川ダム	○	○	○
	確認ダム数	8	10	11	
	うち比較可能なダム	8	10	10	

セイタカアワダチソウ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目	
北海道	桂沢ダム	×	×	○	
東	鳴子ダム	×	○	○	
北	釜房ダム	○	○	○	
道	七ヶ宿ダム	○	○	○	
東	白川ダム	×	○	○	
	寒河江ダム	×	×	○	
関	藤原ダム	×	×	×	
東	相俣ダム	○	○	○	
	藪原ダム	×	×	○	
	品木ダム	×	○	○	
	宮ヶ瀬ダム	△	△	○	
北	大町ダム	×	—	×	
陸	宇奈月ダム	△	△	○	
中	小渋ダム	○	○	○	
部	日吉ダム	△	△	○	
近	布目ダム	○	○	○	
畿	比奈知ダム	△	△	○	
	高山ダム	○	○	○	
	青蓮寺ダム	○	○	○	
	室生ダム	○	○	○	
中	島地川ダム	○	○	○	
国	池田ダム	○	○	○	
四	早明浦ダム	○	○	○	
	富郷ダム	△	△	○	
	柳瀬ダム	○	○	○	
	新宮ダム	○	○	○	
	野村ダム	○	○	○	
	中筋川ダム	△	△	○	
九	州	緑川ダム	○	○	○
	確認ダム数	15	18	27	
	うち比較可能なダム	15	18	21	

凡例) ○：確認、×：未確認、—：調査を実施していない、△：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

## 外来種の確認状況（平成16年度）＜2＞

オオオナモミ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	×	×	×
	鳴子ダム	○	×	○
	釜房ダム	○	○	○
	七ヶ宿ダム	×	○	○
	白川ダム	○	×	○
関東	寒河江ダム	×	×	○
	藤原ダム	○	○	○
	相俣ダム	○	○	○
	蘆原ダム	○	○	○
	品木ダム	×	×	×
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	○
	大町ダム	×	—	×
	宇奈月ダム	△	△	×
	小浜ダム	○	○	○
	日吉ダム	○	○	○
中部	布目ダム	△	○	○
	比奈知ダム	△	△	○
	高山ダム	○	○	○
	青蓮寺ダム	○	○	○
	室生ダム	○	○	○
中国	島地川ダム	○	○	○
	池田ダム	○	○	○
	早明浦ダム	○	×	×
	富郷ダム	△	△	×
	柳瀬ダム	×	×	○
九州	新宮ダム	○	○	○
	野村ダム	○	○	○
	中筋川ダム	△	△	×
	緑川ダム	○	○	○
	確認ダム数	17	15	22
うち比較可能なダム	17	15	19	

カモガヤ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	○	○	○
	鳴子ダム	○	○	○
	釜房ダム	○	○	○
	七ヶ宿ダム	○	○	○
	白川ダム	○	○	○
関東	寒河江ダム	○	○	○
	藤原ダム	○	○	○
	相俣ダム	○	○	○
	蘆原ダム	○	○	○
	品木ダム	○	○	○
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	○
	大町ダム	○	—	×
	宇奈月ダム	○	△	×
	小浜ダム	○	○	○
	日吉ダム	○	○	○
中部	布目ダム	○	○	○
	比奈知ダム	△	△	○
	高山ダム	○	○	○
	青蓮寺ダム	×	○	○
	室生ダム	○	○	○
中国	島地川ダム	○	○	○
	池田ダム	○	○	×
	早明浦ダム	○	○	×
	富郷ダム	△	△	○
	柳瀬ダム	×	○	○
九州	新宮ダム	○	○	×
	野村ダム	○	○	○
	中筋川ダム	△	△	×
	緑川ダム	×	×	○
	確認ダム数	20	21	24
うち比較可能なダム	20	21	20	

ホソムギ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	○	×	×
	鳴子ダム	×	○	○
	釜房ダム	×	○	○
	七ヶ宿ダム	×	○	×
	白川ダム	×	×	×
関東	寒河江ダム	○	○	×
	藤原ダム	×	×	×
	相俣ダム	×	○	○
	蘆原ダム	○	×	×
	品木ダム	×	×	×
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	×
	大町ダム	×	—	×
	宇奈月ダム	△	△	×
	小浜ダム	×	×	×
	日吉ダム	△	△	×
中部	布目ダム	×	×	×
	比奈知ダム	△	△	×
	高山ダム	×	○	×
	青蓮寺ダム	×	×	×
	室生ダム	×	×	×
中国	島地川ダム	×	×	×
	池田ダム	×	×	×
	早明浦ダム	×	×	×
	富郷ダム	△	△	×
	柳瀬ダム	×	×	×
九州	新宮ダム	×	×	×
	野村ダム	○	○	○
	中筋川ダム	△	△	×
	緑川ダム	×	×	×
	確認ダム数	4	7	4
うち比較可能なダム	4	7	4	

ネズミギ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	×	×	×
	鳴子ダム	×	×	○
	釜房ダム	○	○	○
	七ヶ宿ダム	○	○	×
	白川ダム	○	×	×
関東	寒河江ダム	×	×	×
	藤原ダム	×	×	×
	相俣ダム	○	○	×
	蘆原ダム	×	○	○
	品木ダム	×	×	×
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	○
	大町ダム	×	—	×
	宇奈月ダム	△	△	×
	小浜ダム	×	○	○
	日吉ダム	×	○	○
中部	布目ダム	×	○	×
	比奈知ダム	△	△	○
	高山ダム	×	○	×
	青蓮寺ダム	×	×	×
	室生ダム	○	×	○
中国	島地川ダム	○	×	×
	池田ダム	○	○	×
	早明浦ダム	○	○	×
	富郷ダム	△	△	○
	柳瀬ダム	×	×	×
九州	新宮ダム	×	×	×
	野村ダム	○	○	○
	中筋川ダム	△	△	×
	緑川ダム	○	○	○
	確認ダム数	10	11	11
うち比較可能なダム	10	11	7	

オニウシノケサ

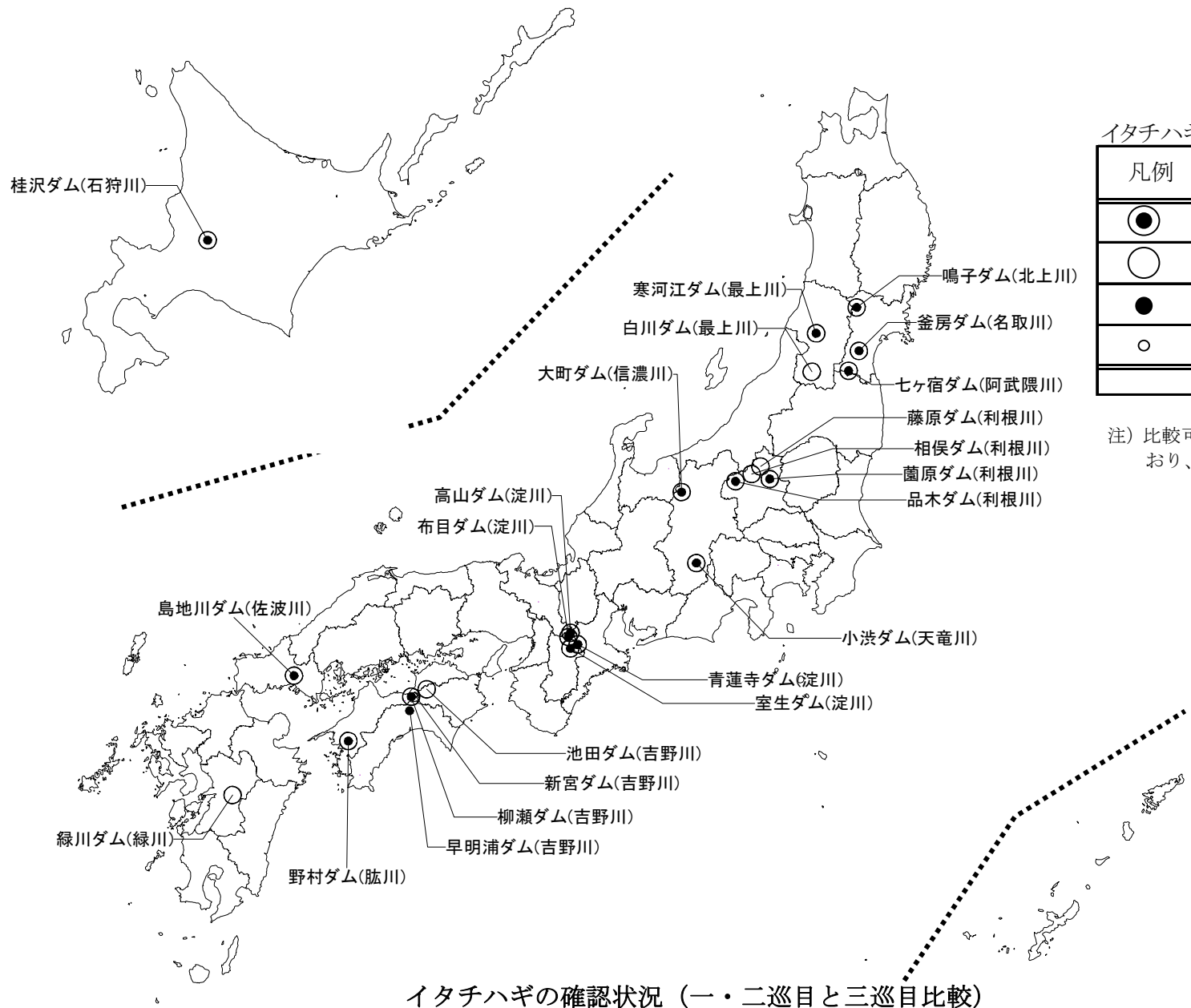
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	×	○	○
	鳴子ダム	×	○	○
	釜房ダム	○	○	○
	七ヶ宿ダム	×	○	○
	白川ダム	○	○	○
関東	寒河江ダム	○	○	○
	藤原ダム	○	○	○
	相俣ダム	○	○	○
	蘆原ダム	○	○	○
	品木ダム	×	○	○
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	○
	大町ダム	×	—	○
	宇奈月ダム	○	○	○
	小浜ダム	○	○	○
	日吉ダム	△	△	○
中部	布目ダム	○	○	○
	比奈知ダム	△	△	○
	高山ダム	○	○	○
	青蓮寺ダム	×	○	○
	室生ダム	○	○	○
中国	島地川ダム	○	○	○
	池田ダム	○	×	○
	早明浦ダム	○	○	○
	富郷ダム	△	△	○
	柳瀬ダム	○	○	○
九州	新宮ダム	×	○	×
	野村ダム	○	○	○
	中筋川ダム	△	△	○
	緑川ダム	×	×	○
	確認ダム数	15	20	28
うち比較可能なダム	15	20	22	

シナダレスズメガヤ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	桂沢ダム	×	×	×
	鳴子ダム	×	×	○
	釜房ダム	○	○	○
	七ヶ宿ダム	○	○	○
	白川ダム	○	○	○
関東	寒河江ダム	×	×	○
	藤原ダム	×	×	○
	相俣ダム	×	○	○
	蘆原ダム	×	×	○
	品木ダム	○	○	×
北陸	宮ヶ瀬ダム	△	△	○
	大町ダム	×	—	○
	宇奈月ダム	△	△	×
	小浜ダム	○	○	○
	日吉ダム	△	△	○
中部	布目ダム	○	○	○
	比奈知ダム	△	△	○
	高山ダム	○	○	○
	青蓮寺ダム	○	○	○
	室生ダム	○	○	○
中国	島地川ダム	○	○	×
	池田ダム	○	○	○
	早明浦ダム	×	○	○
	富郷ダム	△	△	○
	柳瀬ダム	×	○	○
九州	新宮ダム	×	○	○
	野村ダム	×	○	○
	中筋川ダム	△	△	×
	緑川ダム	○	×	○
	確認ダム数	12	16	24
うち比較可能なダム	12	16	20	

凡例) ○：確認、×：未確認、—：調査を実施していない、△：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



イタチハギ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	16
⊗	×	○	5
●	○	×	1
○	×	×	1
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

イタチハギの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)





ハリエンジュ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	15
○	×	○	3
●	○	×	3
○	×	×	2
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



アレチウリの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

アレチウリ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●○	○	○	9
○	×	○	2
●	○	×	3
○	×	×	9
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ブタクサ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	6
◐	×	○	4
●	○	×	6
○	×	×	7
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

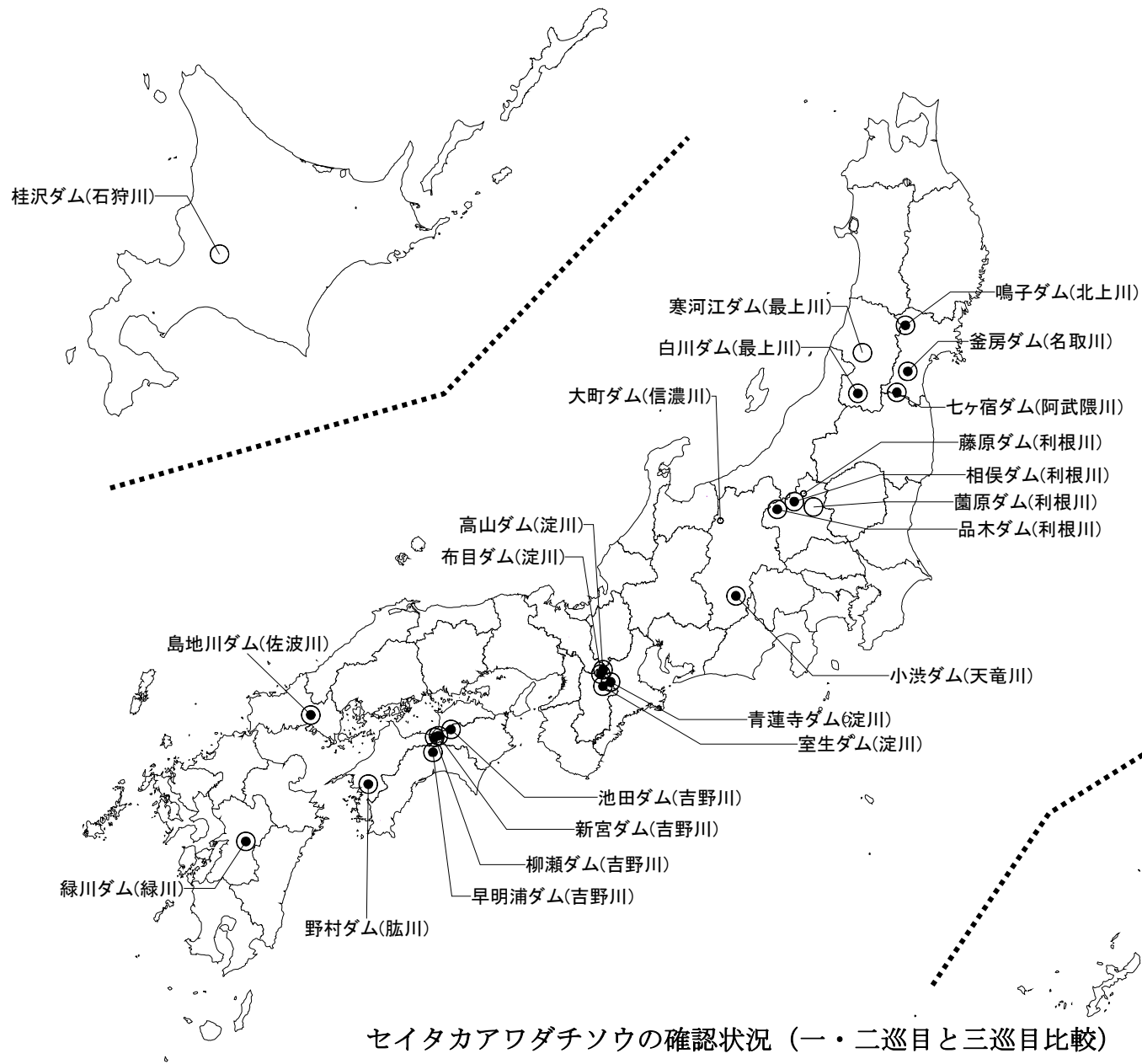


オオブタクサ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
◎	○	○	8
○	×	○	2
●	○	×	3
○	×	×	10
合計			23

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

オオブタクサの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

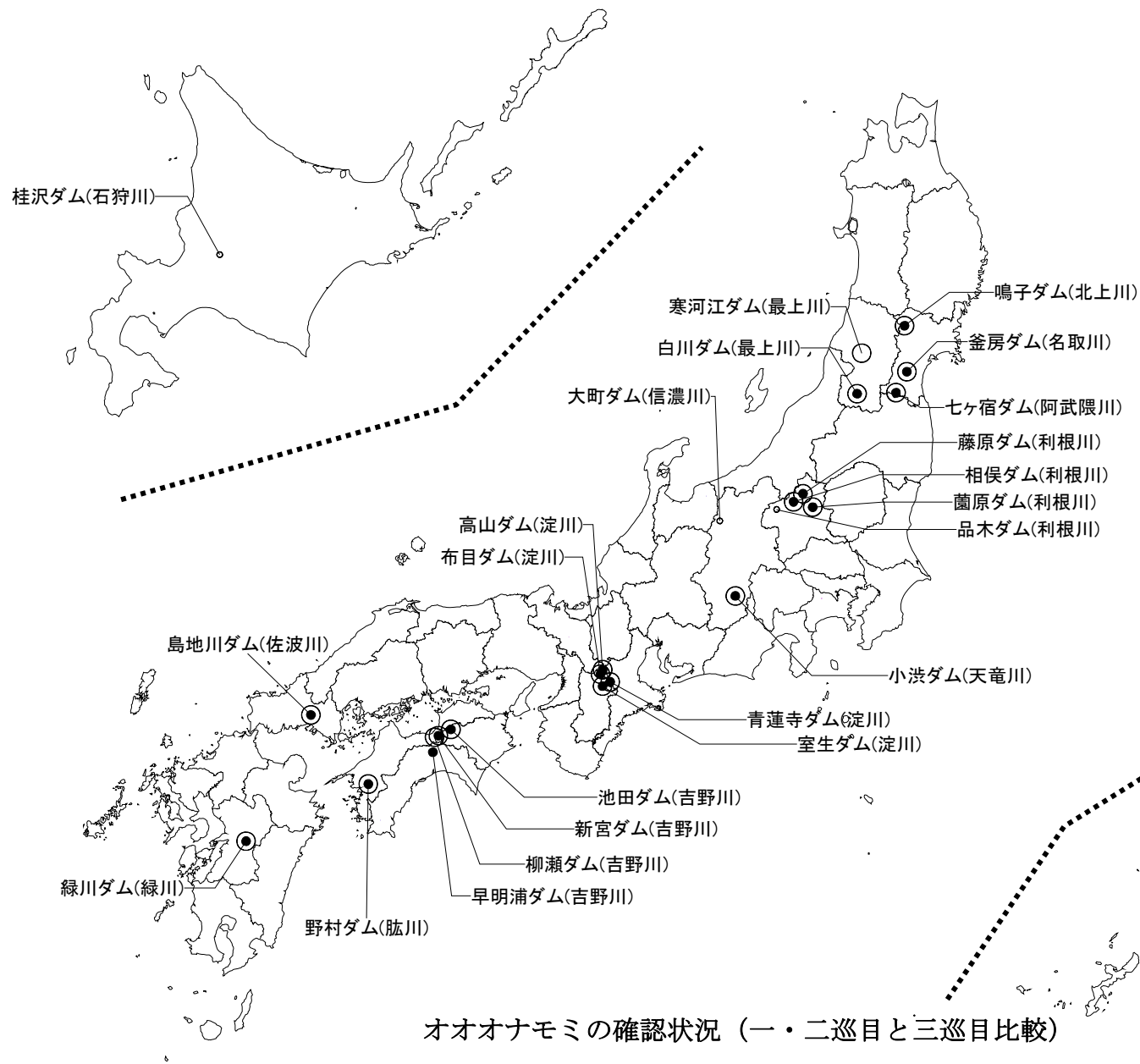


セイトカアワダチソウの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

セイトカアワダチソウ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	18
○	×	○	3
●	○	×	0
○	×	×	2
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

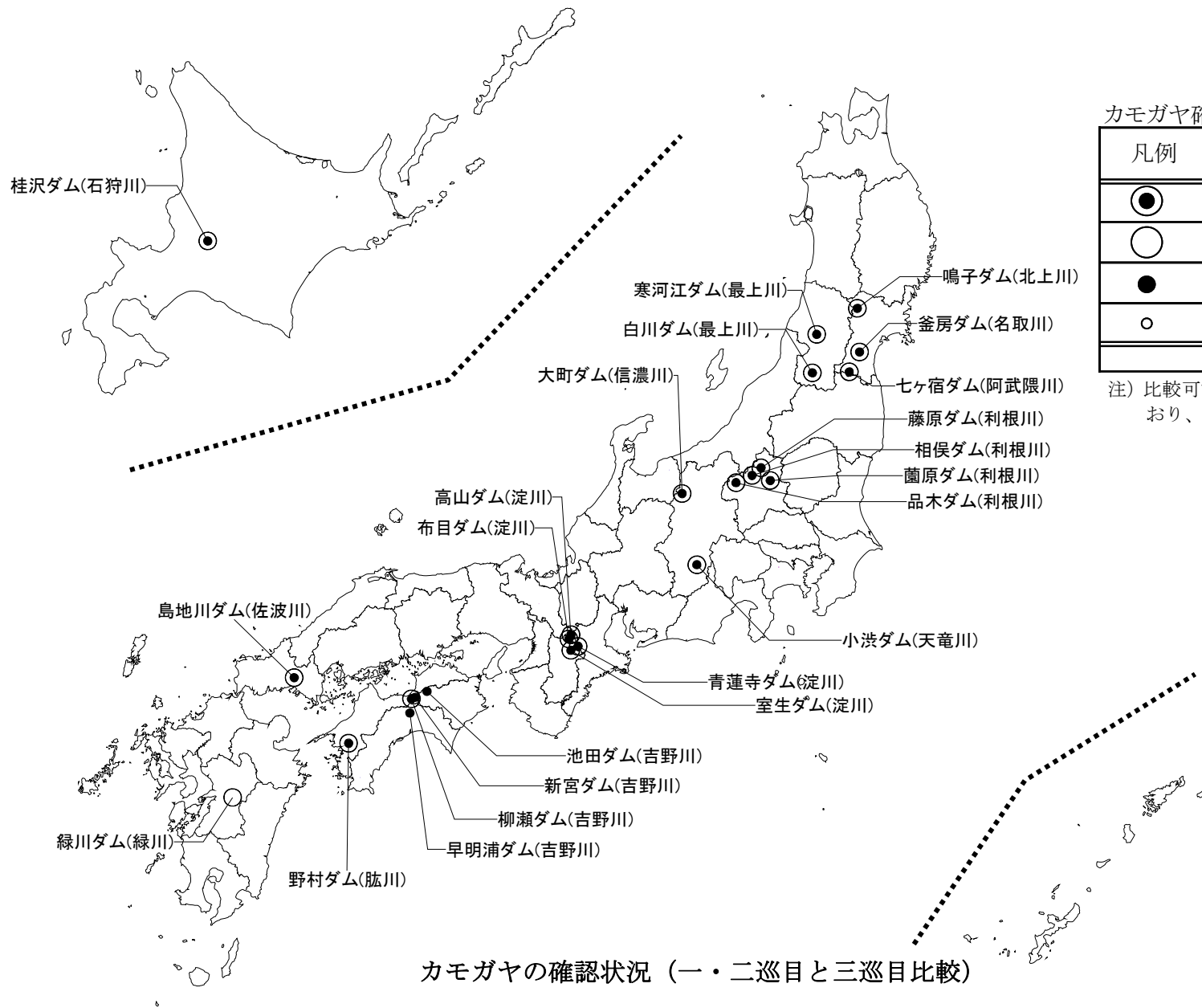


オオオナモミの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

オオオナモミ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	17
○	×	○	2
●	○	×	1
○	×	×	3
合計			23

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



カモガヤの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

カモガヤ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	19
⊗	×	○	1
●	○	×	3
○	×	×	0
合計			23

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



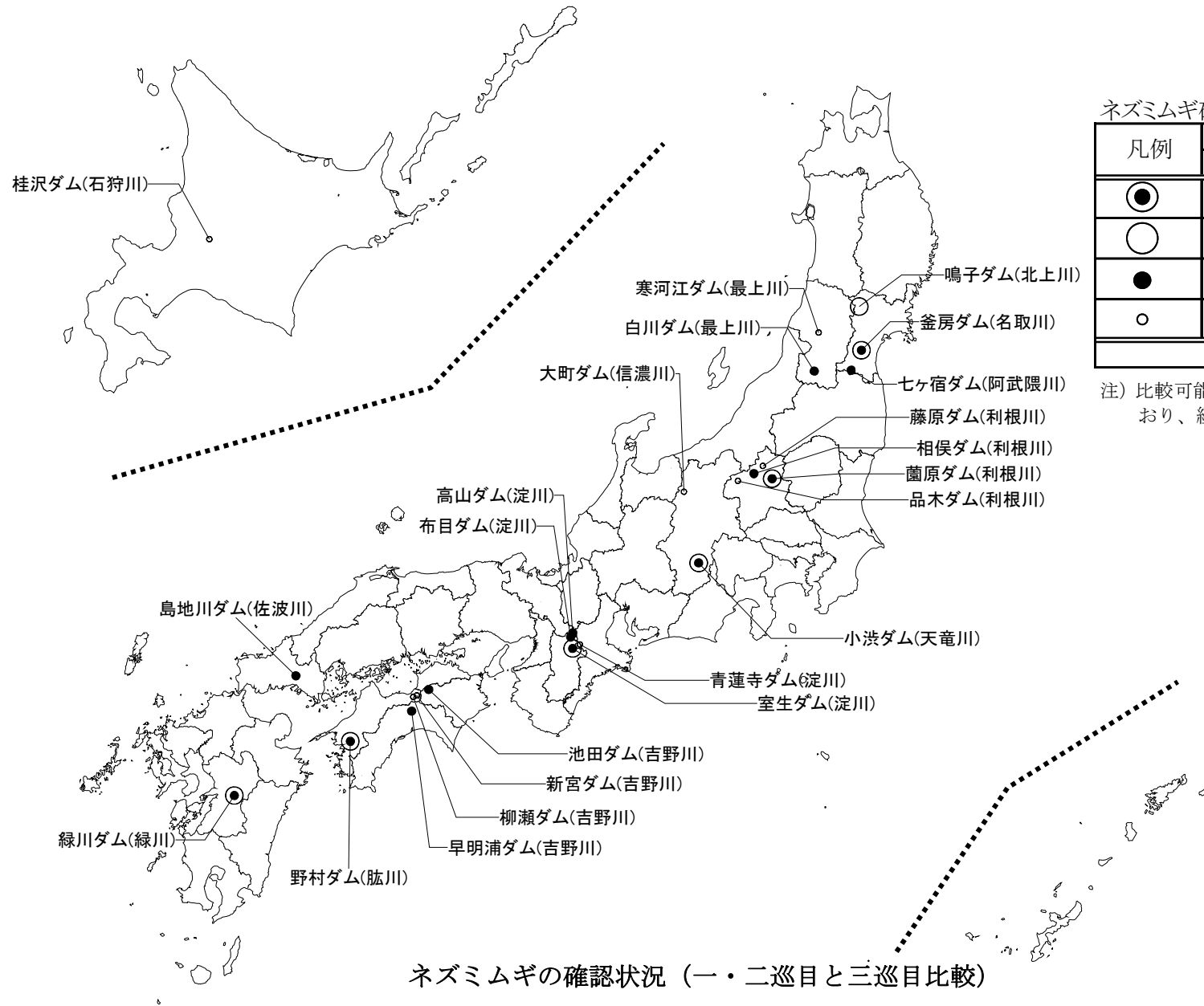
ホソムギの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

ホソムギ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	4
○	×	○	0
●	○	×	5
○	×	×	14
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

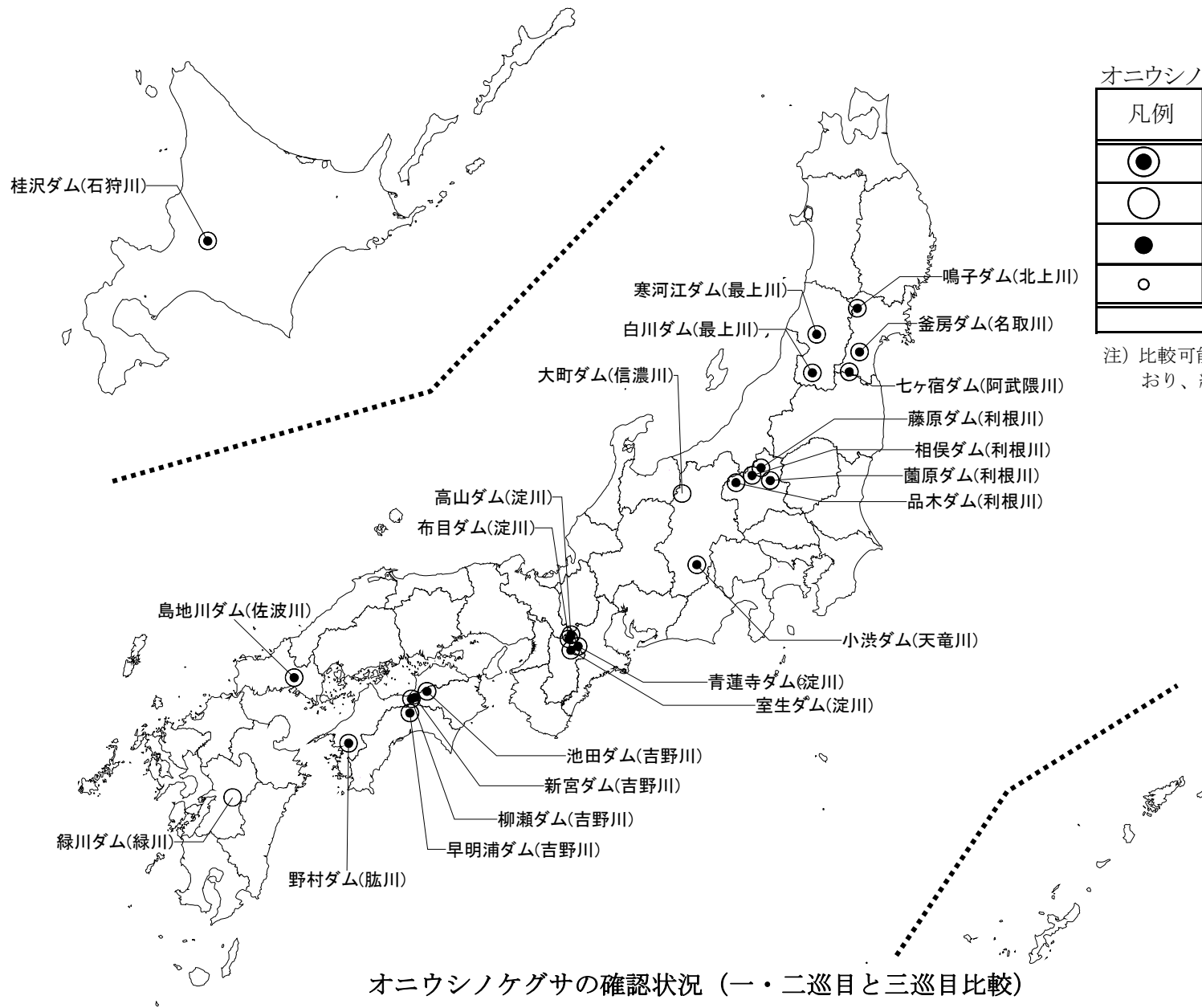




ネズミムギ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	6
○	×	○	1
●	○	×	8
○	×	×	8
合計			23

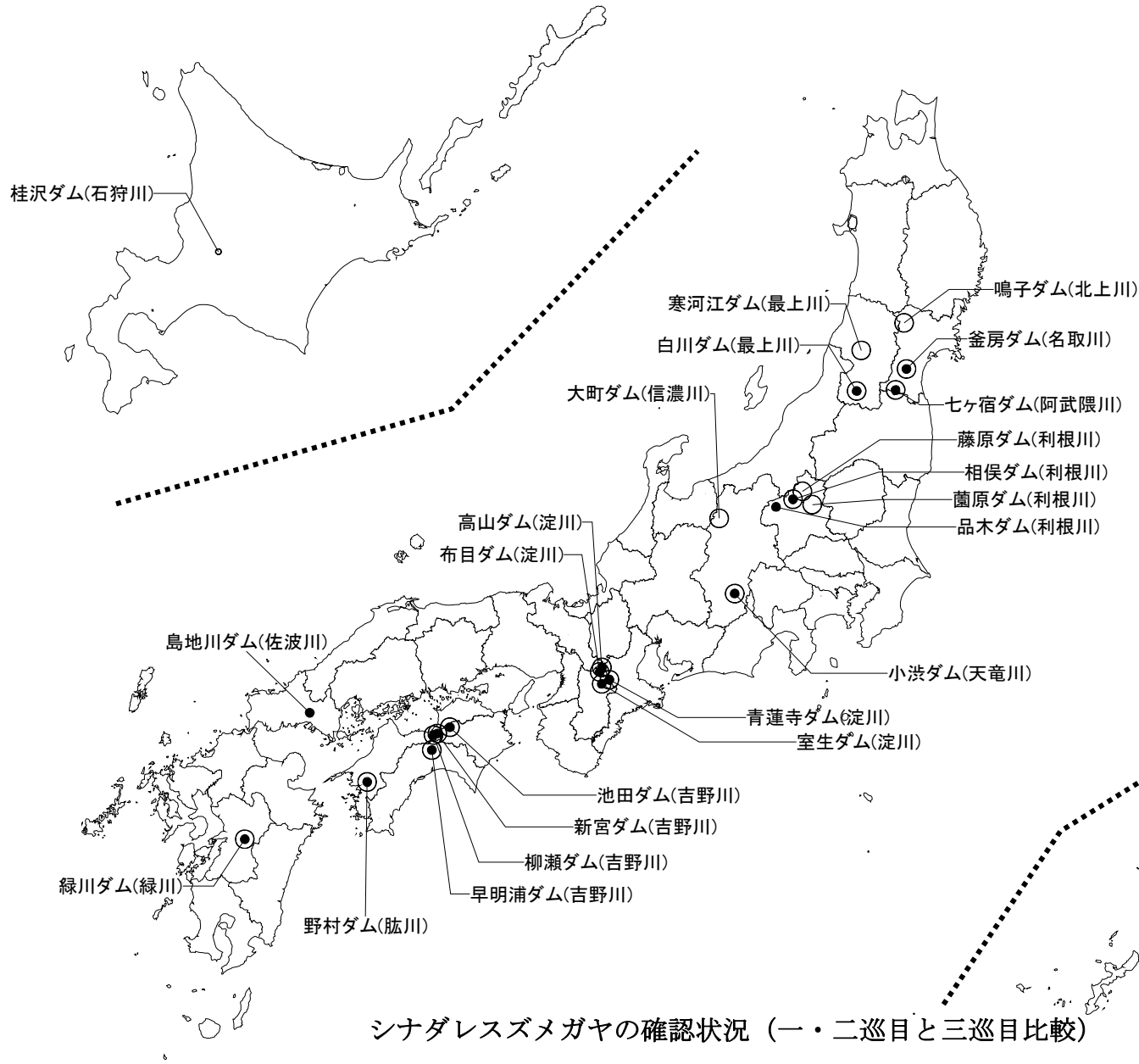
注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



オニウシノケグサ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	20
○	×	○	2
●	○	×	1
○	×	×	0
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



シナダレスズメガヤの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

シナダレスズメガヤ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	15
○	×	○	5
●	○	×	2
○	×	×	1
合計			23

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

(2) 林縁部の出現

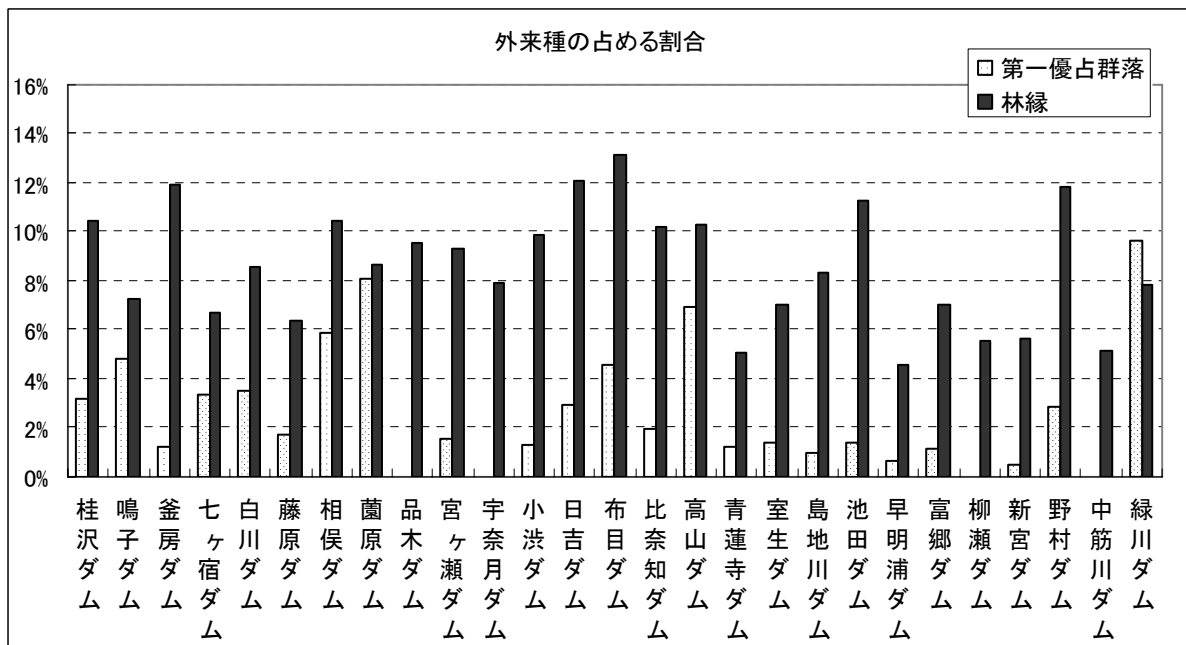
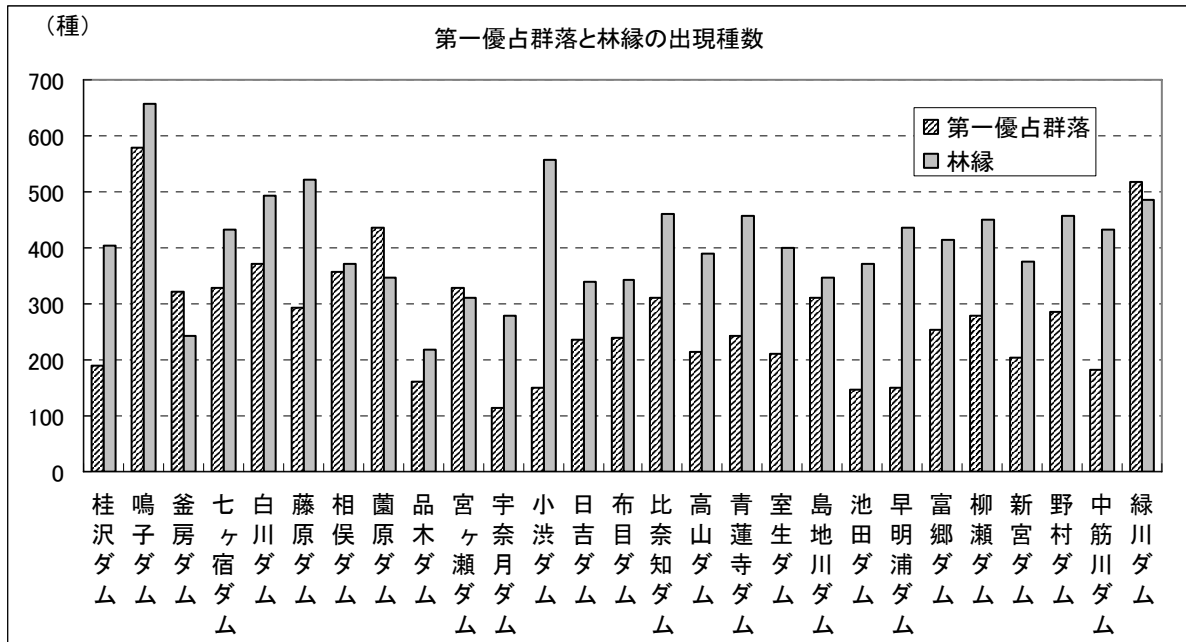
・ダム建設によりできた林縁部の植物相は多様だが、外来植物も多い  
 [資料Ⅱ-4-5]

本来森林であったところにダムが建設されることにより、森林が切り開かれ、林縁部（森と草地の境界）が出現します。このダムの建設によりできた林縁部という環境と、本来の植生である森林内の環境について、林縁部を調査した 27 ダムについて、確認種数と外来種が確認種に占める割合を比較しました。なお、林縁部は調査範囲内でもっとも面積の大きい植物群落の周りを調査しているため、種数は林縁部と調査範囲内で最も面積の大きい植物群落を代表的森林として比較しています。

ほとんど全てのダムで、林縁部の方が森林内よりも種数が多く、外来種の割合も高い結果となりました。このように、切り開かれた土地はいったん空き地となるため、外来種の侵入を招きやすい環境となっていることがわかりました。

各ダムにおける卓越群落（調査範囲内で最も面積の大きい植物群落）

地方	ダム名	森林の種類
北海道	桂沢ダム	トドマツ植林
東北	鳴子ダム	コナラ群落
	釜房ダム	クリ・コナラ群落
	七ヶ宿ダム	コナラ群落
	白川ダム	コナラ群落
関東	藤原ダム	ミズナラ群落
	相俣ダム	スギ・ヒノキ植林
	藪原ダム	コナラ群落
	品木ダム	クリ・コナラ群落
	宮ヶ瀬ダム	スギ・ヒノキ植林
北陸	宇奈月ダム	クマシデ・カエデ群落
中部	小渋ダム	シデ・コナラ群落
近畿	日吉ダム	スギ・ヒノキ植林
	布目ダム	スギ・ヒノキ植林
	比奈知ダム	スギ・ヒノキ植林
	高山ダム	コナラ群落
	青蓮寺ダム	スギ・ヒノキ植林
	室生ダム	スギ・ヒノキ植林
中国	島地川ダム	スギ・ヒノキ植林
四国	池田ダム	落葉広葉樹林
	早明浦ダム	スギ・ヒノキ植林
	富郷ダム	スギ・ヒノキ植林
	柳瀬ダム	スギ・ヒノキ植林
	新宮ダム	スギ・ヒノキ植林
	野村ダム	スギ・ヒノキ植林
	中筋川ダム	ヒノキ植林
九州	緑川ダム	スギ植林



注) 第一優占群落：調査範囲内で最も面積の大きい植物群落

東北の寒河江ダム、北陸の大町ダムは調査範囲に林縁部を設定していないため、比較していない。

## 5 鳥類調査の概要

### 5. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数 [資料Ⅱ-5-1]

- ・平成 16 年度に実施された 23 ダムの現地調査によって確認した鳥類は 16 目 46 科 195 種です。「日本鳥類目録改訂第 6 版」(日本鳥学会, 2000) には、日本の鳥類として 568 種が掲載されており、今回確認した種数は、その約 34%に相当します。
- ・今回の調査の結果、確認種数の多いダムは渡良瀬遊水地の 105 種、次いで大石ダムの 97 種、浦山ダムの 95 種などです。平成 16 年度に調査した 23 ダムでの平均確認種数は 78 種でした。
- ・また、全てのダムで確認された種は、アオサギ、トビ、キジバト、コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、ホオジロ、カケス、ハシブトガラスの 13 種でした。

#### (2) 特定種(鳥類) [資料Ⅱ-5-2]

- ・特定種として、今回の調査では、23 種を確認しています。
- ・国の天然記念物であるオジロワシ、オオワシ、イヌワシ、クマガラの 4 種を複数のダムで確認しています。

(注) 特定種について

鳥類においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境庁編(2002)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2 鳥類」掲載種

#### (3) 外来種(鳥類) [資料Ⅱ-5-3]

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の鳥類を掲げています。今回の調査では外来生物法で特定外来生物に指定されたガビチョウ、ソウシチョウを含む 5 種を確認しています。

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21~22 ページに掲載した文献および I-23~24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

## 鳥類確認種一覧(平成16年度) &lt; 1 &gt;

No.	目名	科名	種名	学名	確認ダム数																									
					北海道 滝里ダム	十勝 漁川ダム	北海道 矢木沢ダム	関東 奈良保ダム	品木 品木ダム	下久保 下久保ダム	草木 草木ダム	渡良瀬 渡良瀬水地	浦山 浦山ダム	大石 大石ダム	宇奈月 宇奈月ダム	手取川 手取川ダム	新豊根 新豊根ダム	中部 味噌川ダム	阿木川 阿木川ダム	岩屋 岩屋ダム	中国 土師ダム	八田原 八田原ダム	四国 中筋川ダム	九州 耶馬溪ダム	寺内 寺内ダム	竜門 竜門ダム				
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	●	●																				16				
2			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>																							2			
3			アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>	●																							2		
4			カラムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>																								3		
5	ペリカン目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17				
6			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>	●																						1			
7	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>																						1				
8			ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>																								1		
9			ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>																								1		
10			ゴイサギ	<i>Nvcticorax nycticorax</i>																								10		
11			ササゴイ	<i>Butorides striatus</i>																								4		
12			アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>																								1		
13			ダイサギ	<i>Egretta alba</i>																								9		
14			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>																								2		
15			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>																								5		
16			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>																								23		
17			カモ目	カモ科	コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>																						1		
18					オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	
19					マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22
20					カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
21					コガモ	<i>Anas crecca</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
22					トモエガモ	<i>Anas formosa</i>																								1
23	ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>																										3		
24	オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>																										5		
25	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>			●																							11		
26	アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>																										1		
27	オナガガモ	<i>Anas acuta</i>			●																							8		
28	ハシビロガモ	<i>Anas chryseata</i>																										2		
29	アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> var. <i>domesticus</i>																										4		
30	ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>																										8		
31	キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>			●	●																						7		
32	スズガモ	<i>Aythya marila</i>																										2		
33	シナガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>			●																							1		
34	ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>			●	●																						2		
35	ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>																										1		
36	カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11		
37	タカ目	タカ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●																					15				
38			ハチクマ	<i>Perms apivorus</i>																							9			
39			トビ	<i>Milvus migrans</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23		
40			オシロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	●	●	●																					4		
41			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	●	●	●																					3		
42			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16		
43			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7		
44			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18		
45			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18		
46			サシバ	<i>Butastur indicus</i>																								12		
47		クマタカ	<i>Spizaetus nipalensis</i>																								15			
48		イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>																								4			
49		ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>																								1			
50		チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>																								1			
51		ハヤブサ科	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>																							10			
52			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>																								3		
53			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>																								1		
54			チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>																								2		
55		キジ目	ライチョウ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	●	●	●																			3			
56			キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>																							13		
57	キジ			<i>Phasianus colchicus</i>																							12			
58	ヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii</i>																								12				
59	ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>																						1				
60			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>																							1			
61			バン	<i>Gallinula chloropus</i>																							3			
62			オオバン	<i>Fulica atra</i>																								1		
63	チドリ目	チドリ科	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	●																					4				
64			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	●																						6			
65		シギ科	ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>																							1			
66			アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>																							1			
67			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>																							3			
68			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2			
69			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11		
70			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5		
71			ダシギ	<i>Gallinago gallinago</i>																								3		
72			オオシシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2		
73			アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>																								1		
74			カモメ科	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	●																						3		
75		セグロカモメ		<i>Larus argentatus</i>																							2			
76		ウミネコ		<i>Larus crassirostris</i>																								3		
77		アジサシ		<i>Sterna hirundo</i>																								1		
78		コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>																								1			

## 鳥類確認種一覧(平成16年度) &lt; 2 &gt;

No.	目名	科名	種名	学名	関東														確認 ダム 数								
					北海道	滝里 ダム	漁川 ダム	十勝 ダム	矢木 沢ダム	奈良 俣ダム	品木 ダム	下久 保ダム	草木 ダム	渡良 瀬遊水地	浦山 ダム	大石 ダム	宇奈 月ダム	手取 川ダム		新豊 根ダム	味噌 川ダム	阿木 川ダム	岩屋 ダム	土師 ダム	八田 原ダム	中筋 川ダム	那馬 溪ダム
79	ハト目	ハト科	ドバト	<i>Columba livia var. domesticus</i>																							11
80			キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i>																							23
81			アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>																							21
82	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Cuculus fugax</i>																							9
83			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>																							8
84			ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>																							15
85			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>																							19
86	フクロウ目	フクロウ科	トラフズク	<i>Asio otus</i>																							1
87			コムシク	<i>Asio flammeus</i>																							1
88			コノハズク	<i>Otus scops</i>																							8
89			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>																							9
90			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>																							13
91	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>																							17
92	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>																							4
93			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>																							9
94	ブッポウソウ目	カワセミ科	ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>																							17
95			アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>																							5
96			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>																							22
97		ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>																							3
98		ヤツガシラ科	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>																							1
99	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>																							1
100			アオゲラ	<i>Ficus awokera</i>																							20
101			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>																							3
102			クマガゲラ	<i>Dryocopus martius</i>																							3
103			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>																							18
104			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>																							10
105			コアカゲラ	<i>Dendrocopos minor</i>																							1
106			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>																							23
107		ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura</i>																							1
108	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>																							4
109		ツバメ科	ショウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>																							1
110			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>																							16
111			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>																							3
112			イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>																							20
113		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>																							22
114			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>																							18
115			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>																							23
116			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>																							13
117			タヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>																							2
118		サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>																							9
119			リュウキウサンショウクイ※	<i>Pericrocotus divaricatus teginae</i>																							1
120		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>																							23
121		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>																							23
122		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasi</i>																							22
123		ミンサザイ科	ミンサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>																							19
124		イワヒバリ科	イワヒバリ	<i>Prunella collaris</i>																							1
125			カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>																							9
126		ツグミ科	コマドリ	<i>Erithacus akahige</i>																							7
127			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>																							2
128			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>																							11
129			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>																							19
130			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>																							19
131			ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>																							6
132			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>																							4
133			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>																							14
134			マミジロ	<i>Turdus sibiricus</i>																							3
135			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>																							15
136			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>																							9
137			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>																							16
138			マミチヤジナイ	<i>Turdus obscurus</i>																							1
139			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>																							19
140		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulus canorus</i>																							5
141			ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>																							4
142		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>																							20
143			ウグイス	<i>Cettia diphone</i>																							23
144			エゾセンニユウ	<i>Locustella fasciolata</i>																							1
145			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>																							3
146			オオヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>																							5
147			メボムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>																							10
148			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>																							8
149			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>																							20
150			キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>																							15
151			セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>																							1



## 鳥類確認種一覧 (平成16年度) &lt; 3 &gt;

No.	目名	科名	種名	学名	北海道		関東					北陸			中部			中国		四国		九州		確認種数			
					滝里ダム	漁川ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	品木ダム	下久保ダム	草木ダム	渡良瀬遊水池	浦山ダム	大石ダム	宇奈月ダム	手取川ダム	新豊根ダム	味噌川ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	土師ダム	八田原ダム	中筋川ダム		耶馬溪ダム	寺内ダム	竜門ダム
152		ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18			
153			オオトリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21			
154			エゾヒタキ	<i>Muscicapa griseictica</i>			●	●										●	●	●	●	●	●	8			
155			コサメヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	●	●						●					●							7			
156		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>			●					●					●						9				
157		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
158		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Parus palustris</i>	●	●	●																	3			
159			コガラ	<i>Parus montanus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17			
160			ヒガラ	<i>Parus ater</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18			
161			ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22			
162			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
163		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13			
164		キンバシリ科	キンバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	●	●	●	●	●															7			
165		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22			
166		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
167			コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i>																				1			
168			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	●																			1			
169			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18			
170			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>								●	●					●	●	●	●	●	●	8			
171			ノジロ	<i>Emberiza sulphurata</i>								●												1			
172			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	22			
173			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14			
174			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>								●												1			
175		アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	●	●		●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11			
176			カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21			
177			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13			
178			ハギマンコ	<i>Leucosticte arctoa</i>			●					●												3			
179			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>			●																	1			
180			ベニマンコ	<i>Urugus sibiricus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21			
181			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14			
182			イカル	<i>Eophona personata</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21			
183			シメ	<i>Coccothraustes</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	7			
184		ハタオリドリ科	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	●	●	●	●				●												6			
185			スズメ	<i>Passer montanus</i>		●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16			
186		ムクドリ科	コムクドリ	<i>Sturnus philippensis</i>	●	●				●														4			
187			ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>				●	●															5			
188		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
189			オナガ	<i>Cyanopica cyana</i>					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3			
190			カササギ	<i>Pica pica</i>																			●	1			
191			ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>				●																2			
192			コクマルガラス	<i>Corvus dauricus</i>							●													1			
193			ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>							●													2			
194			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	21			
195			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	23			
確認種数					92	81	77	81	88	69	76	73	105	95	97	60	90	62	77	68	67	85	70	66	66	87	66

注1) 本リストは家禽・籠抜けを含む

注2) スクリーニング委員会による指摘により種まで同定に至っていない結果については省略した。

注3) ※: 識別可能な亜種が同一地域に生息しており、一方の亜種(サンショウクイ)が特定種であるため、サンショウクイとリュウキュウサンショウクイを分けて示した。

鳥類特定種一覧（平成16年度）

No.	目と名	科と名	種と名	選定基準			北海道			関東					北陸			中部			中国	四国	九州			確認ダム数			
				①	②	③	滝里ダム	漁川ダム	十勝ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	品木ダム	下久保ダム	草木ダム	渡良瀬遊水地	浦山ダム	大石ダム	宇奈月ダム	手取川ダム	新豊根ダム	味噌川ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	土師ダム	八田原ダム		中筋川ダム	耶馬溪ダム	寺内ダム
1	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ			EN						●																1	
2			ミゾゴイ			NT												●											1
3			チュウサギ			NT																	●	●					2
4	カモ目	カモ科	トモエガモ			VU																			●		1		
5	タカ目	タカ科	ミサゴ			NT	●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
6			ハチクマ			NT				●				●	●		●	●	●	●	●	●						9	
7			オジロワシ	国天	保存	EN	●	●							●														4
8			オオワシ	国天	保存	VU	●	●								●													3
9			オオタカ		保存	VU	●	●		●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
10			ハイタカ			NT		●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
11			クマタカ		保存	EN				●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	15
12			イヌワシ	国天	保存	EN				●						●	●	●								●	●	●	4
13			チュウヒ			VU								●															1
14				ハヤブサ科	ハヤブサ※		保存	VU						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10
15	キジ目	ライチョウ科	エゾライチョウ			DD	●	●	●																		3		
16	チドリ目	シギ科	オオジシギ			NT	●		●																		2		
17		カモメ科	コアジサシ※			VU						●															1		
18	ブッポウソウ目	ブッポウソウ科	ブッポウソウ※			VU			●					●		●											3		
19	キツツキ目	キツツキ科	クマガラ	国天		VU	●	●	●																		3		
20		ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ※		保存	EN															●						1		
21	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ※			VU			●	●	●			●		●				●					●	●	9		
22		ホオジロ科	コジュリン※			VU						●															1		
23			ノジコ※			NT								●													1		
確認種数							7	5	5	6	6	3	2	3	8	6	11	5	8	6	3	3	6	7	4	3	6	6	5

選定基準

①文化財保護法(昭和51年)

国天:国指定天然記念物 … 4種確認

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律[種の保存法](平成5年)

保存:国内希少野生動植物種 … 7種確認

③環境庁編(2002)「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー 2 鳥類」

CR:絶滅危惧ⅠA類-ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN:絶滅危惧ⅠB類-ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種… 5種

VU:絶滅危惧Ⅱ類-絶滅の危険が増大している種 … 10種

NT:準絶滅危惧-現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種 … 7種

DD:情報不足-評価するだけの情報が不足している種 … 1種

Lp:絶滅のおそれのある地域個体群-地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

注)※は亜種指定の特定種であるため、亜種名を表記した。

鳥類外来種一覧（平成 16 年度）

No.	目和名	科和名	種和名	外来種	北海道			関東					北陸			中部			中国	四国	九州			確認ダム数			
					滝里ダム	漁川ダム	十勝ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	品木ダム	下久保ダム	草木ダム	渡良瀬遊水地	浦山ダム	大石ダム	宇奈月ダム	手取川ダム	新豊根ダム	味噌川ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	土師ダム	八田原ダム		中筋川ダム	耶馬溪ダム	寺内ダム
1	カモ目	カモ科	アヒル										●	●									●			4	
2	キジ目	キジ科	コジュケイ						●			●	●	●				●					●	●	●	13	
3	ハト目	ハト科	ドバト				●						●	●				●				●	●	●	11		
4	スズメ目	チドリ科	ガビチョウ	特定					●														●	●	●	5	
5			ソウシチョウ	特定																			●	●	●	4	
確認種数					0	0	1	0	0	0	2	2	3	5	0	0	0	1	0	2	2	3	1	2	4	5	4

凡例) 特定: 外来生物法で指定された特定外来生物  
 注) 外来種には、家禽・籠抜けを含む。

5. 2 ダム湖周辺環境の特徴

(1) 高次消費者である猛禽類の確認状況

・多くのダムでクマタカ、オオタカ、ミサゴを確認 [資料Ⅱ-5-4]

食物連鎖の上位に位置する生物種の生息状況が、下位に位置する生物を含めた地域の生態系の指標となるという観点から、ダム湖周辺環境における生態系の高次消費者である猛禽類のイヌワシ、クマタカ、オオタカ、オジロワシ、ミサゴの確認状況を整理しました。

イヌワシ、クマタカは環境省の改訂・レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）に、オオタカは絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されており、自然環境を保全する上でしばしば注目されている種です。ノウサギなどの中型哺乳類やヘビ類、他の鳥類を主な餌としているため、これら餌となる動物が生息する陸域環境が残されている必要があります。

また、オジロワシは環境省の改訂・レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類に、ミサゴは準絶滅危惧（現時点で絶滅危険度は小さいが、生息環境の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）に指定されており、水辺環境を保全する上で注目される種です。両種は魚類を主な餌とし、オジロワシはさらに水鳥類や哺乳類も捕食あるいは死体をよく採食するため、これら餌となる動物が生息する水辺環境が残されている必要があります。

平成16年度に調査を実施した23ダムのうち、オオタカを16ダムで確認したほか、クマタカを15ダム、イヌワシを4ダム、ミサゴを15ダム、オジロワシを4ダムで確認しています。

イヌワシ、クマタカの確認状況

イヌワシ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム	\	\	×
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	×	×
関東	矢木沢ダム	×	○	○
	奈良俣ダム	×	×	×
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	渡良瀬遊水地	×	×	×
	浦山ダム	\	\	×
北陸	大石ダム	○	○	○
	宇奈月ダム	\	\	○
	手取川ダム	○	○	○
中部	新豊根ダム	×	×	×
	味噌川ダム	\	×	×
	阿木川ダム	×	×	×
中国	岩屋ダム	×	×	×
	土師ダム	×	×	×
八田原ダム	八田原ダム	\	\	×
	中筋川ダム	\	×	×
九州	耶馬溪ダム	×	×	×
	寺内ダム	×	×	×
	竜門ダム	\	\	×
確認ダム数		2	3	4
うち比較可能なダム		2	3	3

クマタカ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム	\	\	×
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	○	×
関東	矢木沢ダム	○	○	○
	奈良俣ダム	○	○	○
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	○	○	○
	草木ダム	○	○	○
	渡良瀬遊水地	×	×	×
	浦山ダム	\	\	○
北陸	大石ダム	○	○	○
	宇奈月ダム	\	\	○
	手取川ダム	○	○	○
中部	新豊根ダム	○	○	○
	味噌川ダム	\	○	○
	阿木川ダム	×	×	×
中国	岩屋ダム	○	○	○
	土師ダム	○	×	○
八田原ダム	八田原ダム	\	\	×
	中筋川ダム	\	○	×
九州	耶馬溪ダム	×	○	○
	寺内ダム	○	○	○
	竜門ダム	\	\	○
確認ダム数		10	13	15
うち比較可能なダム		10	13	12

凡例) ○：確認、×：未確認、\：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

## オオタカ、オジロワシ、ミサゴの確認状況

オオタカ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム			○
	漁川ダム	×	○	○
	十勝ダム	○	×	×
関東	矢木沢ダム	○	○	○
	奈良俣ダム	○	○	○
	品木ダム	○	○	○
	下久保ダム	○	○	○
	草木ダム	○	○	×
	渡良瀬遊水地	○	○	○
	浦山ダム			○
北陸	大石ダム	○	○	○
	宇奈月ダム			○
中部	手取川ダム	○	○	×
	新豊根ダム	×	×	○
	味噌川ダム		×	×
	阿木川ダム	○	×	×
中国	岩屋ダム	○	○	○
	土師ダム	×	○	×
四国	八田原ダム			×
	中筋川ダム		○	○
九州	耶馬溪ダム	×	○	○
	寺内ダム	×	○	○
	竜門ダム			○
確認ダム数		11	14	16
うち比較可能なダム		11	14	12

オジロワシ

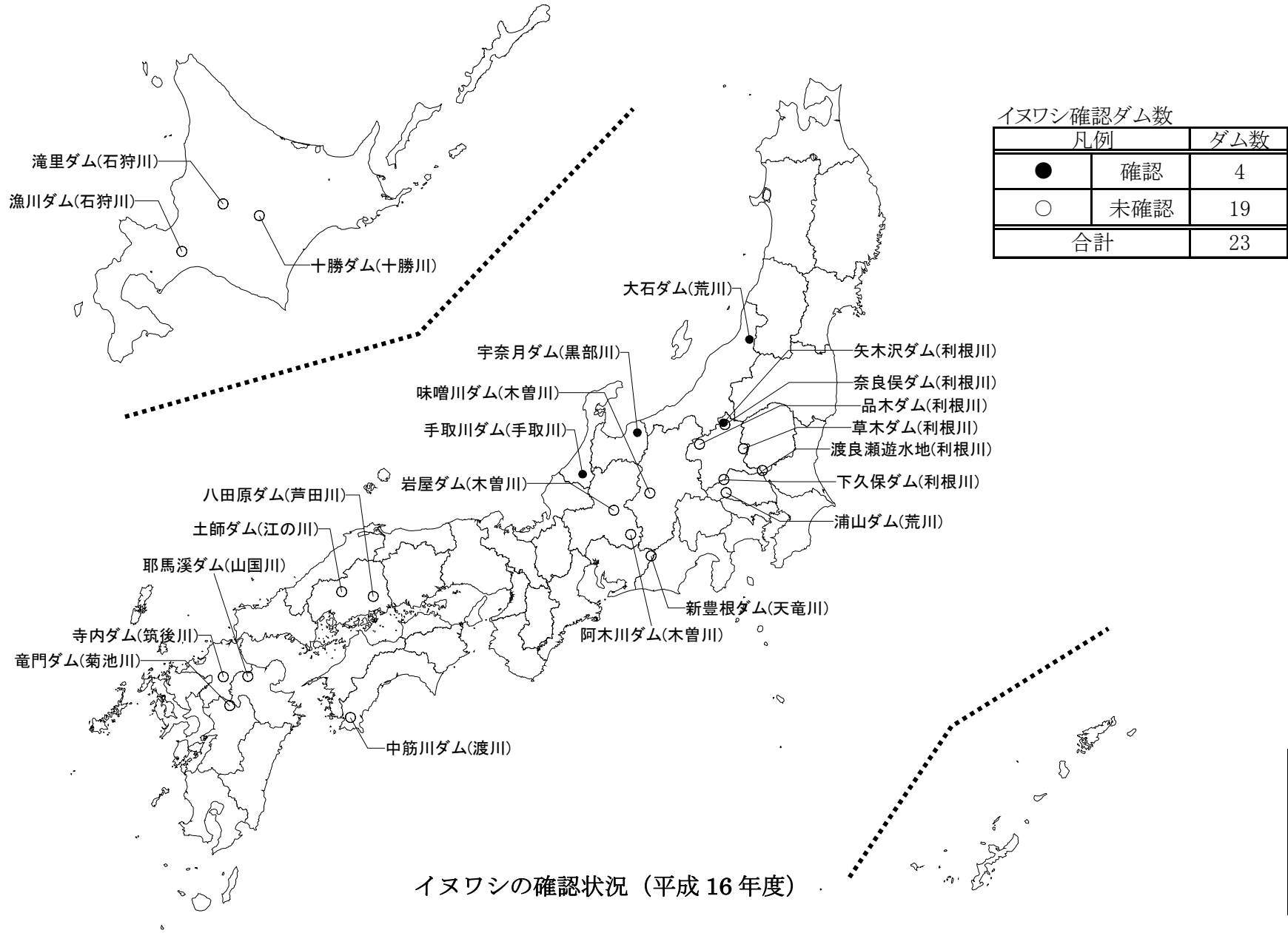
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム			○
	漁川ダム	×	×	○
	十勝ダム	○	○	○
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	渡良瀬遊水地	×	×	×
	浦山ダム			×
北陸	大石ダム	○	○	○
	宇奈月ダム			×
中部	手取川ダム	○	○	×
	新豊根ダム	×	×	×
	味噌川ダム		×	×
	阿木川ダム	×	×	×
中国	岩屋ダム	×	×	×
	土師ダム	×	×	×
四国	八田原ダム			×
	中筋川ダム		×	×
九州	耶馬溪ダム	×	×	×
	寺内ダム	×	×	×
	竜門ダム			×
確認ダム数		3	3	4
うち比較可能なダム		3	3	3

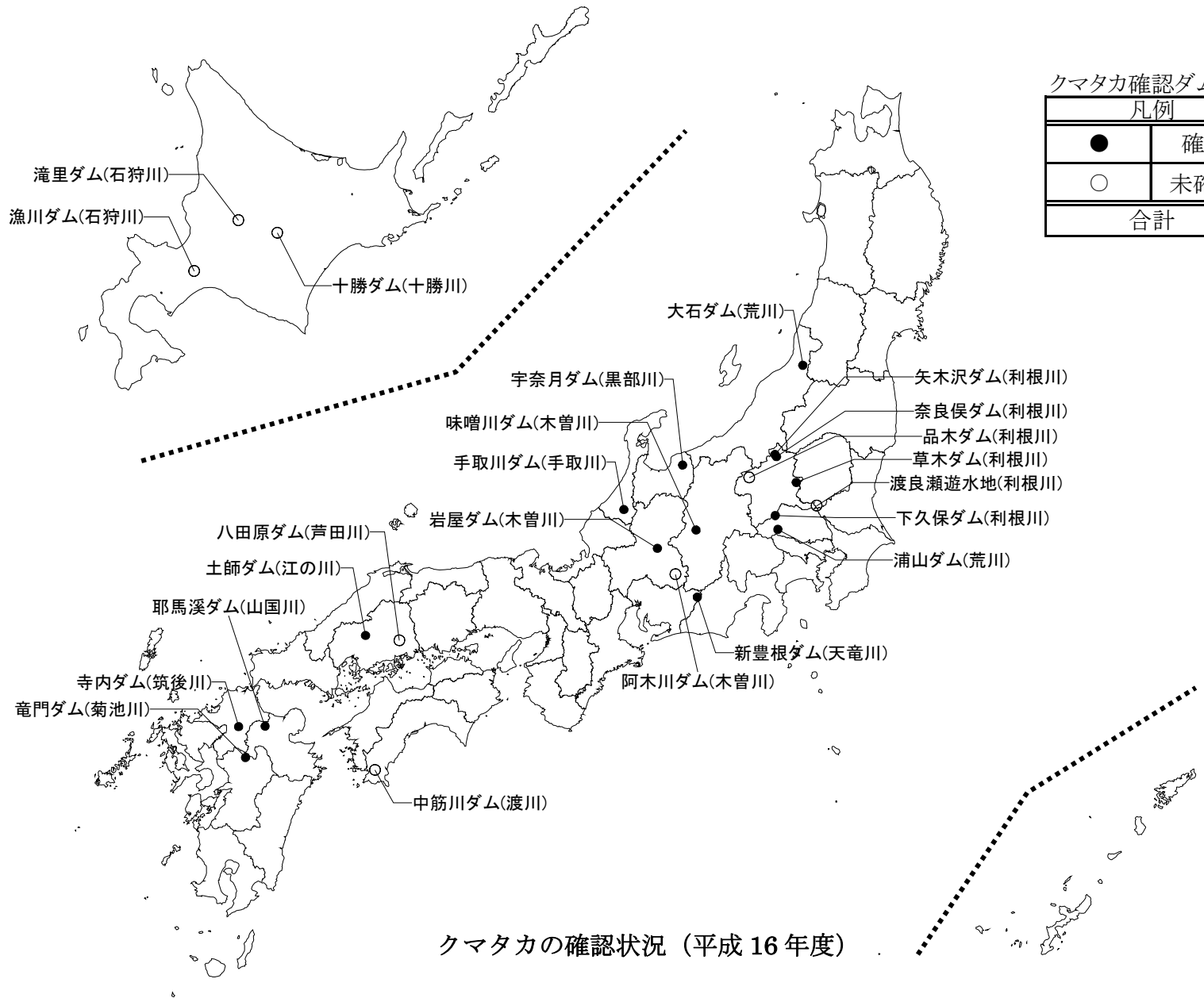
ミサゴ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム			○
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	×	×
関東	矢木沢ダム	×	×	○
	奈良俣ダム	×	×	○
	品木ダム	×	○	×
	下久保ダム	○	×	×
	草木ダム	○	×	×
	渡良瀬遊水地	○	○	○
	浦山ダム			○
北陸	大石ダム	×	○	○
	宇奈月ダム			×
中部	手取川ダム	○	○	○
	新豊根ダム	○	○	○
	味噌川ダム		×	×
	阿木川ダム	○	○	×
中国	岩屋ダム	○	○	○
	土師ダム	×	○	○
四国	八田原ダム			○
	中筋川ダム		○	○
九州	耶馬溪ダム	○	○	○
	寺内ダム	○	○	○
	竜門ダム			○
確認ダム数		9	11	15
うち比較可能なダム		9	11	11

凡例) ○：確認、×：未確認、\：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

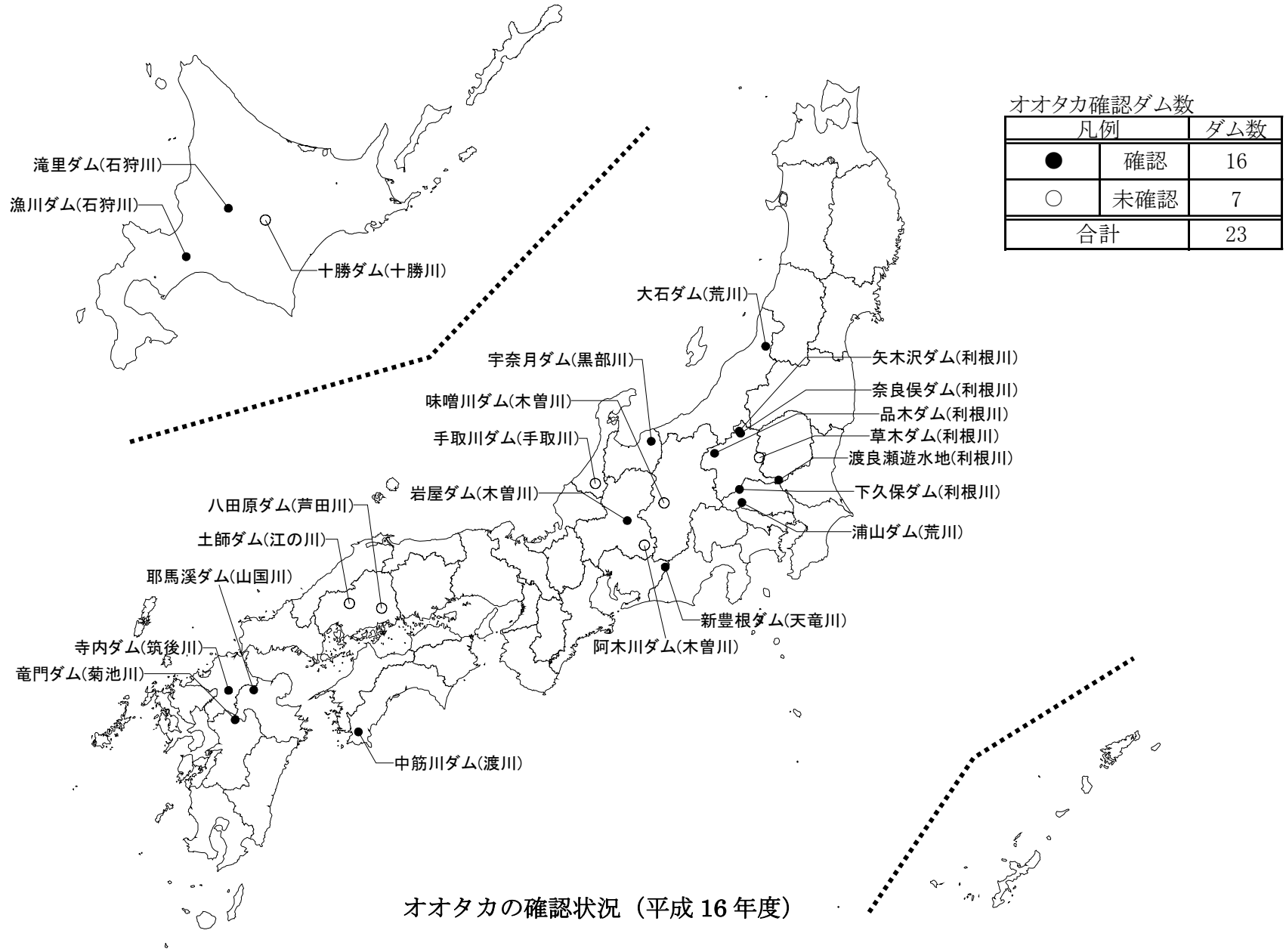




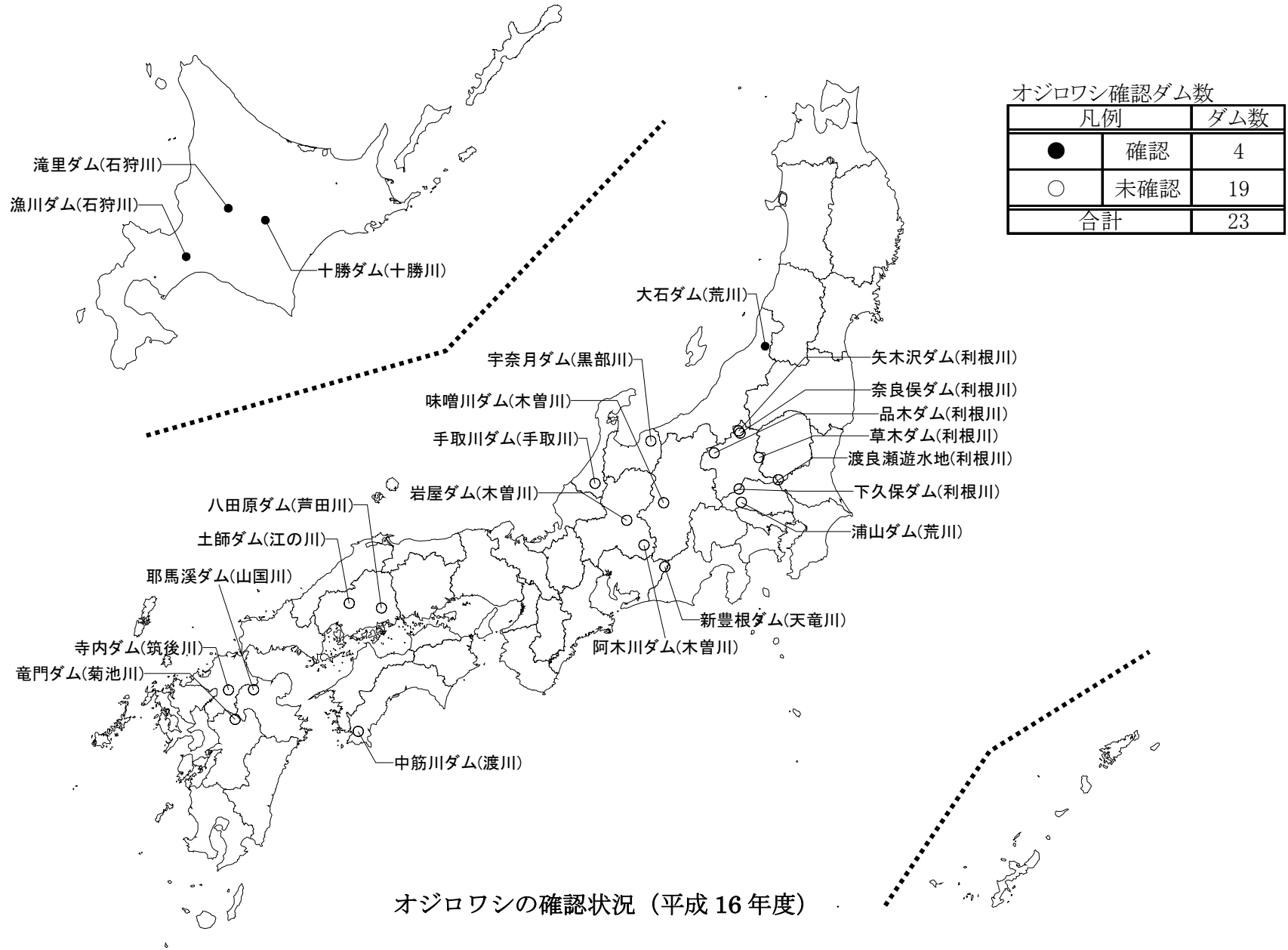
クマタカ確認ダム数

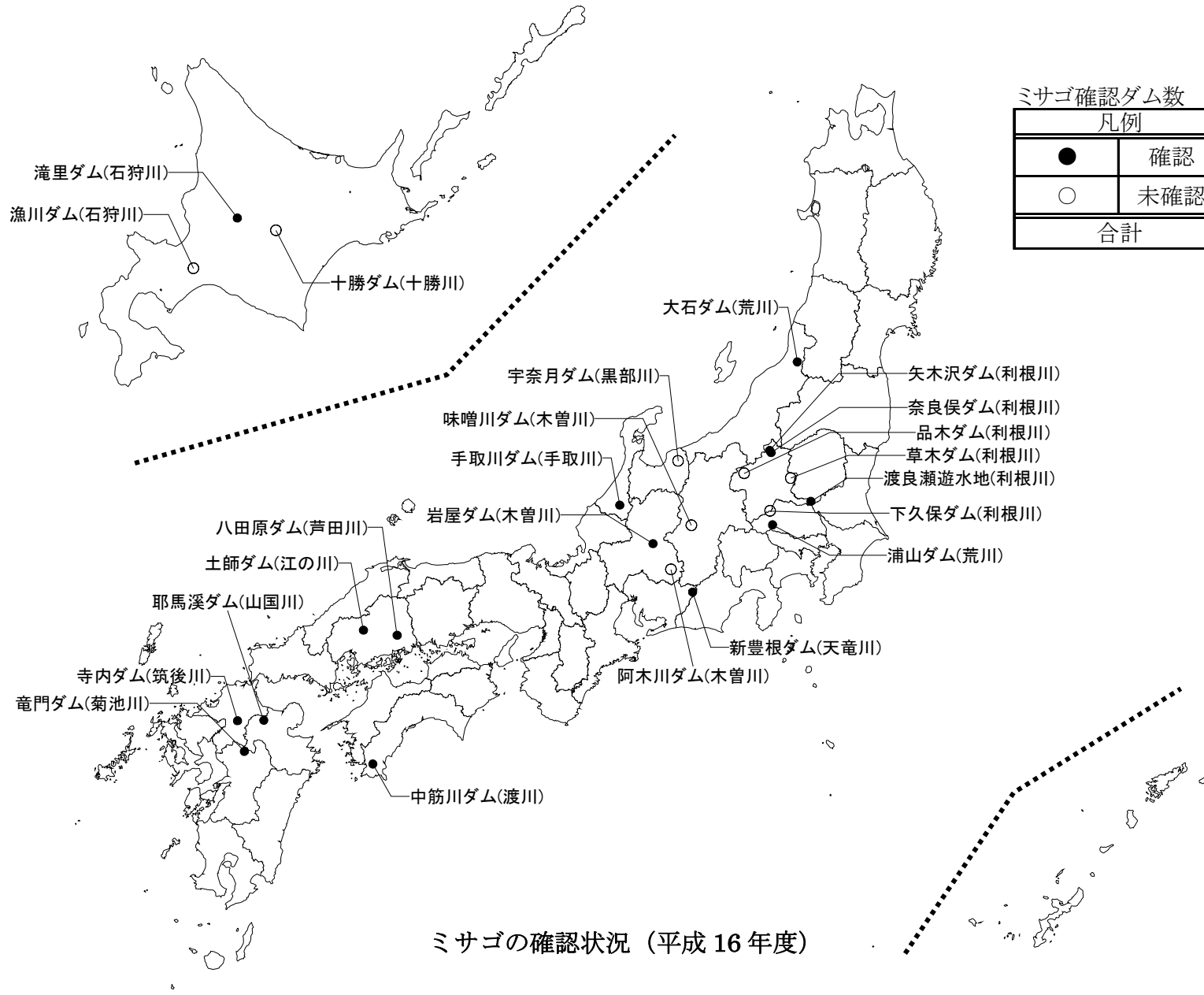
凡例		ダム数
●	確認	15
○	未確認	8
合計		23

クマタカの確認状況 (平成 16 年度)









ミサゴ確認ダム数

凡例	ダム数
●	確認 15
○	未確認 8
合計	23

(2) ダム湖周辺の河川環境の指標となる種の確認状況

・カワウの確認ダム数が増加 [資料Ⅱ-5-5]

カワウは、内湾部や内陸の河川、湖沼などに生息し、その近くの林などで集団繁殖します。主に魚類や甲殻類を潜水して捕らえます。1960年代後半から1970年代にかけて、河川環境の悪化により数千個体にまで減少し、絶滅が危惧されましたが、近年の水質改善等の河川環境の改善により現在では個体数が増加しています。

平成16年度に調査を実施した23ダムのうち、17ダムでカワウを確認しました。このうち関東の浦山ダムのダム湖周辺では、カワウの求愛行動や採餌行動が確認されています。

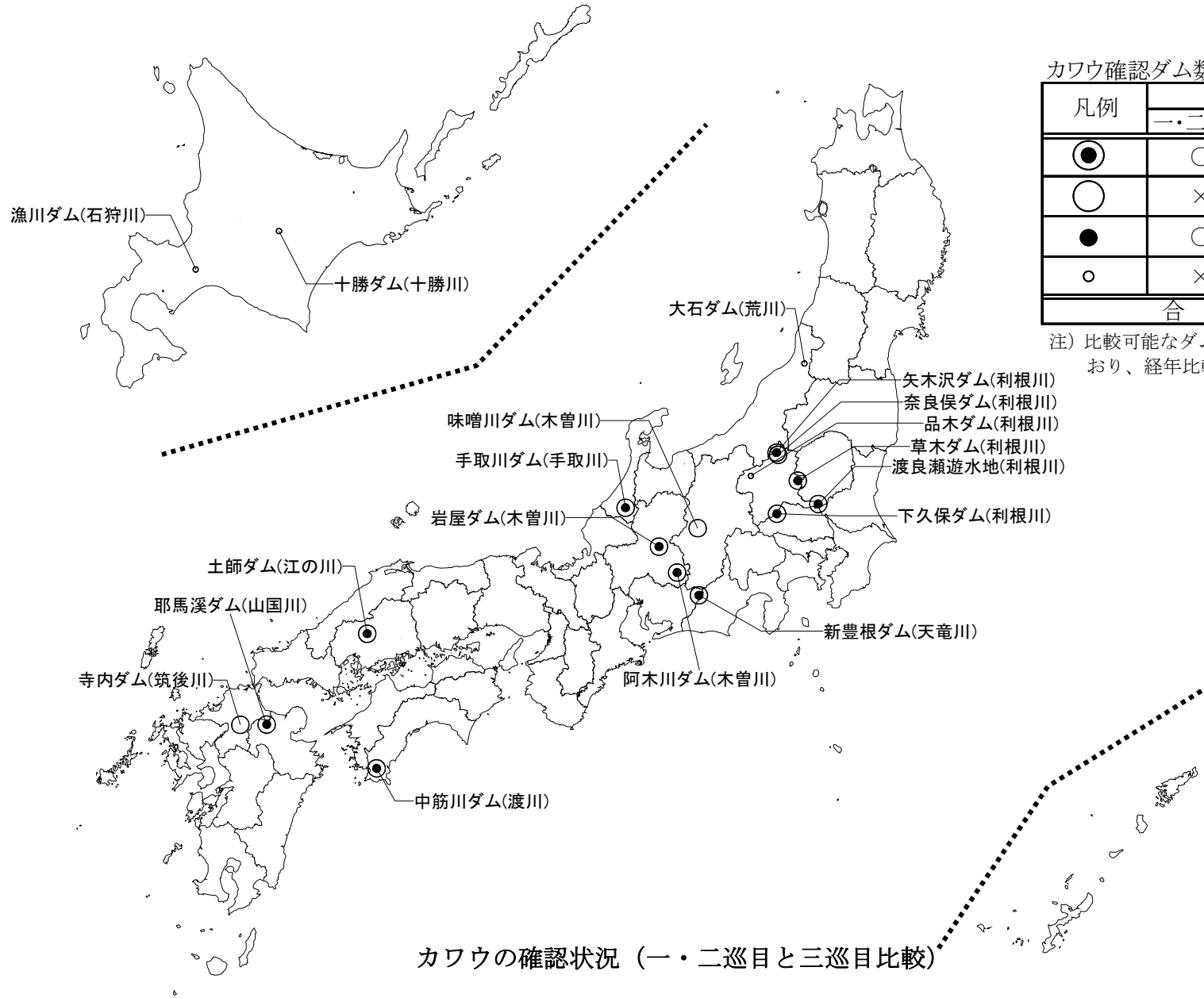
また、23ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した18ダムについて確認状況をみると、3ダムで新たにカワウを確認しており、増加傾向にあることが伺えます。

カワウの確認状況

カワウ				
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム	\	\	×
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	×	×
関東	矢木沢ダム	×	○	○
	奈良俣ダム	×	×	○
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	○	○
	草木ダム	×	○	○
	渡良瀬遊水地	○	○	○
	浦山ダム	\	\	○
	大石ダム	×	×	×
北陸	宇奈月ダム	\	\	×
	手取川ダム	×	○	○
	新豊根ダム	○	○	○
中部	味噌川ダム	\	×	○
	阿木川ダム	○	○	○
	岩屋ダム	×	○	○
	土師ダム	○	○	○
中国	八田原ダム	\	\	○
	中筋川ダム	\	○	○
四国	耶馬溪ダム	○	○	○
	寺内ダム	×	×	○
	竜門ダム	\	\	○
確認ダム数		5	11	17
うち比較可能なダム		5	11	14

凡例) ○：確認、×：未確認、\：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



カワウの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

カワウ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	11
⊗	×	○	3
●	○	×	0
○	×	×	4
合計			18

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

・多くのダムでヤマセミ、カワセミ、カワガラスを確認 [資料Ⅱ-5-6]

魚類や水生昆虫などの水生生物を捕食する生物種の生息状況が良好な河川環境の指標となるという観点から、水辺を餌場として利用するヤマセミ、カワセミ、カワガラスの確認状況を整理しました。

ヤマセミは、山地の溪流や崖地の多い中流域や湖に、カワセミは山地から平地の川や池、湖などの水辺に生息し、水中にダイビングして魚を捕らえます。

カワガラスは、河川の上流部に生息し、流れの速い浅瀬に潜り、水生昆虫や小魚を捕食しています。

平成16年度に調査を実施した23ダムのうち、ヤマセミを17ダム、カワセミを22ダム、カワガラスを22ダムで確認しました。ただし、カワガラスについては流水域である流入河川または下流河川に生息するため、ダム湖の利用は少ないと考えられます。

ヤマセミ、カワセミ、カワガラスの確認状況 (平成16年度)

ヤマセミ

地方	ダム名	確認状況
北海道	滝里ダム	×
	漁川ダム	○
	十勝ダム	×
関東	矢木沢ダム	○
	奈良俣ダム	×
	品木ダム	×
	下久保ダム	○
	草木ダム	○
	渡良瀬遊水地	×
	浦山ダム	○
北陸	大石ダム	○
	宇奈月ダム	○
	手取川ダム	○
中部	新豊根ダム	○
	味噌川ダム	○
	阿木川ダム	○
	岩屋ダム	○
中国	土師ダム	○
	八田原ダム	○
四国	中筋川ダム	×
九州	耶馬溪ダム	○
	寺内ダム	○
	竜門ダム	○
確認ダム数		17

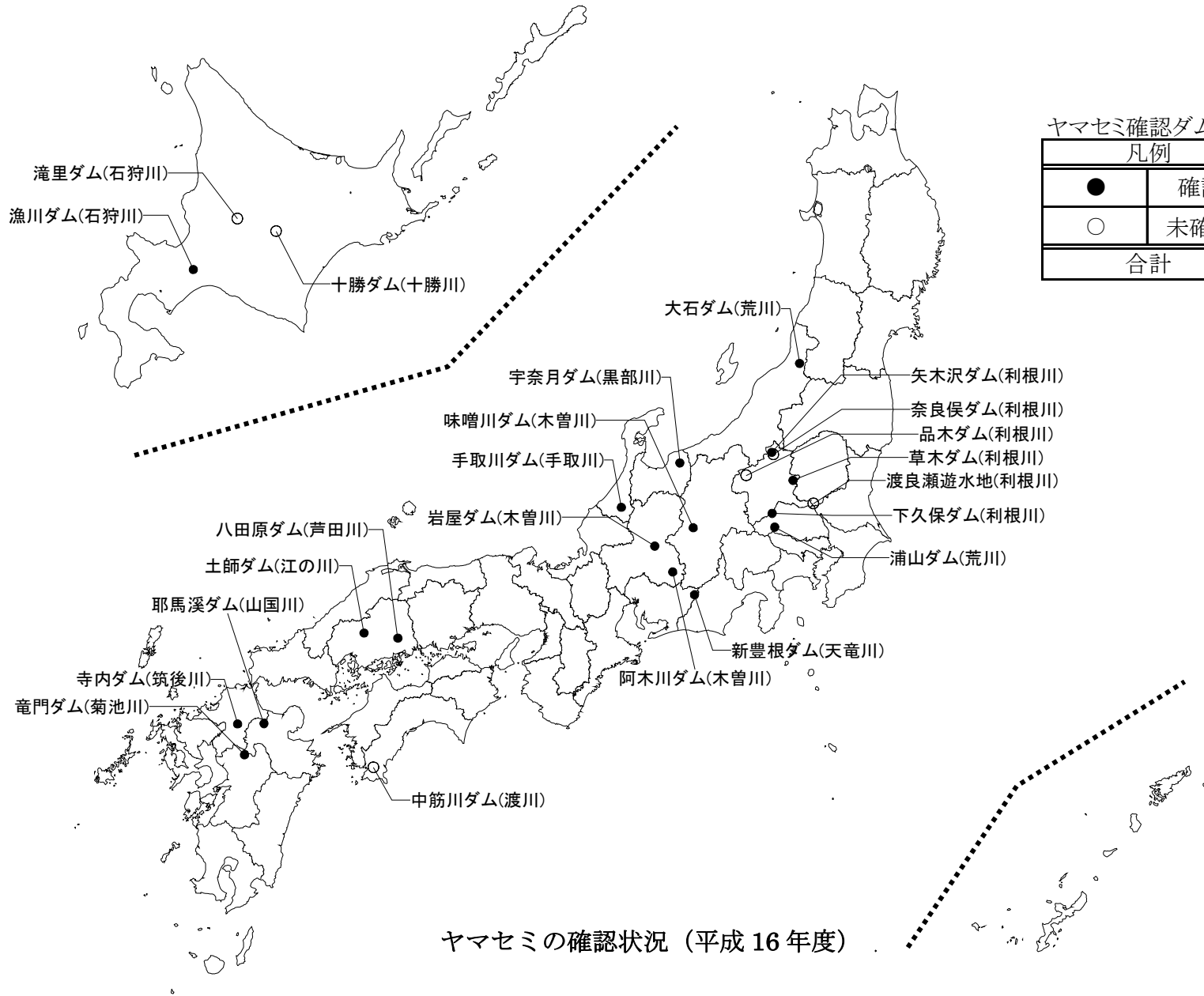
カワセミ

地方	ダム名	確認状況
北海道	滝里ダム	○
	漁川ダム	○
	十勝ダム	○
関東	矢木沢ダム	○
	奈良俣ダム	○
	品木ダム	○
	下久保ダム	○
	草木ダム	○
	渡良瀬遊水地	○
	浦山ダム	○
北陸	大石ダム	○
	宇奈月ダム	○
	手取川ダム	×
中部	新豊根ダム	○
	味噌川ダム	○
	阿木川ダム	○
	岩屋ダム	○
中国	土師ダム	○
	八田原ダム	○
四国	中筋川ダム	○
九州	耶馬溪ダム	○
	寺内ダム	○
	竜門ダム	○
確認ダム数		22

カワガラス

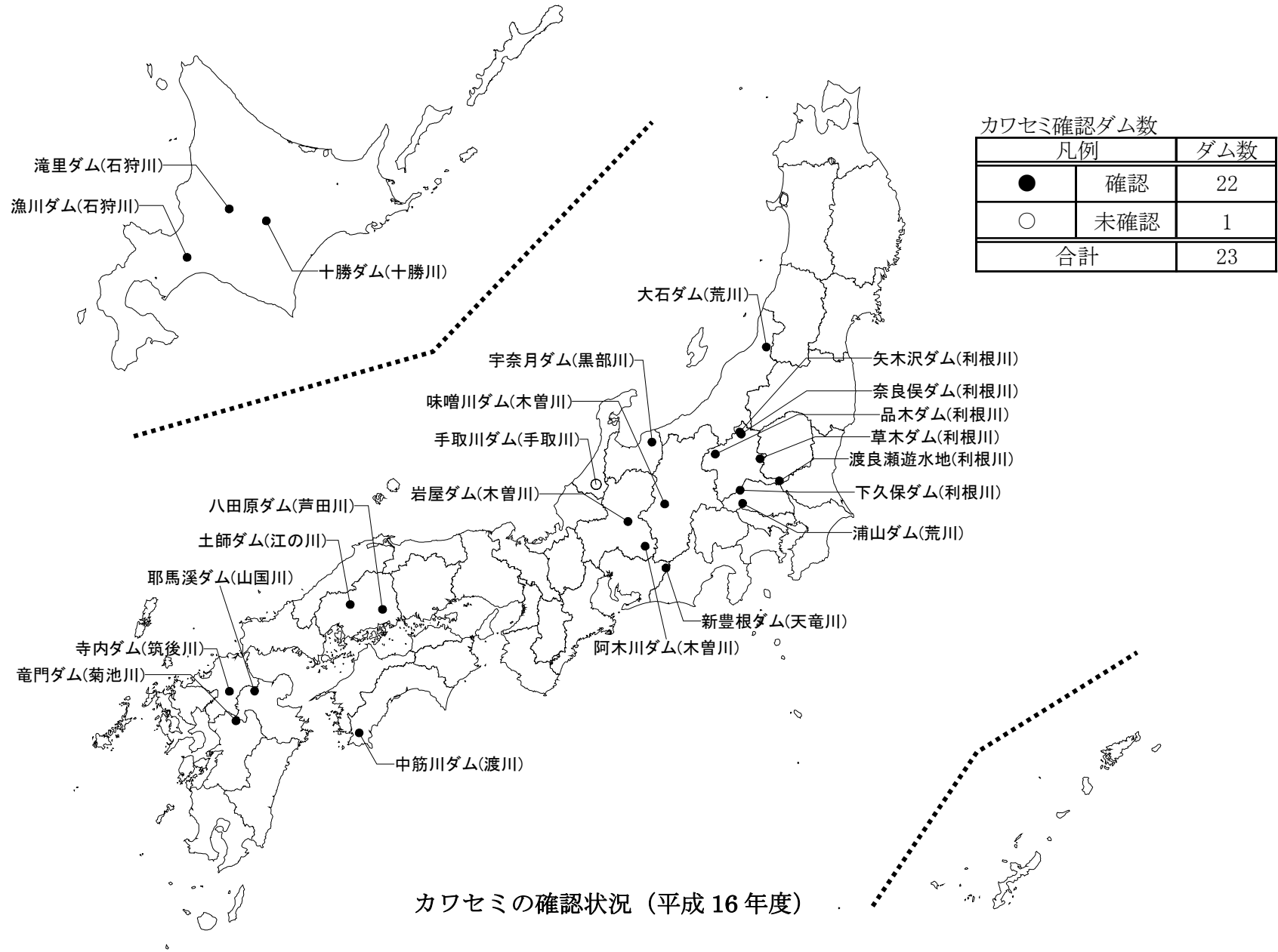
地方	ダム名	確認状況
北海道	滝里ダム	○
	漁川ダム	○
	十勝ダム	○
関東	矢木沢ダム	○
	奈良俣ダム	○
	品木ダム	○
	下久保ダム	○
	草木ダム	○
	渡良瀬遊水地	×
	浦山ダム	○
北陸	大石ダム	○
	宇奈月ダム	○
	手取川ダム	○
中部	新豊根ダム	○
	味噌川ダム	○
	阿木川ダム	○
	岩屋ダム	○
中国	土師ダム	○
	八田原ダム	○
四国	中筋川ダム	○
九州	耶馬溪ダム	○
	寺内ダム	○
	竜門ダム	○
確認ダム数		22

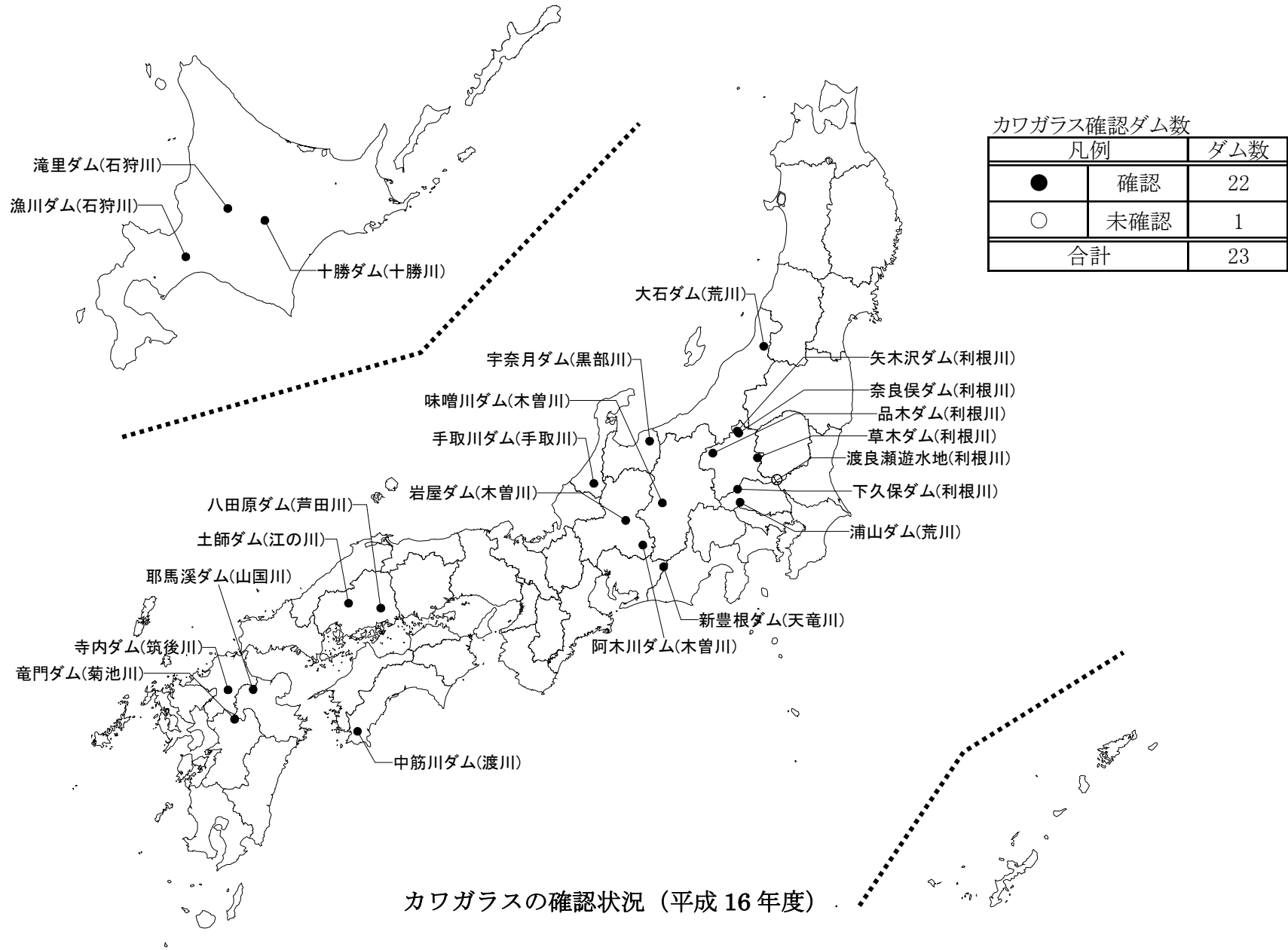
凡例) ○ : 確認、× : 未確認



ヤマセミ確認ダム数

凡例		ダム数
●	確認	17
○	未確認	6
合計		23







・多くのダムでキセキレイ、セグロセキレイを確認 [資料Ⅱ-5-7]

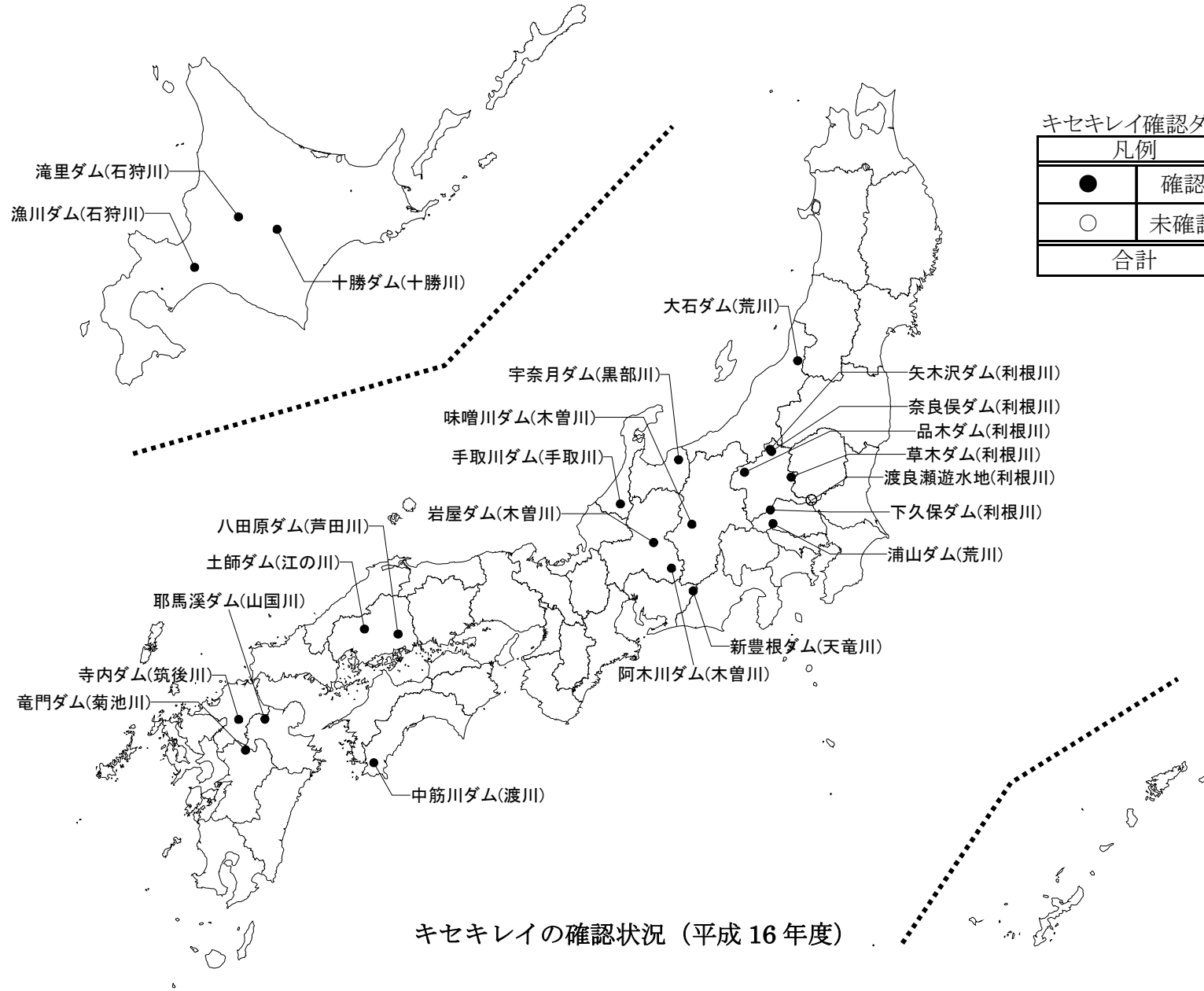
河原などの水辺周辺の開けた環境において、地上や水辺を活発に歩きながら昆虫などを採餌するキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの確認状況を整理しました。

平成16年度に調査を実施した23ダムのうち、セグロセキレイを全てのダムで、キセキレイを22ダム、ハクセキレイを18ダムで確認しました。

キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの確認状況（平成16年度）

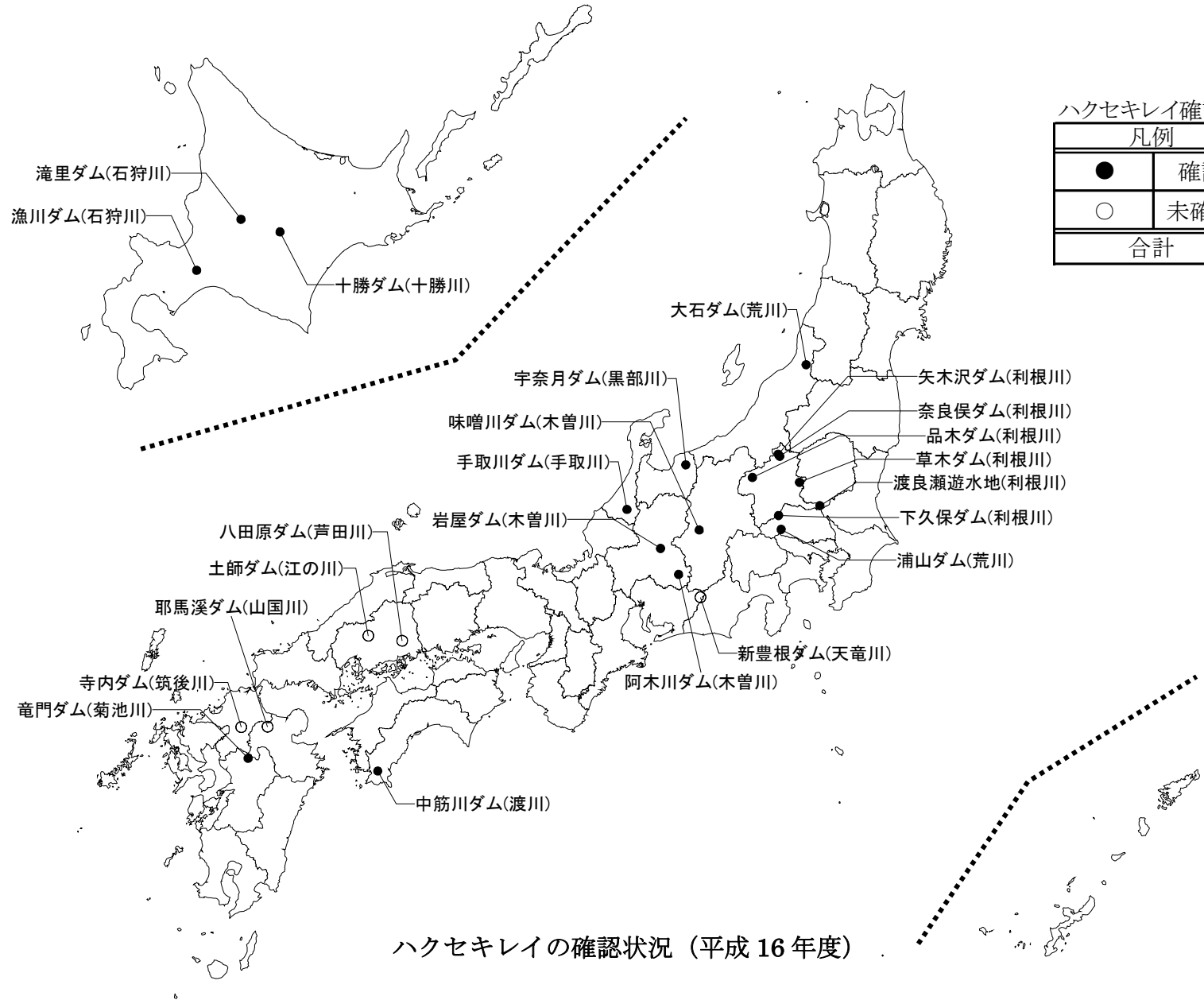
キセキレイ			ハクセキレイ			セグロセキレイ		
地方	ダム名	確認状況	地方	ダム名	確認状況	地方	ダム名	確認状況
北海道	滝里ダム	○	北海道	滝里ダム	○	北海道	滝里ダム	○
	漁川ダム	○		漁川ダム	○		漁川ダム	○
	十勝ダム	○		十勝ダム	○		十勝ダム	○
関東	矢木沢ダム	○	関東	矢木沢ダム	○	関東	矢木沢ダム	○
	奈良俣ダム	○		奈良俣ダム	○		奈良俣ダム	○
	品木ダム	○		品木ダム	○		品木ダム	○
	下久保ダム	○		下久保ダム	○		下久保ダム	○
	草木ダム	○		草木ダム	○		草木ダム	○
	渡良瀬遊水地	×		渡良瀬遊水地	○		渡良瀬遊水地	○
	浦山ダム	○		浦山ダム	○		浦山ダム	○
北陸	大石ダム	○	北陸	大石ダム	○	北陸	大石ダム	○
	宇奈月ダム	○		宇奈月ダム	○		宇奈月ダム	○
	手取川ダム	○		手取川ダム	○		手取川ダム	○
中部	新豊根ダム	○	中部	新豊根ダム	×	中部	新豊根ダム	○
	味噌川ダム	○		味噌川ダム	○		味噌川ダム	○
	阿木川ダム	○		阿木川ダム	○		阿木川ダム	○
	岩屋ダム	○		岩屋ダム	○		岩屋ダム	○
中国	土師ダム	○	中国	土師ダム	×	中国	土師ダム	○
	八田原ダム	○		八田原ダム	×		八田原ダム	○
四国	中筋川ダム	○	四国	中筋川ダム	○	四国	中筋川ダム	○
九州	耶馬溪ダム	○	九州	耶馬溪ダム	×	九州	耶馬溪ダム	○
	寺内ダム	○		寺内ダム	×		寺内ダム	○
	竜門ダム	○		竜門ダム	○		竜門ダム	○
確認ダム数		22	確認ダム数		18	確認ダム数		23

凡例) ○：確認、×：未確認



キセキレイ確認ダム数

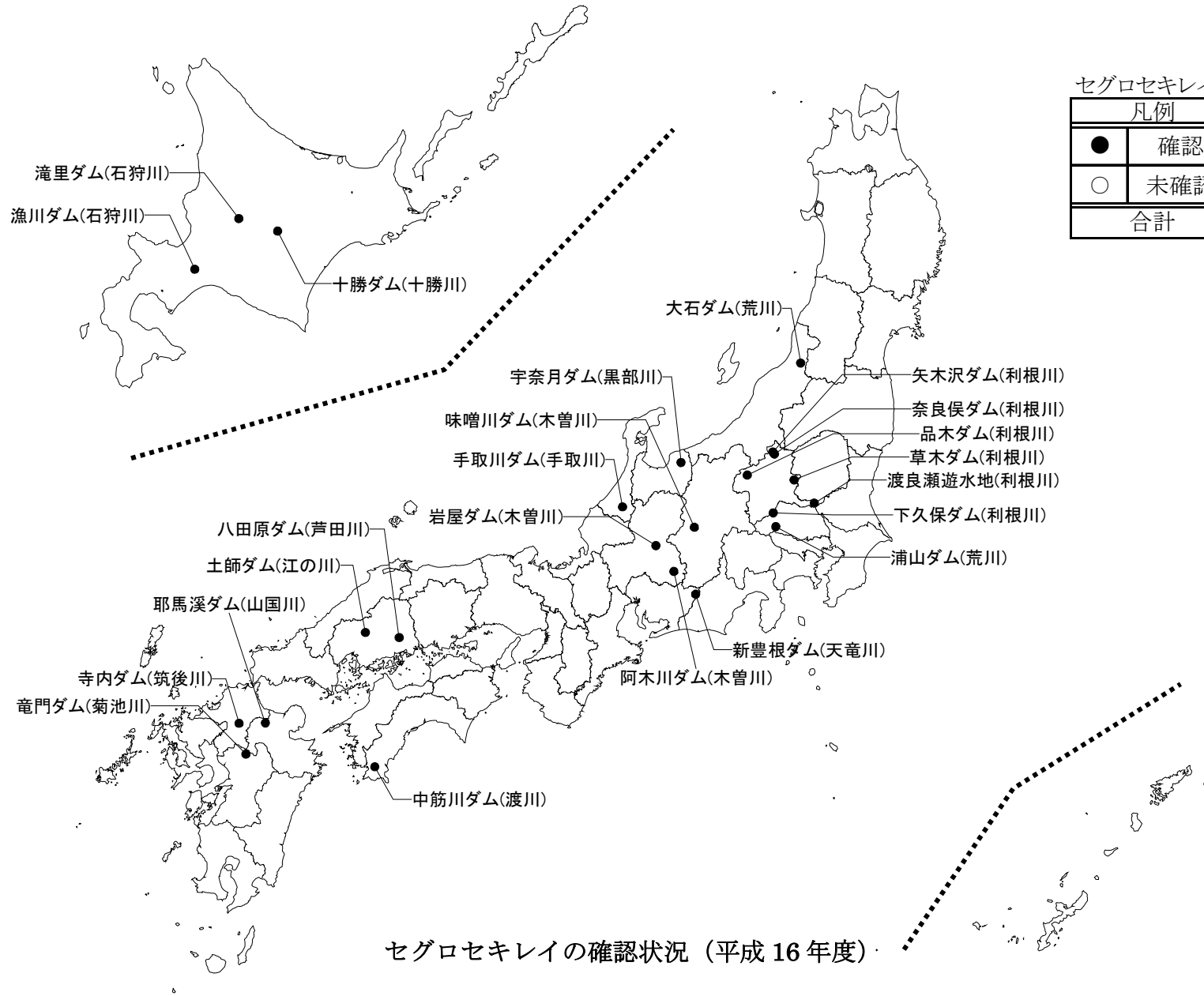
凡例	ダム数
●	確認 22
○	未確認 1
合計	23



ハクセキレイ確認ダム数

凡例		ダム数
●	確認	18
○	未確認	5
合計		23

ハクセキレイの確認状況 (平成 16 年度)



セグロセキレイ確認ダム数

凡例	ダム数
●	確認 23
○	未確認 0
合計	23

(3) ダム湖面を利用する鳥類の確認状況

・湖面調査を行った全てのダム湖面でカモ類を確認 [資料Ⅱ-5-8]

新たに出現した環境における生物の利用状況の把握を目的として、ダム湖面におけるカモ類の確認状況について整理しました。カモ類は、水面を休息場所や採餌場所として利用します。

平成16年度調査を実施した23ダムのうち20ダムにおいてダム湖面を調査範囲とした調査を実施したところ、全てのダム(20ダム)でカモ類を確認しました。

そこで、参考までに、これら水辺を生活の場としているカモ類18種類(下表参照)を対象に出現個体数について採餌型別に整理しました。

その結果、オシドリやマガモといった水面採餌カモ類しかいないダムが7ダム、魚食性カモ類のカワアイサが確認されたダムが7ダムでした。

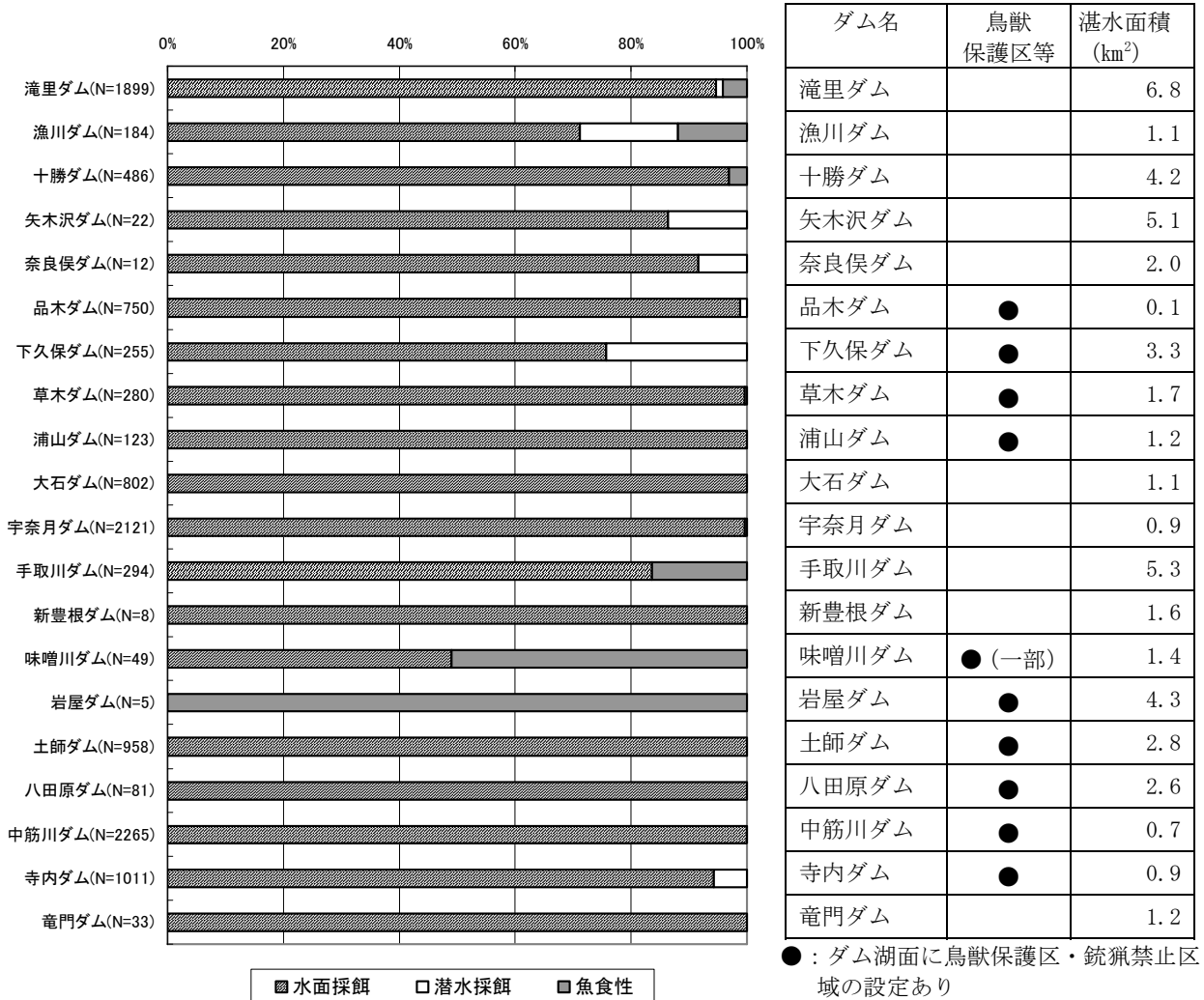
また、潜水採餌をするカモ類(キンクロハジロ、ホオジロガモなど)は、8ダムで確認されました。

### 採餌型によるカモ類の分類

(参考)

和名	採餌型		
	水面採餌	潜水採餌	魚食性
オシドリ	●		
マガモ	●		
カルガモ	●		
コガモ	●		
トモエガモ	●		
ヨシガモ	●		
オカヨシガモ	●		
ヒドリガモ	●		
アメリカヒドリ	●		
オナガガモ	●		
シマアジ	●		
ハシビロガモ	●		
ホシハジロ		●	
キンクロハジロ		●	
スズガモ		●	
ホオジロガモ		●	
ミコアイサ			●
カワアイサ			●

カモ類の採餌型別出現個体数（平成16年度）



注1) Nは、調査区域「ダム湖面（開放水域）」で確認された個体数である。

注2) なお、中部の阿木川ダム、関東の渡良瀬遊水地、九州の耶馬溪ダムでは「ダム湖面（開放水域）」を調査範囲として設定していないため、グラフには記載していない。ただし、渡良瀬遊水地では調査範囲の谷中湖において、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサを含むカモ類数千羽の越冬地として利用されている（出典：渡良瀬遊水地鳥類調査報告書）。

注3) 奈良俣ダム、新豊根ダム、岩屋ダムは確認個体数が少ないが、新豊根ダムは水面採餌する種にとっては餌がなく、水中で採餌する種にとっては水深が深すぎるため、確認できる種数が少なかったものと思われる。奈良俣ダム、岩屋ダムについては理由は不明である（出典：平成16年度新豊根ダム水辺環境調査業務（鳥類）報告書 アドバイザーコメント）。

#### (4) ダム湖周辺における鳥類の繁殖状況

##### ・イワツバメの繁殖を 11 ダムで確認 [資料Ⅱ-5-9]

ダム湖周辺環境がどのくらい鳥類の繁殖に利用されているのか、平成 16 年度に実施された調査をもとに、ダム湖周辺における繁殖状況を整理しました。

平成 16 年度に実施された調査で確認された鳥類の繁殖状況をみると、23 ダム中 15 ダムで鳥類の繁殖を確認しました（表中の◎）。また、繁殖を確認した鳥類は 40 種でした。

最も多く種の繁殖が確認されたのは、渡良瀬遊水地の 13 種でした。

また、23 ダム中 11 ダムと最も多くのダムで繁殖を確認したイワツバメは、本来、山地や海岸の崖、洞穴などに集団営巣しますが、ダム湖周辺ではダム堤体や管理棟、橋梁、トンネルなどが繁殖地として利用されています。大石ダム、浦山ダム、下久保ダム、十勝ダム、漁川ダム、手取川ダム、八田原ダムではダム堤体および管理所、取水塔、橋脚などが集団営巣地として利用されているのを確認しました。

鳥類繁殖状況一覧（平成16年度）＜1＞

No.	目名	科名	種名	繁殖状況														繁殖の状況 確認された◎ 可能性あり○										
				北海道	関東				北陸			中部			中国	四国	九州											
				滝里ダム	漁川ダム	十勝ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	品木ダム	下久保ダム	草木ダム	渡良瀬遊水地	浦山ダム	大石ダム	宇奈月ダム	手取川ダム	新豊根ダム	味噌川ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	土師ダム	八田原ダム	中筋川ダム	耶馬溪ダム	寺内ダム	竜門ダム		
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ								○																1	
2	ペリカン目	ウ科	カワウ								○																	1
3	コウノトリ目	サギ科	サンカノゴイ								○																	1
4			ヨシゴイ								○																	1
5			アオサギ								○				◎							◎		◎				3
6	カモ目	カモ科	オシドリ										○															1
7			マガモ		◎																							1
8			カルガモ							○																		1
9	タカ目	タカ科	ミサゴ																	○		◎	○	○	○	○		1
10			トビ									◎					○					◎	◎			○		2
11			オオタカ								◎													○				1
12			ツミ									○																1
13			ノスリ									○											◎					1
14			サシバ								◎												◎					2
15			クマタカ								○		○		◎													1
16		ハヤブサ科	ハヤブサ								◎												○		○			1
17			チョウゲンボウ								◎																	1
18	キジ目	ライチョウ科	エゾライチョウ		○																							1
19		キジ科	コジュケイ								○	○			◎					○			○					1
20			キジ								◎																	1
21			ヤマドリ								◎					○	○	○	○						○			1
22	ツル目	クイナ科	クイナ									○																6
23			バン								◎																	1
24	チドリ目	シギ科	イソシギ		○																							2
25			ヤマシギ			○	○																					2
26			オオジシギ				○																					1
27	ハト目	ハト科	ドバト																					○	○	○		2
28			キンバト			○	○	○				○				○	○		○					○	○			9
29			アオバト			○	○					○				○	○		○					○	○			5
30	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ			○	○					○																6
31			カッコウ								○																	3
32			ツツドリ			○	○	○				○				○	○		○									7
33			ホトトギス			○	○	○				○				○	○		○				○					8
34	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク			○	○	○								○	○											5
35			アオバズク			○	○																					3
36			フクロウ								○												○					3
37	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ			○	○					○				○			○				○	○				6
38	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ			◎							○										○	○		○		1
39			アカショウビン					○																				3
40			カワセミ										○															2
41		ブッポウソウ科	ブッポウソウ					○																				1
42	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ					○								○	○		○			○	○					6
43			ヤマゲラ			○	○																					2
44			クマガラ			○	○																					2
45			アカゲラ			◎	◎	◎																				2
46			コゲラ																									7
47	スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ		○						◎																	1
48		ツバメ科	ツバメ								◎	◎																1
49			コシアカツバメ																				◎		○			1
50			イワツバメ			◎	◎		◎	◎		◎	◎		◎							◎	◎	◎	◎	◎		11
51		セキレイ科	キセキレイ			○	○			○			◎	◎		◎			○									3
52			ハクセキレイ			○	◎	○					◎			○												2
53			セグロセキレイ										◎										◎	◎	◎			2
54			ピンズイ																									2
55		サンショウクイ科	サンショウクイ					○																				3
56		ヒヨドリ科	ヒヨドリ				○					◎	◎		○	○							○	○	○	○		2
57		モズ科	モズ					○			◎							○	○									1
58		カワガラス科	カワガラス												○											○		3
59		ミソサザイ科	ミソサザイ			○	○	○					○			○	○											6
60		ツグミ科	コマドリ				○	○																				3
61			ノゴマ					○																				1
62			コルリ				○	○																				4
63			ルリビタキ				○	◎																				1
64			ノビタキ					○																				1
65			トラツグミ				○	○																				6
66			マミジロ					○																				1
67			クロツグミ			○	○	○					○				○	○		○								8
68			アカハラ				○	○										○	○									5
69		チメドリ科	ガビチョウ									○													○	○		3
70			ソウシチョウ																									1
71		ウグイス科	ヤブサメ			○	○	○								◎	○	○	○				○	○				1
72			ウグイス			○	○	○									○	○	○	○			○	○	○	○		13
73			コヨシキリ																									1
74			オオヨシキリ									◎																1
75			メボソムシクイ					○																				3
76			エゾムシクイ			○	○	○											○									5
77			センダイムシクイ			○	○	○									○	○		○								8
78			キクイタダキ			○	○	○																				3
79			セッカ									○																1





5. 3 生態系の人為的な攪乱状況

(1) 外来種の分布状況

・特定外来生物であるソウシチョウ、ガビチョウを確認 [資料Ⅱ-5-10]

鳥類の外来種の侵入によって、同じような生息場所・餌等を利用している在来の鳥類等と競合し圧迫する可能性が指摘されています。ここでは、外来生物法によって指定された特定外来生物である、ソウシチョウとガビチョウの確認状況を整理しました。

ソウシチョウは、中国南部からヒマラヤにかけて分布する鳥類ですが、飼い鳥として持ち込まれ、逃げ出したものが、1980年頃から茨城県、兵庫県、九州地方などを中心に急速に分布を広げており、主に山地の樹林等を生息場所としています。

ガビチョウは、中国南部に分布する鳥類ですが、国内では江戸時代頃から輸入の記録があります。飼い鳥が逃げ出したものが、1980年代から福島県、長野県、関東地方、九州地方などで野生化しており、主に低山地の樹林等を生息場所としています。

平成16年度に調査を実施した23ダムのうち、ソウシチョウを関東の浦山ダムと九州の耶馬溪ダム、寺内ダム、竜門ダムの4ダムで、ガビチョウを関東の下久保ダム、浦山ダム、九州の耶馬溪ダム、寺内ダム、竜門ダムの5ダムで確認しました。

23ダムのうち、一巡目または二巡目調査を実施した18ダムについて確認状況をみると、二巡目の調査でソウシチョウ、ガビチョウがともに確認された九州の耶馬溪ダムと寺内ダムは平成16年度(三巡目)でも継続して確認されました。九州地方ではほぼ定着してきたことがうかがえます。ハワイ諸島では、ソウシチョウ・ガビチョウの定着が、在来鳥類の衰退の一因になったといわれており、今後も動向を見守る必要があります。

ソウシチョウ、ガビチョウの確認状況

ソウシチョウ

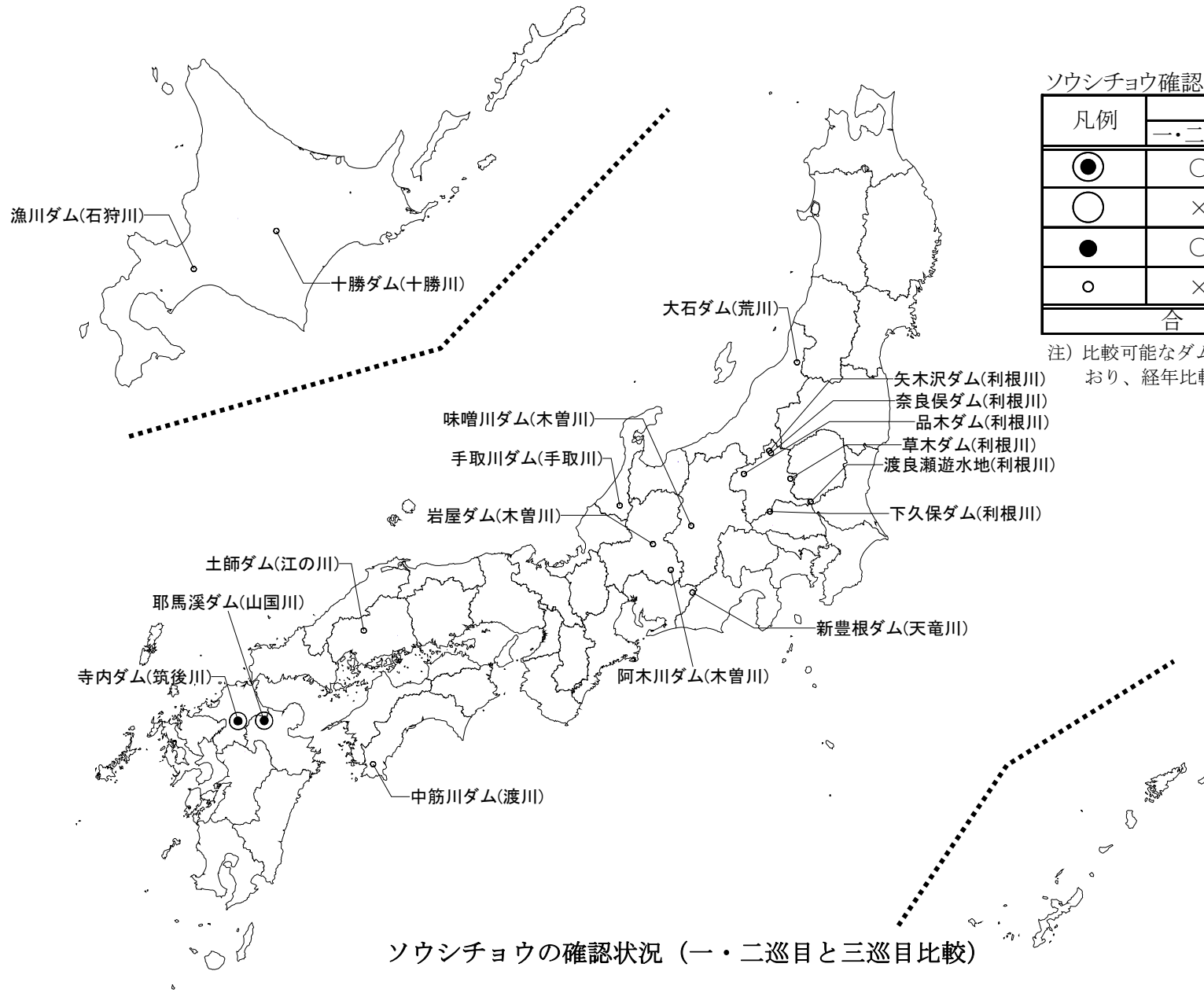
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム			×
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	×	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	渡良瀬遊水地	×	×	×
	浦山ダム			○
	大石ダム	×	×	×
北陸	宇奈月ダム			×
	手取川ダム	×	×	×
中部	新豊根ダム	×	×	×
	味噌川ダム		×	×
	阿木川ダム	×	×	×
	岩屋ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	×	×
	八田原ダム			×
四国	中筋川ダム		×	×
	耶馬溪ダム	×	○	○
九州	寺内ダム	×	○	○
	竜門ダム			○
	確認ダム数	0	2	4
うち比較可能なダム		0	2	2

ガビチョウ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	滝里ダム			×
	漁川ダム	×	×	×
	十勝ダム	×	×	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	品木ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	○
	草木ダム	×	×	×
	渡良瀬遊水地	×	×	×
	浦山ダム			○
	大石ダム	×	×	×
北陸	宇奈月ダム			×
	手取川ダム	×	×	×
	新豊根ダム	×	×	×
中部	味噌川ダム		×	×
	阿木川ダム	×	×	×
	岩屋ダム	×	×	×
	土師ダム	×	×	×
中国	八田原ダム			×
	中筋川ダム		×	×
九州	耶馬溪ダム	×	○	○
	寺内ダム	○	○	○
	竜門ダム			○
確認ダム数		1	2	5
うち比較可能なダム		1	2	3

凡例) ○：確認、×：未確認、\：ダム完成前

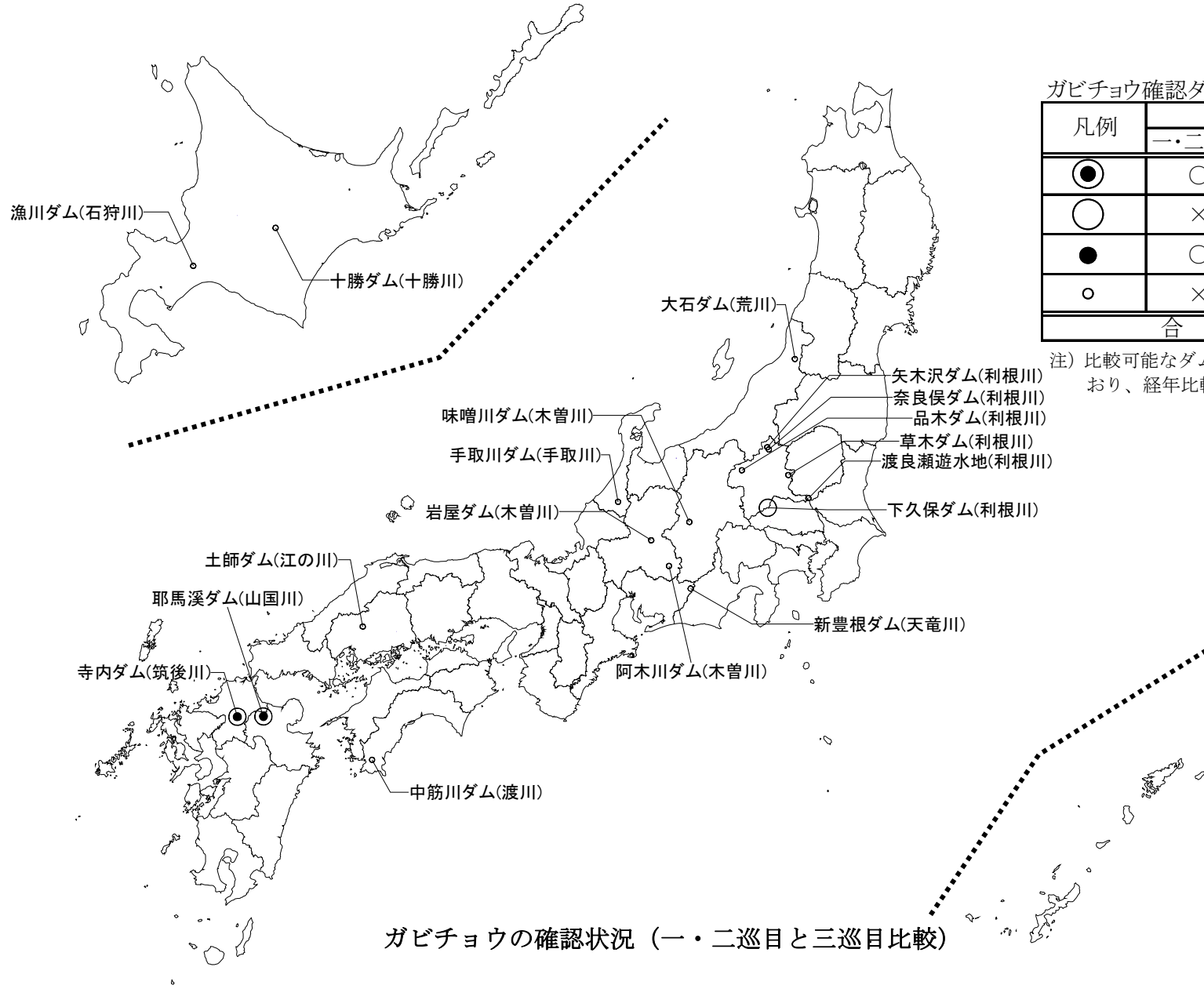
注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ソウシチョウ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	2
○	×	○	0
●	○	×	0
○	×	×	16
合計			18

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ガビチョウの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

ガビチョウ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●○	○	○	2
○	×	○	1
●	○	×	0
○	×	×	15
合計			18

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



## 6 両生類・爬虫類・哺乳類調査の概要

### 6. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数（両生類）〔資料Ⅱ-6-1〕

- ・平成16年度に実施された19ダムの現地調査によって確認した両生類は2目7科22種です。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、59種の両生類が掲載されており、今回確認した種数は、その約37%に相当します。
- ・多くのダムで確認した両生類はタゴガエルが16ダム、アマガエル、ヤマアカガエルが15ダム、カジカガエルが14ダムとなっています。
- ・サンショウウオ類は9ダムで5種を確認しました。

#### (2) 確認種数（爬虫類）〔資料Ⅱ-6-2〕

- ・平成16年度に実施された19ダムの現地調査によって確認した爬虫類は2目7科15種です。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、87種の爬虫類が掲載されており、今回確認した種数は、その約17%に相当します。
- ・多くのダムで確認した爬虫類はカナヘビが全てのダム(19ダム)、次いでシマヘビが17ダム、トカゲ、ヤマカガシが16ダムとなっています。

#### (3) 確認種数（哺乳類）〔資料Ⅱ-6-3〕

- ・平成16年度に実施された19ダムの現地調査によって確認した哺乳類は7目17科58種です。「日本産野生生物目録 脊椎動物編（環境庁,1993）」には、188種の哺乳類が掲載されており、今回確認した種数は、その約31%に相当します。
- ・多くのダムで確認した哺乳類はノウサギ、アカネズミ、ヒメネズミ、テンが16ダムと多く、次いでタヌキ、キツネが15ダムとなっています。

#### (4) 特定種（両生類・爬虫類・哺乳類）〔資料Ⅱ-6-4〕

- ・特定種として、ここでは天然記念物に指定されている種や、両生類・爬虫類の改訂・レッドデータブック（環境庁,2000）、哺乳類の改訂・レッドデータブック（環境省,2002）等に記載されている種を掲げています。今回の調査では10種を確認しています。
- ・国の特別天然記念物であるオオサンショウウオを中国の土師ダムで、同じく国の特別天然記念物であるカモシカを10ダムで確認しています。

（注）特定種について

両生類・爬虫類・哺乳類においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境庁編（2000）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ―レッドデータブック― （両生類・爬虫類）」掲載種
- ・環境省編（2002）「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ―レッドデータブック― （哺乳類）」

(5) 外来種（両生類・爬虫類・哺乳類）〔資料Ⅱ-6-5〕

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の両生類・爬虫類・哺乳類を掲げています。今回の調査では外来生物法で特定外来生物に指定されたウシガエル、ヌートリア、アライグマ、ミンクを含む7種を確認しています。

（注）外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、I-21～22 ページに掲載した文献およびI-23～24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

両生類確認種一覧（平成 16 年度）

No	目と名	科和名	種和名	学名	北海道		関東						北陸	中部			中国	四国	九州	確認 ダム数			
					岩 尾 内 ダ ム	金 山 ダ ム	二 風 谷 ダ ム	矢 木 沢 ダ ム	奈 良 俣 ダ ム	下 久 保 ダ ム	草 木 ダ ム	浦 山 ダ ム	宮 ヶ 瀬 ダ ム	手 取 川 ダ ム	新 豊 根 ダ ム	矢 作 ダ ム	阿 木 川 ダ ム	岩 屋 ダ ム	蓮 ダ ム		土 師 ダ ム	八 田 原 ダ ム	大 渡 ダ ム
1	サンショウウオ目	サンショウウオ科	エゾサンショウウオ	<i>Hynobius retardatus</i>	●	●	●														3		
2			ブチサンショウウオ	<i>Hynobius naevius</i>											●		●				●	3	
3			ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>								●				●							3
4			ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>					●						●								3
5		オオサンショウウオ科	オオサンショウウオ	<i>Andrias japonicus</i>														●				1	
6		イモリ科	イモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>					●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	13	
7	カエル目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>																	●	1	
8			アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					11
9			ナガレヒキガエル	<i>Bufo torrenticola</i>											●	●							3
				ヒキガエル科		Bufonidae											○						1
10			アマガエル科	アマガエル	<i>Hyla japonica</i>	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
11			アカガエル科	タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
12				ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i>						●	●					●					4	
13				ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>												●		●			2	
14				ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	15
15				エゾアカガエル	<i>Rana chensinensis</i>	●	●	●														3	
16				トノサマガエル	<i>Rana nigromaculata</i>										●	●	●	●		●	●	7	
17				ヌマガエル	<i>Rana limnocharis</i>																	●	1
18				ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>														●	●		●	3
19				ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>							●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
				アカガエル属の一種	<i>Rana sp.</i>																○	○	2
				アカガエル科	Ranidae																	○	1
20			アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>						●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
21				モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>				●	●		●	●		●	●							8
22				カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
確認種数					3	3	3	6	6	8	8	7	8	12	10	9	10	13	8	12	7	7	12

注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-4 頁種数の計数方法参照）

注 2) ▲▲属の一種、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。これらは、各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行にしている。



爬虫類確認種一覧（平成 16 年度）

No	目和名	科和名	種和名	学名	北海道		関東					北陸	中部				中国	四国	九州	確認ダム数			
					岩尾内ダム	金山ダム	二風谷ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	下久保ダム	草木ダム	浦山ダム	宮ヶ瀬ダム	手取川ダム	新豊根ダム	矢作ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	蓮ダム		土師ダム	八田原ダム	大渡ダム
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i>													●	●			2		
2			ミシシッピアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>								●						●				3	
3			イシガメ	<i>Mauremys japonica</i>										●	●	●		●	●				5
4		スッポン科	スッポン	<i>Trionyx sinensis</i>													●			●	2		
5	トカゲ目	ヤモリ科	ヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>														●			●	2	
6		トカゲ科	トカゲ	<i>Eumeces latiscutatus</i>		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16	
7		カナヘビ科	カナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19	
8		ヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>							●	●		●				●			●	5	
9			シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	17
10			ジムグリ	<i>Elaphe conspicillata</i>	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
11			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
12			シロマダラ	<i>Dinodon orientalis</i>								●	●		●								4
13			ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>						●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
14			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
			ヘビ科	ヘビ科	ヘビ科	<i>Colubridae</i>													○				1
15			クサリヘビ科	マムシ	<i>Agkistrodon blomhoffii</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	
確認種数					3	2	2	6	6	8	6	10	11	7	10	10	8	8	9	13	6	8	10

注 1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-4 頁種数の計数方法参照）

注 2) ▲▲属の一種、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。これらは、各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行にしている。

哺乳類確認種一覧（平成16年度）＜1＞

No	目と名	科と名	種と名	学名	北海道		関東					北陸			中部			中国		四国	九州	確認 ダム 数
					岩 尾 内 ダム	金 山 ダム	二 風 谷 ダム	矢 木 沢 ダム	奈 良 俣 ダム	下 久 保 ダム	草 木 ダム	浦 山 ダム	宮 ヶ 瀬 ダム	手 取 川 ダム	新 豊 根 ダム	矢 作 ダム	阿 木 川 ダム	岩 屋 ダム	蓮 ダム	土 師 ダム	八 田 原 ダム	
1	モグラ目(食虫目)	トガリネズミ科	ヒメトガリネズミ	<i>Sorex gracillimus</i>	●																	1
2			エゾトガリネズミ	<i>Sorex caecutiens saevus</i>	●	●	●															3
3			オオアシトガリネズミ	<i>Sorex unguiculatus</i>	●	●	●															3
			トガリネズミ属の一種	<i>Sorex sp.</i>				●														1
4			ジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>					●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	8
5			カワネズミ	<i>Chimarrigale platycephala</i>						●	●	●	●	●	●	●						6
			トガリネズミ科	Soricidae	○		●															2
6		モグラ科	ヒメヒメズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>				●		●												2
7			ヒメズ	<i>Urotrichus talpoides</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12
8			アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
9			コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>										●							●	2
			モグラ属の一種	<i>Mogera sp.</i>										●	●	●	●	●	●	●	●	5
			モグラ科	Talpidae				○				○	○	○	●		○				○	6
			モグラ目(食虫目)	Insectivora											○							1
10	コウモリ目(翼手目)	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus cornutus</i>				●		●	●	●	●									4
11			キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>						●	●	●	●									3
12		ヒナコウモリ科	カグヤコウモリ	<i>Myotis frater</i>							●	●	●									1
13			モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>							●	●	●									4
14			ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>		●					●	●	●									3
15			ヒナコウモリ	<i>Vespertilio superans</i>		●	●															2
16			ウサギコウモリ	<i>Plecotus auritus</i>				●			●											2
17			コビナガコウモリ	<i>Miniopterus schreibersi</i>							●	●	●									1
18			コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis silvatica</i>							●											1
19			テングコウモリ	<i>Murina leucogaster hilgendorfi</i>							●	●	●									2
			ヒナコウモリ科	Vespertilionidae							○	○	○									4
			コウモリ目(翼手目)	Chiroptera		○			●	●	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	11
20	サル目(霊長目)	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
21	ウサギ目	ウサギ科	エゾユキウサギ	<i>Lepus timidus ainu</i>	●	●	●															3
22			ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
23	ネズミ目(齧歯目)	リス科	エゾリス	<i>Sciurus vulgaris orientis</i>	●		●															2
24			ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
25			エゾシマリス	<i>Tamias sibiricus lineatus</i>	●																	1
26			エゾモモンガ	<i>Pteromys volans orii</i>	●																	1
27			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
			リス科	Sciuridae							○											2
28		ネズミ科	エゾヤチネズミ	<i>Clethrionomys rufocanus bedfordiae</i>	●		●														○	2
29			スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii smithii</i>				●	●					●								3
30			ハタネズミ	<i>Microtus montebelli montebelli</i>											●							1
31			アカネズミ	<i>Apodemus speciosus speciosus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
32			エゾアカネズミ	<i>Apodemus speciosus ainu</i>	●	●	●															3
33			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus argenteus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
34			エゾヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus hokkaidi</i>	●	●	●															3
			アカネズミ属の一種	<i>Apodemus sp.</i>																	○	2
35			カヤネズミ	<i>Micromys minutus japonicus</i>				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
36			ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>																	●	1
			ネズミ科	Muridae	○				○	○	○										○	8
37		ヌートリア科	ヌートリア	<i>Myocastor copvus</i>												●		●				2
			ネズミ目(齧歯目)	Rodentia								○									○	3

哺乳類確認種一覧（平成16年度）＜2＞

No	目和名	科和名	種和名	学名	北海道		関東					北陸		中部				中国		四国	九州	確認ダム数		
					岩尾内ダム	金山ダム	二風谷ダム	矢木沢ダム	奈良俣ダム	下久保ダム	草木ダム	浦山ダム	宮ヶ瀬ダム	手取川ダム	新豊根ダム	矢作ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	蓮ダム	土師ダム	八田原ダム		大渡ダム	寺内ダム
38	ネコ目(食肉目)	クマ科	ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>	●	●	●															3		
39			ツキノワグマ	<i>Selenarctos thibetanus</i>				●	●							●							6	
40		アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>			●						●									●	3	
41			イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
42		エゾタヌキ		<i>Nyctereutes procyonoides albus</i>	●		●																2	
43		キツネ		<i>Vulpes vulpes japonica</i>			●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15
44		キタキツネ		<i>Vulpes vulpes schrencki</i>	●	●	●																	3
45		イヌ		<i>Canis familiaris</i>															●					1
		イヌ科		Canidae														○						1
46		イタチ科		テン	<i>Martes melampus melampus</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	16
47			エゾクロテン	<i>Martes zibellina brachvura</i>	●	●																	2	
48			イタチ	<i>Mustela itatsi itatsi</i>				●	●	●			●	●										6
49			イイズナ	<i>Mustela nivalis</i>	●		●																	2
50			エゾオコジョ	<i>Mustela erminea orientalis</i>			●																	1
51			オコジョ	<i>Mustela erminea nippon</i>				●																1
52			ミンク	<i>Mustela vison</i>			●																	1
			イタチ属の一種	<i>Mustela sp.</i>							●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	8
53			アナグマ	<i>Meles meles anakuma</i>						●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
			イタチ科	Mustelidae								○	○					○		○				5
54		ジャコウネコ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>					●	●	●	●	●	●	●	●						●	9	
			ネコ目(食肉目)	Carnivora							○													1
55		ウシ目(偶蹄目)	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa leucomystax</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	
56			シカ科	ホンドジカ	<i>Cervus nippon nippon</i>				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10	
57	エゾシカ			<i>Cervus hortulorum vesoensis</i>	●	●	●																3	
58	ウシ科		カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>				●	●		●	●	●	●	●	●							10	
		ウシ目(偶蹄目)	Artiodactyla						○	○	○	○	○	○	○							7		
確認種数					16	11	16	16	18	18	18	24	23	26	20	18	18	17	17	18	9	16	17	

注1) ○は当該ダムにおいて種数としてカウントしていない（I-4頁種数の計数方法参照）

注2) ▲▲属の一種、□□科、××目という表記は、各下位の分類階級まで同定されていないものである。これらは、各ダムで必ずしも同じ種ではないが、便宜的に同行にしている。



両生類・爬虫類・哺乳類国外外来種一覧（平成 16 年度）

No	綱和名	目和名	科和名	種和名	外来種	北海道		関東					北陸	中部			中国	四国	九州	確認 ダム数				
						岩 尾 内 ダム	金 山 ダム	二 風 谷 ダム	矢 木 沢 ダム	奈 良 俣 ダム	下 久 保 ダム	草 木 ダム	浦 山 ダム	宮 ヶ 瀬 ダム	手 取 川 ダム	新 豊 根 ダム	矢 作 ダム	阿 木 川 ダム	岩 屋 ダム		蓮 ダム	土 師 ダム	八 田 原 ダム	大 渡 ダム
1	両生綱	カエル目	アカガエル科	ウシガエル	特定														●	●		●	3	
2	爬虫綱	カメ目	イシガメ科	ミシシippアカミミガメ	要注意(検討)							●			●				●				3	
3	哺乳綱	ネズミ目(齧歯目)	ネズミ科	ハツカネズミ																	●	1		
4			ヌートリア科	ヌートリア	特定															●			2	
5		ネコ目(食肉目)	アライグマ科	アライグマ	特定			●								●						●	3	
6			イタチ科	ミンク	特定			●															1	
7	ジャコウネコ科		ハクビシン							●	●	●	●	●		●	●	●				●	9	
確認種数						0	0	2	0	0	1	1	1	2	1	0	3	2	1	0	3	1	1	3

凡例) 特定: 外来生物法で指定された特定外来生物  
 要注意(検討): 要注意外来生物リスト掲載種のうち、被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物

## 6. 2 ダム湖周辺環境の特徴

### (1) 溪流環境の指標となる両生類の確認状況

・約9割のダム周辺で、流水性の両生類を確認 [資料Ⅱ-6-6]

ダム湖周辺の溪流環境の指標として、繁殖する際に溪流を必要とする代表的な下記7種の両生類の確認状況を整理しました。

ブチサンショウウオは、鈴鹿山脈以西の本州・四国・九州の各地に広く分布しています。溪流付近の森林に生息し、溪流の細い流れや伏流水中などに産卵します。

ヒダサンショウウオは、関東地方西部・中部地方・近畿地方の北部と中部・山陰地方に分布しています。溪流付近の森林に生息し、産卵は溪流の流れの緩い場所で行われます。

ハコネサンショウウオは、本州・四国の広い範囲に分布しています。溪流付近の森林に生息し、溪流の岩の隙間や下に産卵します。

オオサンショウウオは、岐阜県以西の本州・大分県に分布し、国の特別天然記念物に指定されています。河川上流部に生息し、川岸の巣穴に産卵します。

ナガレヒキガエルは、中部地方西部と近畿地方に分布しています。山間部の森林に生息し、繁殖は溪流で行い、幼生もそこで過ごします。

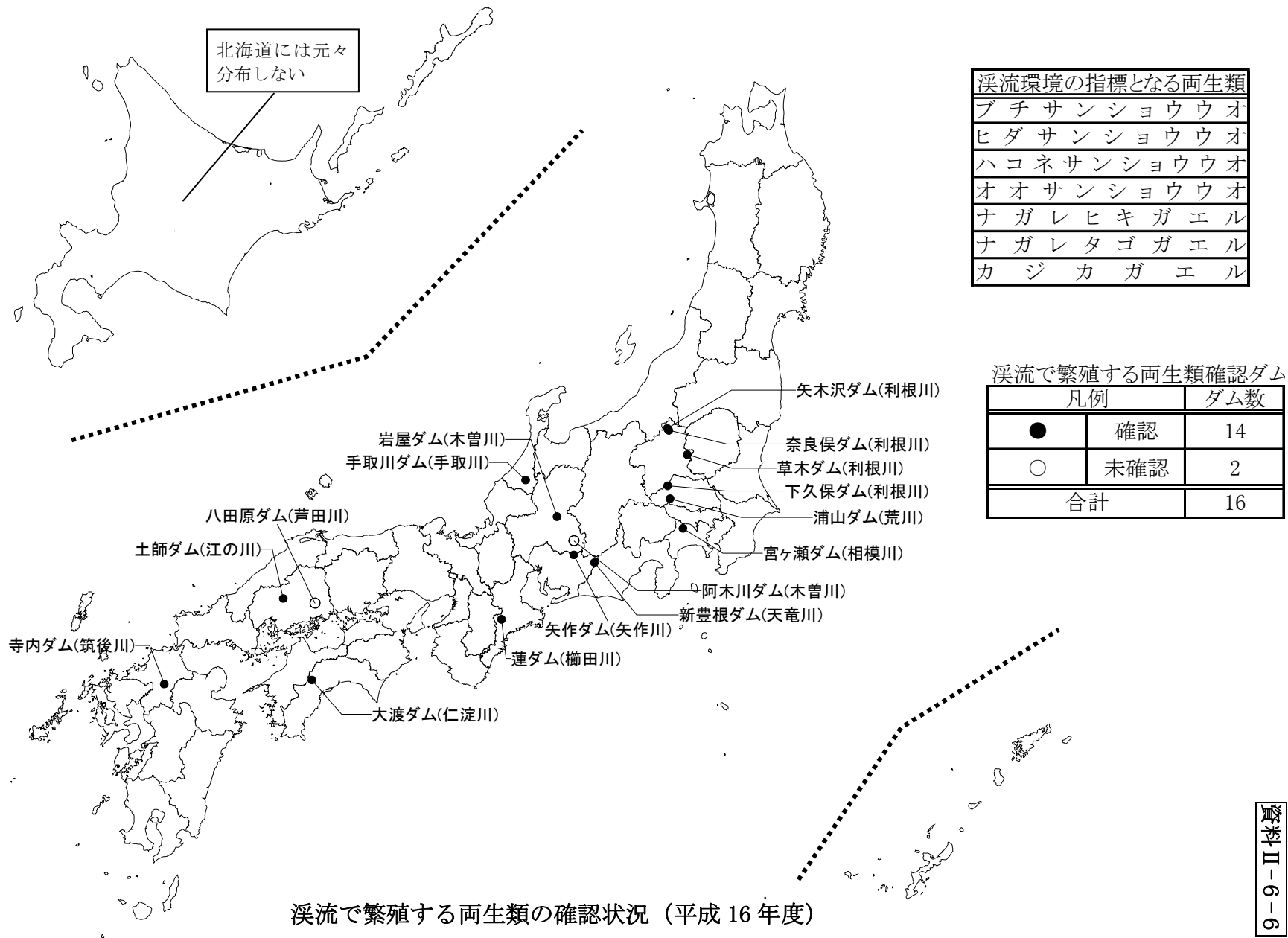
ナガレタゴガエルは、関東・中部・北陸・近畿の各地に分布しています。山間部の森林に生息し、繁殖は溪流で行われます。

カジカガエルは、本州・四国・九州に分布しています。比較的川幅が広くて開けた溪流に生息し、流れの石の下に産卵します。

平成16年度調査の結果、元々これらの流水性の両生類が分布しない北海道のダムを除く16ダムのうち、14ダムにおいて確認されました。

### 溪流で繁殖する両生類の確認状況（平成16年度）

種和名	関東					北陸	中部					四国	九州	確認ダム数			
	矢木沢ダム	奈良俣ダム	下久保ダム	草木ダム	浦山ダム	宮ヶ瀬ダム	手取川ダム	新豊根ダム	矢作ダム	阿木川ダム	岩屋ダム	蓮ダム	土師ダム		八田原ダム	大渡ダム	寺内ダム
ブチサンショウウオ											●		●			●	3
ヒダサンショウウオ					●		●				●						3
ハコネサンショウウオ	●						●				●						3
オオサンショウウオ													●				1
ナガレヒキガエル							●				●	●					3
ナガレタゴガエル			●		●	●					●	●					4
カジカガエル	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	14
ダム別確認種数	2	1	2	1	3	2	4	1	1	0	5	3	3	0	1	2	



(2) 水辺環境の指標となる爬虫類の確認状況

・水辺を好むヒバカリを 11 ダム周辺で、ヤマカガシを 16 ダム周辺で確認 [資料Ⅱ-6-7]

ヒバカリとヤマカガシは、水辺や少し湿っぽい場所に生息し、カエルやオタマジャクシ、魚などを好んで捕食していることから、ダム湖周辺の水辺環境の指標として挙げられます。

平成 16 年度調査の結果、元々これらの種が分布しない北海道のダムを除く 16 ダムのうち、ヒバカリは 11 ダム、ヤマカガシは全ダムで確認しています。

ヒバカリ、ヤマカガシの確認状況 (平成 16 年度)

ヒバカリ		一巡目	二巡目	三巡目
地方	ダム名			
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	\	\	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	○	×	×
	下久保ダム	○	×	○
	草木ダム	×	○	×
	浦山ダム	\	\	○
	宮ヶ瀬ダム	\	\	○
北陸	手取川ダム	○	○	○
中部	新豊根ダム	×	○	○
	矢作ダム	○	○	○
	阿木川ダム	○	×	○
	岩屋ダム	○	○	○
	蓮ダム	×	○	×
中国	土師ダム	×	○	○
	八田原ダム	\	\	×
四国	大渡ダム	×	×	○
九州	寺内ダム	○	○	○
確認ダム数		7	8	11
うち比較可能なダム		7	8	9

ヤマカガシ		一巡目	二巡目	三巡目
地方	ダム名			
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	\	\	×
関東	矢木沢ダム	○	○	○
	奈良俣ダム	○	○	○
	下久保ダム	○	○	○
	草木ダム	○	○	○
	浦山ダム	\	\	○
	宮ヶ瀬ダム	\	\	○
北陸	手取川ダム	○	○	○
中部	新豊根ダム	○	○	○
	矢作ダム	○	○	○
	阿木川ダム	○	○	○
	岩屋ダム	○	○	○
	蓮ダム	○	○	○
中国	土師ダム	○	○	○
	八田原ダム	\	\	○
四国	大渡ダム	○	○	○
九州	寺内ダム	○	○	○
確認ダム数		13	13	16
うち比較可能なダム		13	13	13

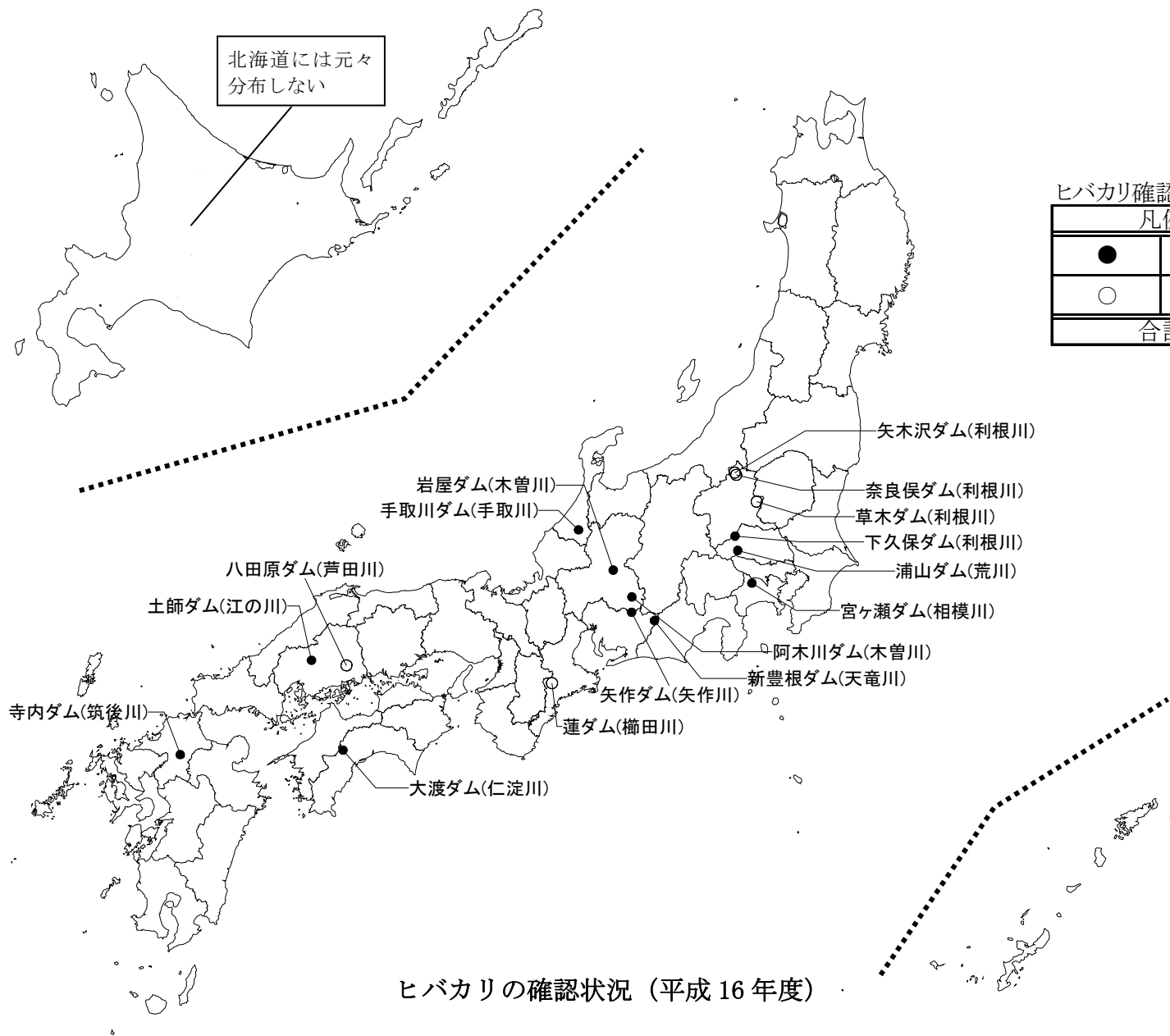
元々、分布しない

元々、分布しない

凡例) ○ : 確認、× : 未確認、\ : ダム完成前

注) 比較可能なダム : 2 回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



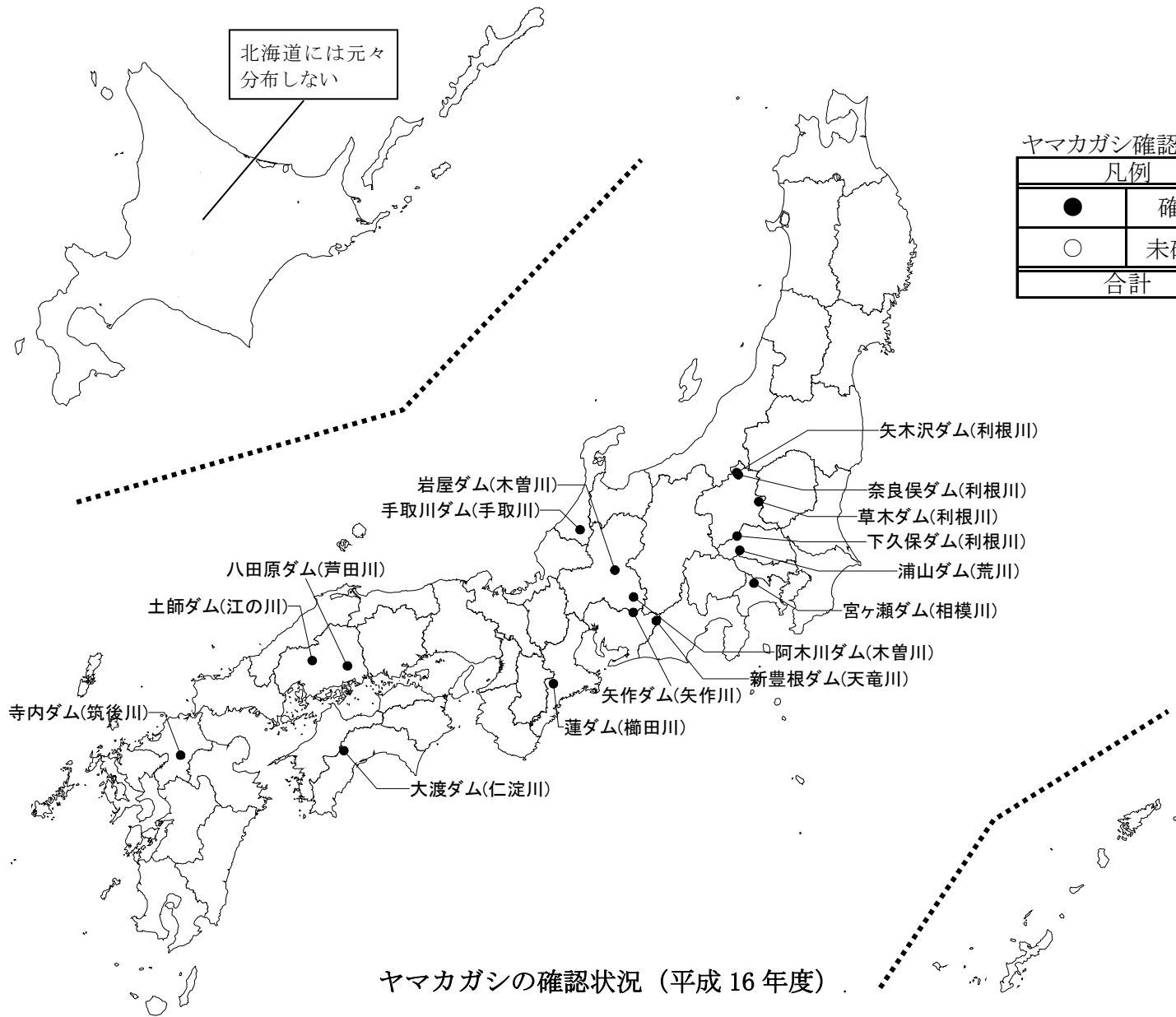


北海道には元々  
分布しない

ヒバカリ確認ダム数

凡例		ダム数
●	確認	11
○	未確認	5
合計		16

ヒバカリの確認状況 (平成 16 年度)



(3) 森林環境の指標となる大型哺乳類の確認状況

- ・9 ダムの周辺でヒグマ・ツキノワグマの生息を確認
- ・10 ダムの周辺でカモシカの生息を確認 [資料Ⅱ-6-8]

北海道に生息するヒグマ、本州以南に生息するツキノワグマ、カモシカなどの大型哺乳類は、行動圏が広く、また、ヒグマ、ツキノワグマは木の芽や木の実、アリやハチなどの昆虫類などを、カモシカは木や草の葉や芽などを採食するため、ダム湖周辺の森林環境の豊かさを表す指標として挙げられます。

平成16年度に実施された19ダムのうち、ヒグマ・ツキノワグマは9ダムの周辺で、カモシカは元々分布しない北海道のダムを除く16ダムのうち、半数以上の10ダムの周辺において確認されました。

分布状況を見ると、ヒグマは北海道で、ツキノワグマは関東、北陸、中部のダム周辺で確認されています。カモシカは関東、北陸、中部のダム周辺で広く確認されています。

ヒグマ・ツキノワグマ、カモシカの確認状況（平成16年度）

ヒグマ・ツキノワグマ(※)

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	○	○	○
	金山ダム	○	○	○
	二風谷ダム	\	\	○
関東	矢木沢ダム	○	○	○
	奈良俣ダム	○	○	○
	下久保ダム	○	○	×
	草木ダム	×	×	×
	浦山ダム	\	\	○
	宮ヶ瀬ダム	\	\	○
北陸	手取川ダム	×	○	○
中部	新豊根ダム	×	×	×
	矢作ダム	×	×	×
	阿木川ダム	×	×	×
	岩屋ダム	×	○	×
	蓮ダム	×	×	○
中国	土師ダム	×	×	×
	八田原ダム	\	\	×
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	×	×	×
確認ダム数		5	7	9
うち比較可能なダム		5	7	6

カモシカ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	\	\	×
関東	矢木沢ダム	○	○	○
	奈良俣ダム	○	○	○
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	○	○	○
	浦山ダム	\	\	○
	宮ヶ瀬ダム	\	\	○
北陸	手取川ダム	○	○	○
中部	新豊根ダム	○	○	○
	矢作ダム	○	○	○
	阿木川ダム	○	○	○
	岩屋ダム	○	○	×
	蓮ダム	○	○	○
中国	土師ダム	×	×	×
	八田原ダム	\	\	×
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	×	×	×
確認ダム数		9	9	10
うち比較可能なダム		9	9	8

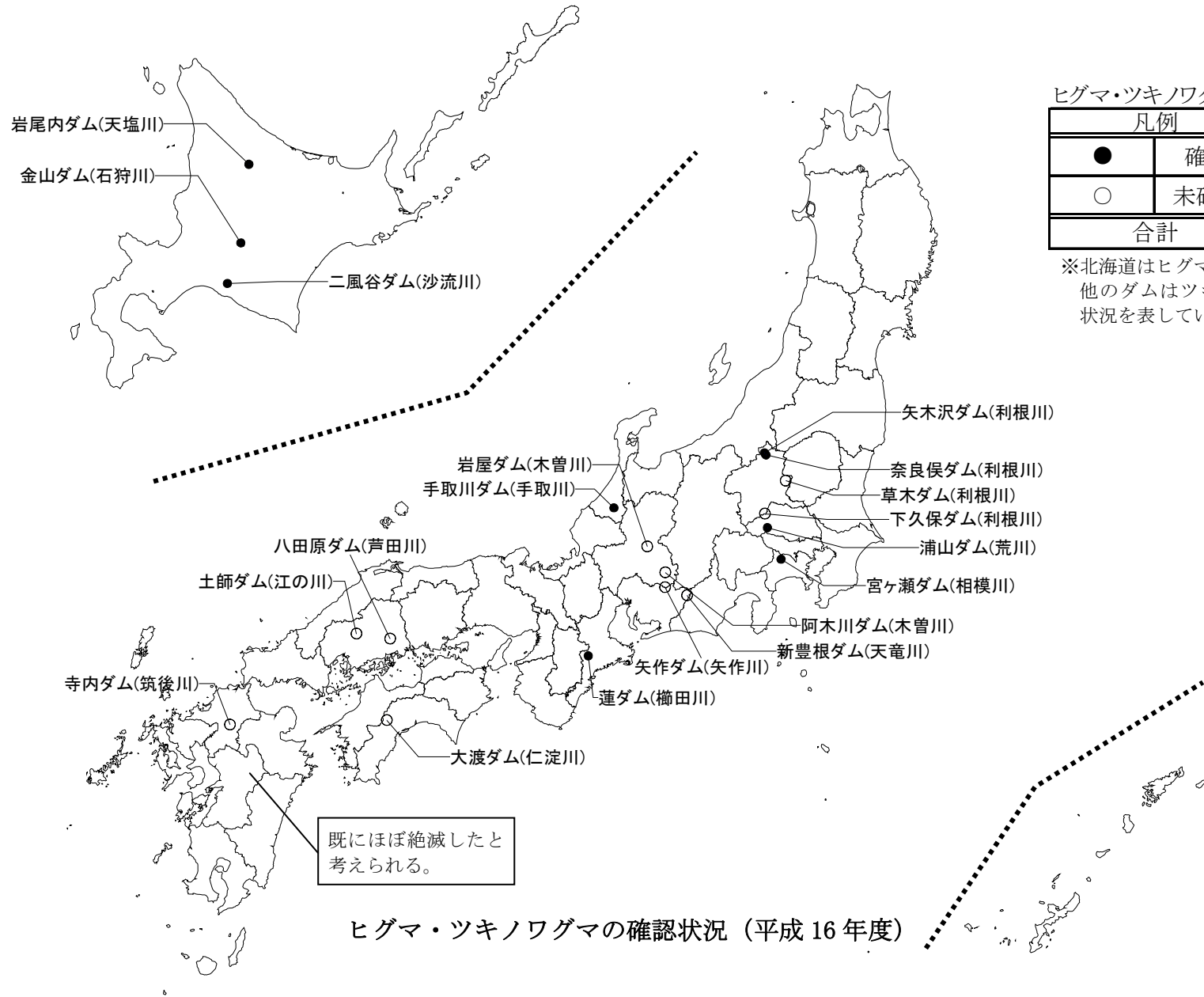
元々、分布しない

絶滅した可能性

凡例) ○：確認、×：未確認、\：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

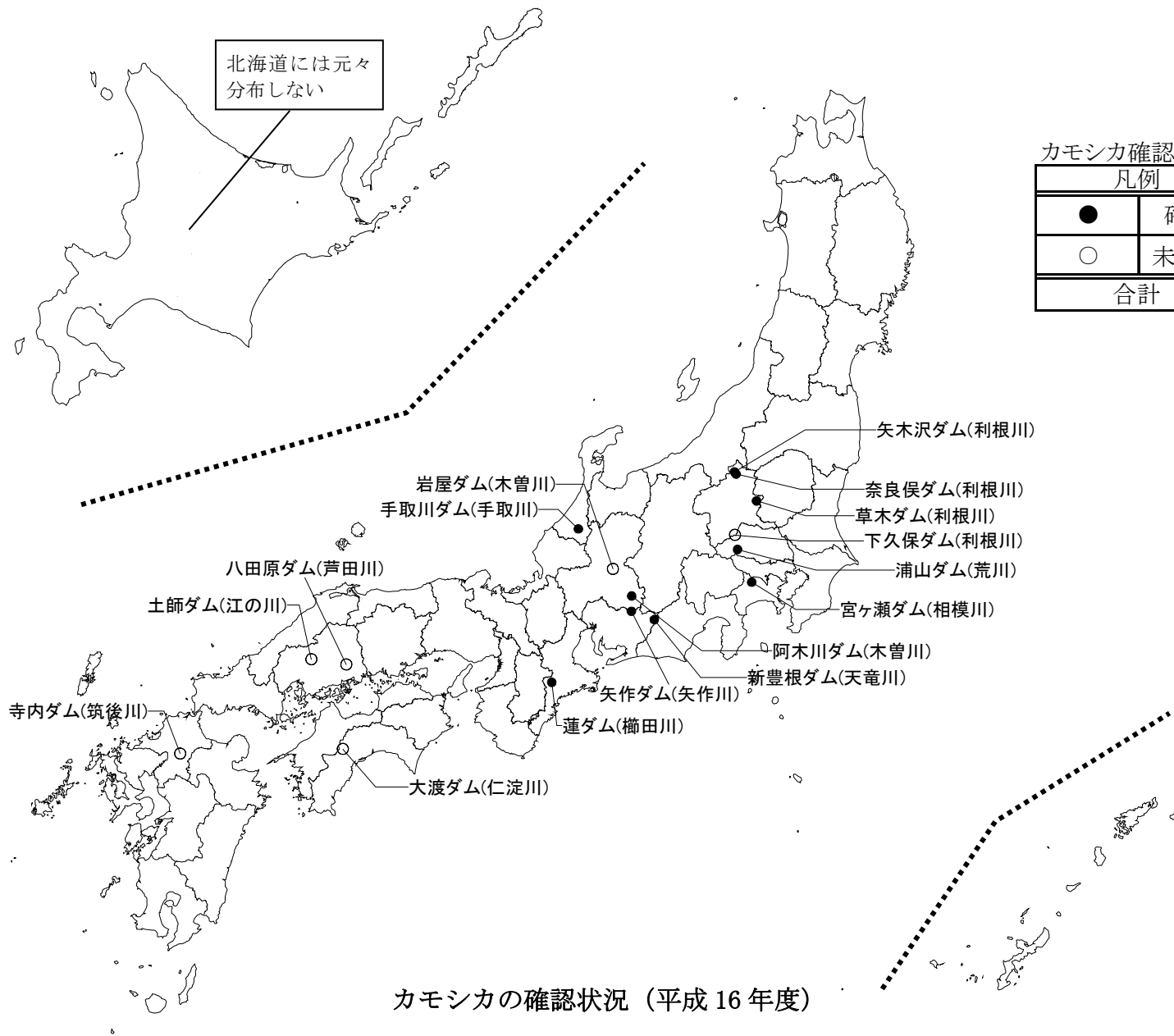
※：北海道はヒグマの確認状況、その他のダムはツキノワグマの確認状況を表している。



ヒグマ・ツキノワグマ確認ダム数

凡例		ダム数
●	確認	9
○	未確認	10
合計		19

※北海道はヒグマの確認状況、その他のダムはツキノワグマの確認状況を表している。



カモシカ確認ダム数

凡例		ダム数
●	確認	10
○	未確認	6
合計		16

## 6. 3 生態系の人為的な攪乱状況

### (1) 国外外来種の分布状況

- ・ ウシガエルを土師ダム、ミシシippアカミミガメを矢作ダム、アライグマを矢作ダム、寺内ダムで新たに確認
- ・ ヌートリアが阿木川、土師ダムに定着、ハクビシンが関東、北陸、中部、四国地方のダムに定着 [資料Ⅱ-6-9]

両生類・爬虫類・哺乳類の調査では、外来生物法で指定された特定外来生物であるウシガエル、ヌートリア、アライグマ、ミンク、要注意外来生物リストに挙げられているミシシippアカミミガメを含む7種が確認されました。ここでは、代表的な外来生物として下記5種を選定し、その分布状況を整理しました。

北米原産のウシガエルは、1918年、ニューオーリンズから輸入され、食肉の輸出生産のために養殖されました。戦後の一時期に外貨を得る重要な手段となるように導入されましたが、その後、養殖が廃れ放置されました。

北米原産のミシシippアカミミガメは、1950年代後半から、いわゆる「ミドリガメ」として販売・飼育され、1960年代後半から、野外で野生化した個体が見つかるようになりました。現在では本州、四国、九州の他に沖縄島や小笠原父島からも生息が確認され、河川の中下流域の水量が多く、流れの緩やかな場所や湖沼などに主に分布しています。雑食性で様々な動植物を食べるため、他種のカメや在来生物に影響を及ぼす可能性があります。

南米原産のヌートリアは、1939～1945年まで毛皮用として北海道から福岡県において養殖されていましたが、終戦後、養殖場の閉鎖によって野外に放逐され、野生化しました。水辺に生活し水草などを食べます。西日本では、稲や畑の根菜類等、農作物等への被害が報告されています。なお、ミシシippアカミミガメは種アカミミガメとして、要注意外来生物リストのうち、「被害に係る一定の知見はあり、引き続き特定外来生物等への指定の適否について検討する外来生物」に挙げられています。

北米原産のアライグマは、森林から市街地まで多様な環境を利用しますが、一般的に水辺に近い場所を好みます。日本では、1962年に愛知県の動物園の飼育個体が逃亡したのが最初で、1979年には北海道で飼育個体が逃亡して定着しています。その後日本各地で侵入が確認され、農作物等への被害のほか、在来種への影響が懸念されています。

ハクビシンは、東南アジアを中心に、中国、台湾に生息しており、日本では第二次世界大戦中に毛皮用の養殖タヌキとともに飼育されていましたが、毛皮の質が悪いため、放逐され、戦後になって個体数を増やしたと言われています。かつては果実の食害が問題視されていましたが、近年では人家の屋根裏への侵入が新たな問題となっています。

平成16年度に実施された19ダムについて、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、ヌートリア、アライグマ、ハクビシンの確認状況をみると、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、アライグマを3ダムで、ヌートリアを2ダムで、ハクビシンを9ダムで確認しました。

なお、今回アライグマが確認された3ダムのうち、二風谷ダム、矢作ダムの周辺では以前から繁殖していた情報がありますが、寺内ダムでは周辺に遺棄されたアライグマが定着した

可能性があります。

また、外来種の定着状況を確認するため、19 ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した 15 ダムについて確認状況をみると、ウシガエルが中国の土師ダム、ミシシippiaカミミガメが中部の矢作ダム、アライグマが中部の矢作ダム、九州の寺内ダム、ハクビシンが中部の矢作ダム、岩屋ダムで初めて確認されました。また、ヌートリアは中部、中国のダムにおいて、ハクビシンは関東、北陸、中部、四国のダムにおいて、一巡目または二巡目調査から引き続き確認されています。

## 国外外来種の確認状況

ウシガエル

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	／	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	浦山ダム	／	／	×
	宮ヶ瀬ダム	／	／	×
北陸中部	手取川ダム	×	×	×
	新豊根ダム	×	×	×
	矢作ダム	×	×	×
	阿木川ダム	×	×	×
	岩屋ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	×	○
	八田原ダム	／	／	○
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	○	○	○
確認ダム数		1	1	3
うち比較可能なダム		1	1	2

ミシシippアカミガメ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	／	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	浦山ダム	／	／	×
	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
北陸中部	手取川ダム	×	×	×
	新豊根ダム	×	×	×
	矢作ダム	×	×	○
	阿木川ダム	×	○	×
	岩屋ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	○	○
	八田原ダム	／	／	×
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	×	×	×
確認ダム数		0	2	3
うち比較可能なダム		0	2	2

ヌートリア

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	／	×
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	浦山ダム	／	／	×
	宮ヶ瀬ダム	／	／	×
北陸中部	手取川ダム	×	×	×
	新豊根ダム	×	×	×
	矢作ダム	×	×	×
	阿木川ダム	×	○	○
	岩屋ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	○	○
	八田原ダム	／	／	×
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	×	×	×
確認ダム数		0	2	2
うち比較可能なダム		0	2	2

アライグマ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	／	○
関東	矢木沢ダム	×	×	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	×	×
	草木ダム	×	×	×
	浦山ダム	／	／	×
	宮ヶ瀬ダム	／	／	×
北陸中部	手取川ダム	×	×	×
	新豊根ダム	×	×	×
	矢作ダム	×	×	○
	阿木川ダム	×	×	×
	岩屋ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	×	×
	八田原ダム	／	／	×
四国	大渡ダム	×	×	×
九州	寺内ダム	×	×	○
確認ダム数		0	0	3
うち比較可能なダム		0	0	2

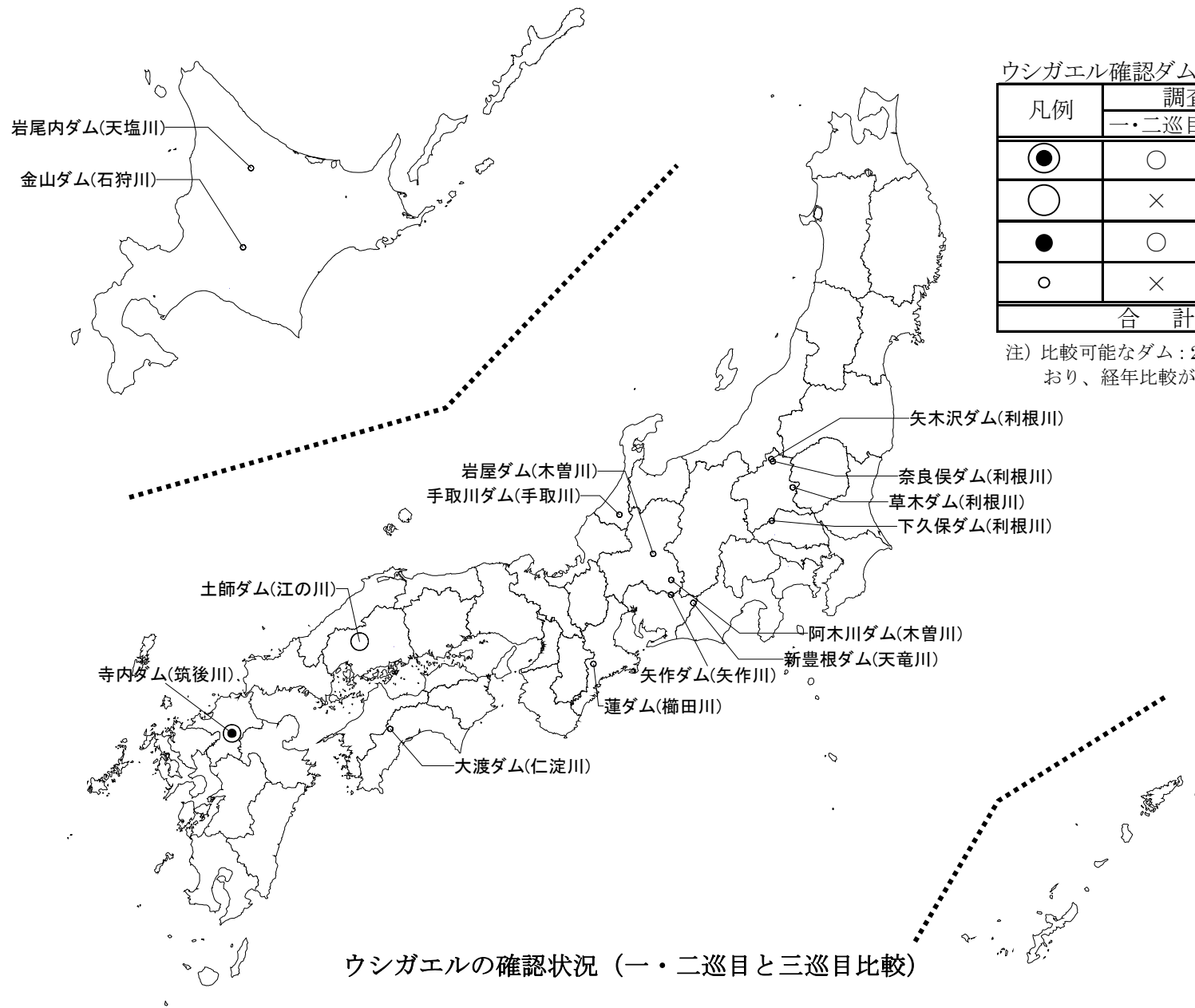
ハクビシン

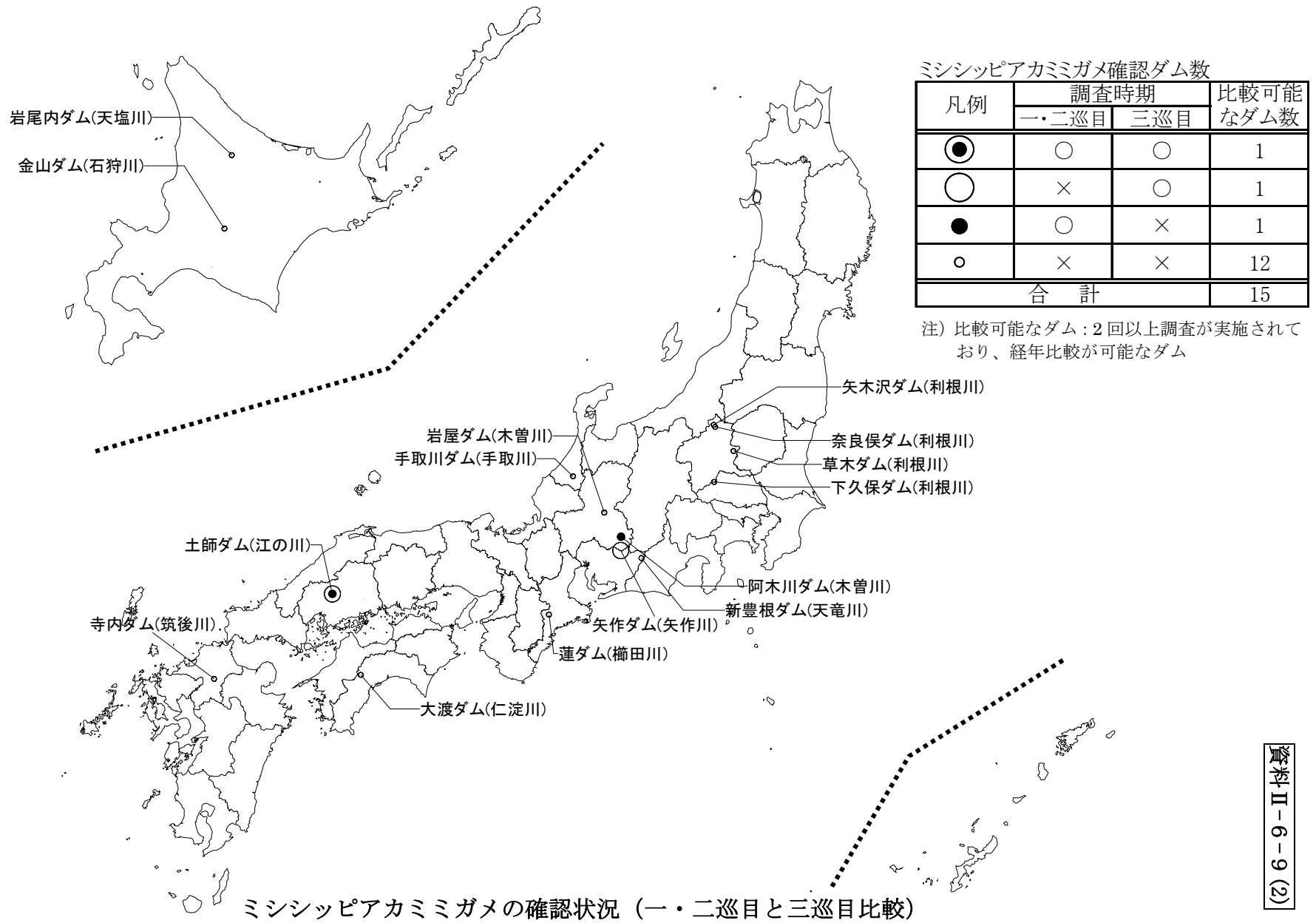
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	岩尾内ダム	×	×	×
	金山ダム	×	×	×
	二風谷ダム	／	／	×
関東	矢木沢ダム	×	○	×
	奈良俣ダム	×	×	×
	下久保ダム	×	○	○
	草木ダム	○	○	○
	浦山ダム	／	／	○
	宮ヶ瀬ダム	／	／	○
北陸中部	手取川ダム	×	○	○
	新豊根ダム	×	○	×
	矢作ダム	×	×	○
	阿木川ダム	×	○	○
	岩屋ダム	×	×	○
	蓮ダム	×	×	×
中国	土師ダム	×	×	×
	八田原ダム	／	／	×
四国	大渡ダム	○	○	○
九州	寺内ダム	×	×	×
確認ダム数		2	7	9
うち比較可能なダム		2	7	7

凡例) ○ : 確認、× : 未確認、\ : ダム完成前

注) 比較可能なダム : 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



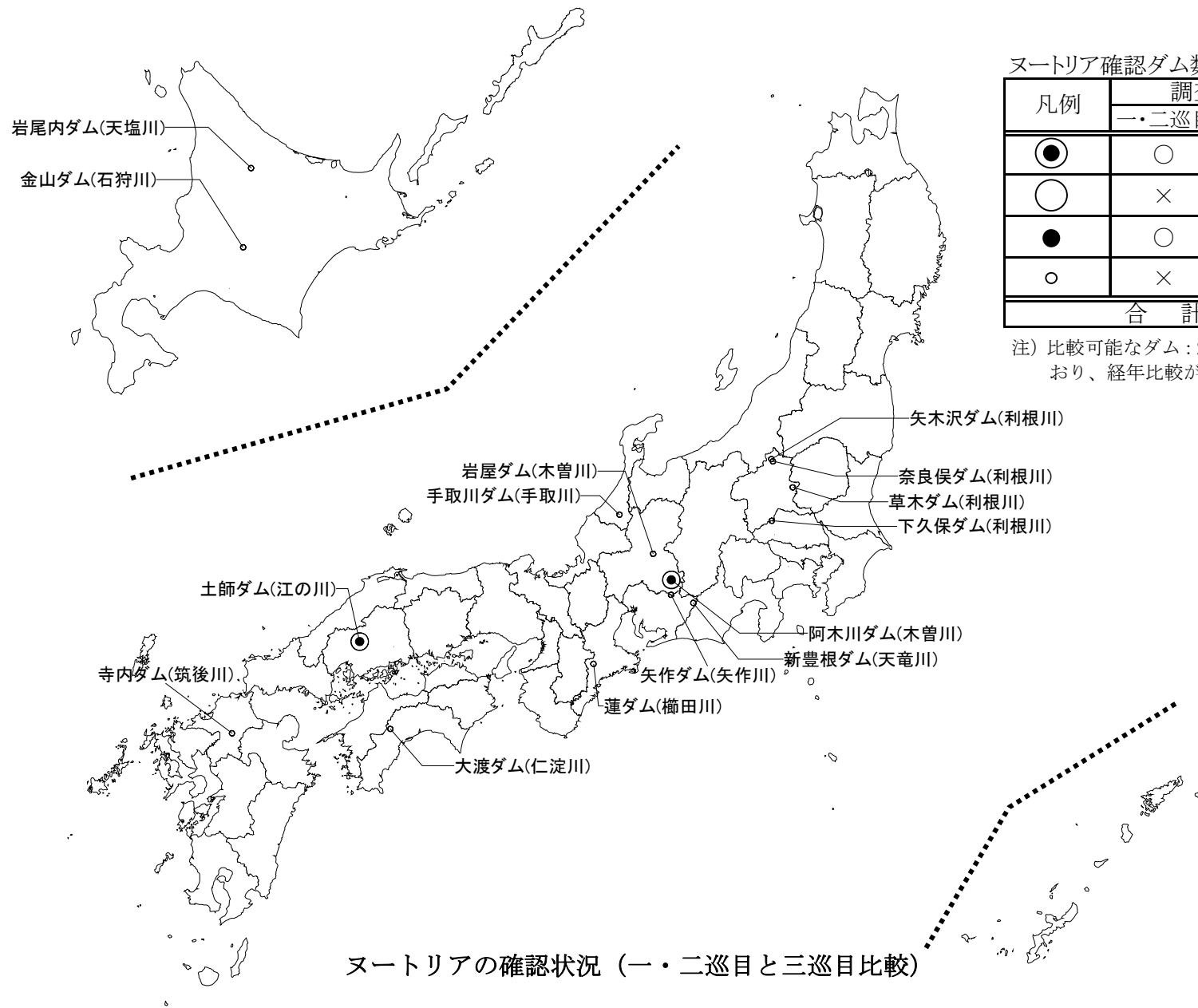




ミシシippアカミミガメ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	1
○	×	○	1
●	○	×	1
○	×	×	12
合計			15

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

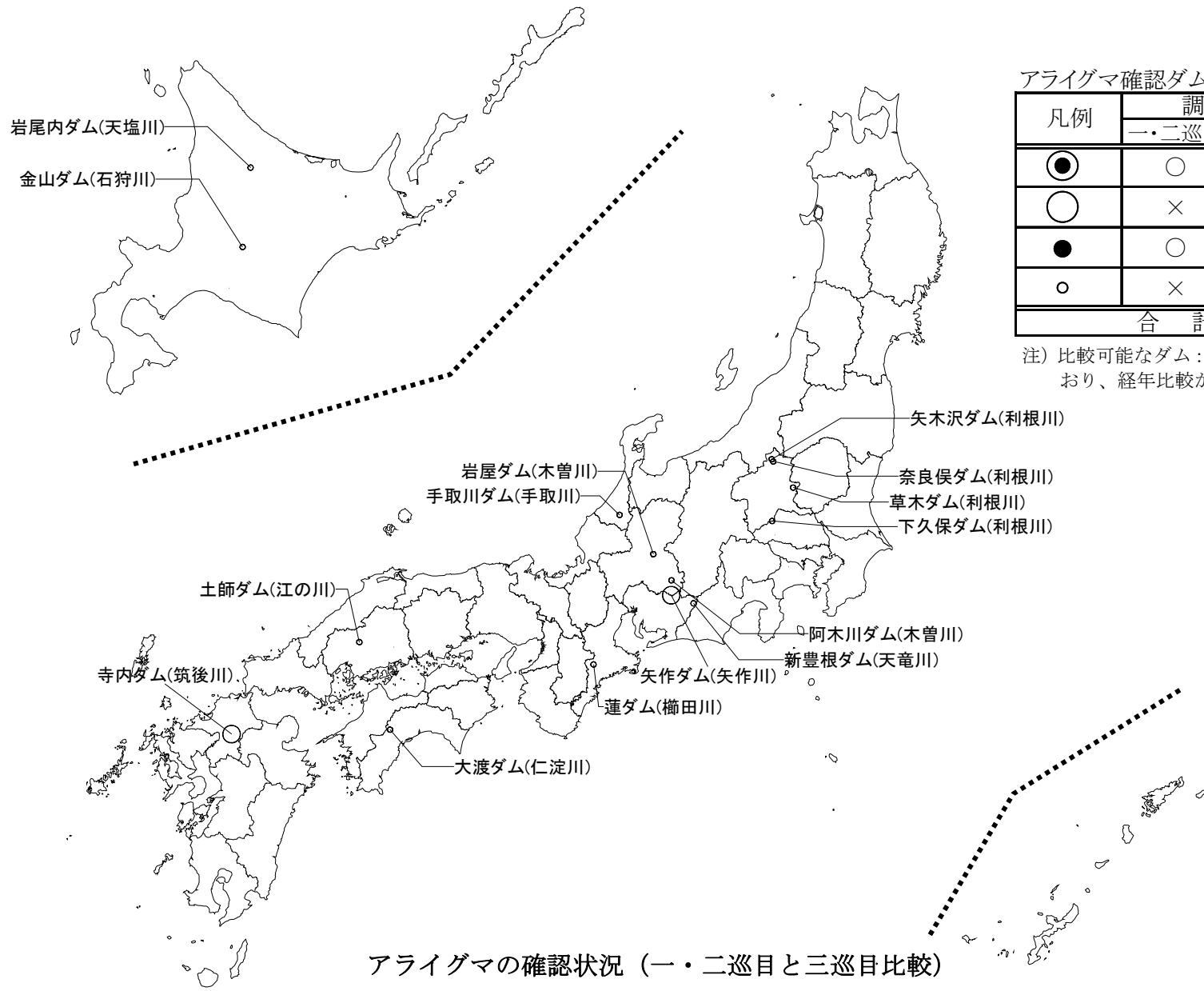


ヌートリアの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

ヌートリア確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	2
⊗	×	○	0
●	○	×	0
○	×	×	13
合計			15

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

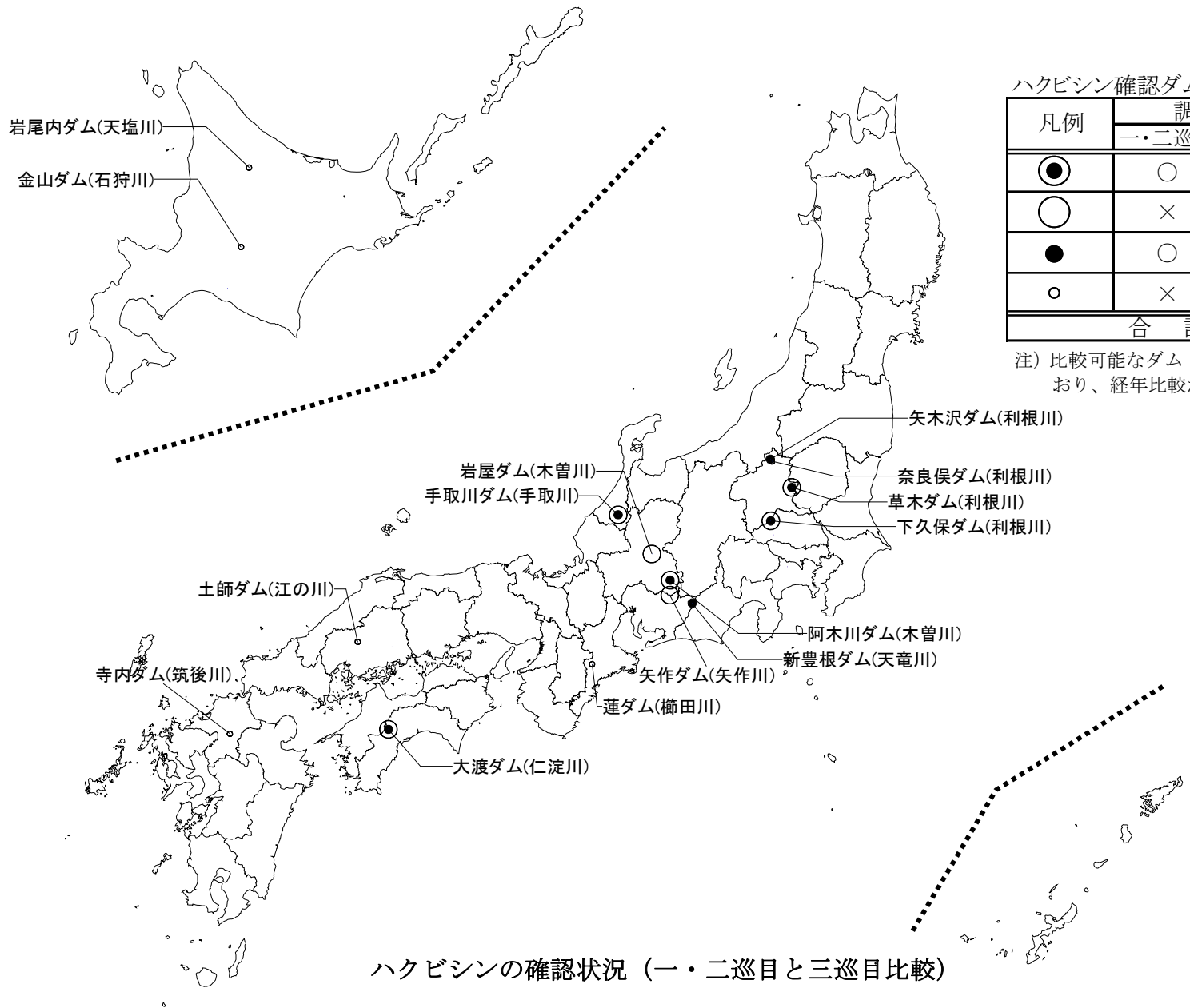


アライグマ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	0
○	×	○	2
●	○	×	0
○	×	×	13
合計			15

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

アライグマの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)



ハクビシン確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	5
○	×	○	2
●	○	×	2
○	×	×	6
合 計			15

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

ハクビシンの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

## 7 陸上昆虫類等調査の概要

### 7. 1 調査結果の概要

#### (1) 確認種数 [資料Ⅱ-7-1]

- ・平成 16 年度に実施した 30 ダムの現地調査によって確認した陸上昆虫類等（クモ類・昆虫類）は 24 目 440 科 8,575 種です。「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅰ・Ⅱ（環境庁, 1993・1995）」には、31,280 種が日本の昆虫類およびクモ類として掲載されており、今回確認した種数は、その約 27%に相当します。
- ・各ダムでの確認種数は、天ヶ瀬ダムの 2,120 種、九頭竜ダムの 2,118 種、美和ダムの 2,036 種などです。
- ・確認した陸上昆虫類等を目別にみると、コウチュウ目が 3,039 種、次いでチョウ目の 2,490 種、カメムシ目の 779 種の順となっています。

#### (2) 特定種（陸上昆虫類等） [資料Ⅱ-7-2]

- ・特定種として、今回の調査ではクモ形類・昆虫類のレッドリスト（環境庁, 2000）に記載されている 48 種を確認しています。
- ・昆虫類のレッドリストの絶滅危惧Ⅰ類であるクロシジミが、近畿の九頭竜ダムで確認されました。また、絶滅危惧Ⅱ類は 10 種確認されています。

（注）特定種について

陸上昆虫類等においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物および緊急指定種
- ・環境庁編（2000）「クモ形類・昆虫類のレッドリスト（レッドデータブックの基礎となる日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」掲載種

#### (3) 外来種（陸上昆虫類等） [資料Ⅱ-7-3]

- ・外来種として、ここではおおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の陸上昆虫類等を掲げています。今回の調査では要注意外来生物リストに挙げられたシロテンハナムグリ（沖縄に分布する種のみ）を含む 69 種を確認しています。なお、このうち福地ダムで確認されたサツマイモノメイガ、漢那ダムで確認されたケブカメツブテントウ、オオメノコギリヒラタムシは、今回初めて確認されました。

（注）・外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物（国外外来種）全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、選定の際に考慮していません。また、外来種の選定は、Ⅰ-21～22 ページに掲載した文献およびⅠ-23～24 ページに掲載した学識者による意見をもとに行っています。

・要注意外来生物リストについて

外来生物法の規制対象となる特定外来生物や未判定外来生物とは異なり、外来生物法に基づく飼養等の規制が課されるものではありませんが、これらの外来生物が生態系に悪影響を及ぼしうることから、利用に関わる個人や事業者等に対し、適切な取扱いについて理解と協力をお願いするものです。

陸上昆虫類等目別確認状況一覧表（平成16年度）

綱和名	目和名	北海道				東北					関東		北陸			中部			近畿			中国	九州		沖縄					合計				
		鹿ノ子ダム	豊平峡ダム	定山溪ダム	札内川ダム	四十四田ダム	御所ダム	田瀬ダム	湯田ダム	石淵ダム	玉川ダム	二瀬ダム	荒川調節池	大石ダム	大川ダム	三国川ダム	手取川ダム	美和ダム	蓮ダム	九頭竜ダム	真名川ダム	天ヶ瀬ダム	菅沢ダム	松原ダム	下笠ダム	辺野喜ダム	安波ダム	普久川ダム	新川ダム		福地ダム	漢那ダム		
クモ綱(蛛形綱)	クモ目	110	41	66	70	149	139	144	126	112	191	72	47	171	41	37	64	38	56	69	54	196	191	145	130	14	11	16	8	14	17	488		
昆虫綱	トビムシ目				1									1								1		1								3		
	コムシ目																					1										1		
	イシノミ目					1					1			1	1	1			1			1							1		1	2		
	カゲロウ目	2	2	2	5	5	6	1		1	4	2		1	3	2	4	1	4	6	4	5	9	10	8	4	4		6	2		25		
	トンボ目	9	8	10	1	30	45	28	30	29	21	4	12	22	28	17	29	23	9	17	14	50	23	22	25	16	20	20	22	25	32	101		
	ゴキブリ目																	1				5	1	3	3	6	9	7	5	7	9	19		
	カマキリ目					1	1	2	1		1	1	3		2	2	3	2	4	2	3	5	2	4	5	2	3	1	2	2	4	7		
	シロアリ目					1	1	1	1	1				1		1	1	1				1		1		1	2	1	2	1	3	5		
	ハサミムシ目	2	2	3	3	5	5	2	4	4	3	2	3	2	5	3	4	5	5	1	2	6	1	4	3	4	4	4	3	4	2	16		
	カワゲラ目	1	1		5	2	2			1	1	4	1		1	3	2			1	1	6	7		2	3	4	2	8	5	5	4	6	29
	バッタ目	13	10	16	14	40	36	34	31	24	25	25	27	45	29	42	47	54	47	47	40	74	40	55	49	35	32	32	39	36	41	166		
	ガロアムシ目									1																							1	
	シロアリモドキ目																									1	1	1					1	
	ナナフシ目					2	1	1	1			1		2	2	2	3	3	1	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	10	
	チャタテムシ目	1	1	3	5								1			5	5		6				2		1	2							9	
	カメムシ目	102	105	124	140	142	155	146	151	133	114	130	85	134	155	140	190	226	98	184	163	253	227	201	192	83	72	85	79	88	92	779		
	アミメカゲロウ目	16	13	15	20	16	12	12	13	12	15	14	2	13	20	11	12	20	7	17	21	21	7	11	16	4	4	2	2	6	8	79		
	シリアゲムシ目	1	1	1	1	3	5	3	4	5	5	6		6	5	1	6	6	1	9	7	2	5	1	1							15		
	トビケラ目	29	6	4	17	15	18	7	7	7	16	9		5	5	11	4	8	3	8	12	18	20	8	10	6	7	7	3	5	7	78		
	チョウ目	571	374	424	514	346	413	397	478	409	820	412	60	807	314	356	334	551	297	836	775	415	312	475	506	239	183	209	221	265	223	2,490		
ハエ目	72	63	83	165	94	85	47	56	44	77	52	31	50	87	75	34	66	18	149	103	141	61	60	73	19	17	33	23	35	38	563			
コウチュウ目	253	299	381	387	530	489	571	671	552	374	430	183	531	368	268	499	925	231	545	448	785	566	600	573	238	242	220	214	293	282	3,039			
ハチ目	39	37	50	112	67	66	53	52	37	58	45	49	131	65	60	67	100	48	218	150	136	131	104	111	36	41	48	35	44	40	649			
合計		1,221	963	1,182	1,460	1,449	1,479	1,449	1,628	1,371	1,728	1,208	503	1,923	1,139	1,036	1,302	2,036	833	2,118	1,806	2,120	1,601	1,712	1,714	713	663	694	672	833	807	8,575		

注1) スクリーニング委員会による指摘により△△科、○○属の一種(○○ sp.)までしか同定できなかった種については、カウントしていない。また、一部、スクリーニング委員による標本確認作業が終了していないため、種数は2006年1月現在のものである。  
 注2) 今回の発表では、クモ綱クモ目、昆虫綱のみを対象とした。





陸上昆虫類等国外外来種一覧（平成16年度）

No.	目名	科名	種名	外来種	地域																		確認 ダム数												
					北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	九州	沖縄																						
					鹿ノ子 ダム	豊平 峡ダム	定山 溪ダム	札内 川ダム	四 十 四 田 ダム	御 所 ダム	田 瀬 ダム	湯 田 ダム	玉 川 ダム	二 瀬 ダム	荒 川 調 節 池	大 石 ダム	大 川 ダム	三 国 川 ダム	手 取 川 ダム	美 和 ダム	蓮 ダム	九 頭 竜 ダム	天 ヶ 瀬 ダム	菅 沢 ダム	松 原 ダム	下 釜 ダム	辺 野 喜 ダム	安 波 ダム	普 久 川 ダム	新 川 ダム	福 地 ダム	漢 那 ダム			
1	ゴキブリ目	オガサワラゴキブリ科	オガサワラゴキブリ																																4
2		ゴキブリ科	ワモンゴキブリ※1																																1
3			クロゴキブリ※1																																1
4	シロアリ目	ミノガシラシロアリ科	イエシロアリ																																2
5	バッタ目	コオロギ科	アオマツムシ																																4
6	カメムシ目	ウンカ科	クロアツウンカ																																1
7		ギジラミ科	ギンネムギジラミ																																1
8		グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ																																1
9			ヘクソカズラグンバイ																																1
10	チョウ目	ミノガ科	オオミノガ																																1
11		イラガ科	ハスオビイラガ																																1
12		マダラガ科	タケノボソクロバ																																2
13		シロチョウ科	オオモンシロチョウ																																4
14		ツトガ科	サツマイモノメイガ																																1
15			シバツトガ																																4
16		メイガ科	カシノシマメイガ※2																																1
17		ヤガ科	オオタバコガ																																6
18	ハエ目	ミズアブ科	アメリカミズアブ																																6
19		ハナアブ科	ハイジマハナアブ																																1
20			スイセンハナアブ																																1
21		シヨウジョウバエ科	キイロシヨウジョウバエ																																1
22		クロバエ科	ルリキンバエ																																1
23	コウチュウ目	オサムシ科	コリアトギリゴミムシ																																6
24		コガネムシ科	タイワンカブトムシ																																2
25			サカイシロテンハナムグリ※3																																1
26		カツオブシムシ科	カドマルカツオブシムシ																																1
27			ハラジロカツオブシムシ																																1
28		シバンムシ科	タバコシバンムシ※2																																1
29			ジンサンシバンムシ※2																																1
30		ナガシクイムシ科	オオナガシクイ																																5
31			ケヤキヒラタキクイムシ																																1
32		カッコウムシ科	アカアシホシカムシ																																1
33		テントウムシ科	ミスジキイロテントウ																																1
34			ケブカメツブテントウ																																1
35			ハイロテントウ																																1
36			クモガタテントウ																																1
37			ベダリアテントウ																																3
38		ヒメマキムシ科	クレヒメマキムシ																																1
39		ケシキスイ科	ウスチャデオキスイ																																1
40			クリイロデオキスイ																																3
41		ネスイムシ科	トビイロデオネスイ																																5
42		ホソヒラタムシ科	チビセマルホソヒラタムシ																																1
43			オオメノコギリヒラタムシ※2																																1
44			フタトゲホソヒラタムシ																																6
45			ヒメフタトゲホソヒラタムシ※2																																3
46		アリモドキ科	アトゾロホソアリモドキ																																1
47		ゴミムシダマシ科	ガイマイゴミムシダマシ※2																																1
48			ヒメゴミムシダマシ※2																																3
49		カミキリムシ科	ツシマムナクボカミキリ																																6
50			ハラアコフカミキリ																																2
51			ラミーカミキリ																																4
52			キボシカミキリ※4																																5
53		ハムシ科	アスキマメゾウムシ※2																																7
54			フタクサハムシ																																8
55		ヒゲナガゾウムシ科	ワタミヒゲナガゾウムシ																																4
56		ゾウムシ科	ヒラヤマメナガゾウムシ																																1
57			アルファルファタコゾウムシ																																1
58			オオタコゾウムシ																																6
59			イネミスゾウムシ																																7
60			ヤサイゾウムシ																																2
61			ケチビコフキノウムシ																																3
62		オサゾウムシ科	シバオサゾウムシ																																1
63	ハチ目	セイボウ科	イラガセイボウ																																1
64		アリ科	イエヒメアリ																																2
65			ヒゲナガアメイロアリ																																7
66		アナバチ科	アメリカシガバチ																																3
67			ニッポンモンキシガバチ																																3
68			キゴシジガバチ																																3
69		ミツバチ科	セイヨウミツバチ																																20
確認種数					3	2	3	10	9	4	1	3	4	5	7	2	5	0	1	10	2	5	3	25	5	10	14	6	10	5					

## 7. 2 ダム湖周辺環境の特徴

### (1) 代表的な種の確認状況

・オオムラサキは9ダムで確認 [資料Ⅱ-7-4]

日本の国蝶であるオオムラサキの確認状況を整理しました。

オオムラサキは、北海道南西部から九州までの広い範囲に分布しており、幼虫は河畔林を形成するエノキやエゾエノキを食樹としています。成虫は初夏に出現し、クヌギやコナラの樹液や熟した果実を食物としています。現在は雑木林など生息環境の減少による影響が懸念され、環境庁のレッドリストでは準絶滅危惧に指定されています。

平成16年度に実施した30ダムのうち、東北、関東、北陸、中部、近畿、九州の9ダムで確認しています。

30ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した29ダムについて確認状況をみると、東北の四十四田ダム、御所ダム、北陸の大川ダム、中部の美和ダム、近畿の九頭竜ダム、真名川ダム、九州の松原ダム、下笠ダムで引き続き確認しています。

### オオムラサキの確認状況

オオムラサキ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	\	\	×
東北	四十四田ダム	○	×	○
	御所ダム	○	×	○
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	○	×	○
北陸	荒川調節池	○	×	×
	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	○	○	○
中部	三国川ダム	\	×	×
	手取川ダム	○	○	×
	美和ダム	○	○	○
近畿	蓮ダム	×	×	×
	九頭竜ダム	○	○	○
九州	真名川ダム	○	×	○
	天ヶ瀬ダム	×	×	×
中国	菅沢ダム	×	×	×
九州	松原ダム	○	○	○
	下笠ダム	○	○	○
沖縄	辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	×	×	×
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	×	×	×
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	\	×	×
確認ダム数		11	6	9

凡例) ○：確認、×：未確認、-：調査を実施していない、\：ダム完成前



## 7. 3 生態系の人為的な攪乱状況

### (1) 国外外来種の分布状況

#### ・ブタクサハムシ、イネミズゾウムシの確認ダム数が増加 [資料Ⅱ-7-5]

陸上昆虫類の外来種は、外来植物とともに侵入することが多く、各地に分布を広げています。中には害虫となるものも含まれており、近年増加していると言われている代表的な外来昆虫としてブタクサハムシ、イネミズゾウムシ、ラミーカミキリ、アメリカミズアブ、アオマツムシの5種について確認状況を整理しました。なお、外来生物法で指定されている昆虫の特定外来生物は確認されませんでした。

ブタクサハムシは北米産の種ですが、1996年に千葉県で発見されて以降、ほぼ全国で確認されています。同じく外来種であるブタクサやオオブタクサを食草としており、これらの植物の分布拡大とともに、分布を拡大していく傾向が伺えます。

イネミズゾウムシも北米産の種ですが、1975年に愛知県で発見されて以降、1986年には全国に分布が広がったといわれています。イネの害虫として知られていますが、イネ以外にもイヌビエ、ムツオレグサ、チゴザサ、マコモ、サヤヌカグサ、ホタルイ、オモダカなどを食草としています。

ラミーカミキリは明治初期に中国大陸から輸入された麻植物について移入したと考えられており、成虫はラミー、カラムシ、ムクゲなどの葉や茎を食べます。

アメリカミズアブは体長1～2cmの北アメリカ原産のハエ類で、1950年頃東京で見つかりました。畑のわきの野菜くずを捨てているようなところによく発生しています。

アオマツムシは中国大陸原産で、1898年に東京で見つかりました。街路樹の上などでリーリーリーリーと大きな声で鳴くため、都会などでも比較的簡単に確認することができます。

平成16年度に実施した30ダムのうち、ブタクサハムシが8ダムで、イネミズゾウムシが7ダムで、ラミーカミキリが4ダムで、アメリカミズアブが6ダムで、アオマツムシが4ダムで確認されています。

30ダムのうち一巡目または二巡目調査を実施した29ダムについて確認状況をみると、ブタクサハムシは一巡目・二巡目調査時に確認されなかった7ダムで新たに確認しています。イネミズゾウムシも新たに3ダムで確認しています。また、ラミーカミキリは、一巡目・二巡目・三巡目を通して引き続き確認しており、定着していることが伺われます。

## 国外外来種の確認状況

ブタクサハムシ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	／	／	×
東北	四十四田ダム	×	×	○
	御所ダム	×	×	○
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	×	○	×
	荒川調節池	×	○	○
北陸	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	×	×	×
	三国川ダム	／	×	×
	手取川ダム	×	×	×
中部	美和ダム	×	×	○
	蓮ダム	×	×	×
近畿	九頭竜ダム	×	×	×
	真名川ダム	×	×	○
	天ヶ瀬ダム	×	×	○
中国	菅沢ダム	×	×	×
	松原ダム	×	×	○
	下釜ダム	×	×	○
沖縄	縄辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	×	×	×
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	×	×	×
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	／	×	×
確認ダム数		0	2	8
うち比較可能なダム		0	2	8

イネミズゾウムシ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	／	／	×
東北	四十四田ダム	○	×	○
	御所ダム	×	×	○
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	×	×	×
	荒川調節池	×	×	×
北陸	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	×	○	×
	三国川ダム	／	×	×
	手取川ダム	×	×	×
中部	美和ダム	×	○	○
	蓮ダム	○	×	×
近畿	九頭竜ダム	×	×	×
	真名川ダム	×	×	×
	天ヶ瀬ダム	○	×	○
中国	菅沢ダム	×	×	×
	松原ダム	×	×	○
	下釜ダム	×	○	○
沖縄	縄辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	×	×	×
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	×	×	○
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	／	×	×
確認ダム数		3	3	7
うち比較可能なダム		3	3	7

ラミーカミキリ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	／	／	×
東北	四十四田ダム	×	×	×
	御所ダム	×	×	×
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	×	×	○
	荒川調節池	×	×	×
北陸	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	×	×	×
	三国川ダム	／	×	×
	手取川ダム	×	×	×
中部	美和ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
近畿	九頭竜ダム	×	×	×
	真名川ダム	×	×	×
	天ヶ瀬ダム	○	○	○
中国	菅沢ダム	×	×	×
	松原ダム	○	○	○
	下釜ダム	○	○	○
沖縄	縄辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	×	×	×
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	×	×	×
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	／	×	×
確認ダム数		3	3	4
うち比較可能なダム		3	3	4

アメリカズアブ

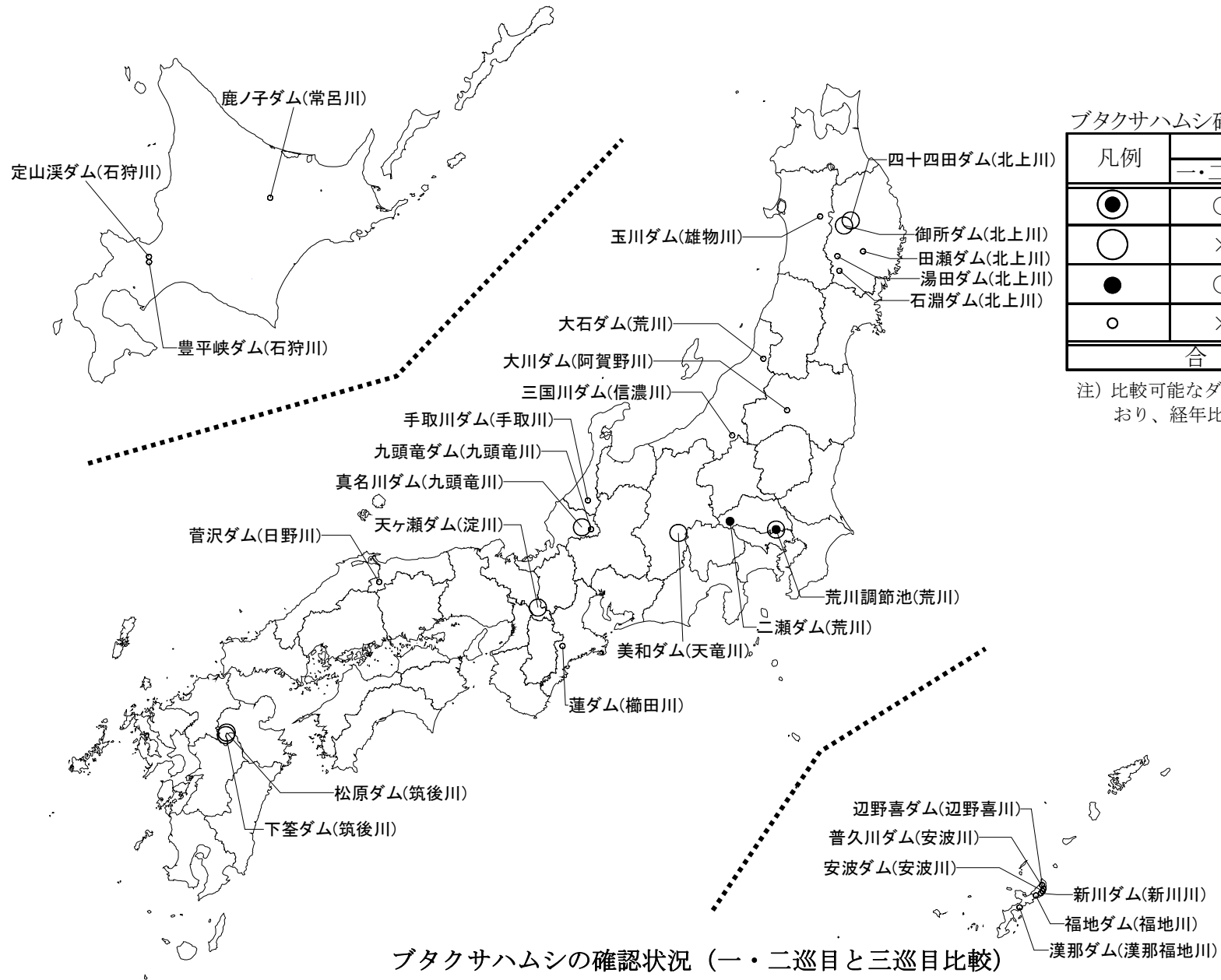
地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	／	／	×
東北	四十四田ダム	×	×	○
	御所ダム	×	×	○
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	×	×	×
	荒川調節池	×	×	×
北陸	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	×	×	×
	三国川ダム	／	×	×
	手取川ダム	×	×	×
中部	美和ダム	×	×	○
	蓮ダム	×	×	×
近畿	九頭竜ダム	×	×	×
	真名川ダム	×	×	×
	天ヶ瀬ダム	○	×	×
中国	菅沢ダム	×	×	×
	松原ダム	×	○	×
	下釜ダム	×	×	○
沖縄	縄辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	○	×	○
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	○	×	×
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	／	○	○
確認ダム数		3	2	6
うち比較可能なダム		3	2	6

アオマツムシ

地方	ダム名	一巡目	二巡目	三巡目
北海道	鹿ノ子ダム	×	×	×
	豊平峡ダム	×	×	×
	定山溪ダム	×	×	×
	札内川ダム	／	／	×
東北	四十四田ダム	×	×	×
	御所ダム	×	×	×
	田瀬ダム	×	×	×
	湯田ダム	×	×	×
	石淵ダム	×	×	×
関東	玉川ダム	×	×	×
	二瀬ダム	×	×	×
	荒川調節池	×	×	○
北陸	大石ダム	×	×	×
	大川ダム	×	×	×
	三国川ダム	／	×	×
	手取川ダム	×	×	×
中部	美和ダム	×	×	×
	蓮ダム	×	×	×
近畿	九頭竜ダム	×	×	×
	真名川ダム	×	×	×
	天ヶ瀬ダム	×	○	○
中国	菅沢ダム	×	×	×
	松原ダム	×	×	○
	下釜ダム	×	×	○
沖縄	縄辺野喜ダム	×	×	×
	安波ダム	×	×	×
	普久川ダム	×	×	×
	新川ダム	×	×	×
	福地ダム	×	×	×
	漢那ダム	／	×	×
確認ダム数		0	1	4
うち比較可能なダム		0	1	4

凡例) ○：確認、×：未確認、－：調査を実施していない、／：ダム完成前

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



ブタクサハムシの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

ブタクサハムシ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	1
○	×	○	7
●	○	×	1
○	×	×	20
合計			29

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



イネミズゾウムシの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

イネミズゾウムシ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
◎	○	○	4
○	×	○	3
●	○	×	2
○	×	×	20
合計			29

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



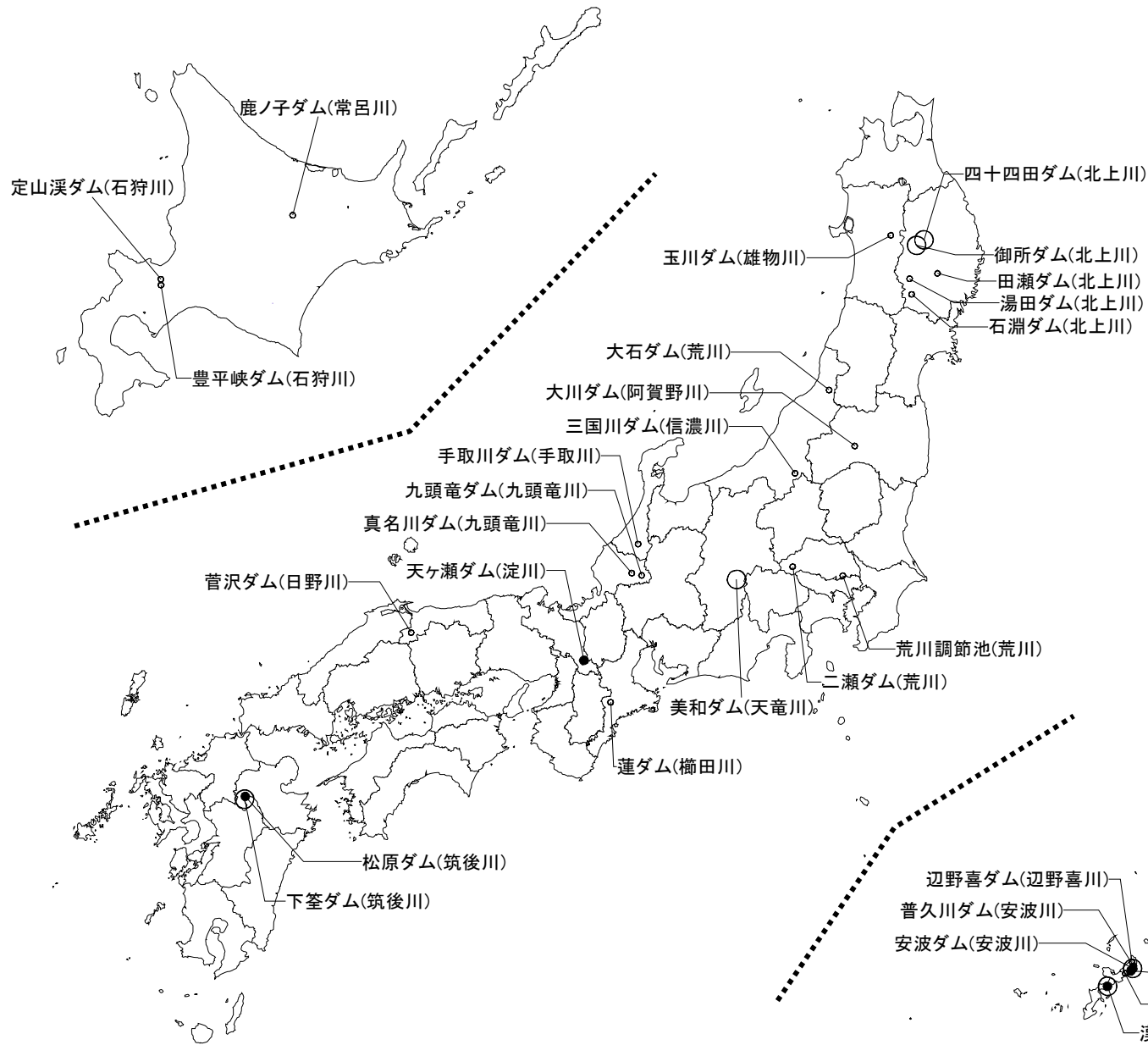
ラミーカミキリの確認状況（一・二巡目と三巡目比較）

ラミーカミキリ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	3
⊗	×	○	1
●	○	×	0
○	×	×	25
合計			29

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム





アメリカミズアブの確認状況 (一・二巡目と三巡目比較)

アメリカミズアブ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	2
○	×	○	4
●	○	×	3
○	×	×	20
合計			29

注) 比較可能なダム: 2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム



アオマツムシ確認ダム数

凡例	調査時期		比較可能なダム数
	一・二巡目	三巡目	
●	○	○	1
○	×	○	3
●	○	×	0
○	×	×	25
合計			29

注) 比較可能なダム：2回以上調査が実施されており、経年比較が可能なダム

参考 平成 16 年度とりまとめ項目及び  
調査対象ダム諸元一覧

調査項目と諸元 (平成16年度) < 1 >

地方	水系	河川	ダム	平成16年度						諸元							
				魚介類	底生動物	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	総貯水容量 (m <sup>3</sup> )	集水面積 (km <sup>2</sup> )	湛水面積 (km <sup>2</sup> )	堤高 (m)	堤頂長 (m)	竣工年 (年)	目的	
北海道	天塩川	岩尾内川	岩尾内ダム						●	107,700,000	331.4	5.1	58	448	1971	FAWIP	
		常呂川	常呂川	鹿ノ子ダム						●	39,800,000	124	2.1	55.5	222	1983	FNAW
		石狩川	石狩川	大雪山ダム	●	●	●				66,000,000	291.6	2.92	86.5	440	1975	FNAWP
			空知川	金山ダム						●	150,450,000	470	9.2	57.3	288.5	1967	FAWP
				滝里ダム						●	108,000,000	1662	6.8	50	445	1999	FNAWP
			幾春別川	桂沢ダム				●			92,700,000	151.2	4.99	63.6	334.3	1957	FAWP
			漁川	漁川ダム						●	15,300,000	113.3	1.1	45.5	270	1980	FNW
			豊平川	豊平峡ダム						●	47,100,000	159	1.5	102.5	305	1972	FWP
			小樽内川	定山溪ダム						●	82,300,000	104	2.3	117.5	410	1989	FWP
			後志利別川	美利河ダム	●	●	●				18,000,000	115	1.85	40	1480	1991	FNAP
			十勝川	十勝川	十勝ダム					●	112,000,000	592	4.2	84.3	443	1984	FP
			沙流川	札内川	札内川ダム					●	54,000,000	117.7	1.7	114	300	1998	FNAWP
		東北	岩木川	北上川	二風谷ダム	●	●	●				27,100,000	1215	4	32	550	1997
	浅瀬石川			浅瀬石川ダム	●	●					53,100,000	225.5	2.2	91	330	1988	FNWP
	北上川			四十四田ダム						●	47,100,000	1196	3.9	50	480	1968	FP
	猿ヶ石川			御所ダム						●	65,000,000	635	6.4	52.5	327	1981	FNWP
	和賀川			湯田ダム						●	146,500,000	740	6	81.5	320	1954	FAP
	胆沢川			湯田ダム						●	114,160,000	583	6.3	89.5	265	1964	FAP
	江合川			石淵ダム						●	16,150,000	154	1.1	53	345	1953	FAP
				鳴子ダム				●			50,000,000	210.1	2.1	94.5	215	1958	FAP
	名取川			釜房ダム				●			45,300,000	195.3	3.9	45.5	177	1970	FNWIP
	阿武隈川			三春ダム	●	●					42,800,000	226.4	2.9	65	174	1998	FNAWI
				七ヶ宿ダム				●			109,000,000	236.6	4.1	90	565	1991	FNAWI
				摺上川(摺上川ダム)							153,000,000	160	-	105	664.6	2005	FNAWI
	雄物川			玉川ダム						●	254,000,000	287	8.3	100	441.5	1990	FNAWP
関東	利根川	荒川	白川ダム						●	50,000,000	205	2.7	66	348.2	1980	FAIP	
			寒河江川	寒河江ダム					●	109,000,000	230.1	3.4	112	510	1990	FNAWP	
			楚字川	月山ダム	▲	▲					65,000,000	-	-	123	393	2001	FNW
			利根川	矢木沢ダム						●	204,300,000	167.4	5.1	131	352	1967	FNAWP
				藤原ダム				●			52,490,000	401	1.69	95	230	1958	FNP
			楢保川	奈良保ダム				●	●		90,000,000	60.1	2	158	520	1991	FNAWIP
			赤谷川	相保ダム				●			25,000,000	110.8	0.98	67	80	1959	FNP
			片品川	薮原ダム				●			20,310,000	493.9	0.91	76.5	127.6	1965	FNP
			湯品川	品木ダム				●	●		1,668,000	30.9	0.12	43.5	106	1965	P
			神流川	下久保ダム				●	●		130,000,000	322.9	3.27	129	605	1968	FNWIP
			渡良瀬川	草木ダム				●	●		60,500,000	254	1.7	140	405	1977	FNAWIP
				渡良瀬遊水地				●			26,400,000	2620	4.5	-	-	1990	FNW
			鬼怒川	川保ダム	●	●					87,600,000	179.4	2.59	117	131	1966	FNP
北陸	荒川	川治ダム	川治ダム	●	●					83,000,000	144.2	2.2	140	320	1983	FNAWI	
			男鹿川	五十里ダム	●	●					55,000,000	271.2	3.1	112	261.8	1956	FNP
			荒川	二瀬ダム						●	26,900,000	260	0.76	95	288.5	1961	FNP
				荒川調節池						●	11,100,000	-	1.18	-	-	1996	FNW
			浦山川	浦山ダム						●	58,000,000	51.6	1.2	156	372	1998	FNW
			相模川	宮ヶ瀬ダム	●	●	▲			●	193,000,000	213.9	4.6	156	400	2000	FNWP
			荒川	大石ダム						●	22,800,000	69.8	1.1	87	243.5	1978	FP
			阿賀野川	大川ダム						●	57,500,000	825.6	1.9	75	406.5	1988	FNAWIP
			信濃川	大町ダム				●			33,900,000	193	1.1	107	338	1986	FNWP
				三国川	三国川ダム					●	27,500,000	76.2	0.76	119.5	419.5	1992	FNWP
			黒部川	宇奈月ダム				●	●		24,700,000	617.5	0.88	97	190	2001	FWP
			手取川	手取川ダム						▲	231,000,000	247.2	5.25	153	420	1980	FWIP
		中部	大井川	長島ダム	長島ダム						●	78,000,000	534.3	2.3	109	308	2001
美和ダム	美和ダム								●	29,952,000	311.1	1.79	69.1	367.5	1959	FNP	
小渋川	小渋ダム						●			58,000,000	288	1.67	105	293.3	1969	FAP	
	新豊根ダム			新豊根ダム	●	●				●	53,500,000	136.3	1.56	116.5	311	1973	FP
	矢作川			矢作ダム						●	80,000,000	504.5	2.7	100	323.1	1971	FNAWIP
	庄内川			小里川(小里川ダム)							15,100,000	55	0.55	114	331.3	2003	FNP
	木曾川			味噌川ダム						●	61,000,000	55.1	1.4	140	446.9	1996	FNWIP
				丸山ダム				●			79,520,000	2409	2.63	98.2	260	1954	FP
	阿木川			阿木川ダム						●	48,000,000	81.8	1.58	101.5	362	1991	FNWI
	馬瀬川			岩屋ダム						●	173,500,000	264.9	4.26	127.5	366	1977	FAWIP
	揖斐川			横山ダム							43,000,000	471	1.7	80.8	220	1964	FAP
	榑田川			蓮ダム						●	32,600,000	80.9	1.2	78	280	1991	FNWP

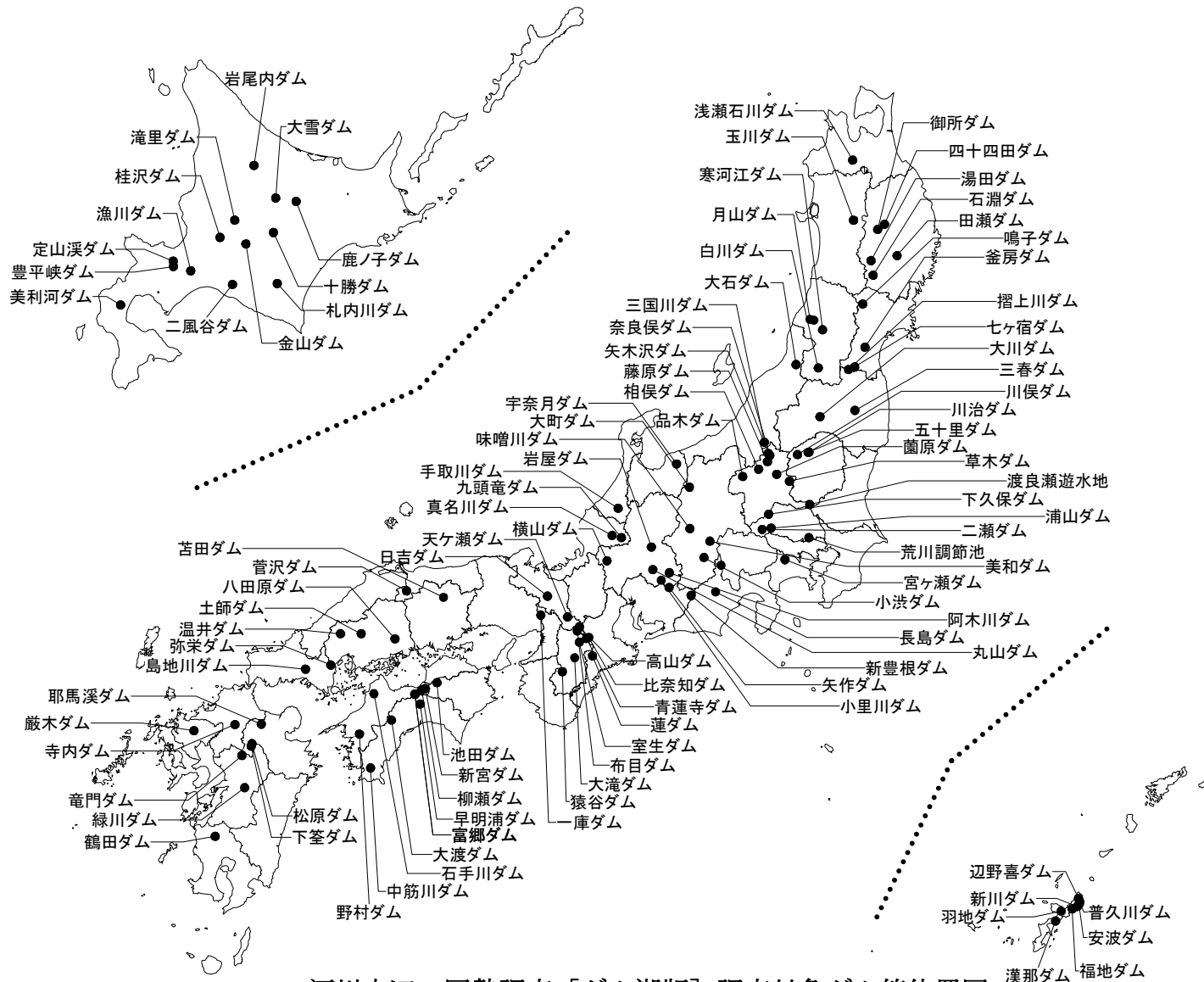
調査項目と諸元 (平成16年度) < 2 >

地方	水系	河川	ダム	平成16年度							諸元							
				魚介類	底生動物	動物プランクトン	植物	鳥類	両生類・爬虫類・哺乳類	陸上昆虫類等	総貯水容量 (m <sup>3</sup> )	集水面積 (km <sup>2</sup> )	湛水面積 (km <sup>2</sup> )	堤高 (m)	堤頂長 (m)	竣工年 (年)	目的	
近畿	淀川	九頭竜川	九頭竜ダム						●	353,000,000	184.5	8.9	128	355	1968	FP		
		真名川	真名川ダム						●	42,800,000	226.4	2.9	65	174	1998	FNAWI		
		宇治川	天ヶ瀬ダム						●	26,280,000	352	1.88	73	254	1964	FWP		
		桂川	日吉ダム		●	●				66,000,000	290	2.74	67.4	438	1998	FNW		
		布目川	布目ダム		●	●				17,300,000	75	0.95	72	322	1992	FNW		
		名張川	比奈知ダム		●	●				20,800,000	75.5	0.82	70.5	355	1999	FNWP		
			高山ダム		●	●				56,800,000	615	2.6	67	208.7	1969	FNWP		
			青蓮寺川	青蓮寺ダム		●	●				27,200,000	100	1.04	82	275	1970	FNAWP	
			宇陀川	室生ダム		●	●				16,900,000	169	1.05	63.5	175	1974	FNW	
			猪名川	一庫ダム		●	●				33,300,000	115.1	1.4	75	285	1984	FNW	
中国	紀ノ川	熊野川	猿谷ダム	●	●	●				84,000,000	258	2.44	100	315	2002	FWIP		
		新宮川	熊野川	猿谷ダム	●	●	●			23,300,000	203.7	1	74	170	1957	NP		
		日野川	印賀川	菅沢ダム		●	●			▲	19,800,000	85	1.1	73.5	210	1968	FAIP	
		江の川	江の川	土師ダム					●	●	47,300,000	307.5	2.8	50	300	1974	FNAWIP	
		吉井川	吉井川	(苦田ダム)							84,100,000	217.4	3.3	74	225	2004	FNAWIP	
		芦田川	芦田川	八田原ダム		●	●			▲	60,000,000	241.6	2.61	84.9	325	1997	FNWI	
		太田川	滝田川	(温井ダム)							82,000,000	253	1.6	156	382	2001	FNWP	
		小瀬川	小瀬川	弥栄ダム							112,000,000	301	3.6	120	540	1991	FNWIP	
		佐波川	島地川	島地川ダム	●			▲			20,600,000	32	0.8	89	240	1982	FNWI	
		四国	吉野川	池田ダム	池田ダム		●	●				12,650,000	1904	1.44	24	247	1975	FNAWIP
早明浦ダム	早明浦ダム				●	●				316,000,000	472	7.5	106	400	1975	FNAWIP		
銅山川	富郷ダム				●	●				52,000,000	101.2	1.5	106	250	2000	FWIP		
	柳瀬ダム				●	●				32,200,000	170.7	1.55	55.5	140.7	1954	FAWIP		
	新宮ダム				●	●				13,000,000	254.3	0.9	42	138	1975	FAIP		
重信川	石手川			石手川ダム	●	●					12,800,000	72.6	0.5	87	277.7	1973	FAW	
肱川	野村ダム			野村ダム			●				16,000,000	168	0.95	60	300	1982	FAW	
仁淀川	仁淀川			大渡ダム						●	66,000,000	688.9	2.01	96	325	1986	FNWP	
渡川	中筋川			中筋川ダム				●	●		12,600,000	21.1	0.7	73.1	217.5	1998	FNAWI	
九州	山国川			山移川	耶馬溪ダム						●	23,300,000	89	1.1	62	313	1985	FNWIP
		松浦川	厳木川	厳木ダム	●	●				13,600,000	33.7	0.42	117	390.4	1986	FNWIP		
		筑後川	筑後川	松原ダム						●	54,600,000	491	1.9	83	192	1973	FNWP	
			津江川	下釜ダム						●	59,300,000	185	2	98	248.2	1973	FNP	
			佐田川	寺内ダム					●	●	18,000,000	51	0.9	83	420	1978	FNAW	
		菊池川	追間川	竜門ダム					●		42,500,000	26.5	1.21	99.5	620		FNAI	
		緑川	緑川	緑川ダム				●			46,000,000	359	1.81	76.5	295.3	1971	FNAP	
		川内川	川内川	鶴田ダム		●					123,000,000	805	3.61	117.5	450	1965	FP	
		沖縄	辺野喜川	辺野喜川	辺野喜ダム						●	4,500,000	8.1	0.79	42	560.1	1988	FNWI
				安波川	安波川	安波ダム						●	18,600,000	22.5	0.83	86	245	1983
	普久川			普久川ダム						●	3,050,000	8.9	0.31	41.5	210	1983	FNWI	
新川	新川			新川ダム						●	1,650,000	7.4	0.16	44.5	177	1977	FNWI	
福地川	福地川			福地ダム						●	55,000,000	32	2.54	91.7	260	1991	FNWI	
羽地川	羽地大川			(羽地ダム)						●	19,800,000	10.9	-	66.5	198	2004	FNAW	
漢那福地川	漢那福地川			漢那ダム						●	8,200,000	7.6	0.55	45	185	1992	FNAW	
	調査ダム数(平成16年度調査)					10	15	24	27	21	18	28						
	調査ダム数(平成15年度調査)			0	1	1	2	2	1	2								

注) ( )は、平成16年度までに河川水辺の国勢調査が実施されていないダムである。

調査項目の記号 ●:平成16年度調査 ▲:平成15年度調査

凡例 目的の略字 F:洪水調節・農業防災, N:不特定用水・河川維持用水, A:かんがい・特定かんがい用, W:上水道用水, I:工業用水, P:発電



河川水辺の国勢調査 [ダム湖版] 調査対象ダム等位置図